

41320

教科書文庫

4
620
42-1933
20000 81699

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

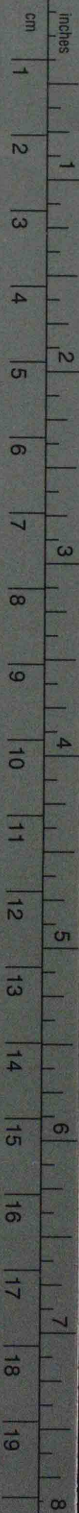


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



TEXT-BOOK
OF
HORTICULTURE FOR GIRLS SCHOOL

著郎三彦熊小

藝園子女新最



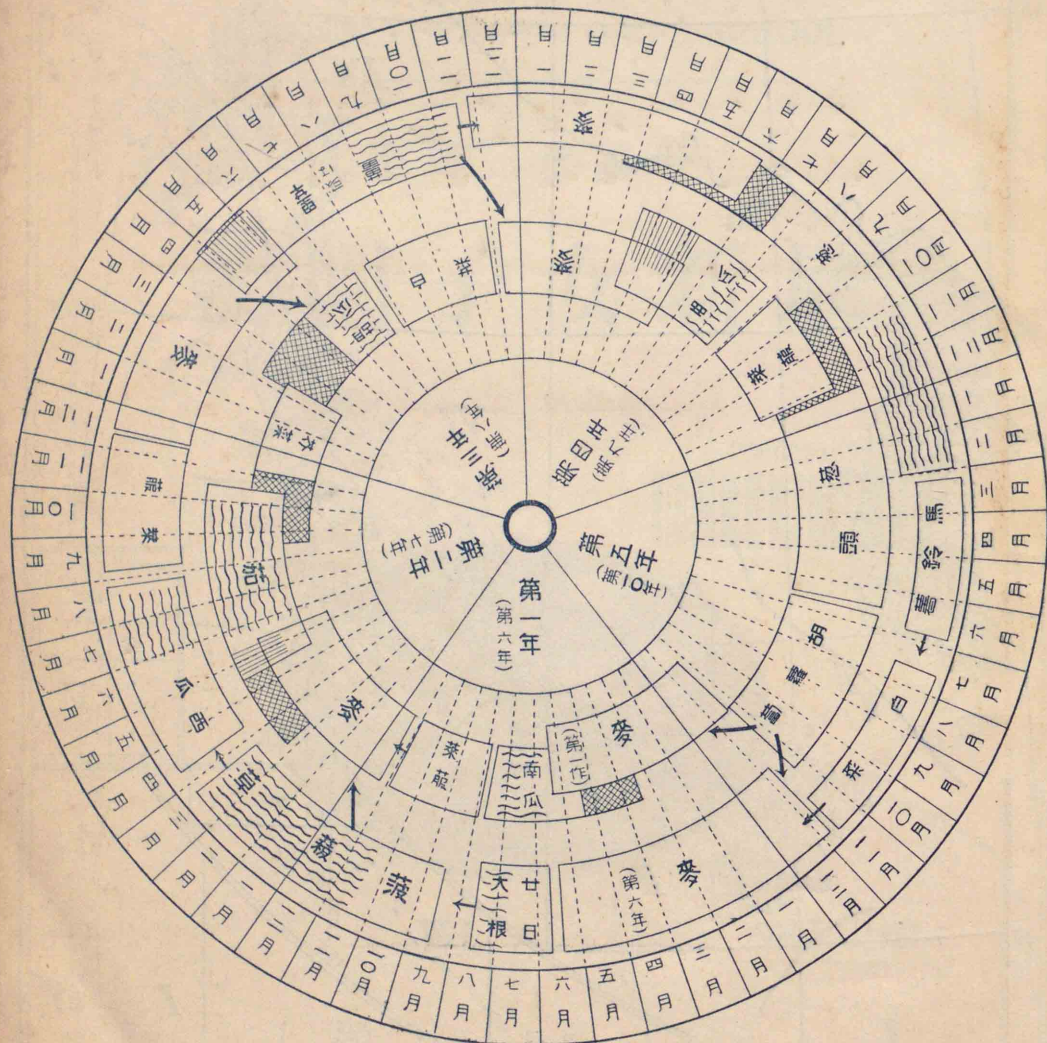
社原光京東




教
42-1933
20000



表 栽 輪 菜 蔬

(載轉禁・案者著)



間期獲収  作混に間畦の物作前  間期床苗 

4b
620
AB12

文部省檢定
昭和八年四月七日 高等女子學校實業科

TEXT-BOOK
OF
HORTICULTURE FOR GIRLS SCHOOL

小 熊 彦 三 郎 著

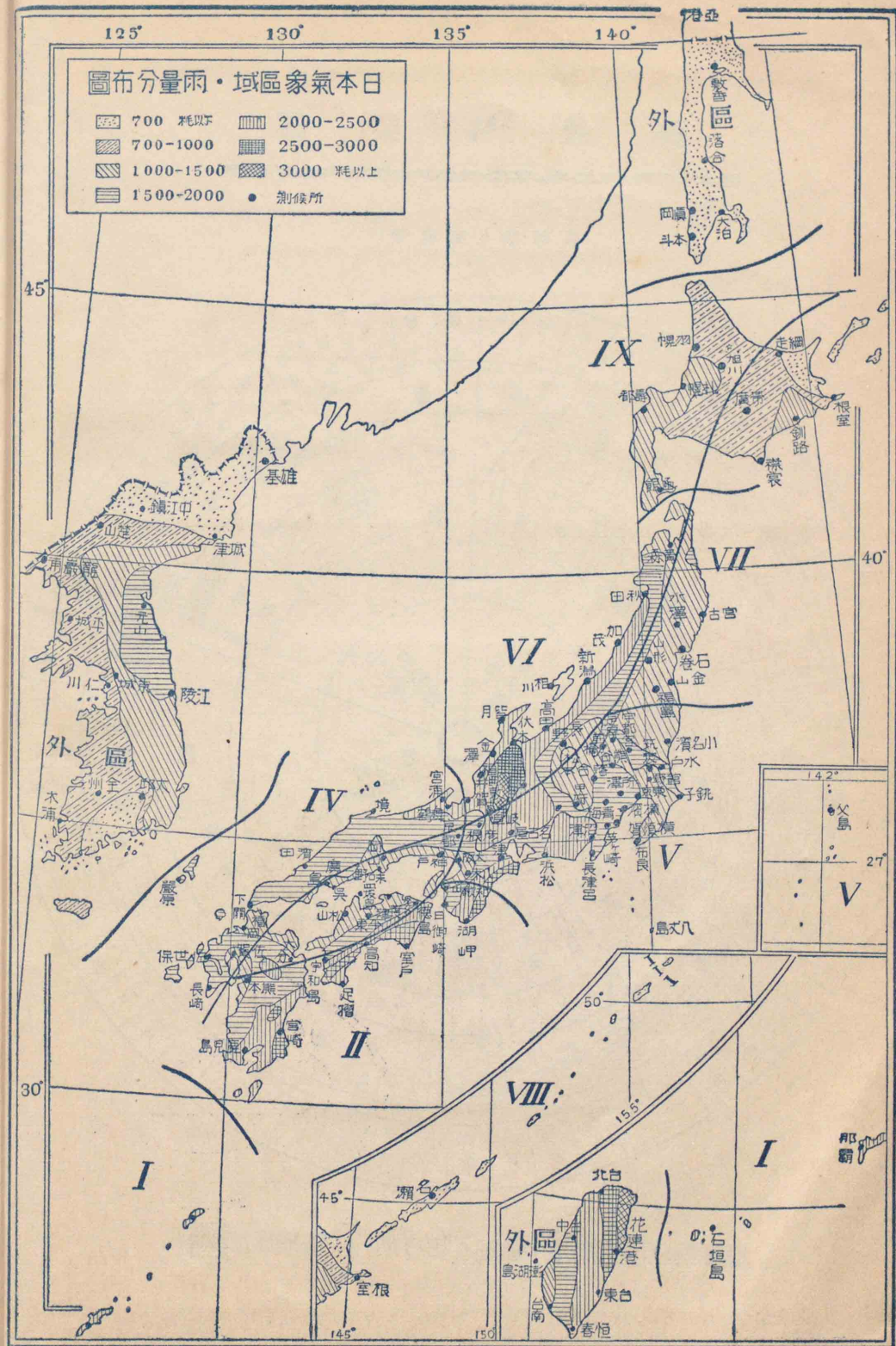
最新女子園藝

広島大学図書

2000081699



東京光原社



TEXT-BOOK
76
HORTICULTURE FOR GIRLS' SCHOOL
小園藝三編
園藝女子教科書



凡 例

- 一、本書は高等女學校に於ける實業科園藝教科用に充てんがために編纂したものであるが、實科高等女學校・女子實業學校・女子師範學校並びに家庭用にも適するやう考慮して編纂した。
- 一、本書は文部省の教授細目並びに教授要項を緯とし、全国各地の多數斯道教育家諸氏の御高見と、著者多年の實際教授と著述の經驗とを經として編纂した。
- 一、本書の教材排列は學術的分類よりは寧ろ季節的分類に重きを置いた。これは高等女學校に於ける園藝教授の目的は實業學校に於けるそれとは自ら趣を異にし、實業に對する正當な理解と趣味の養成・情操教育を主とし、地方の事情に順應して實際生活に適切ならしむるにあるからである。
- 一、本書の教材は廣くこれを全國に求めたが、何れも日常生活と密接な關係を有するものを厳選し生産と消費の兩方面を考慮して日常生活に即せしめ、家庭を中心として家庭と學校・教室と農場との連絡に努め、かつ理科・家事・活花・作法その他の教科目との連絡にも注意して編纂した。
- 一、本書の記述は平易を主としかつ最も簡略にしてあるから、各學校に於ける實際教授時數とその

最新女子園藝 目次

第一章 農業と園藝	一	第七章 春の花弁	三六
第二章 土壤と肥料	六	一、三色 堇	三六
一、土 壤	六	二、鈴 蘭	三九
二、肥 料	九	三、スイートピー	四〇
第三章 苗 床	三	四、雛 菊	四〇
第四章 播種と移植	一六	五、ヒヤシンス	四一
一、播 種	一六	六、チュウリップ	四三
二、移 植	一八	〔附〕 春の花卉栽培表	四五
第五章 作物の手入	二〇	第八章 花 壇	四九
第六章 果樹栽培	二六	一、花壇の種類	四九
		二、花壇の準備	五一

目次

地方の事情とに應じて適宜取捨折衷して適當に敷衍説明されんことを望む。

一、本書は多數の圖版を挿入して教科書に對する親しみを深くすると共に、直觀教授と自學自習に便して教へ易くかつ理解し易くし、また實驗・觀察事項を掲げて趣味の喚起と記憶を確實ならしむることに努力したが、なほ教授に際しては實物・標本等を提示し、或は實驗・實習と相俟つて適當に補説されんことを望む。

一、本書の編纂には最善を期し・圖版の如きも材料の選擇に細心の注意を拂つて著者自ら撮影または摸寫したものであるが、なほ不備の點は他日改訂して完璧を期する考である。幸に熱誠なる斯道教育家諸氏の御示教御叱正に吝ならぬことを切望する。

昭和七年九月

著 者 識

第九章 果菜類

一、胡瓜 [附] 隼人瓜 五
 二、南瓜 五
 三、茄 六
 四、蕃茄 六
 五、豌豆 [附] 菜豆 六
 [附] 果菜類栽培表 六
 第一〇章 初夏の果物 七
 一、櫻桃 七
 二、枇杷 七
 三、梅 七
 [附] 李・杏・梅干・青梅漬 七
 第一章 夏の花卉 七

一、牽牛花(朝顔)

二、コレオプシス(はるしやぎく) 七
 三、アンテリナム(金魚草) 八
 四、マーガレット 八
 五、ダーリア(天竺牡丹) 八
 六、グラジオラス(唐菖蒲) 八
 [附] 夏の花卉栽培表 八
 第二章 夏の果物 八
 一、桃 八
 二、梨 八
 三、葡萄 八
 第三章 葉莖菜類 八
 一、苣荬類 八
 二、甘藍類 八

三、萵苣類

[附] 菠薐草・萵蒿 一〇
 四、葱 一〇
 五、葱頭 一〇
 [附] 葉莖菜類栽培表 一〇
 第四章 秋の花弁 一〇
 一、翠菊 一〇
 二、百日草 一一
 三、金盞花 一一
 四、コスモス 一一
 五、ミオソチス(わすれなぐさ) 一一
 六、菊 一二
 [附] 秋の花弁栽培表 一二
 第五章 秋の果物 一三

一、柿

二、栗 一三
 三、柿果 一三
 四、柑橘類 一五
 第六章 根菜類 一九
 一、菜菔 [附] 蕪菁 一九
 二、胡蘿蔔 二〇
 三、牛蒡 二〇
 四、馬鈴薯 [附] 甘藷 二四
 五、芋 二七
 [附] 根菜類栽培表 二九
 第七章 促成栽培と軟化栽培 四一
 一、促成栽培 四一
 二、軟化栽培 四一

第一八章 冬の花卉……………一四〇

- 一、葉牡丹……………一四〇
- 二、福壽草……………一四七
- 三、ナースィツナス(水仙)……………一四九
- 四、ガランサス(スノードロップ)……………一四九
- 五、梅……………一五〇

第一九章 温室栽培の花卉……………一五一

- 一、シネラリア(菊疑冬)……………一五三
- 二、プリムラ……………一五三
- 三、カルセオリア(巾着草)……………一五四
- 四、セラニウム(天竺葵)……………一五四
- 五、カーネーション(麝香撫子)……………一五五
- 六、シクラメン(篝火草)……………一五五
- 七、蘭類……………一五七

- 八、仙人掌類……………一六〇
- 九、観葉植物……………一六一

第二〇章 盆栽……………一六三

〔附〕植物裝飾……………一六六

〔附録〕

- 一、蔬菜の加工……………一
- 一、漬物……………一
- 二、砂糖漬……………七
- 三、罐詰と燻詰……………七
- 四、ジャムとゼリー……………九
- 五、乾燥蔬菜……………九
- 二、果實の加工……………三

目次終

- 一、罐詰と燻詰……………一三
- 二、乾果……………一三
- 三、ジャム……………一四
- 四、果實酒……………一四
- 五、果物エードとシャーベット……………一五
- 三、鶏……………一六
- 〔附〕鶯・鶯・吐綬鶏……………一三
- 四、農業年中行事……………一四
- 五、主なる殺蟲・殺菌劑……………一六

→ 花壇の灌水



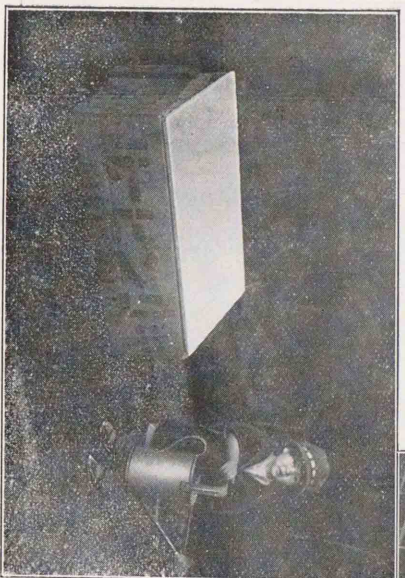
← 花壇の除草



(著者原圖)

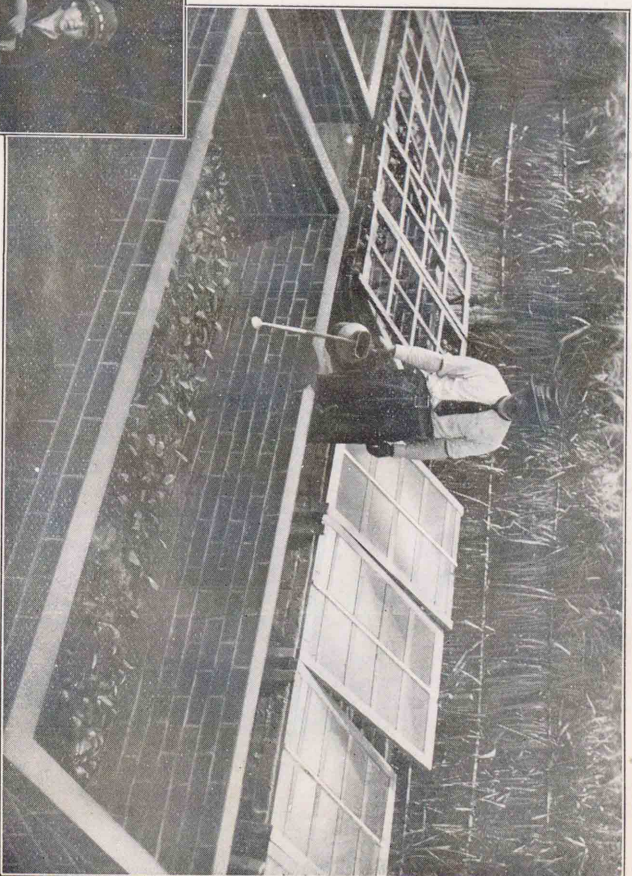
樹路街

たし用利を箱空
床温小向庭家



(著者原圖)

水 灌 の 苗 蒔



花 り 盛

(著者原圖)





(原 著 者 圖)

最新女子園藝

小熊彦三郎著

第一章 農業と園藝

〔農業〕 農業は土地を基礎とし、作物の栽培及び家畜の飼養、並にこれらの生産物に加工してわれわれの生活に必要な物とすべからざる衣食住の原料を供給する生業である。而して作物を栽培するを耕種、家畜を飼養するを養畜といひ、又これらの生産物を原料として加工するを農産製造といひ、農業を三つに大別する。

〔我が國の農業〕 我が國は昔豊葦原の瑞穂の國といひ、農業はすでに開闢のころから行はれ、古來農業をもつて立國の大本となし皇室にかせられても常に農業の御奨励に御盡し遊ばされたた

農業の重要なる所以
いろいろの生産業の中
中で土地と自然力とを
利用して衣、食、住の
原料を創造供給し得る
ものは獨り農業のみで
ある。工業は原料に加工
して諸製品を造るもので
その原料の大部分は農業
生産物である。
また商業は主に農業
及び工業によつて生産
された貨物の交換を媒介
するものである。故に農業
は商工業の本源である。
また國家經濟の基礎
である。昔から「農業は
百工の母」または「農業
は國の本」などと稱せ
られるのは誠に當然の
ことである。農業なくして
人類の生存は一日も完
うされない。燦然たる二
〇世紀の世界文化も實
にその根底は農業から
發してあるものである。

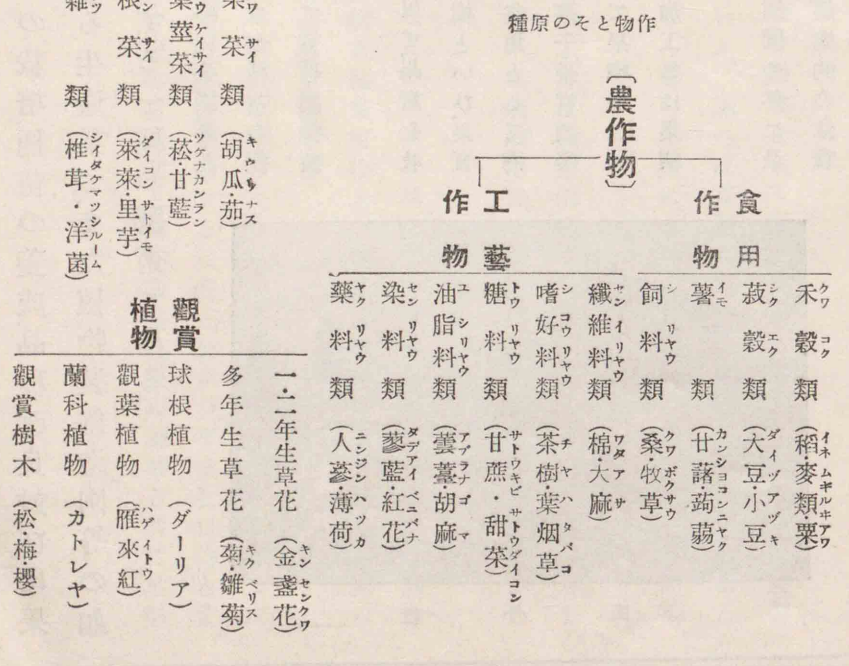
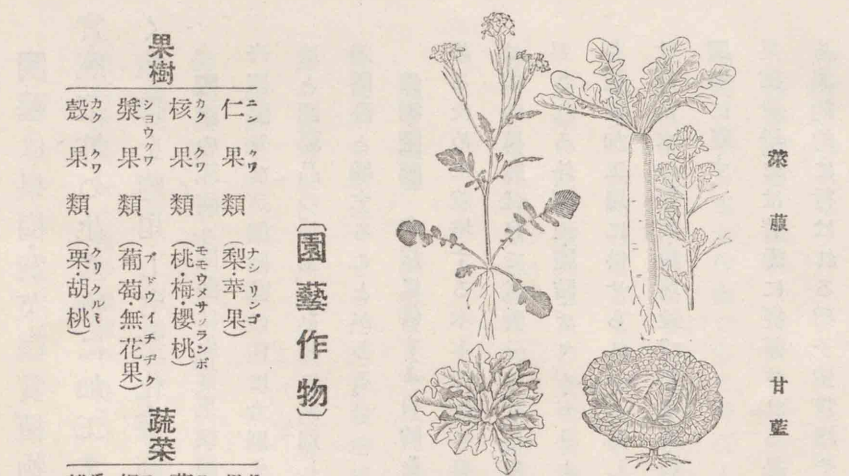
女子農業教育の必要とその急務
 たとへ圃場はなくとも、五平方メートルの
 前庭、三平方メートルの
 の後庭、或は空箱や植
 木鉢でも蔬菜や花卉を
 培養して楽しむことが
 出来る。かくして主に
 親しむことは身體と精
 神とを健全にし、勸勉
 の美風を養ひ、自然と
 生物とを相手にするから
 生物愛ことに博愛の
 思想を養成助長し、情
 操を陶冶し審美力を高
 めて人格を向上させる
 また美しく咲き誇る
 庭の花を手折つて床に
 挿し、果々たる果實、
 新鮮な蔬菜を自ら收穫
 して食膳にのせること
 は一しほ趣味深いばかり
 でなく経済でもあり
 家庭の和樂を齎し幸福
 を増進する。而して一
 家の繁榮は延いては一
 郷一國の繁榮隆興の基
 礎となり世界の文化に
 貢獻する所以となる。



植田御の田基主

れたが、近時園藝養蠶及び養鶏などが著しく發達し、これらの作業は老幼婦女子にも容易になし得るものが多く、綿密な作業はことに婦人の力に俟つものが甚だ多い。
 「作物の種類」作物の種類は甚だ多いが、通常これを農作物と園藝作物とに大別しさらに次の如く分類する。

家庭に農業ことに園藝趣味をとり入れ一家を明るく楽しくし、また農業の改善、農村の振興をはかるには先づ第一に主婦に農業ことに園藝趣味とその智識がなければならぬ。これ特に女子に農業教育の必要な所以である。

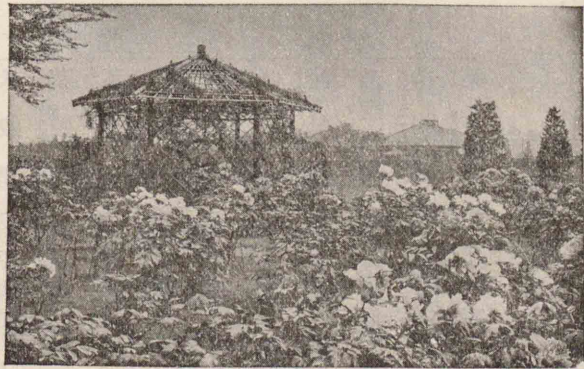


園藝は果樹・蔬菜・觀賞植物の栽培・種苗の養成・品種改良並びに果實・蔬菜等の生産物に加工する生産業で、また植物裝飾・造園等の如く植物を應用して美化・裝飾する一種の藝術である。

園藝の範圍 園藝は通常、果樹園藝・蔬菜園藝・花卉園藝及び造園園藝の四に大別するが、種苗の養成と園藝品の加工とを特に區別して育種園藝・製造園藝と稱することがある。

果樹園藝 食用に供する目的を以て、果實を收めるために栽培する木本作物を果樹といひ、果實は概ぬ風味佳良で滋養分に富み、生食用として需要される外、調理罐詰・ジャム・ゼリー・菓子・果實酒等各種の加工用に供せられる。而して果樹の品種改良・苗木の養成・栽培並びに果實の加工等は果樹園藝に屬す。

果樹栽培には普通に經營される果樹園の外に最も集約的に行はれる硝子室栽培や、娛樂的の鉢栽培などがある。



園 丹 牡

獨逸の學者は耕種と養畜とを並び行ふものを農業とし、養畜を伴はぬものを園藝とし、養畜を以て農業と園藝とを區別する標準としてゐるが、我が國の如く小農が多くかつ養畜の盛んに行はれない耕種組織の農業園では適用することが出来ない。

蔬菜園藝 蔬菜とは吾々が主食物の補助として直接榮養に供し、或はその榮養の補助とする草本作物で俗に野菜といふ。例へば、葱類・菜菔・胡蘿蔔・牛蒡等は副食物として直接榮養に供し、蕃椒・薑などには寧ろその辛味によつて食慾を刺戟増進させ間接に榮養の補助となるものである。

蔬菜の品種改良・種苗の養成・栽培加工等は蔬菜園藝に屬し、蔬菜の栽培には最も普通に行はれる露地栽培の外、早熟栽培・準促成栽培・促成栽培・抑制栽培・軟化栽培等がある。

觀賞園藝 花葉果實または枝幹などの形狀或は色彩が美化裝飾に適し、かつ人の美意識を満足させるに足る栽培植物を觀賞植物といひ、觀賞植物の品種改良・種苗の養成・栽培並びに植物裝飾等は觀賞園藝に屬する。

造園築庭 保健衛生上または美的享樂を目的として、植物を適當に按配栽植して美化裝飾する場所を庭園といひ、個人の觀賞・享樂する私庭と、公衆の享樂を目的とする公園とに分つ。庭園の設計・築造・管理等を造園と稱し、繪畫・建築・彫刻等と共に成形美術に屬し、一種の藝術である。

風化作用の原因

(一) 温度の變化
岩石を組成する礦物は、その種類によつて熱に對する膨脹率を異にし、温度の變化によつて礦物間の接着部にゆがみを生じて凝集力破壊をなす。

(二) 空氣の作用
暴風の如きは機械的作用といひ一時的であるが、空氣中の酸素が角閃石、綠泥石、蛇紋石などの第一鐵化合物を酸化して第二鐵となし水にあつて水酸化鐵となつて分解し、或は空中の炭酸瓦斯が水に溶けて正長石を溶解して陶土とするが如き化學的作用は間斷なく徐々に行はれる。

(三) 水の作用
雨水、流水、海水等が岩石を破壊するを水蝕、氷河の岩石を破壊するを氷蝕といふ。また岩石の隙間にある水分は凍結すれば容積を増大して岩石を破壊する。

(四) 生物の作用
植物の根が岩間で成長してこれを押し割り根から根酸を出して溶解し、またみみず、蟻などや土中の微生物も風化作用を營んで土壤の生成を促進する。

土層

土壤の最上部を占めて土の色及び土粒の大きさのほぼ等しい部分を表土といひ、それ以下の部分を下層土といふ。また耕種せられて作物根のよく蔓延する部分を作土といひ、下層土の使用されない部分を心土といふ。

土壤の理學的

成分による分類

一、石礫(礫又は角礫) 直徑 二耗以上

二、細土

1 砂 (耗)

イ、粗砂 二一〇・二五

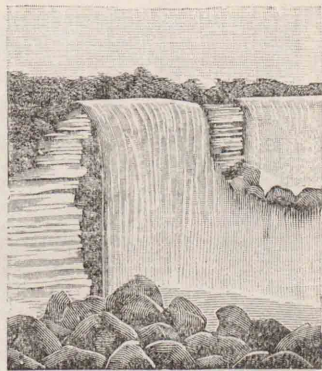
第二章 土壤と肥料

一、土壤

〔土壤〕 地殻を構成する岩石は、長年月の間に風化して粗鬆な物質となり、空氣・水・有機物などを含んで植物に生育の場所と養分とを與へる。これを土壤といひ、岩石の崩壊作用(物理的)と分解作用(化學的)によつて出來た無機物と、動植物の腐敗によつて出來た有機物とからなり、また氣水や微生物を含んでゐる。而して崩壊作用と分解作用とを風化作用といひ、温度の變化、空氣の作用、水の作用、生物の作用などは主なるものである。



植物の根の風化作用



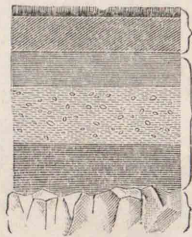
水流の侵蝕

〔土壤の分類〕 土壤の分類法には種々あるが、學術上では土壤を理學的並びに化學的に分類してその成分を検出し、その多少によつて分類する。

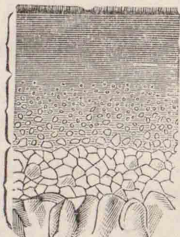
一、礫土 五〇%以上の礫を含む土壤で、空氣や水の流通がよく、土温土の温度も高いが乾燥し易くて、肥料の吸収力や保水力に乏しく生産力の弱い瘠地である。

二、砂土 八七五%以上の砂と一二五%以下の粘土を含む土壤で粘土の含量を増すに従つてその生産力を増し、粘土の含量二〇三〇%に達すれば砂壤土といつて生産力高く農耕に適する。

三、壇土 五〇%以上の粘土を含む土壤で、砂土と反對の性質を有し、雨天の時は水を吸収して土質が粘稠となつて空氣の流通を妨げ乾燥の際には土地が固結して龜裂を生ずるに至る。土粒は微小であるから肥料の吸収力や保水力に富み、かつ毛管性が強く下層から水を吸ひ上げるが、氣水の透過性に乏しく、排水不良で肥料の分解遅く生産力低いが砂を多く含むものは壤壇土といつて生産力が高い。



層土積運



層土積殘

表土 心土 母岩

- 口、細砂〇二五—
- ハ、微砂〇〇五—
- 〇〇一
- 〇〇一耗以下

壤土の特長

- 一、日光及び空気の透過が良好である。
 - 二、排水良好で土壌の温度が高い。
 - 三、保水力が強い。
 - 四、肥料の吸収力が強い。
- 壤土は最も生産力高く、耕作に便利で、作物の發育がよく、従つて收量も多い。
- 水田の土壌は埴壤土が多く、蔬菜特産地の土壌は概ね砂壤土または壤土である。一般に砂壤土では作物が早熟となるから俗に早生地といひ、埴壤土はやや成熟が遅れるから晩生地といふ。

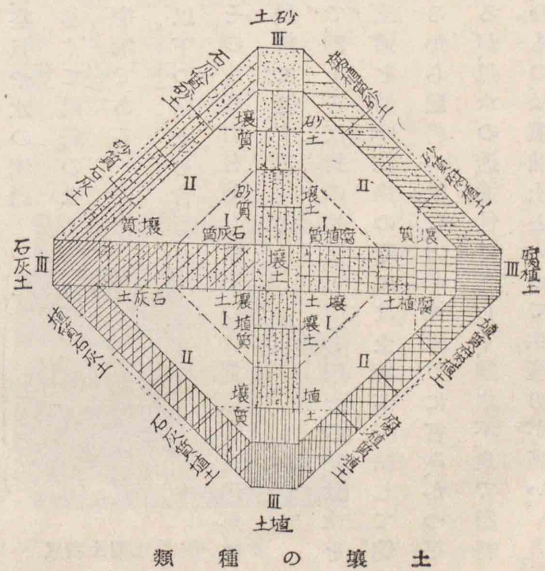
四壤土 二五三七五%の粘土と六二五、七五%の砂とを含む土壤で埴土と砂土の中間の性質を有し各種の土壤中

理學的性質が最もよく、かつ生産力に富む。壤土中粘土分を多く含んで埴土に近いものを埴壤土といひ、砂を多く含むものを砂壤土といふ。また腐植に富むものを腐植質壤土といふ。

五腐植土 二〇%以上の腐植を含む土壤で黒褐色を呈し、土質が軽く膨軟で耕作し易く、かつ水分や肥料分を保つ力

力は強いが、降雨の際には泥状となつて空氣の流通を妨げ、乾燥すれば粉状となつて飛散する。また礦物質の養分が少く、卑濕地にあるものは酸性を呈して生産力が低く。

六石灰土 二〇%以上の炭酸石灰を含む土壤で、その最も多いものは七五%に達するものもある。我が國は降雨が多く炭酸石灰を流失するから石灰土は稀である。



植物の養料

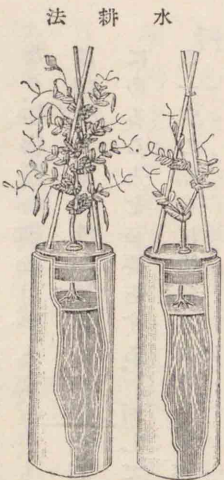
植物體をつくるに必要な元素は炭素、酸素、水素、窒素、硫黄、磷、加里、苦土、石灰、鐵の一〇元素で、この中炭素は葉面から吸ひとられるが、その他は根から吸収する。

炭素以外のこれ等の諸元素が植物體の部分並びに植物の種類によつて、發育上如何なる關係を有するかを實驗するには水耕法を行ふ。これを行ふにはクノッブ氏溶液を用ひる。クノッブ氏完全溶液は次の割合につくる。

硝酸石灰	二瓦
硝酸加里	〇五瓦
酸性磷酸加里	〇五瓦
硫酸苦土	〇五瓦
鹽化鐵	數滴

二、肥料

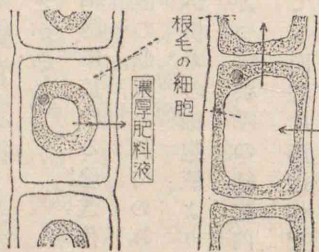
〔肥料〕 植物は空氣及び土壤中から養分を攝取して生育するもので耕地に於てはその生産物を年々收穫するため、養分は他に搬出され、遂には地力が消耗して作物の生育に不適當な状態になる。かくの如く消耕する地力を恢復して作物の品質、收量を上進させるために土壤に施す物質を肥料といふ。



完全溶液 不完全溶液

〔肥料の三要素〕 作物の體中に最も多く含まれてゐる成分は水分と炭素とで、水分は雨または地下水から供給され、炭素は空氣中から自由に攝つてゐる。また石灰、苦土、鐵、硫黄などは土壤中に比較的多く含まれ、かつ作物の需要が少いから、特に肥料として施す必要もないが、窒素、磷酸加里は土壤中の含量少く、かつその大部分は不可給態であるから、特に肥料として補給する必要がある。この

〔肥料の三要素〕 作物の體中に最も多く含まれてゐる成分は水分と炭素とで、水分は雨または地下水から供給され、炭素は空氣中から自由に攝つてゐる。また石灰、苦土、鐵、硫黄などは土壤中に比較的多く含まれ、かつ作物の需要が少いから、特に肥料として施す必要もないが、窒素、磷酸加里は土壤中の含量少く、かつその大部分は不可給態であるから、特に肥料として補給する必要がある。この

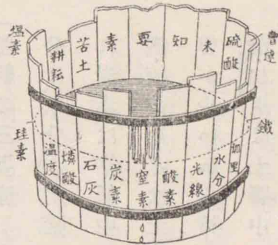


養分の吸収作用

肥料の效果

▲窒素質肥料▼
一、硝酸態窒素(智利硝石、硝酸石灰等)は可溶性で作物に最も攝取され易く、效驗も最も速かであるが、硝酸は土壤に吸収されないから雨水のために流失され易く、水田の肥料には不適當で、畑地でも數回に分用せねばならぬ。

二、アンモニア態窒素(硫酸アンモニア、腐熟人糞尿等)はよく土壤に吸収されるから、雨水のために流失の憂が少くない。水田では水稻はアンモニアの形態で窒素を吸収するが、畑地では硝化作用のため硝酸態窒素に變じてから作物に吸収される。
三、有機態窒素(魚肥、油粕、石灰窒素等)は概ね不溶性であるから雨



最少養分樽

三者を肥料の三要素といひ、特に石灰の缺乏した場合には、これに石灰を加へて四要素といふことがある。

植物根の養分吸収作用は、根毛の細胞に於ける滲透作用によるものであるから、肥料分は水溶液の状態に於てのみ吸収される。而して土壤中の肥料養液が根毛の細胞液よりも稀薄な場合には、肥料分は滲透作用によつて根毛の細胞内に吸入され次に近接する各細胞間に於ても同様に滲透作用によ

つて次第に上方に移動し、木質部の導管を昇つて葉に至り、炭素と化合して有機物となり、作物體の構成材料となるが、もし肥料養液が根毛の細胞液よりも濃厚な場合には却つて根毛液が細胞外に滲出して障害を受けるから、肥料分は極めて稀薄の状態にあることを必要とする。而して植物が完全に生育を遂げるには各種の養分を或る一定の割合に吸収されることが必要で、その割合以上に一二成分の量を増加しても、ある養分の分量が特に不足する時は、その最少養分量に比例して生産を擧げ、過剰養分は有効に利用されない。これをリービッヒ氏の養分最少率といひ、ドベネツク氏はさらに植物の生育は養分の外に温度、光線、土壤の理學的性質等が關係し、作物の收量はこれらの要素の最少のものに支配されるものであるといひ、最少養分樽でこ

れを説明してゐる。

水のために流失の虞が少いけれども、アンモニア或は硝酸態に變化した後でなければ作物に吸収されないので、效驗遅いが、我が國の氣候は温暖多湿なため分解も早く、肥効大である。

▲磷酸質肥料▼

水溶性の磷酸一石灰(過磷酸石灰)は肥効最大で、水に不溶解であるが、枸橼酸、アムモニウム液に溶解する磷酸二石灰(沈澱磷酸石灰)やトーマス磷酸中の磷酸四石灰等これにつき、不溶性の磷酸三石灰(骨粉、骨灰、燐礦等)は肥効最も劣る。通常前者を有效磷酸といふ。

▲加里質肥料▼

無機性加里(草木灰中の炭酸加里、カイニツト中の硫酸加里等)は水に溶け易く、肥効大であるが、有機性加里(綠肥、薔苳中の加里)は效驗遅く、肥効も劣る。

〔肥料の分類〕

肥料は作物に對して土壤に缺乏し易い窒素、磷酸、加里の三要素を供給するもので、これらの養分を含む肥料を直接肥料といひ、三要素の一をも含まぬが、これを土壤に施せば、土壤の理學的性質を改良し、或は土壤中の不可給態養分を可給態に變じ、もしくは作物に生理的刺戟を與へて、その生育を促進する等の効果あるものを間接肥料といふ。直接肥料はその所含養分によつて窒素質肥料、磷酸質肥料、加里質肥料の三種に區別し、またこの三者を適當に配合したものを完全肥料といふ。

肥料はまたその給源によつて、動物質肥料(糞尿類、魚肥、骨粉等)、植物質肥料(油粕、綠肥、草木灰等)、礦物質肥料(智利硝石、硫酸アムモニア、過磷酸石灰等)の三種に區別し、動物質肥料と植物質肥料とを合せて有機質肥料といひ、これに對して礦物から得るか、または動植物を焼いて、その有機物を失はせて得た肥料を無機質肥料といふ。

〔附〕 主なる肥料の成分と施用法

種類	三要素の含量			一立の重量	肥効	施用法
	窒素	磷酸	加里			
人糞	〇・五七%	〇・一三%	〇・二七%	〇・七〇二 疍	速効	よく腐熟させて施す。基肥、補肥何れにもよく補肥には二三倍に稀釋して施す。時々切り替へして充分腐熟させ基肥として施す粉砕して基肥として施す。水或は人糞尿にとかして腐熟させ、稀釋したものは補肥として施すによい。
堆肥	〇・五八	〇・三〇	〇・五〇	〇・六八〇	遅効	
餅粕	八・三〇	五・六〇	〇・七〇	〇・四七四	稍速	粉末のまま或は水にとかして補肥として施す。智利硝石は水田に施せば肥料分が流失する。
大豆粕	七・〇〇	一・二〇	二・〇〇	〇・五〇四	中等	
油粕	五・〇五	二・〇〇	一・三〇	〇・四七四	中等	粉末のまま基肥として施す。
硫酸アムモニア	二〇・五〇	—	—	〇・八〇二	速効	
智利硝石	一五・五〇	—	—	〇・七四二	速効	粉末のまま基肥として施す。
過磷酸石灰	—	一五・〇〇	—	〇・八一八	速効	
精過磷酸石灰	—	二〇・〇〇	—	〇・八一八	速効	粉末のまま或は人糞尿、水などをかけて醗酵させた後施す。基肥、補肥何れにもよい。乾燥して施すか、人糞尿、水などをかけて醗酵させた後施す。概ね基肥とす。そのまま基肥として施す。
トーマス燐肥	—	一七・五〇	—	一・二六六	中等	
米糠	二・〇八	三・七八	一・四〇	〇・二九九	中等	木灰・薬灰は補肥として施すこともある。
鶏糞	三・九〇	二・二七	一・二二	〇・二七八	中等	
木灰	—	三・九〇	六・〇〇	〇・五一一	速効	
薬灰	—	二・一〇	三・五〇	〇・二四四	速効	
硫酸加里	—	—	四・八〇	〇・九九〇	速効	

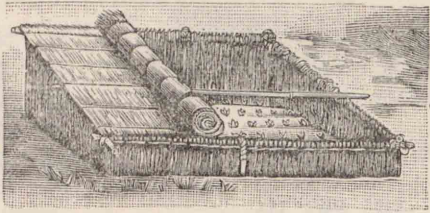
第三章 苗床

苗をそだてる場所を苗床といひ、冷床と温床の二に大別する。

〔冷床〕 天然の温熱を利用するのみで、人工的に温熱を補給する設備のない苗床を冷床といふ。

- 苗床の利益
- 一、種子微細なもの、
 - 二、發芽困難なもの、
 - 三、移植すれば直播より好成績なもの、
 - 四、早春外氣の未だ寒冷な時期に苗を仕立てる場合(茄、胡瓜その他の早熟栽培)
 - 五、輪栽の關係上本圃に直に播種出來の場合。

- 苗床の位置
- 一、日當りよく温暖な所。
 - 二、北側に丘陵、建物等の地物があつて寒風を遮斷し得る所、もしこれらの地物なき時は圍繞を設ける。
 - 三、排水の良好な所。
 - 四、住宅に近く管理に便利な所。

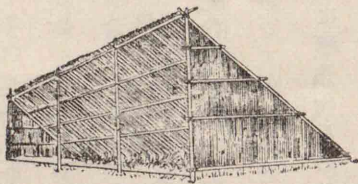


寒圃圖

〔平床〕 温暖な場所を選んで、幅一・二米長さ適宜高さ一〇糎内外に土を盛つて床地とするもので、早春苗を育てる場合には北側に屋根を設ける。これを被覆床といつて普通の平床と區別することがある。

〔溝床〕 幅一米、深さ三〇糎長さ適宜の溝を設け、その中に一〇糎内外の床土(調合土)を入れて苗を育て、降雨または夜間には蓆その他を被覆して寒氣を防ぐ。

〔藁園床・木柵煉瓦床・コンクリート床〕 平床の周圍に藁園ひを施したものを藁園床といひ、夜間は蓆油紙障子を被覆する。



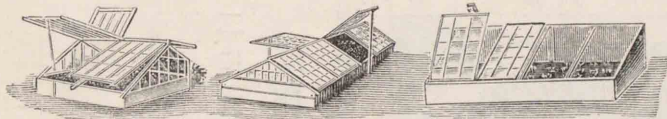
被覆床(平)

木框の構造

幅 一・二米
長さ 三・六米
北側の高さ 四・〇〇
南側の高さ 二・五〇
四隅及び中央の六箇所に六稜角、長さ四〇の脚を取りつけ、なほ框には九〇程ごとに南北に幅五〇、厚さ四〇の外の棧を渡し、この上に四枚の硝子障子或は油紙障子を載せる。油紙障子は、障子の棧に丈夫な紙を張つてから、在油三、石油一の割合に混合したものを一度煮沸した後、冷却してから塗抹してよく乾燥させるのであるが、近頃はサイト紙を張るものが多い。

醸熟物踏込法

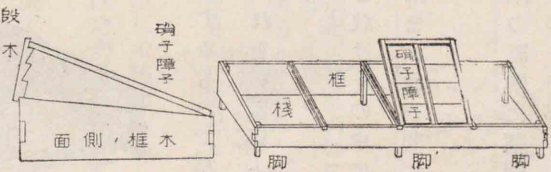
醸熟物は踏込み前に各種材料をよく混合して三―四分し、第一回の踏込みをして水或は



式形鞍半 式根屋雨 式根屋片

木框煉瓦床コンクリート床等は、床地にそれぞれ木框煉瓦框コンクリート框等を装置したもので、硝子障子油紙障子等を覆ひ、夜間はその上にさらに蓆苫などを覆ふて温熱の放散を防ぐ。

〔温床〕人工的に温熱を供給する苗床を温床といひ、これに高設温床と低設温床の二がある。何れも圍繞部被覆部及び發熱部から成り、圍繞部は木框煉瓦框コンクリート框などを用ひ、被覆部は硝子障子油紙障子蓆苫などを用ふ。また發熱部には普通は醸熟物を堆積してその醗酵熱を利用するが、なほ熱源には電熱・煉炭・温湯・蒸氣・煙など種々ある。



採有るす氣換てげあな子障で木段と造構の框木

〔高設温床〕地面を掘り下げることなく、地面上に醸熟物その他の熱源を置き、その上に藁圍ひや木框等を据ゑたもので、温熱の放散が

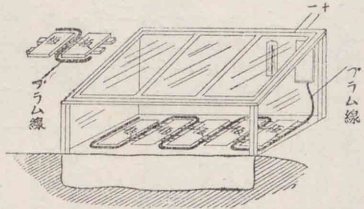
人糞尿を注ぎ、さらに第二回の踏込みをなしかくの如く三―四回に分けて踏込みするがよい。

床土は踏込後直ちに入れるか、踏込二―三日後に入れてもよい。その厚さは播種床なれば一〇程、促成栽培の定植床(本床)なれば一五程内外の厚さに入れる。もし土の分量少ければ作物の根を傷め、多過ぎれば温度が低くかつ永續せぬから注意を要する。

床土は使用の七―八箇月前から、畑或は田の土壤に堆肥・落葉等を混合堆積し置き、二―三箇月ごとに切り返して積み替へる。

〔實踐〕

温床に寒暖計を挿して温度を調べると、南側、中央、北側で多少温度に高低がある。また灌水の直前と直後でも差がある。



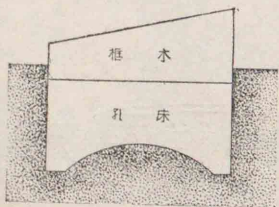
床温の用利熱電

速かなため、低温度でかつ短期間の使用に適し、概ね苗床の場合が低温で低設温床を設け難い場合に用ゐられる。

〔低設温床〕深さ〇・五―〇・六米の床孔を掘つて醸熟物を踏込み、その上に木框煉瓦框コンクリート框を据ゑるもので、温熱の放散が少く管理に便利である。熱源は普通紡績屑・新鮮厩肥・落葉・米糠・鶏糞・蠶糞などの醸熟物を混合して踏込む。その分量は目的温度によつて異なり、かつその土地の氣候や踏込時期・醸熟物の種類によつても異なるが、冬季の最低温度攝氏零下二―三度位の地方で、十一月頃踏込みをして攝氏二〇度以

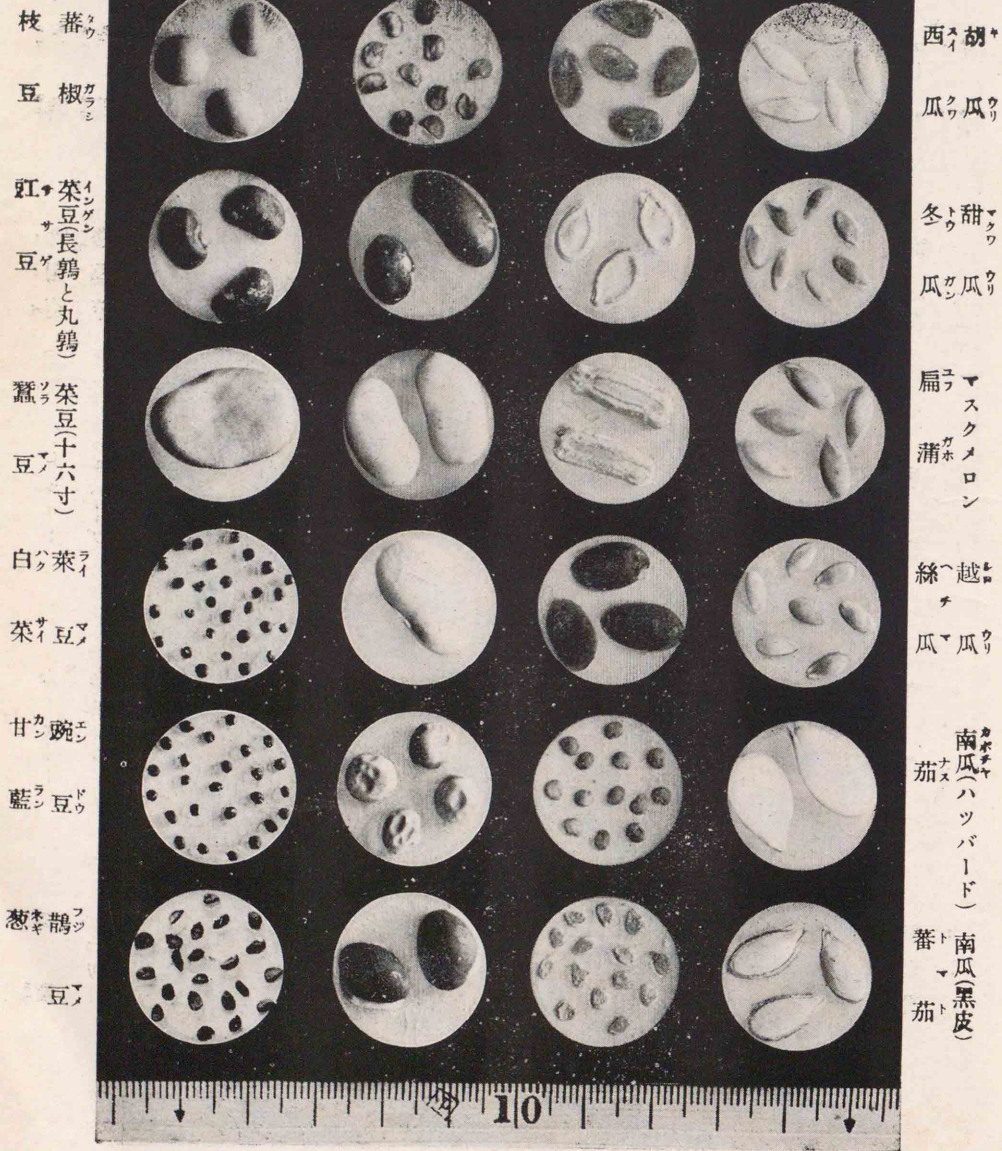
上の温度を六週間以上持續させる場合の踏込標準量は次の如くである。

- 一、紡績屑 一五〇疋。 糞 七五疋。 水 二七〇立。
 - 二、新鮮厩肥 三七五疋。 落葉 三八疋。 水 一五〇立。
 - 三、糞 一五〇疋。 米糠 七二立。 落葉 二〇疋。 人糞尿 二七〇疋
- もしこれよりも寒い地方または寒い時期に踏込むか、さらに高温を必要とする作物を栽培する場合には、その踏込量を前記標準量の三四割増とし、反對の場合には二三割減する。



方り掘の孔床

(大物質) 子 種 の 菜 蔬



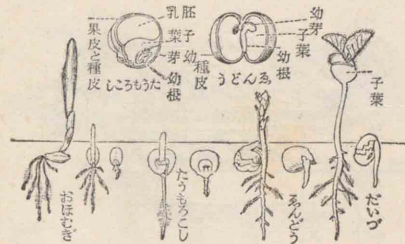
發芽試驗
發芽試驗を行ふには、リベンベルヒ發芽試驗器を用ふるが便利であるが、簡單に行ふには、一夜浸水した種子を一〇〇—二〇〇粒をとり布片を敷いた皿の上に並べ、濕氣を與へて温い場所に置き、その發芽数の供試總粒數に對する百分率を求め、種類によつて三—七日間に發芽したものを發芽勢といひ、一〇〇—五日内に發芽したものを發芽歩合といふ。

【實驗】
一、皿と布、種子一〇〇粒とを準備して發芽試驗をしてみなさい。
二、同じ種類の新しい種子と三—四年前の古い種子とを別の皿で發芽試驗をしてみなさい。
三、同じ種類の未熟な種子、完熟した種子、過

第四章 播種と移植

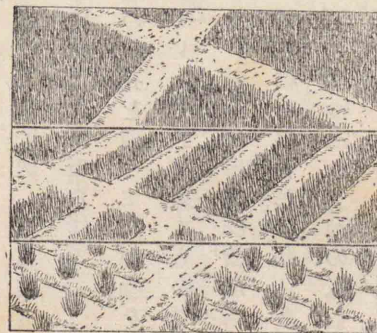
一、播種

種子は作物の本であるから純正清潔で品種固有の形狀色澤を具へ、新しくて充實したものを選ぶことが肝要である。これ等の諸點を鑑別するには普通種子の肉眼並びに機械検査と發芽試驗による。



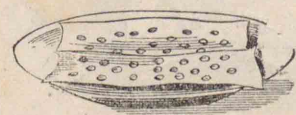
種子の構造とその發芽

種子はそのまま播く場合が多いが種子の豫措といひ發芽を促し、かつ齊一に發芽させるために浸水したり殺菌するために短時間藥液や熱湯に浸漬し或は木灰藥液を塗布して播種することがある。



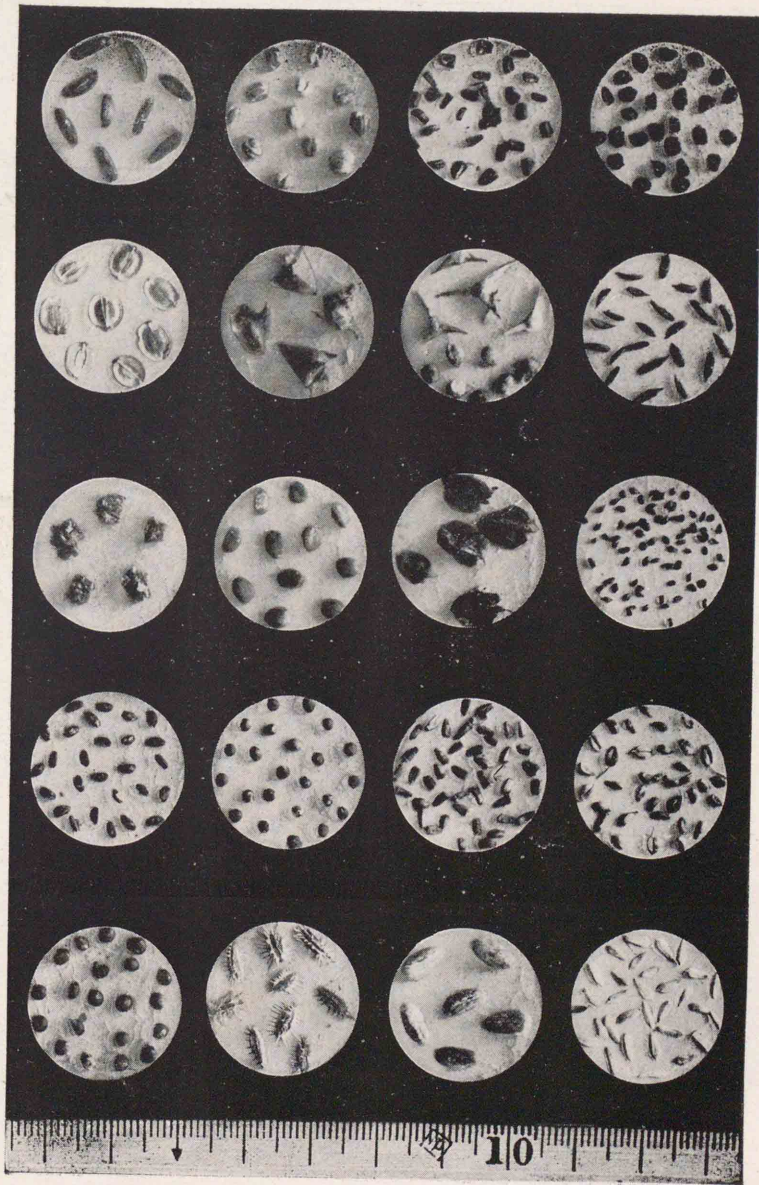
播種の方法

撒播 條播 摘播



簡單な發芽試驗

(大物質) 子 種 の 菜 蔬



苜蓿 (アサギ)

苜蓿頭 (アサギ)

野蜀葵 (アサギ)

セルリー

バーセリー

苜蓿 (アサギ)

コーンサラダ (トウモロコシ)

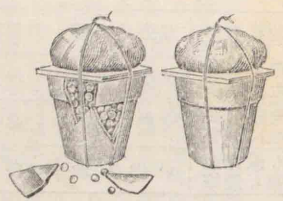
蕃杏 (アボカド)

ダイコン (ダイコン)

蕪菁 (カブ)

ニンジン (ニンジン)

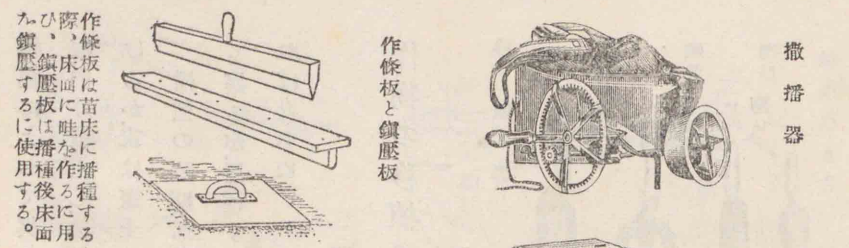
四、種子に水分を與へて素焼の鉢に充たし、次の圖のやうに板で蓋をして針金で結んで置けば、發芽の際に種子の體積を増加するため左の圖のやうに鉢を破裂させる。



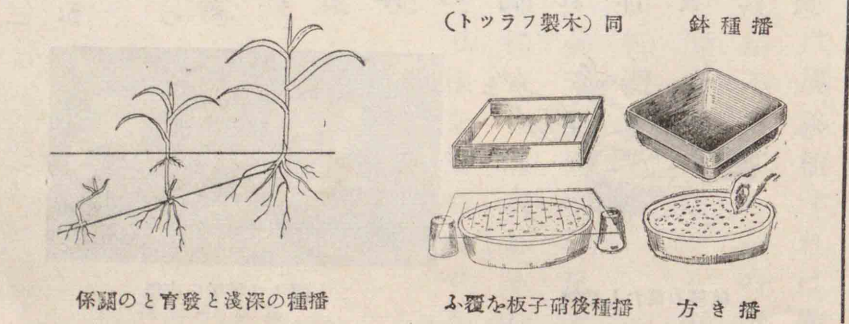
五、木箱の中に土を入れ、同じ種類の種子を深さを異にして播きつけ、播種の深淺と發育との關係を調べなさい

六、ガラス壺に種子を入れて密閉し、一二日してから火をつけた

第四章 播種と移植



撒播器
作條板と鎮壓板
器播條
播種するには播種機撒播器條播器摘播器を用ふれば作業が迅速正確で便利である。また微細な種子や移植すれば直播よりも成績よいものは苗床に播種し、温室栽培の草花類などは素焼の播種鉢或は木製の平鉢に播種して苗を育てる。

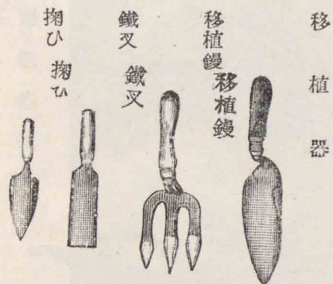


播種と發育の關係
播種後板を覆ふ
播種後板を覆ふ

蠟燭を入れて見ない
種子の呼吸によつて酸
素が缺乏してゐるため
蠟燭の火が消えます。

入手	育發の状況	種子の分量	播種力	式方
難困	不均平なる弱發	すやく多最	い少も最	播撒
易容	均等に稍育發強	すやく多稍	い多やや	播條
易容	均強なる最發最	い少も最	い多も最	播滴

作物の播種期の異なるのは主に温度との關係で種類によつてその適期を異にするが概して春と秋の彼岸前後と夏季の三期に區別し得る

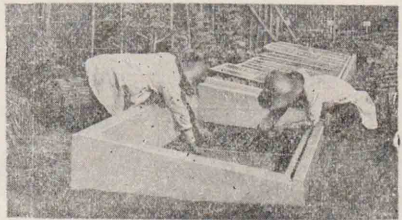


二、移植

種類によつて異なるが、大體小粒種子は一五種、大粒種子には三種内外覆土し、鉢播のものには僅かに細土または砂を振りかけるか、或は覆土せずに新聞紙などで覆ふて置く。
播種の時期播種の深淺播種の分量等は作物の種類によつて異なるが、播種するには常に疎密何れにも失せぬやう注意せねばならぬ。

作物の移植には、根を切斷する場合と、單に作物の位置を換へる場合との

二の目的がある。移植を行へばその際多少根が切られるため、水分養分の關係上、作物の徒長を抑制し、組織充實して節間(せうかん)が短くなり、作物によつては收量を増加し、品質



温床に播種する



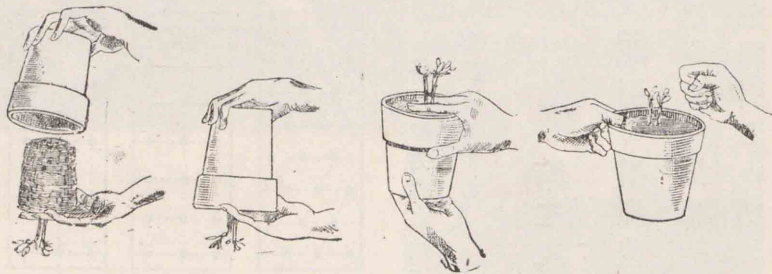
鉢にたし苗の移植

假植と定植及直播との區別がある。胡瓜・甘藍などは本圃に植付ける前に屢々他の苗床に植ゑ換へて苗の徒長を防ぐことがある

これを假植といひ、本圃に植付けるのを定植といふ。また移植に對し、直ちに本圃に播種するを直播といふ。

移植の困難な樹木を植ゑ換へる場合には豫め一二年前に周囲の根を切り廻して再び覆土して置いて、若根を出させてから移植するがよい。これを根廻しといふ。なほ樹木の移植の際にはその枝を適當に切つて蒸散作用を少くする。

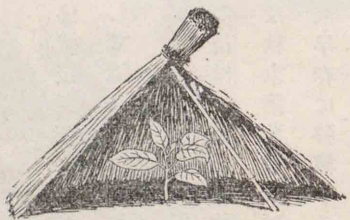
鉢換へ
觀賞植物には毎年同じ大きさの鉢または小鉢



鉢のぬき方

をよくする。また温床では屢々移植すれば醸熱物を節約して、多少温度が不足でも苗の發育を止める憂がなく、かつ温床を遊ばせる事なく常に利用し得るから經濟である。
移植するには、なるべく曇天・無風の日を選び、豫め移植の二・三時間前に充分灌水し、苗の根元に土をつけて抜きとり、根を傷めぬやう丁寧に植付け、移植後は充分灌水して日覆を與へ、葉面の蒸發を防いで苗の萎凋(しやうじょう)衰弱を防ぐことが必要である。

觀賞植物の鉢換へも一種の移植で、多くは衰弱した植物の



茄苗の日覆

や大鉢に植ゑ換へることがある。これを鉢換へといひ多くは植物が不健康に陥つた場合に行つて生育をよくするために行ふものである

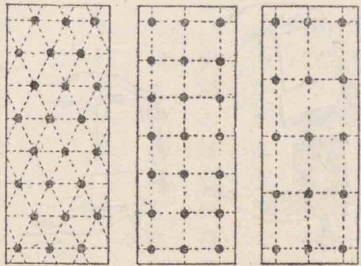
〔實驗〕

一、苗を移植して日覆を與へたものと與へぬものとどちらが早く活着するか觀察しなさい
二、苗を移植する時深さを異にして實驗してみなさい。深植のものは發育が悪くなります

間引の注意

間引するには必ず一回に行ふことなく數回に行ふがよい。もし一回に終らうとすれば勢ひ一時に多數の株を除き去ることになり、残すべき株の根を傷め易い。また初めから適當の株間に間引すれば、その後幼植物が病害・蟲害その他の傷害を蒙つて衰弱或は枯死した

方形植とする。



植形角三 植形方正 植形方長

第五章 作物の手入

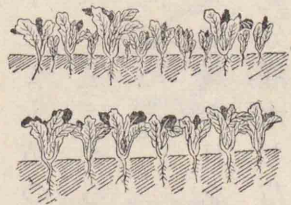
〔間引〕 播種後發芽した多くの幼植物の中から、適當な時期にその間々から一部分抜き去ることを間引といひ、これを行ふ目的は次の如くである。

一、種子中には往々發芽力のないものや、その他不良種子を混ず

根の周圍の土を一部分または全部とりかへて他の鉢に植ゑ換へる。
果樹類、觀賞樹木等の苗木には移植後支柱を與へ、なほ秋季移植した場合には覆藁を施して防寒の設備を要する場合もある。

移植の時期は、蔬菜及び花卉類の苗は本葉一二枚乃至五六枚出た時に行ひ、また落葉樹は秋末落葉後或は早春發芽前、常綠樹は梅雨期または秋末早春に移植する。

移植の方式には正方形植、長方形植、三角形植等があるが、作業に便利のため多くは正



(下) 鋤なし引間と(上) 鋤いなし引間

地 整



引間の菜白

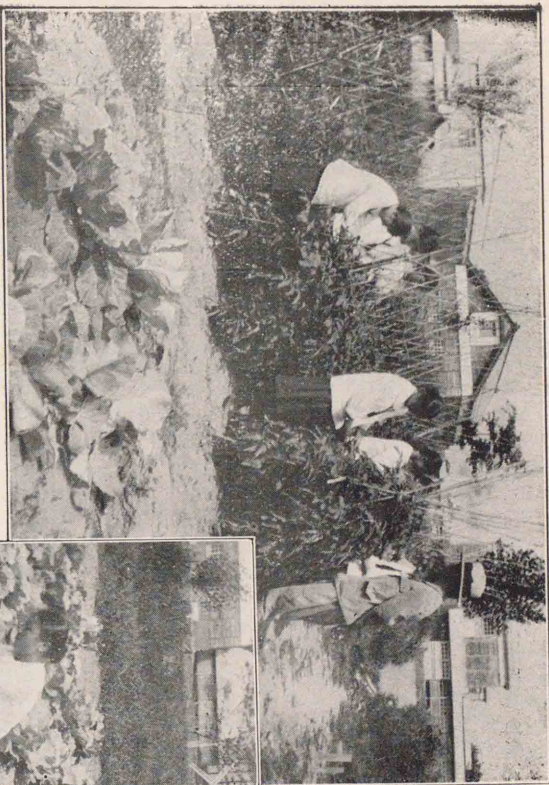


引間の蕺菜



(灰木・酸磷過・粕油) 肥 基

(圖原者著)



引誘と芽摘のトマト

(重原 著)



殺捕蟲毒の薑甘

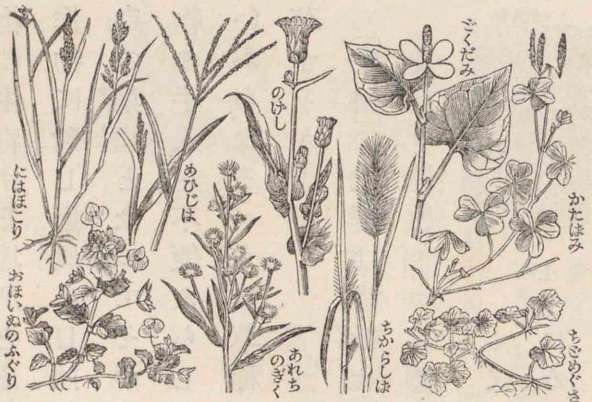
場合等には株間距離が疎に失し、かつ各株間距離が不平等になり地積も不経済となるから最後の間引は作物が相當に成長して安全になつてから行ひ、この際に株間を適當に與へるがよい。

〔觀察〕

苗床や圃場で、間引したものと同引せぬものとを比較して、作物の生育状態を觀察しなさい。

絶対雑草と相對雑草

雑草は絶対雑草と相對雑草とに區別することができ、絶対雑草とは全然利用し得ない雑草で、どくだみ、かたばみ、ちからしば、あれちのぎく、すべりひひ、すぎな等普通の雑草類で、相對雑草とは栽培の目的以外のもので主作物の生育上有害であるが、他



草 雜

るから、稍、多量に播種して發芽後に間引するが安全である。

二、完全に發芽したのもも病蟲その他の患害に犯され、不良苗となるものもあるから、これを淘汰する必要がある。

三、實用的固定種には、多少遺傳的不良苗を生じ易い傾きがあるから、これを淘汰する必要がある。

四、成長するに従ひ、適當の距離を與へて發育をよくする。

間引は作物の幼稚な間に數回に行ひ、漸次その發育の不良なもの、形狀や性質の變化したもの、密生した部分のもの等を除いて各の株間の距離を適當かつ平等に保たせる。

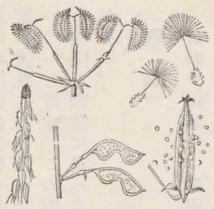
〔除草〕栽培する目的作物以外に圃地に發生するすべての植物を雜草といひ、その種類は甚だ多いが、何れも作

の場合に於ては作物となるもので、例へば菘或は菜菔を栽培してゐる場合に、その畑に大麥または西瓜が自然に發生した場合にはこれ等の自然に發生した作物を相對雜草といふのである。

〔觀察〕

雜草の種子撒布の有様を觀察してみなさい。

(種子の撒布)

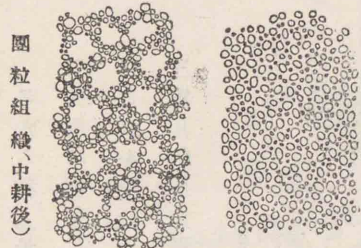


例へばアレチノギク、ヒメムカシヨモギなどは種子が軽くて遠くまで風で飛散し、カタバ

物の生育する場所と水分及び養分を奪ひ、作物に對し通風と日照を妨げ、また病菌害蟲の巢窟となつてその傳播を助くる等、作物の手入を不便ならしめ、その害が少くないからなるべく雜草種子の結實前に屢々除草するがよい。

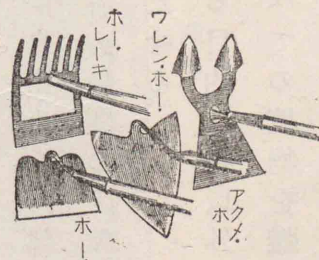
〔中耕〕

土壤は耕耨せねば次第に固結し

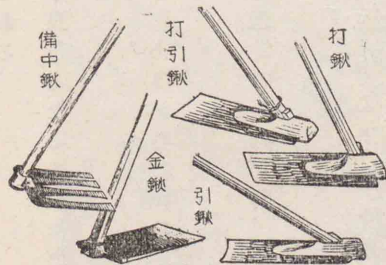


て、空氣や水分の透通悪しく作物の生育が不良になるから作付後畦間の土壤を耕耨してこれを膨軟にする必要がある。この作業を中耕といふ。

土壤の組織



除草器



耕耨器

ミは果皮が裂けて種子をはちき出し、ヤブジラミ・ヌスビトハギ・キノコツチなどは人の衣服動物に着いて運ばれる。

中耕と土寄の注意

作物の幼稚な間は根も浅いから作間の土壤を浅く耕耨して土塊を細碎し、その後作物の成長するに従つて次第に深く中耕するがよい。但し成熟期に近づけば根を切斷せぬやうに再び浅く中耕するがよい。また夏季はなるべく浅く中耕し、冬季は中耕と同時に畦の土を作物の北側になるやうに寄せて寒風を遮ぎり陽光を充分に利用し得るやうにする。

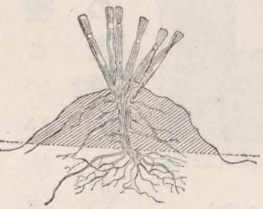
土寄も作物の幼稚な間はなるべく浅く行ひ、作物の成長するに従つて次第に深く行ふがよい。もし初めから深く土寄すれば作物の成長を阻害し、却つて

土壤は通常單粒組織をなしてゐるが中耕すればこれを團粒組織に變じ、作物の根の伸長蔓延を助け、肥料の分解と土壤の風化作用を促し、地水の蒸發を防ぐ。かつ中耕は雜草を除き、或は作物の根の一部を切るから、新に多くの細根を發生させて養分の吸収に便する等の利益がある。

中耕するには、蹶または中耕機を用ひ、土壤の水濕適度で、かつ晴天・溫暖の日を選んで行ふがよい。

〔土寄〕

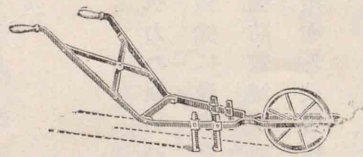
作條間の土壤を軟かにして、根際に寄せ



土寄

かけるのを土寄といひ、これを行ふ時は作物の莖稈を支持して風害を防ぎ、作條間の肥沃な土壤を根際に齎らして作物の成長を促し、夏季は根際の水分の蒸發を防ぎ、冬季は地温を高めて根の凍害を防ぐことが出来る。また蔬菜類は莖や葉を軟白するために土寄することがある。

土入もまた土寄と同じ目的で、専ら麥類に行ふ。



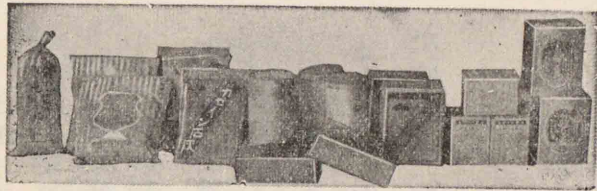
中耕器

収量を減じ品質を害し甚しい場合には全く作物を枯死させることさへある。

病原

- 1. 生物の寄生
瓜類細菌病・麥黑穗病
- 2. 寄生顯花植物
まめだをし・やどり
- 3. 寄生動物
綿蟲類・だに・寄生蜂類
- 4. 視外生物
稻萎縮病 馬鈴薯萎縮病
- 5. 無機勢力の障礙
1. 温度の高低
霜害・寒害
2. 水濕の多少
水害・旱害
3. 光線の強弱
日燒倒伏
4. 肥料分の過不足
肥切れ・稻青立病
5. 化學的作用
礦毒・煙害
6. 機械的作用
風害電害

〔病蟲害の防除〕 作物の生理的變調・障礙を病害といひ、病害を起す原因を病原、發病を促すものを誘因といふ。病原には種々あるが、これを大別して生物の寄生と無機勢力の障礙(生理的病害)の二とする。而して寄生物ことに菌類による病害は種類極めて多く、かつ傳染性であるからその被害もまた甚だ多い。



鉛酸砒狀粉 ンチコ=酸硫 鹼石スリデ (右から)
華黃硫 ウドルボ末粉 灰石ンイゼカ 粉菊蟲除 ンリグスリバ

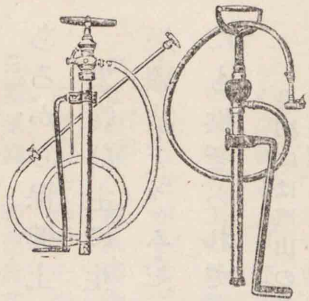
病害を防除するには、病害に對する抵抗力の強い品種を選択し、栽培管理に注意して常に作物を強健に發育させることが大切であるが、なほ病菌の侵入を豫防殺滅することが肝要で、病菌を殺滅するには殺菌劑の撒布と被害植物の患部または全株を燒却するがよい。



病癩の松 病餅の蠟燭 病麴稻
病星赤の梨 病巢狗天の竹 病徳黒の麥

藥劑撒布

害蟲驅除には藥劑撒布が最も有効簡便であるが、これを撒布するには先づ驅除せんとする害蟲の口部の構造を知り、蚜蟲よこばひ等の如き吸口害蟲には接觸劑を撒布して害蟲體の氣孔を閉塞し、葉蟲類・毛蟲類等葉を喰害する咀嚙口害蟲には毒劑を撒布して毒殺するのが便利である。またアナムシの驅除には接觸劑・毒劑の何れを用ひてもよい。藥劑を撒布するには噴霧器を用ひるのが經濟かつ便利である。



器霧噴式澤米 器霧噴スセクサ

作物を喰害する昆蟲を害蟲といひ、その種類甚だ多く、その損害もまた尠くない。害蟲を驅除するには、まづその害蟲の經過習性と食餌習性とを探究してそれぞれ適當な時期に最も有效な防除法を講ずるがよい。

一、自然的防除法

益鳥食肉昆蟲寄生蜂寄生菌等天敵の保護利用。

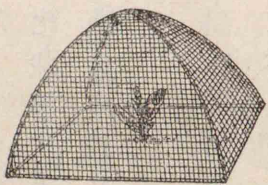
被覆法

二、農業的防除法

種苗の選擇圃地の清潔輪栽その他栽培上の注意。

三、器械的防除法

遮斷法 被覆法袋掛輪環法明溝法塗抹法等。
誘殺法 點火誘殺・食餌誘殺・潛伏所誘殺等。
捕殺法 赤手法網採法打落法附着法搔拂法等。



四、藥劑的防除法

接觸劑並びに毒劑撒布燻蒸劑の使用等。

(藥劑及び調製法等は卷末の附録に記載す)

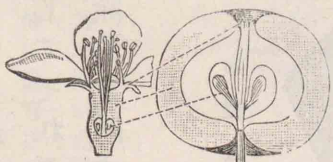
第六章 果樹栽培

〔果樹〕 食用に供する目的を以て、果實を收むるために栽培する木本作物を果樹といひ、果實は花の果托や子房などが肥大成長して肉質となつたものである。

果實はそれぞれ特有の香氣と風味とを有し、滋養分に富み、人體に必要な各種の無機鹽類・ビタミン等を含み、かつ食慾を進め消化を助ける效があるから保健上大切なものである。

果實は主に生果のまま食用にされるが、調理・乾果・罐詰・ジャム・ゼリー・果實酒醸造等各種の加工用にも供せられて需用が多い。

果樹には澤山の種類があつて、その分類の方法にも種々あるが通常果實の構造によつて次の四種に大別する。



梨 和

果實は風味佳良で滋養分に富み、最も重要な食品である。一國の果實消費量は文化の發達、國民生活の向上と共に増加するもので、我が國に於ける人口一人當り一箇年果實消費額は一圓五〇錢内外で（東京市に於ては五圓内外）これを數十年前に比すれば著しく増加したが、なほ歐米諸國に比すれば三分一七分の一に過ぎないが、現今では既に發澤品の域を脱して實用品として取扱はれるやうになつた。我が國に於ける果實の用途は大部分は生食用であるが、多少は加工用にもされてゐる。

繁殖とは如何なる方法たるを問はず、その個體を増加することであるが、果樹の繁殖法としては確實に母樹の性質を遺傳することと早く結果期に達することが必要で、これには接木が最も適當であるが、葡萄と無花果とは發根し易いから挿木による場合が多い。

接木用砧木の養成には實生が最も適當で、これを行ふには二―三月頃畦幅五〇―六〇程に條播または點播して覆土し、その上に切藁、粗糞などを覆ふて發芽後二―三回開引・中耕、除草・補肥等を行ひ秋末或は翌春萌芽前に他の苗圃に移植して肥培すれば播種後三年目に春季砧木として用ひられる。もし發育不良で砧木に適せぬものは更に一―二年間苗圃で肥培する。

一、仁果類 梨・苹果・枇杷などの如く、果實は花托の發育したもので、萼片は果梗の反對の側にある。また柑橘類などは果實は子房の發育したもので眞に仁果ではないが便宜上仁果類に屬せしめる。（柑橘類などは準仁果類として仁果類と區別することがある。）

二、核果類 梅・桃・櫻桃・李・杏などの如く、果實は子房の發育したもので、中央に堅い一個の核があつてその中に種子がある。

三、漿果類 葡萄・無花果・須具利などの如く、果皮と果肉が漿質をなし、柔軟多汁で果實は概ね小形である。

四、殼果類（堅果類） 栗・胡桃などの如く、果實は堅い殼果皮で被はれてゐる。

〔果樹の繁殖〕 果樹の繁殖の方法には實生・株分・挿木・接木等種々あるが、普通は接木によつてする。

實生 二―三月頃苗圃に播種するもので、方法が簡單で一時に多數の苗木を養成し得る利はあるが、母樹の性質を遺傳し難く惡變し易いのと、結果期に入ることが遅いため、新品種の育成或は接木用砧木の養成に用ひられるに過ぎない。

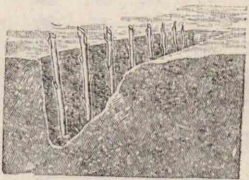
株分 根元から生ずる蘗を母樹から切離して苗木とするもので、須具利・樹莓等の如きものは株分して繁殖する。これを行ふには秋末落葉後或は早春萌芽前に行ふ。

- 接穂の選擇**
- 一、品種固有の性質を保つ母樹からとること。
 - 二、豊産性の母樹を選ぶこと。
 - 三、發育中等でよく充實した前年生の枝を選び、その中央部のよく充實した部分からとること。

砧木の選擇

- 一、根、ことに鬚根がよく發育した實生砧木を選ぶ。
- 二、砧木の太さは小指位の太さがよいが割接には直径一〇糎以上の大きなものを用ひることがある。
- 三、裝飾的の樹形に仕立てるか特に小形に整枝する場合には矮性砧木を用ひるが、樹齡が短いから實用栽培には共砧がよい。
- 四、病害或は害虫に對する免疫性砧木を用ひることもある。

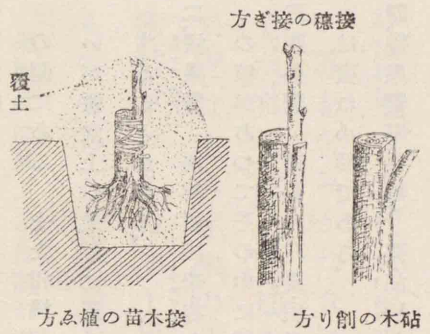
挿木 挿木とは植物栄養器官の一部を切り、土中に挿して發根させるもので、葉挿根挿枝挿等があるが果樹の繁殖には専ら枝挿が行はれ、葡萄、無花果等の如き發根し易いものは主として挿木によつて繁殖する。枝挿にもその挿し方によつて斜挿横挿撞木挿、挾挿その他種々あるが、普通は斜挿により、二三月頃新梢の充實した部分を二五芽を附け、長さ二〇—二五糎内外に切つて



挿木

土中に斜に挿し先端の芽が僅かに現はれる程度に覆土する。

切接



接木 母樹の枝或は芽を接穂として砧木に接ぎ合せる方法で、これによるときは母樹の性質を確實に遺傳し、結果期に達することも早く、かつ果樹の樹勢に變異を生ぜしめて樹勢・熟期等を調節し或はその他特殊の目的に適應せしむることも出来る。

接木法には枝接と芽接とがあり、枝接にも切接割接、搭接、鞍接、舌接、呼接等種々ある。而して接木の際砧木を掘りあげて行ふを揚接といひ、砧木を掘りとらずに

五、樹勢の甚しく異なるものを接木する場合

例へば洋梨のパートレット・キープ・アイ等は樹勢が強いので、矮化砧木のマルメロには接着し難いからマルメロに接着し易いゲユセスダングレーム。ホワイトドワイアンメ。パスクラサン。ラフランス等の如き樹勢のやや弱いものをマルメロに接木した後、さらにその上に接木する。

揚接は最も普通に行ふもので、接木後苗木は苗圃に（畦幅六〇糎、株間二〇糎内外）に植付け、盛土して乾燥を防ぐ。

居接は柿、栗、柑橘類等の如き砧木の根の發育遲緩なものに行ふ。

接木の時期は二月中旬から三月下旬頃までが適當であるが、柿、栗、

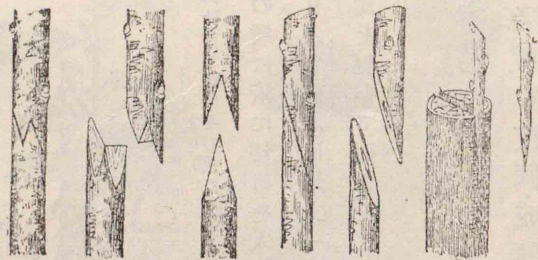
そのまま圃地で接木するを居接或は据接といふ。

接木の時期 果樹の種類とその土地の氣候とによつて多少異なるが、枝接は春季まさに樹液の流動せんとする頃、芽接は砧木の成長のやや衰へた八九月頃に行ふがよい。

切接 最も普通に行はれる方法で、接穂は二、三芽をつけて下部を斜に切りとり、次に直径一糎餘りの砧木を根際から、六、七糎の高さの所で剪定し、その一側を薄く木質を切るやうに二糎餘りの長さに切り開き、接穂を挿入して藁で纏縛する。

割接

砧木の大きい場合などに行ふもので、接穂は



割接 搭接 鞍接 舌接

下部を兩側から楔形に切り、砧木の中央を割つてその一側に接穂を挿入して纏縛する。

搭接、**鞍接**、**舌接**などは接穂と砧木との太さが同大な場合に行ふもので稀に行はれるに過ぎない。また呼接は木質堅緻で活着困難なものに行ふもの



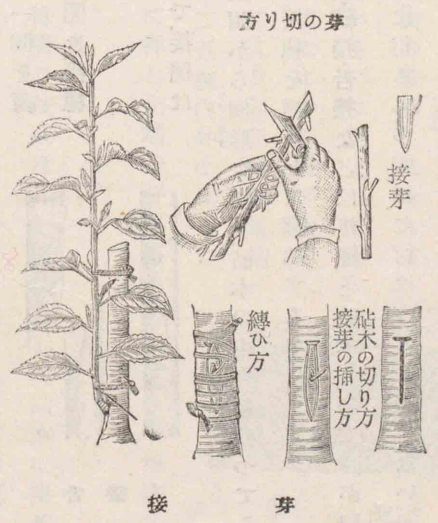
呼接

柑類等ははや遅く行ふがよい。但し芽接は夏季果樹の伸長力が衰へて肥大成長に轉換し芽の完全に形成された時がよい。桃は八月下旬が最も適當である。

- 一、接穂を要することが少い。
 - 二、作業が簡単容易で熟練を要することが少い。
 - 三、活着の成否が速かに判別し得るから、もし活着せぬ場合には直ちに反覆これを行ひ得る。
 - 四、活着歩合が多い。
- 活着したものは翌春萌芽前に砧木は接芽の上方一五纏内外の所で切去り、接芽から發生した新梢が三〇纏内外に伸長したならば砧木に結びつけたらば砧木に長させ、砧芽は速に除去し、後に砧木は接芽の直上部から切去る。

で、接穂を母樹から切りとらずに、接穂と砧木の樹皮を削り去り、この部分を互に密着させて縛り、活着後不要の部分を切り去る。

芽接 砧木に母樹の芽の部分を切りとつて接着させるもので、丁字形芽接倒丁字形芽接輪狀芽接等種々あるが丁字形芽接が最も普通に行はれる。これを行ふには、八月下旬頃芽の發育のよい枝から接芽を選定し、葉柄は僅かに葉片をつけてそのままとし、芽接小刀を以て芽の上方一纏内外の所に横に切目を入れ、次に芽の下方一纏餘りの所から僅かに木質をつけて芽を削りとり、砧木は地上一五纏内外の所に丁字形に傷をつけ、接木小刀の筥を挿しこんで、皮を剥いで開き、そこに接芽を挿入して藁で纏縛する。



〔種類及び品種の選擇〕 實用的栽培には栽培容易なるものを選ぶことが肝要で、市場との關係、氣候、地勢、土質、栽培者の技倆、成熟期病

果樹は種類によつて或は暖地に適し或は寒地を好み、また地勢や土質に對しても各々適不適がある。同一種類間にあつても品種の異なるに從つて多少この傾向がある。而して果樹は他の作物と異なり、植付後數年を経て初めて結果するもので一旦植付けたものはその後に至つて種類や品種を更新することが困難でかつ不利益であるから、果樹の種類及び品種の選擇は最も重要で、種類及び品種の選擇に成功すれば既に果樹園の經營は半ば成功したものと云ふも過言でない。

南面の傾斜地は日常りが良いから成熟期が早く、果實の品質も優良であるが、北面の傾斜地はその反對でよくない。

果樹の植付には秋植と春植とあるが、秋植

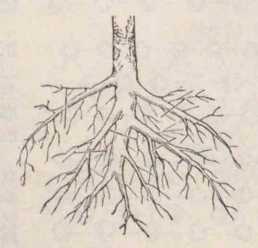
蟲害等の關係を調査して最も有望な種類を選び、品種も、二三選抜して栽培するを得策とするが、家庭用の娛樂的栽培にはなるべく多くの種類と品種とを選んて周年新鮮な果實を收穫し得るやうにするがよい。

〔地勢と土質〕 地勢は平坦地がよいが、一五度位の緩傾斜地なれば排水良好で作業にも不便を感じぬが、それ以上の急傾斜地では階段畑とするがよい。土質は排水がよく肥沃な壤土、砂壤土、壇壤土、礫壤土等がよい。

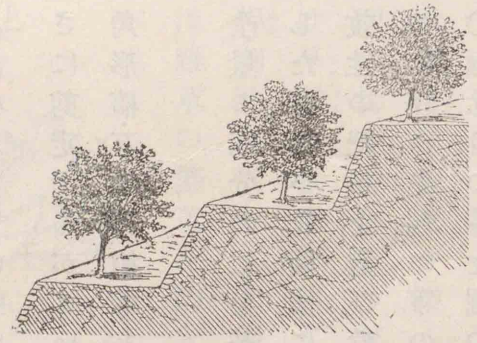


苗木の剪定

〔植付〕 苗木を植付ける



定剪の根



畑 段 階

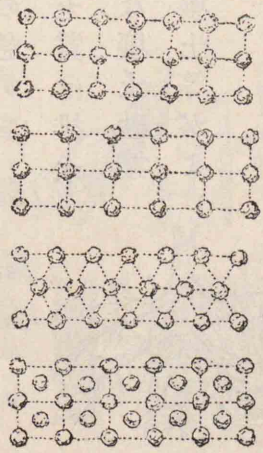
すれば翌春萌芽期までに苗木の根と土とがよく密着して早く新根を生ずるから發育佳良であるが、寒地では活着前に寒害を蒙り易いので春植がよい。

根の剪定には切斷面を下方に向ける下面剪定と上方に向ける上面剪定とある。上面剪定すれば鬚根は地中深く生じ易いが、下面剪定すれば地表面に近く多くの根を生ずるから下面剪定するがよい。

肥料

結果期前の果樹には堆肥・綠肥・人糞尿・鶏糞・草木灰その他の自給肥料を主として施し、結果期に達したものは、結締粕・大豆粕・油粕・その他の金肥を主として施し、果實の品質の向上をはかるがよい。而して肥料の分量は樹齡によつて異なるが大體その年の果樹園總收入の二

には種類及び樹形に應じて適當な距離を定め、よく整地した後植穴を掘つて肥料を施し、晩秋落葉後或は早春萌芽前に根を四方に擴げて浅く植付ける。苗木は植付前に適當に根を剪定して新根の發生を促し、幹もこれに應じて適當の長さに剪定するがよい。植付の方式には正方形植、長方形植、正三角形植、互の目植等があるが、管理上方形植を便とする。



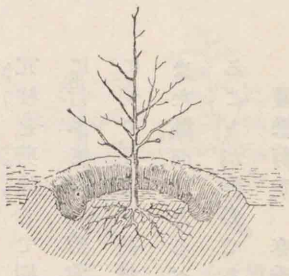
式方の付植樹果

〔施肥〕 肥料を施すには、果樹の休眠期中に全量の三分の二を基肥に、三分の一を補肥として果實のやや成長した頃及び收穫後に施す。基肥には遲効性の肥料を、補肥には速効性の肥料を選び、幹の直徑の五六倍の半徑を以て、普通枝下といつて枝の先端の下の部分輪狀或は放射狀に幅三〇・四〇糎・深さ二〇糎餘りの溝を掘つて

―三割を肥料として施すがよい。

敷草

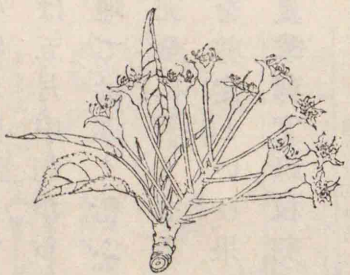
早魃の害を防ぐには灌水するのが最も良いが實際問題として充分でないから六―七月頃敷草を敷き、また寒害を防ぐには十一月頃に敷草を與へる。果樹園に年中を通じて敷草を敷く時は、土地に日光、空氣の透過を不良ならしめて風化作用を妨げ、根の發育を妨げるから、敷草の不要な時期にはこれを土中に埋めるがよい。これを土中に敷き込めば土地に有機物が増して肥料となり、かつ土性を改良することが出来る。



輪狀施肥

肥料を施し、施肥後再び元の如く覆土する。〔中耕除草その他〕 晩秋或は早春やや深く中耕し、その後は浅く數回中耕を行ひ、その度毎に除草を行ふ。敷草は早魃や寒害を防ぐために果樹の根元に藁稈・刈草などを五六糎の厚さに敷くもので、なほ雜草の繁茂を防ぎ、傾斜地では肥料及び表土の流失を防ぐことが出来る。

〔摘果と袋掛〕 果樹類は一花芽から數個以上の幼果を生ずるものが多く、過多に結果させると各果實の發育が不良となり、大きさと形状が不揃ひになつて品質を損じ、樹勢が衰へて隔年結果の弊に陥り易いから二三回に間引して、毎年優良な果實を收めるやうにするがよい。これを摘果と



花芽か結らした梨の幼果

油に二―三割の石油を混和したものを塗布する。袋の纏縛材料としては針金(二八番線)薬蘭等を用ひるが、最近「トメ金」を用ひるものが多く経済でかつ効果が大きい。



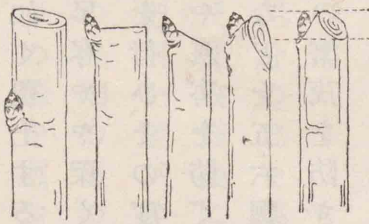
袋の掛け方

いひ、通常最後の摘果の際に袋掛けを行つて虫害を防ぎ、かつ果面に種々の寄生物が附着して外観の損ずるのを防ぐ。袋掛けは五月中旬から六月中旬頃とし、暖地では早く寒地では遅く行ふ。

一、果實の収量を増し品質を改善する。
二、樹液の運行を調節して樹勢の均衡をはかる。
三、冗枝を省き一定の地積内に果樹の成長を保持する。
四、保護管理を便利にする。
五、果樹を一定の樹形に整姿する。

〔剪定〕 果樹の發育作用を調節し、結果作用を完全に營ませるために枝幹または根などの一部を切り除くことを剪定といひ、果樹の休眠期中に行ふ**冬季剪定**と、生育期中に行ふ**夏季剪定**と、緑枝剪定と大別する。

冬季剪定 樹姿を整ふるに必要な主枝及び腋枝を誘出し、
冗枝を剪除して樹勢を調節し、腋枝に花芽を着生させるために行ふもので剪定するには芽の直上を芽に並行して四五度に切り、芽より甚だしく高く或は接近して剪定してはならぬ。また断面はなるべく狭く平滑にして傷口の癒合を速かにすることが肝要である。



適当な切り方

不適当な切り方

夏季剪定 春季發生した緑枝を六七月頃に剪定するもの

冬剪定 樹姿を整ふるに必要な主枝及び腋枝を誘出し、冗枝を剪除して樹勢を調節し、腋枝に花芽を着生させるために行ふもので剪定するには芽の直上を芽に並行して四五度に切り、芽より甚だしく高く或は接近して剪定してはならぬ。また断面はなるべく狭く平滑にして傷口の癒合を速かにすることが肝要である。



花芽

花芽 芽の中に花器を藏し開花結實を司るものでその形は大體膨大で圓味を帯びてゐる。

中間芽 養分不足のために花芽となることが出來ぬが普通の葉芽の如く伸長せぬもの。

休眠芽(潛芽・隱芽) 芽は通常生成の翌春には發育伸長するものであるが、そのまま残るものを休眠芽といひ特別な刺激を受け多量の養分が流動してくれば覺醒して萌芽する。

芽は着生の位置によつて頂芽と腋芽とに區別し、また一節に着生する數によつて單芽と複芽に分ち、複芽はさらに雙芽 三芽などに區別する。



心摘



枝捻



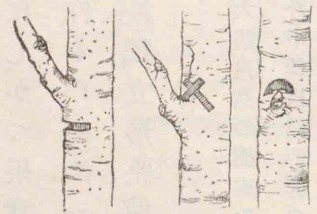
枝折

で不要の部分を除いて枝の基部の芽に養分を集積させ、芽及び枝を充實させ、花芽の生成を促すために行ふもので、節と節との中間を平らかに剪定する。

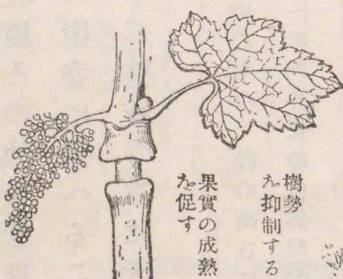
摘心 捻枝 折枝 折梢等も夏季新梢の先端を摘み去り、或は捻曲折り曲げて基芽の發育と枝の充實をはかるもので、目傷は早春芽または枝の上或は下に木質に達する傷をつけて芽或は枝の發育を促し、或はその發育を抑制するために行ひ、輪狀剥皮は早春或は夏季に枝幹の皮部を輪狀に

幅一糎内外剥皮して勢力を抑制し、或は果實の熟期を早め、品質を上進するために行ふもので、これらは何れも剪定の一部と看做すことができる。

(右)芽の發育を促す
(中)枝の勢力を旺盛にする
(左)枝の勢力を抑制する



目傷



輪狀剥皮

樹勢を抑制する
果實の成熟を促す

結果枝
花芽を着生して結果する枝で、その長さによつて長果枝・中果枝・短果枝に區別し、梨の短果枝の如く集團して群生するものを短果枝群（翼枝）櫻桃李などの如く花芽と花芽の距離が著しく近く群生して花束状を呈するものを花束状短果枝といふ

發育枝

花芽を着生せず結果しない枝を發育枝といひ特に發育が急速で勢力強く長大なものな徒長枝といひ、休眠芽がある刺戟を受けて發芽したもので不定芽の發芽した場合に生じ易く果樹栽培上忌む所のものである。

〔觀察と實驗〕

- 一、枝を切つて挿木してみなさい。
- 二、各種の果樹類の芽と枝を比較觀察なさい

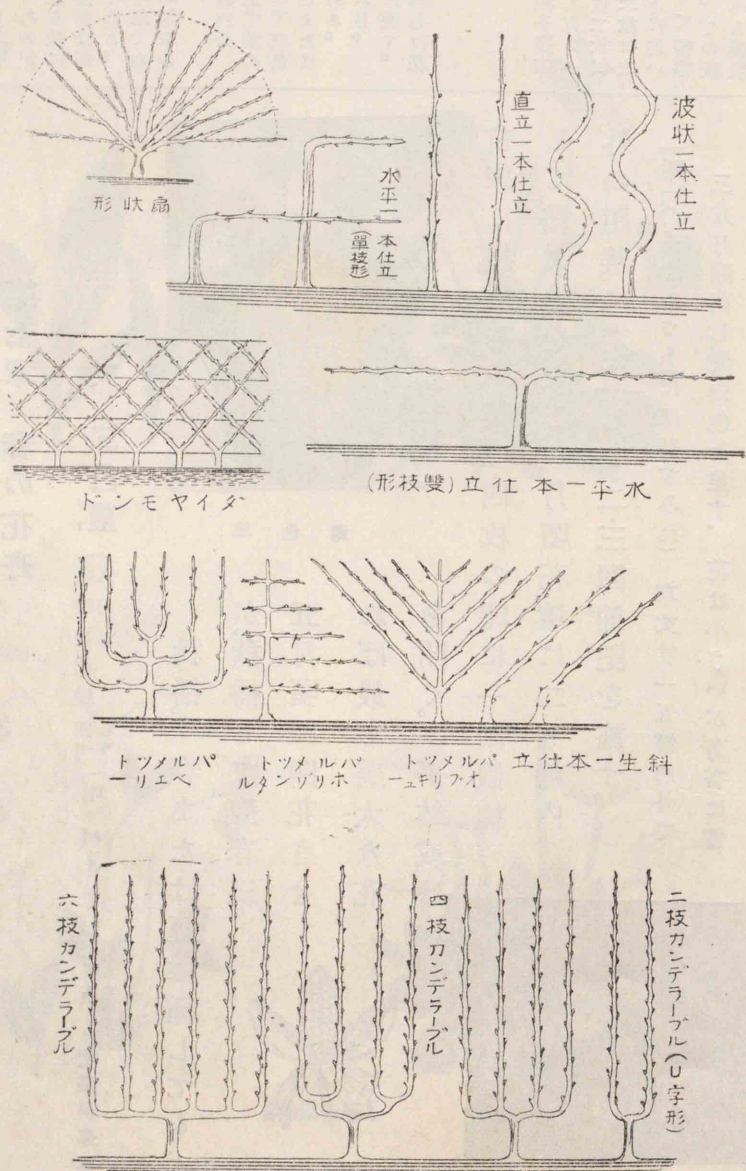
當に排列して結果作用を盛にし、かつ果實の收穫その他の管理を便利にし、或は裝飾的樹姿を作るために一定の樹姿に整へることを**整枝（整姿）**といひ、自然形整枝・獨立形整枝・扁平形整枝の三に大別する。

一、**自然形整枝** 柿栗などの如く大體自然の樹姿を保たせるもので、幹の高さによつて短幹自然形（幹の高さ六〇糎内外）中幹自然形（幹の高さ一米内外）長幹自然形（幹の高さ一米以上）に區別する。

二、**獨立形整枝** 一定の樹姿に整姿するまでは支柱を必要とするが樹姿完成後は支柱を與へることなく獨立させるもので、圓錐形盃狀形などは實用的樹形である。

三、**扁平形整枝** 棚或は牆壁を設けて枝梢を誘引し、枝を一定の水平或は垂直面内に扁平に整姿するもので、樹姿完成後と雖も枝梢は支柱を必要とする。棚作りは我が國固有の整枝法で梨葡萄などには最も實用的な樹形である。牆壁作りにはカンテラブル・パルメット・コルドン・ダイヤモンド・ヤモンドその他種々の整枝法があるけれども何れも裝飾的樹形で實用には適せぬ。

り 作 壁 牆



第七章 春の花卉

一、三色堇 (遊蝶花胡蝶堇) 「附」バイオレット 堇菜科多年生

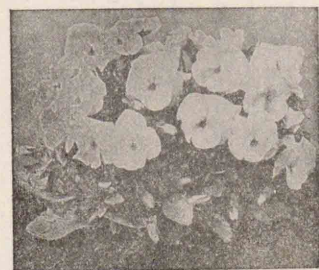


三色堇

秋播。春または夏播種してもよいが、秋播して翌春三、五月頃に開花させれば最も美大な花を開く。平鉢或は



裂開の三色子種と胡たし



ほにすみれ

苗床に播種し、本葉三四枚の時に一回假植して霜よけをなし、三月頃花壇に二五種内外の距離に定植して二三回補肥を施す。
「附」バイオレット(にほひすみれ) 草丈一五種内外で三五月開花し紫白色を呈す。花は小さいが芳香に富み、切花鉢植に適し花壇にもよい。春秋播種株分する。

春播と秋播
春開花する一二年生草花は秋播であるが春播すれば夏から秋に開花する。播種期は何れも彼岸前後である。
三色堇は多年草であるが栽培種は二年草の取扱ひをする。
草丈一五種内外、花は五瓣で白・紫黄の三色を交へるので三色堇といふが単色または二色のものもある。
花期 三―六月。
花壇、鉢植に適す。株分は秋、芽挿しは花後に行ふ。

〔觀察〕

一、三色堇の種子撒布の状態を観察しなさい
二、堇の花は二枚は上方に向ひ、二枚は左右に、一枚は下に向ひてやや大きくて蜜標(彩紋)がある。この後方には蜜を貯へる囊状の距がある。芳香はこの中の蜜の匂である。

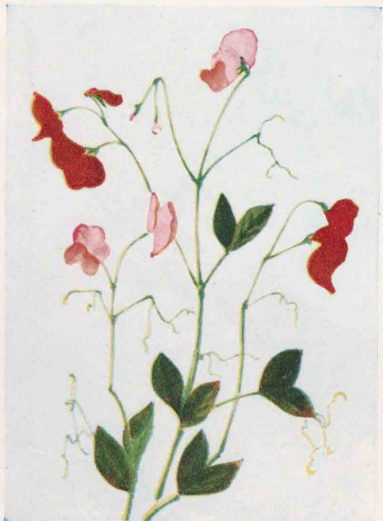
春の花



鈴蘭



三色堇



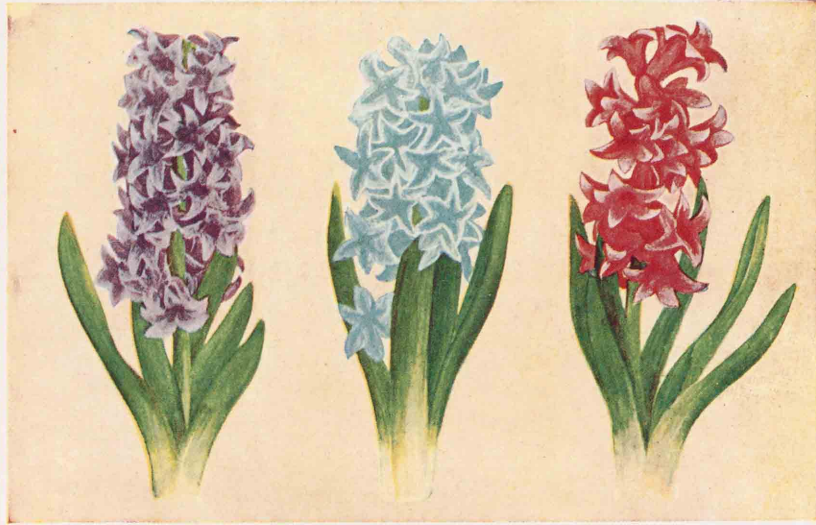
麝香連理草



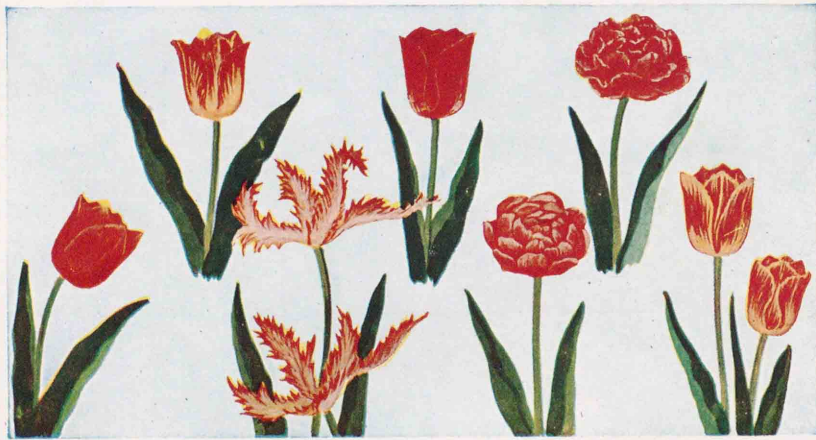
雛菊

(圖原著)

ス ン シ ヤ ヒ



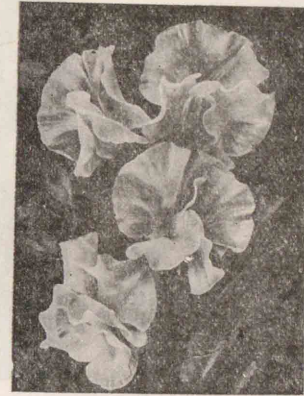
ブ ッ リ ャ チ



トナラブレン ニイウーダ -リーアルブダ
ジーテツコ トツロバ トーレルブダ -リーアルグレン
(圖原者著)

スウイトビー
蔓性種は草丈け一
二米、矮性種は六〇
九〇糶内外、花は豌豆
に似てゐるが、一層大輪
で芳香に富む。
花期 五―六月
花色 紅淡紅、白紫
切花、花壇、鉢植
温室栽培には早咲種
を選び、八―一〇月木
箱か鉢に播いて攝氏一
〇度内外に保ち、開花
前一五度以上せる。播
種後四箇月で開花する

雛菊
雛菊は性強健で寒氣
には強いが、暑さと乾
燥に弱いから夏土用前
に日蔭の場所へ移植す
るとよい。
草丈け 一五糶
花期 三―五月
春播は六七月
花色 紅淡紅、白
花壇、鉢植、切花



-ヒト-イウス

三、スウイトビー (麝香連理草)

豆科 一―二年生

秋播。移植を忌むから、一〇月中下
旬頃園地または花壇に基肥を施して
三〇糶内外の距離に二三粒づつ播
し、冬季は霜よけをし、翌春二三回補肥
を施し蔓性種には支柱を與へる。

四、雛菊 (デイジー、延命菊)

菊科 多年生

秋播。苗床に播いて一回假植して
薄い液肥を施し、秋末に霜よけをして
翌春花壇に移植し、一―二回補肥を施す。
株分は秋の彼岸頃に行ふ。ことに八重咲は
毎年實生するか、永く株分せぬと一重咲に退化
し易いから、二―三年ごとに株分するがよい。



菊 雛

まで、春植は三―五月
植込む時に球底に乾
いた砂を少し敷いて植
付ければ球根の腐敗を
防ぐことが出来る。ま
た球根中にはアネモネ
やシラン、キユラスの如
く發芽部と球底（發根
部）の見分け難いもの
があるからよく注意せ
ねばならぬ。母球に小
球の附着してゐる場合
は必ず小球を除いて植
付ける。植付の深さは
種類によつて異なるが大
體球根の直径の二―三
倍位を標準とする。

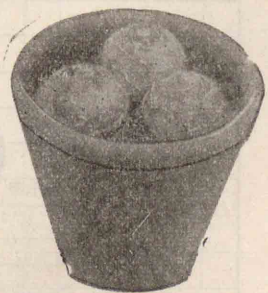
球根の水栽

水栽される球根はヒ
ヤシンス・クロッカス・
水仙などで、これを行
ふには水栽瓶を準備せ
ねばならぬ。水栽瓶は
球根の種類に応じてヒ
ヤシンスグラス・クロ
ッカスグラス等特別に
出来て居る。この中に
水の腐敗を防ぐために
木炭を少し入れ、次に



スニシヤヒ

鉢植するに
は、一五糎鉢の
底に粗砂を入
れ、その上に肥
沃な壤土・腐葉
砂などを混和して鉢の七分目程まで
入れ、球根を一五個植込んで覆土し、溫暖な場所を
選んで鉢のまま土中に埋めて置き、翌春開花前に
掘り上げる。

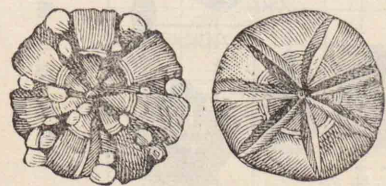


方仕の植鉢



瓶栽水

水栽 水栽瓶に木炭を少し入れ、水は球根の球底を僅かに
浸す程度に入れて球根を載せる。發根するまでは光線のあ
たらぬ涼しい場所に置き、發根後陽所に
移せば日ならずして發芽するからその
後は時々換水する。
球根の繁殖 球根類を繁殖するには



球根の繁殖 球根類を繁殖するには

ヒヤシンスの繁殖

八九月頃に鋭利な双物で球根の底部を切るか、或は底部に切れ目を入れて植付けて
置けば多数の小球根が得られる。

六、チューリップ（鬱金香）

百合格球根

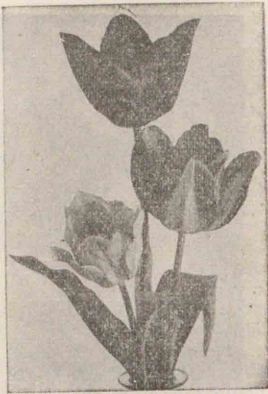
チューリップは園藝上次の七種に大別する。

- 一、シングル、アীরリ、一重の早咲種。
- 二、ダブル、アীরリ、八重の早咲種。
- 三、ダブル、レイト、八重の晚咲種。
- 四、ターウイン、花梗が直立して長く、花の下部が方形を呈して晩生である。

五、パロット、花瓣の縁邊に鋸齒状の缺刻があつて、黄と紅との絞りである。

六、レンブランド、ターウインを改良したもので、花瓣が裂けてゐる。

七、コツテージ、中生種で、最も普通なものである。



ブツリーユチーリーアルゲンシ

チューリップ
草丈一五―六〇糎
花期 三―四月
花色 紅淡紅、白、紫
紅紫黄、絞り
花壇、鉢植、切花用
チューリップの鉢栽
培や温室栽培法などは
ヒヤシンスと同様にす
ればよい。

切花の水揚げ法
切花を長く保たせる
には水揚げ法を行ふ。
その方法には種々ある
が次に簡単な方法を舉
げる。

一、莖や枝の切口を割るか、または砕く。
 二、莖や枝の切口を焼く。
 三、莖や枝の切口を熱湯に二―三秒間浸し、次に手早く冷水中に入れる。
 四、莖や枝の切口を割るか、或はそのまま薬液に浸漬する。普通用ひられるものは鹽酸、硝酸、硫酸、醋酸、酒石酸、アルコホル、薄荷油、食鹽水等で、これ等は原液または數倍に稀釋して用ひ、この液中に莖や枝の切口を浸す場合と、瓶中に投じて混合する場合とがある。



ブツリユーチ・トコロバ

ブツリユーチ・ニウーダ

秋植。花壇に植込むには、一〇月上旬頃堆肥、油粕過燐酸石灰、木灰などを基肥として施し、少しく覆土した後、一五種内外の距離に一球づつ植付けて一〇糶餘り覆土する。冬季はその上に藁を覆ふて寒さを防ぎ、三月頃覆藁を除いて一―二回薄い液肥を施す。
 花後は花梗を摘み去り結實を妨げて球根の發育を促し、六月頃莖葉が黄變したならば球根を掘り上げ、よく乾燥して貯藏する。



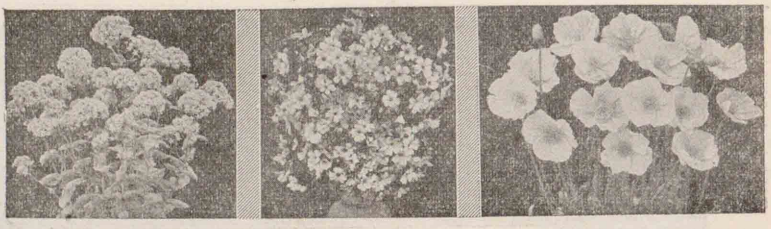
上から
 (右) 薔薇形 蝶形 唇形 鐘形 舌状 百合状
 (左) 十字形 筒形 漏斗形
 假面形 蘭花形 壺形

春の花卉栽培表 (一) は一―二年生草花、多。は多年生草花、は球根植物、觀。は觀賞樹木の略稱

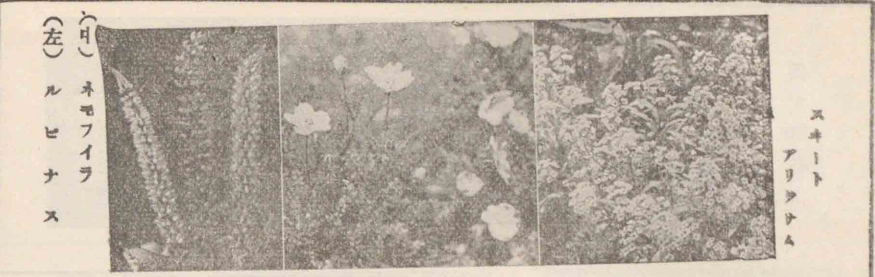
種名 (俗名)	開花時期	花色	用途	栽培法
虞美人草 (罌粟科一)	九〇糶 五―六月	紅・淡紅・白・紫・綠とリ	花壇 切花	秋播。移植を忌むから花壇に直播きして間引と除草を行ひ、開花前に一―二回補肥を施す。
花菱草 (罌粟科一)	三〇糶 五―六月	黄・橙黄	花壇 鉢植	秋播。多年草であるが二年草の取扱ひをする。移植を忌むから直播して虞美人草と同様に手入する。
霞草 (むれなでしこ) (石竹科一)	三〇糶 五―六月	白・淡紅・淡紅	花壇 切花	秋(春)播。こごめなでしこは多年生である。何れも秋播して苗を育て三―四月頃花壇に植出す。
美女撫子 (あめりかなでしこ) (石竹科多)	三〇糶 五〇糶 五―六月	白・淡紅・紫紅・覆輪	花壇 切花 鉢植	秋(春)播。普通秋播して翌春三―四月頃定植して開花させるか、春播して翌々春開花させれば大花を開く。
蟲取撫子 (石竹科一)	三〇糶 六〇糶 四―六月	白・淡紅	花壇 切花	秋(春)播。草質強健で一度栽培すれば毎年種子が落ちて繁殖する。三―四月頃花壇に植出す。



草菱花 草人美虞 美女撫子 蟲取撫子



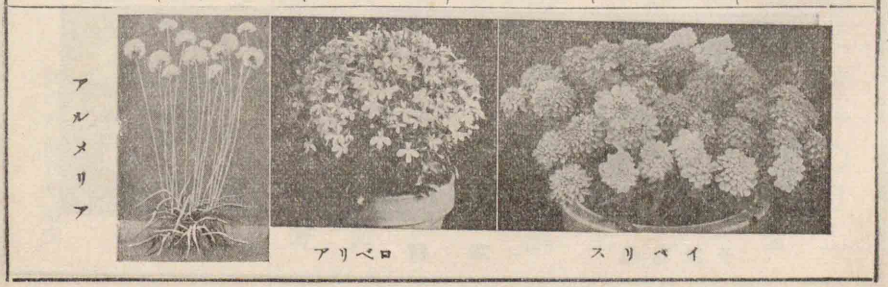
子撫取蟲 草霞 シゲナヒ島千



(左) アネモネ
(中) ヒレソラム
(右) ネモフィラ

スキート
アリソラム

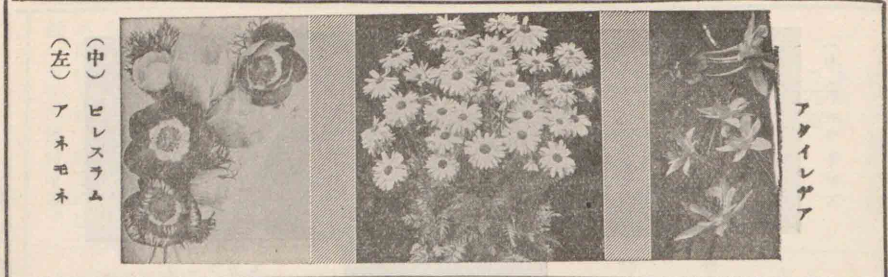
ス キ ー ト ア リ ソ ラ ム (にはなぶな) 十字花科。	イ ベ リ ス ア マ ラ (なぶなざくら) 十字花科。	ネ モ フ イ ラ (こもんからくさ) 罌粟科。	ロ ベ リ ア 桔梗科。	昇 り ナ 藤 荳科。一多。	ア ル メ リ ア (はなかんざし) 磯松科多。
一〇〇 二〇〇 四一七 月	三〇〇 六〇〇 四一六 月	一五 五 五 六 月	一五 五 五 六 月	六〇 一五 五 六 月	一五 四一五 月
白	白 淡紅	白 淡藍	白 藍紫	白 淡紅 藍淡紅	白 淡紅
花壇 鉢植	花壇 鉢植	花壇 鉢植	花壇 鉢植	花壇 鉢植	花壇 鉢植
秋播。苗は本葉三―四枚のとき他の 苗床に假植して霜除けをなし翌春植 出す。	秋(春)播。冬は霜除けをして三―四 月頃花壇に植出す。春播は三―五月 に直播してもよい。	秋(春)播。苗床または鉢に播種して 假植し、霜よけをなし三―四月頃植 出す。	秋播。苗は冬季温床で保護して四月 植出す。花後刈込んで施肥すれば再 び開花する。	秋播。普通は秋播して一回假植した後三― 四月頃花壇に植出す。	秋播。株分は春・秋彼岸頃に行ふが 普通は秋播して一回假植した後三― 四月頃花壇に植出す。



アルメリア

アリベロ

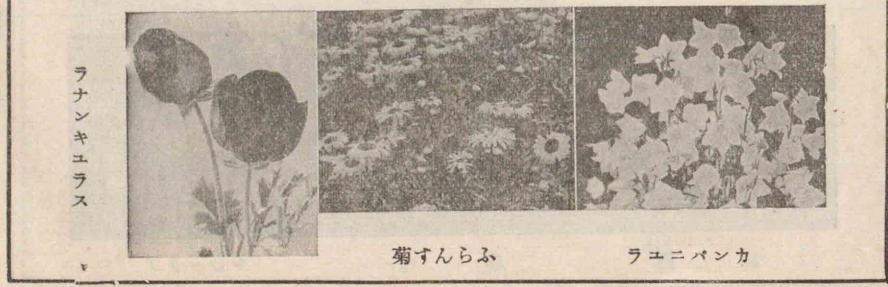
スリバイ



(左) アネモネ
(中) ヒレソラム

アタイレデア

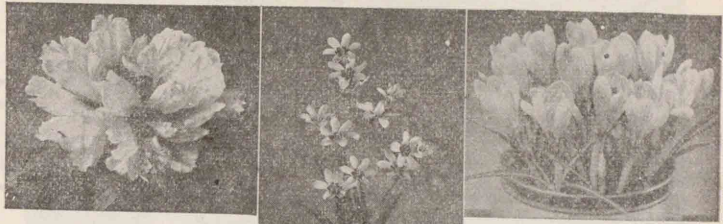
ア ク イ レ デ ア (西洋をだまき) 毛茛科多。	カ ン パ ニ ユ ラ (つりがねさう) 桔梗科多。	赤 花 除 蟲 菊 菊科多。	ふ ら ん す 菊 菊科多。	ア ネ モ ネ 毛茛科球。	ラ ナ ン キ ユ ラ ス (はなきんぼうげ) 毛茛科球。
五〇 五 五 六 月	三〇 一五 五 五 六 月	六〇 六 六 七 月	六〇 五 五 六 月	三〇 四一五 月	三〇 四一五 月
紫	紅 淡紅 白紫	紅 淡紅	白	紅 白 紫	淡紅 白 淡紅 白 淡紅
花壇 鉢植	花壇 鉢植	花壇 鉢植	花壇 鉢植	花壇 鉢植	花壇 鉢植
秋播。株分は春・秋彼岸頃に行ふが 普通は秋播して一回假植した後三― 四月頃花壇に植出す。	秋播。發芽後一回假植して霜よけを なし翌春植出す。株分は春・秋彼岸 頃に行ふ。	秋播。白花除蟲菊は花莖葉に驅蟲 成分を多く含むから薬用に栽培する 何れも秋播または春・秋株分する。	秋播。株分は春・秋彼岸頃行ふ。甚 だ強健で殆んど手入を要しない。 シヤスターデジはこれから改良し た雑種である。	秋植。基肥を施して一〇月頃植込む 罌粟咲と星咲とあるが普通栽培され るものは罌粟咲である。	秋植。基肥を施して植込み、發芽後 から開花までに二―三回補肥を施す 成長中は乾燥に陥らぬ様に注意する



ラナンキユラス

菊すんらふ

ラユニバンカ

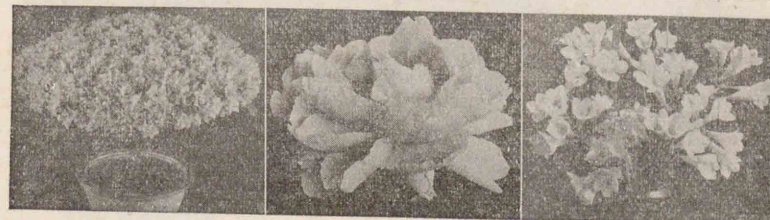


(中) スバラキシス

牡丹

スカツロク

ク ロ ッ カ ス (はなさくらん) 馬尾科球。	フ リ ー ジ ヤ (あざさるせん) 馬尾科球。	ス バ ラ キ シ ス 馬尾科球。	芍 薬 毛茛科多。	牡 丹 毛茛科觀。	躑 躑 石楠科觀。
一〇 種 黄白	三〇 種 白黄白 紫黄	二〇 種 黄 紫	一 米 紅淡紅 白絞り	一 二米 紅淡紅 白紫 絞り	三〇 種 白紅 淡紅 黄絞り
花壇 鉢植	鉢植 切花	花壇 鉢植 切花	花壇 切花	花壇 鉢植	花壇 鉢植
秋植。水栽するには水を入れた瓶に木炭を入れて球根の腐敗を防ぐ。鉢植水栽瓶等は暗所に置き、發芽後陽光に觸れさせて開花を促す。	秋植。芳香に富む。切花用のものは一月頃温室または木框内に入れれば二三月頃開花する。	秋植。イキシヤに酷似するが花瓣がやや不整である。性質強健で一慶植付ければ放任しても毎年開花する。	秋植。一株四―五芽をつけて根分けし、基肥を施して植付け冬季霜よけをして翌春一―二回補肥を施す。	春接木。接木苗は直ちに植付けて發芽後は砧芽の摘除に努める。秋末二―三芽で剪定して霜よけする。	春挿木・接木。普通は三―六月頃前年生の枝を床または鉢に挿木する。午後の強光を受けぬ半陰の肥沃地がよい。



躑

躑

芍

芍

ヤシ-リフ

花壇の季節的分類

- 一、春花壇
- 二、夏花壇
- 三、秋花壇
- 四、冬花壇
- 五、永久花壇

(常緑灌木花壇)

花壇の材料的分類

- 一、球根花壇
- 二、宿根花壇
- 三、菊花壇
- 四、藤躑躅花壇
- 五、薔薇花壇

其他

花壇の形態的分類

- 一、叢花壇
- 1. 境栽花壇
- 2. 寄植花壇
- 二、模様花壇
- 1. 毛茛花壇
- 2. 縁花壇

境栽花壇

境栽花壇は一方から眺めるやうな位置に設ける場合には後方に丈けの高いもの、前方には低いものを植付ける。

第八章 花壇

一、花壇の種類

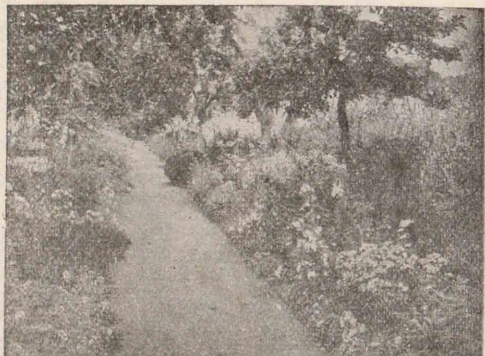
花壇とは園地に各種の花弁類を美的に配植したもので、通常花壇の設けられる場所と形状とによつて

叢花壇と模様花壇とに大別する。

叢花壇は専ら植込まれた花卉の群落の立體的美觀を眼目とし、模様花壇は廣場または芝生の中に矮性の花卉或は灌木類を植付けて種々の模様を描き平面的景觀を描出するものである。

一、叢花壇

〔境栽花壇〕建物の周圍または生垣塀などを背景として道路に沿ふて細長く設けるか、臺地の斜面などに設けられるもので通常幅一―五米、長さ適宜の長方形とし、植込み材料は一―二年生草花多



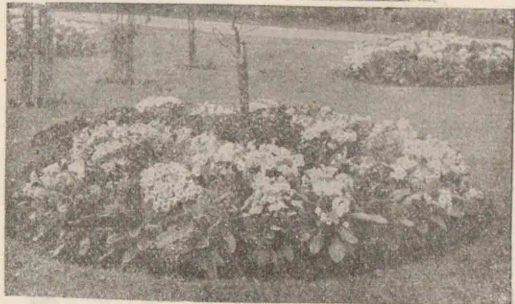
境栽花壇

毛氈花壇

毛氈花壇の植込みには
圖上の精密な模様をそ
のまま實際に表現する
ことは極めて困難なも
のであるから、これが
設計に當つては模様は
比較的大柄にしてなる
べく鋭角のない圖案を
作り、植込材料の花色
はなるべく強い反対色
調とし全體の統一をは
かることに注意すべき
である。

縁花壇

縁花壇の植込みは大體
毛氈花壇に準じてよい
が、毛氈花壇の如く上
方から俯瞰するもので
ないから、植込み材料
の草丈に就いては境
裁花壇に準じて選擇按
配するがよい。



寄植花壇

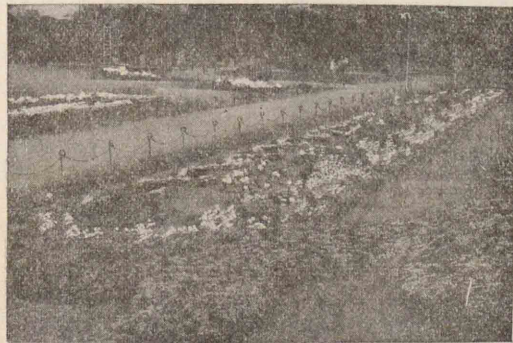
中或は廣場の中央などに設けられるもので、なる
べく丈けの低い草花を植付け、花の色彩の配合に
よつて縁の芝生中に美しい花毛氈を描出するも
のである。従つて植込材料はなるべく花色の鮮
麗なこと、矮性で枝梢が堅密に發育する草花、或は
鮮麗な觀葉植物を用ひ、なほ色彩を強調する爲に

二、模様花壇

〔毛氈花壇〕毛氈

花壇は俯瞰し得る
位置にある芝生の

年生草花花木類などが用ひられる。
〔寄植花壇〕盛花壇ともいひ、園内に獨立して一定
の形に設けられるもので、四方から眺められるやうに
中央には丈けの高い草花或は樹木を、周圍には丈けの
低いものを植付けるもので、植込み材料は五種以上用
ひぬがよい。



毛氈花壇

色彩の調子

一、單色調

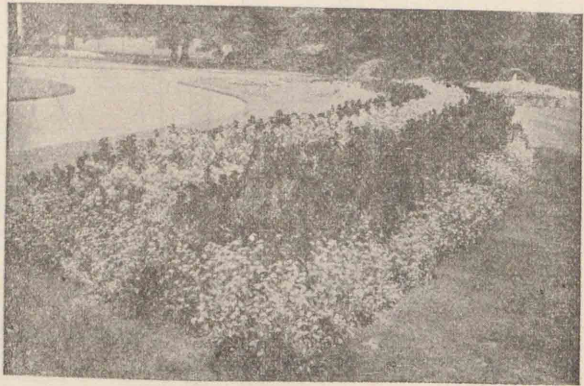
單一な色彩で濃淡の
異なるものを配合する
もので、例へば紅に
淡紅を配するが如き
ものである。

二、近似色調

或る一色とその色の
含まれた他の色を
配するもので例へば
赤或は黄に橙黄色を
配するが如きもので
ある。

三、反対色調

反対色の對照で例へ
ば赤に對する綠、青
に對する橙、黄に對
する紫等の如く色調
強烈なためはつきり
と浮き出てくるから
毛氈花壇などによ
い。



縁花壇

で肥沃な土壤がよい。

〔花壇の道路〕花壇内の道路は風致を主眼として美的
に設ける。而して道幅の廣狹道路の多少は花壇の面積に
よつて定むべきであるが、普通小花壇では主道は〇・六—

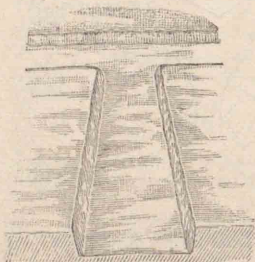
中心或は局部に矮性の灌木を植込むことがある

〔縁花壇〕建物生垣塀道路などの縁に帶狀また

は線狀に草花をその花色によつてリボンの如く
配植するもので、リボン花壇ともいひ、また他の花
壇と花壇とを連絡するに用ひられる場合もある。

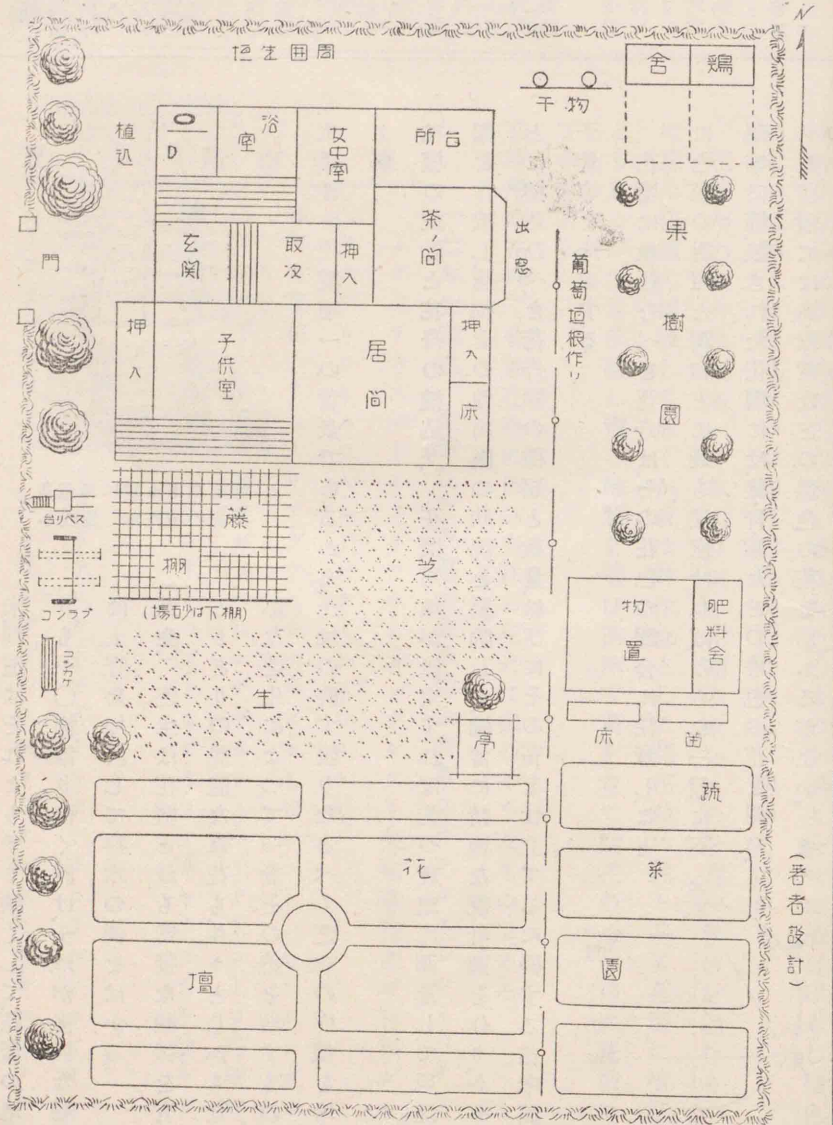
二、花壇の準備

〔花壇用地〕花壇はその設計の目的花壇用地の
廣狹周圍の狀態等によつて、その設計を異にすべ
きは勿論であるが、如何なる場合にもその用地は
南向きで日當りよく、かつ空氣の流通宜しき所を。
選び、土質は排水良好

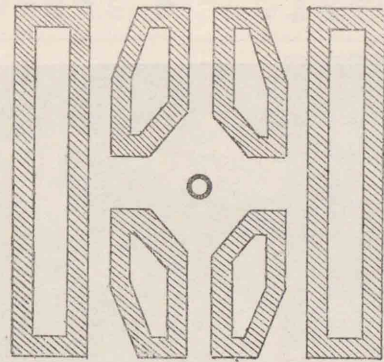


花壇の道路

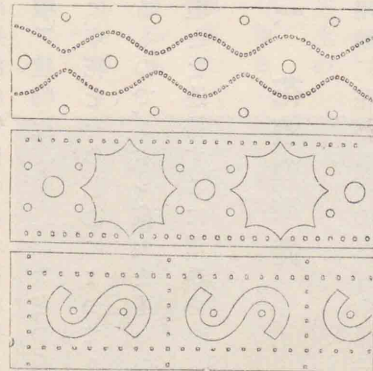
住宅と花壇の設計圖



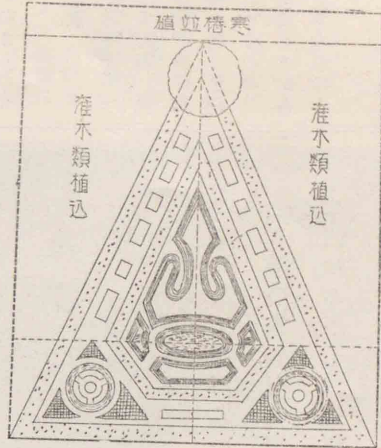
(著者設計)



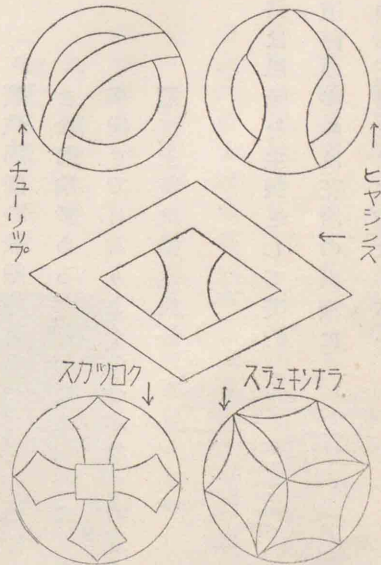
毛氈花壇設計圖



線花壇設計圖三種

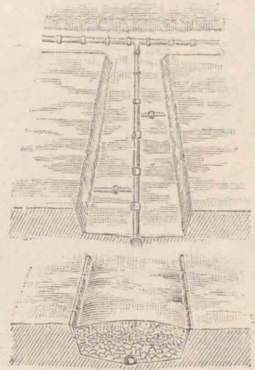


二方平米内外の毛氈花壇設計圖



球花壇設計圖五種

庭園
庭園とは梅園を施した一帯の地に植物裝飾またはその他の美的享樂を目的としていろいろの施設した場所をいひ、個人の庭と公衆の庭即ち公園とに分けられる。個人の庭園には住宅の庭や別荘の庭などがあり、公衆の庭園には公園、學校園、神社佛閣の庭や保養場、興行物その他の廣場や諸種の設備などがある。文化の低い時代には殆んど庭園の必要もなかつたが文化の進むに従つて保健衛生上からも庭園は必要の度を増してきた。

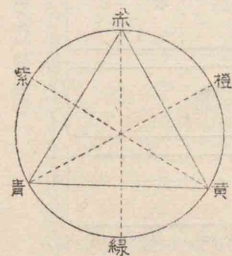


多濕地排水用土管の設置を
花壇の排水路とする

生は實に花壇唯一の背景であるから、土地の許す限りなるべく芝生の面積を増すがよい。

〔花壇の設計と花卉の植込み〕 花壇用地が決定すれば、先づ實地に測量して現況實測圖を作成し、建物その他周囲の状況を斟酌して、適當に精密な設計圖を作り、各季節ごとに植込むべき花卉の種類と數量、並びにその苗を仕立てるに要する苗床面積種子量等を決定する。

花壇に植込むべき花卉は、その花色の配合に注意し、ことに色彩の對照と調和とに最も注意せねばならぬ、一般に石礫等で舗裝された花壇には、綠、青紫などの冷色の花を用ひ、毛氈花壇には赤橙黄などの温色の花を用ふるがよい。ま



補色の對照

庭園の様式
庭園にはいろいろの様式があるが、大體東洋の庭と西洋の庭とに區別することが出来る。東洋の庭では日本式庭園が代表的であり、西洋の庭では伊太利、佛蘭西、英國の庭が代表的である。

日本式庭園と英國式庭園とは自然風様式で日本の庭には築山と平地を眞、行、草に區別するが大體立體式である、また伊太利式(ローマ式ともいふ)やフランス式の庭は幾何學的の様式で大體に於て平面的である。

庭園と住宅
凡そ家のある所にはたとへ面積に廣狹の差があつても必ずそこには庭があり、住宅と庭園とは離るべからざる密接の關係がある、然し庭園は住宅の附屬物

た花色は常に反對色補色の遠く離れた色のものを隣り合せて植付け、もし補色の近いものばかりな時は、その中間に白色の花を狭んで調和をはかる。花壇用の花卉はなるべく草丈が低く、花期の永いものを選び、移植を忌むものは特に豫め花壇に播種して置くか或は鉢仕立として開花前に鉢と共に花壇に植込むこともあるが通常移植し得る種類を選び、苗床で苗を育て、開花の少し前に花壇に植出すのである。

〔花壇用の花卉〕 普通花卉に用ひられる花卉は次のやうなものである。

春花壇用

夏

- 一二年生草花 金盞花 三色草 金魚草 姬金魚草 フロックス シレネ ベチユニア
- ミオソチス スギトア リツサム カンヂタフト 矢車草 花菱草 罌粟 ダイアン
- サスデルフイニウム ルーピナス シネラリア 等
- 多年生草花 アルメリア プリムラ ベリス マーガレット シヤスター デジーブ
- ラン スギク ケマン ソウゼラ ニウム デギタリス ヘリオトロープ 芍薬 等
- 球根植物 ヒヤシン スチューリツプ アネモネ ラナン キュラス 水仙 クロツカ
- ス・ムスカリー 等
- 一二年生草花 アゲラタム ナスター チユーム ボーチ ユラカ スカピオ サロベ
- リア アラセイトウ ニゲラ コレオプシス セロシ アコスモス サルビア ジニア

ではなく、何れが主でも従でもなく一體なすもので、庭園は單なる裝飾でなく實用をも兼ねた住宅の一部である。

果菜類

胡瓜や茄、西瓜、苺などのやうに果實を食用にするものを果菜類といひ、次の三種に大別する。概ね夏作とする。

- 蒴果類 胡瓜・南瓜・西瓜
- 茄果類 茄・蕃茄・蕃椒
- 莢實類 豌豆・菜豆・枝豆

用壇花

ヘリアンサス・バルサム・ルドベキア・マリゴールド等。
 多年生草花 バアーベナ・ヘリオトロープ・松葉菊・フロックス・ストツケシア・ス
 キートウイリアム・ゼラニウム・立葵・アキレア・花菖蒲・芙蓉等。
 球根植物 カンナ・グラジオラス・フリージア・モントブレツシヤ・ジンジャ・トリ
 トマ・アマリリス・グロキシニア・ダリア百合等。

用壇花秋

一二年生草花 翠菊・セロシヤ・天人菊・コスモス・ヘリアントリス・アゲラタム・千
 日草・孔雀草・白粉花・フロックス・ナスターチウム・金魚草・サルビア等。
 多年生草花 アルターナンセラ・菊・濱菊・桔梗・月見草・紫苑・ランタナ・芙蓉等。
 球根植物 アキメネス・ダリア・カンナ・グロキシニア・クロツカス・コルチクム・
 チュベロース等。

用壇花冬

多年生草花 アルメリア・寒菊・福壽草等。
 球根植物 ガランサス・コルチクム・クロツカス等。

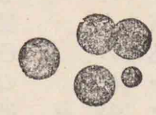
第九章 果菜類

一、胡瓜 (黃瓜・稜瓜)

蒴 蘆 科

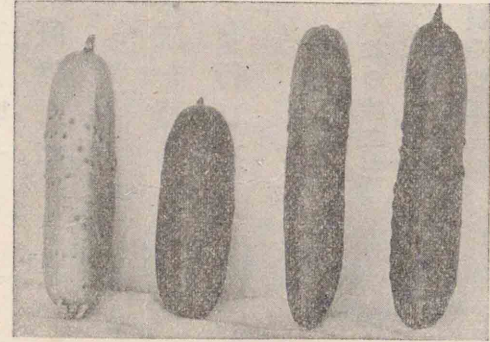
〔性状・用途〕 胡瓜は蔓性の草本で、莖は卷鬚によつて支柱に巻きついて成長し、雌雄異花である。果實は漬物

粉花の瓜胡



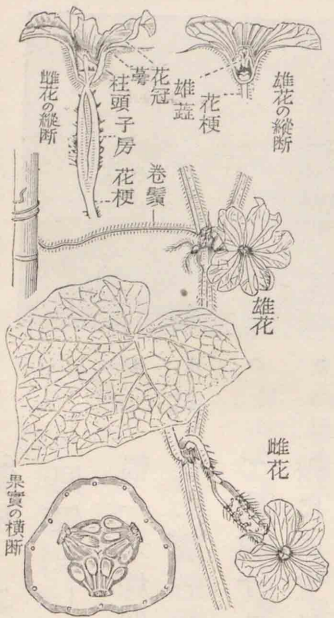
や三杯酢として廣く用ひられ、交品や汁の實・煮附にもされ、サラダ・スープ・肉詰その他の西洋料理にもよい。
 〔品種〕 胡瓜には節成種と大胡瓜とがある。節成胡瓜は早生で三四節目から雌花をつけて結果し、豊産で品質も上等である。早生三枚目節成馬込半白針ヶ谷節成・刈羽節成・金澤節成・尾張節成等はその變種で何れも優良である。大胡瓜は晩生で果實が大きく豊産で品質もよい。

胡瓜の品種



成節白純 瓜胡寸三無時 白半込馬 瓜胡成節

〔胡瓜の見分け方〕 果實は中等大で外皮鮮綠色で新しく、光澤がよつて果形の正しいのがよい。過大なものや黄色なのは過熟のもので味悪く、またまがつたものは水分や養分が不足したか病蟲害に犯されて草勢衰弱した際に生じ易く、一種のアルカロイドを含んでゐて苦味がある。苦味を除くには果實の兩端を切つてしばらく水の中につけて置けばよい。



〔氣候・土質〕 溫暖で乾燥な氣候を好み、適度に濕氣を含む肥沃な壤土または砂壤土に適す。

栽培要項

播種
 温床には二―三月、
 温度は二三度内外、
 直播は四月、一阿の
 種子量は〇・〇四立
 播種床〇・五平方米
 苗は二〇〇―三〇〇
 本を要する。

一阿の施肥量

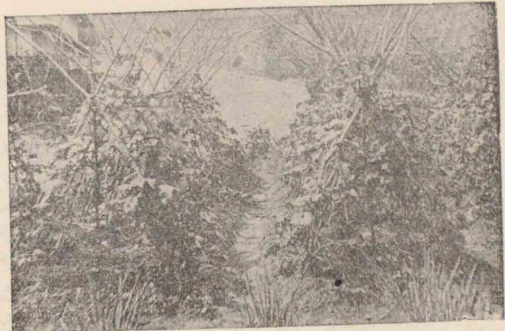
基肥
 堆肥 七五瓩
 油粕 三瓩
 過燐酸石灰 二瓩
 木灰 五瓩
 人糞尿 三八瓩
 補肥(二―四回)
 人糞尿 一〇〇瓩

收穫期

五月中旬―八月
 收量(一阿)
 三〇〇―四五〇瓩

抑制栽培

七―八月頃茶樹または
 粟・黍・玉蜀黍の間作と
 して播種し旬作りとす
 る。九―一〇月に收穫
 出来る、收量は普通栽
 培の約半数である。



胡瓜の栽培

柱をたてて蔓を纏絡させる。

節成胡瓜は摘心の必要もないが大胡瓜は本葉五六枚の時二三
 葉を残して先端を摘み去り、子蔓はさらに三四葉生じた頃に二枚
 を残して摘心し、多数の孫蔓を發生させ、孫蔓も結果後その二三節
 先の所で摘心する。

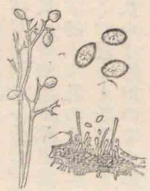
〔栽培〕 二三月頃温床に播種し、苗は二三
 回假植して丈夫に育て、五月頃本圃に畦
 幅一米、株間三五、四五粒づ
 つに基肥を施し、鞍築をし
 て定植するか、四五月頃一
 鞍に四五粒づつ直播して
 發芽後間引する。
 補肥には人糞尿を薄め
 て施し、中耕除草を行ひ、支



築鞍と壤土で施肥を肥堆り堀を穴のり餘種〇二に共幅さ深るげ上り盛に形コホマカを上げまきかくよと料肥

〔觀察〕

一、胡瓜の卷鬚は左卷
 さか右卷さかを觀察し
 ない。
 (胡瓜の卷鬚は莖の變
 化したもので豌豆の卷
 鬚は先端の數個の小葉
 が變化したものです)
 二、胡瓜の雌花と雄花
 とを比べてその構造を
 比較してみない。
 三、胡瓜の病葉をとつ
 て顕微鏡でその胞子を
 御覽なさい、次の圖の
 右下は炭疽病菌の胞子
 堆、左は露菌病菌の擔
 子梗で右上はその先端
 にある胞子を更に大き
 くしたものです。



南瓜には在來種と西洋
 種とがあり、西洋種
 中には食用にされるも
 のの外に家畜の飼料や



単人瓜

二、南瓜

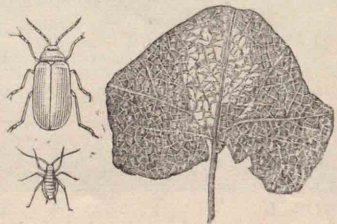
(きんぼうすなん)

葫蘆科

〔性状用途〕 南瓜も蔓性で雌雄異花である。果實は柔軟で甘味多
 く煮食蒸食用にされ、よく成熟したものは永く貯藏される。また
 小形で形や色彩の變つたものは観賞用とする。

肥料は植付または播種(直播)の一―二週間前に基肥を施し
 て鞍築を行ひ補肥には人糞尿を稀釋して三四回施し、な
 ほ夏季乾燥を防ぐために敷草を敷き、屢々灌水する。
〔病虫害〕 瓜類露菌病、瓜類炭疽病、瓜守種子蠅、蚜蟲等。
〔附〕 單人瓜 葫蘆科

瓜類の害病と虫害



瓜守

蚜蟲

葉たれさ犯に病菌露

蔓は五六米以上も伸びるから
 日除けを兼ねて棚作りとする
 によい。暖地では宿根するが、普通は果實を鉢植して温床
 に埋め、苗二〇粒位に伸びたならば基肥を充分に施して植
 付け棚を設けて蔓を誘引する。

觀賞用にする形の變つたものや色彩の美しいものもある。

南瓜にはビタミンAのやや多量と同B及びCの微量を含む。南瓜は腎臓病や糖尿病及び婦人の乳の分泌をよく、種子を粉末にして飲めば腸内の寄生蟲を驅除する。

南瓜の見分け方

黒皮南瓜は外皮に青味少く黒味が強くて光澤に富み、皮の赤いものは果面に白粉があつて、かつ何れも大きき割合に重量の重いものは充實してゐて美味である。

栽培要項

播種 温床には三月、温度は二〇度内外、一阿の苗数は四〇―九〇本で種子〇・〇五立播種床〇・七平方米を要する。
施肥(鞍築の際) 施肥量(一阿) 六〇砵

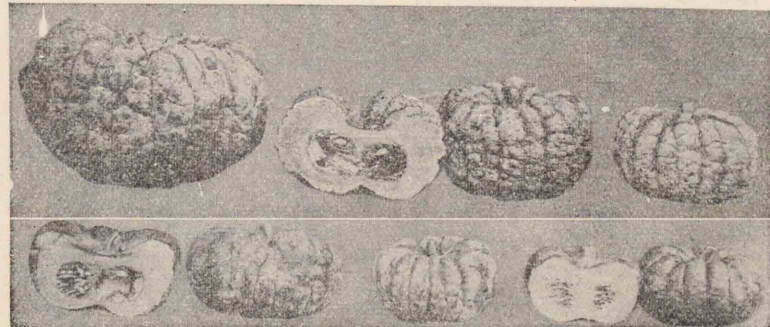
品	種	形	状	小大	溝縱	皺縮	色澤	品質	熟期	量收
早生小南瓜	扁圓形稍高	扁圓形稍高	中深	無	赤	中	極早	中	中	
縮緬居留木橋	扁圓形稍高	扁圓形稍高	中深	無	赤	極上	中	中	中	
菊座内藤	扁圓形	扁圓形	中深	多	赤	上等	早	多	中	
鹿ヶ谷(西京)	瓢形	瓢形	大浅	多	赤	上等	晚	中	多	
ハツバード(マサカリ南瓜)	短紡錘形	短紡錘形	大	微	黒	上等	晚	中	多	
德里ツシヤス(カステラ南瓜)	短紡錘形	短紡錘形	中	微	赤	上等	中	中	多	

〔氣候土質〕

乾燥で溫暖な氣候を好み、土質は排水のよい壤土、砂壤土に適する。

〔栽培〕

三月上中旬頃温床に播種し、苗は一二回假植してから定植する。直播は四月中旬頃、豫め鞍築した所に一鞍四五粒づつ播種し、發芽後間引して最後に一鞍一本とする。



南瓜の品種

座菊 座菊生早 瓜南小生早(らか右段下) 縮緬大 縮緬 縮緬生早(らか右段上)

油粕 四五砵

過燐酸石灰 四砵

木灰 四砵

人糞尿 三八砵

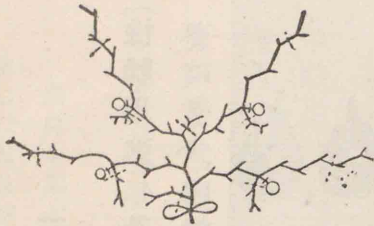
補肥(二―三圓) 六〇砵

收穫期 六月―九月上旬

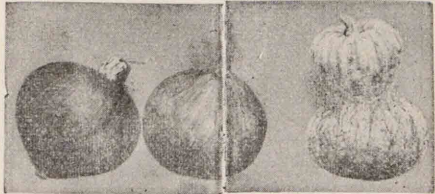
收量(一阿) 二二〇―三五〇砵

〔實驗〕

一、南瓜の雄花をとつてその花粉を雌花の先端につけて人工媒助しなさい。南瓜の落果するの降雨が多くて昆虫が花粉を媒助しなかつたり草勢の強すぎる時に多いから、人工媒助すれば確實でかつ果實が充實するから味もよい。
二、草勢の強過ぎるものは小刀で莖に縦に少しく切れ目を入れるか根を少し切つてみると勢力が抑制される。
三、果實の上下を反轉すれば味がよい。



法心摘の瓜南



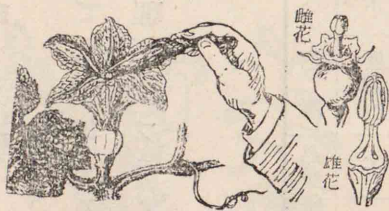
スヤシツリテ 谷ヶ鹿

本圃はよく整地した後、畦幅一・五二米、株間一・五米ごとに鞍築し、苗活着後直ちに補肥を與へ、中耕除草して敷藁を敷く。

南瓜は親蔓には第一の雌花が一七―一八節目に着くが子蔓では五六節目につき、爾後三節目ごとに着生するから本葉五六枚の時に先端を摘心して四五本の子蔓を發生させ、最下部の子蔓は勢力微弱であるからこれを摘除して三本または四本の子蔓を伸長させ、雌花着生後人工媒助を行つて果實が拳大になつて結果確實となれば、その二三節先きで摘心し、なほ結果部から生ずる腋枝即ち孫蔓を摘除する。

南瓜は落花後二〇―三〇日位で收穫される。

〔病蟲害〕 瓜類露菌病、瓜類炭疽病、瓜守蚜蟲等。

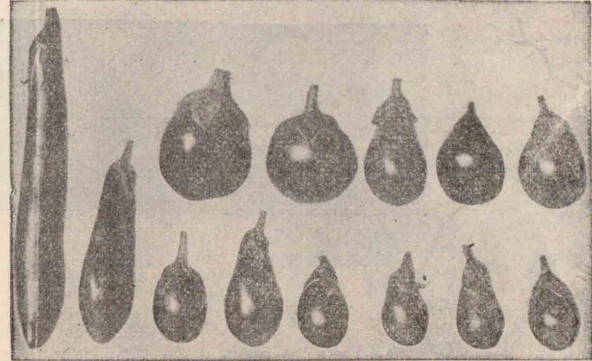


助媒工人の瓜南

茄も胡瓜と共に最も普通な夏蔬菜で、六月から一月まで出廻り冬から春にかけては促成品が出荷される、茄には微量のビタミンCを含んである、茄の葉を乾燥或は鹽漬にして貯へたものを澤庵漬込の際に混すれば澤庵の甘味を増して味をよくする。

茄の見分け方

圓形の茄は外皮が薄くて黒紫色を呈し光澤の強いものが上等で、長茄はやや赤味を帯びてゐるが光澤の強いものがよい、何れも果面を押して弾力があつて光澤に富むものは新鮮なもので、光澤のない果皮の厚いものは種子も多く肉が硬い。



茄着巾・茄山生晚・茄山生中・黒眞生中 (らか右段上)
茄川芹大
黒眞生早・茄丸生早・茄山挑・成千細蔓生早 (らか右段下)
茄長多博・茄長原土佐・茄笠衣・茄原矢

〔性状用途〕

茄の莖は小灌木状をなし、熱帯地方では越年する。果實は煮食・鳴焼・焼茄漬物などに賞用され、西洋料理ではフライ・肉詰

めなどによい。

品種	形状	大小	色澤	品質	熟期	収量
早生蔓細千成	長卵圓	小	黒紫色	上	早	多
眞黒	卵圓形	中	黒紫色	上	早	多
中生山茄	長卵圓	中	黒紫色	上	早	多
晚生山茄	卵圓形	中	黒紫色	上	中	多
晚生丸茄	圓形	中	黒紫色	上	中	多
佐土原長茄	長圓形	大	黒紫色	稍上	中	多
博多長茄	長圓形	大	黒紫色	上	晚	多

栽培要項

播種。温床の温度は二五度内外、播種期二月三月、一阿に要する苗一五〇―二〇〇本、種子量〇・〇二立播種床〇・三平方米。

肥料(一阿)
基肥
堆肥 一〇〇疋
油粕 六疋
米糠 二疋
過磷酸石灰 四疋
木灰 一〇疋
人糞尿 二〇疋
補肥(四―五回)
人糞尿 一八〇疋

收穫期
六月から結霜期まで
収量(一阿)
三〇〇―五〇〇疋

〔實驗〕
一、茄の花の開く前に雄蕊をピンセットで除去し、パテフィンの袋をかけて雌蕊の成熟した頃に他の品種の花粉を交配して一代雜種を



立仕又三の茄

〔氣候土質〕

茄は高温で乾燥な氣候を好むが、乾燥し過ぎると發育劣り収量も少ない、土質は適度の濕氣を含み肥沃な壤土・砂壤土・堆積土等に適する。

〔栽培〕

二三月頃温床に播種し、二三次假植した後、本葉五六枚生じてから本圃に定植する。

茄は連作を忌むから、數年間同一の畑に栽培せぬやうにし、畦幅一米、株間六〇糎内外に植付け、三四回補肥及び中耕除草を行ひ、また敷草・支柱などを與へ、夏季乾燥甚しい時は屢灌水する。

茄は本葉七八枚の頃花蕾を生ずるから、その花蕾を生じた枝及びその下の二本の側枝を残し、他の腋枝を

害病の茄蕃・茄



病枯青 病枯立

作つてみなさい、茄の一代種は他のものに比して収量が三―五割多いから毎年交配して採種するがよい。
二、皮の葉の表皮を顕微鏡で御覧なさい、星形細胞が見えます。



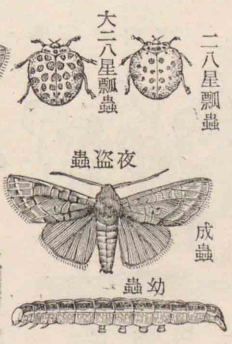
トマトは我が國へは明治初年に輸入され蔬菜としては新しいものであるが、生果にはビタミンA及びBをやや多量に含み、同Cを極めて多量に含み、かつ消化を助ける效があるから胃弱者には特によく、近年その需要が激増した。
トマトの見分け方
果皮が薄くて色澤が鮮かに光澤の強いものがよい、萼の緑色があせて萎れたものは新鮮でないから味も劣る、また極めて小形のもの

は一般に風味に乏しく餘り大き過ぎるものも生食用には宜しくな

栽培要項
播種、茄と同様である
肥料(一畝)
基肥
堆肥 一〇〇疋
油粕 四疋
米糠 二疋
過磷酸石灰 四疋
木灰 一〇疋
人糞尿 三〇疋
補肥(三―四回)
人糞尿 一〇〇疋
收穫期
六―九月
収量(一畝)
二五〇―五〇〇疋

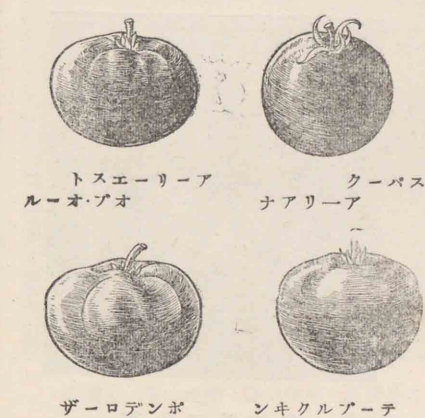
抑制栽培は六月上旬播種して一回假植を行ひ八月定植して九―一〇月頃收穫する。
トマトや茄は連作を忌むから数年間は同一の畑に栽培してはならぬ、また苗を植付ける時に根元に木灰を少し施すと成績がよい。

茄・蕃茄の害虫



しまだしむうたんて 大ニ星瓢蟲 二ニ星瓢蟲 夜盜蟲 成蟲 幼蟲

四、蕃茄 (あかなす) 茄科



蕃茄の莖は稍蔓性に近くこれに觸れると特臭を放つ。果實は赤色黄色などを呈して美しく、柔軟多汁で生食に適し、サラダ・スープ・肉詰その他の料理並びにソースケチャツ



被雪状況 成蟲 幼蟲

品名	種類	形状	大小	褶皺	色澤	品質	熟期	収量
スバーク・アリアナ	短楕圓	中	中等	朱赤色	中	早	中	
ア―リーエスト	扁圓形	中	殆ど無	朱赤色	中	中	多	
オプ・オール	扁圓形	大	殆ど無	紅	極上	晚	多	
ア	扁圓形	中	中等	紅	上	晚	中	
クリムソンカッション	稍、圓形	中	中等	紅	極上	晚	多	
ティーブルクキン	扁圓形	中	無	紅	上	晚	多	
ボンデローザ	扁圓形	甚大	稍、深	朱赤色	中	晚	多	
ミカド	扁圓形	大	無	紅	上	晚	中	

〔栽培〕 二三月頃茄と同じく温床に播種し、二回假植した苗を、五月上旬頃本圃に畦幅一米株間六〇糎内外に定植し、支柱をたてて主枝を誘引する。普通一本仕立または二本仕立とし葉腋から發生する側枝を悉く除去し、なほ重複する葉は先端三分の一程摘み去り、



摘芽したもの 摘芽せぬもの

プ漬物などに用ひられる。
〔氣候・土質〕 乾燥・温暖な氣候を好み、土質は排水よき砂壤土・壤土等に適する。

〔觀察〕
一、トマトの側枝を悉く摘除したものと少しも摘除せぬものとの収量を調査してみなさい
二、トマトの摘葉したものとは摘葉せぬものに比し幾日早く成熟するか観察してみなさい
豌豆 豌豆は二三%の蛋白質と四六%の炭水化物を含み、かつやや多量のビタミンA及びBと少量の同Cを含む。

豌豆の見分け方
莢豌豆は莢が柔かた品種固有の色澤を具へたつ色澤鮮かた光澤のあるものがよく、實豌豆は子實豊満でよく充實し固有の色澤を有して蟲害その他損傷のないものが上等である。

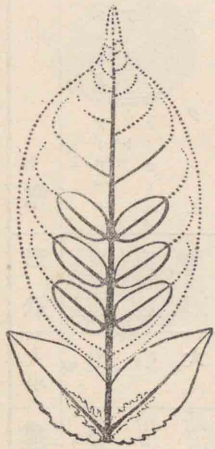
日光の透射をよくして果實の成熟を促進する。補肥及び中耕除草は二三回行ひ、夏季根元に敷草を敷いて乾燥を防ぐ。

五、豌豆

豆科

〔性状用途〕 豌豆には蔓性種と矮性種とがある、莢の柔かなものは豌豆として煮食に供せられ、莢の硬いものは實豌豆として煮食または罐詰菓子などをつくる。

豌豆の複葉(實線)と單葉(點線)の關係を示す



〔品種〕 赤花豌豆には蔓性と矮性の二種があり、絹莢豌豆、白花莢豌豆、佛國赤花大莢米國白花大莢などは蔓性豊産の良種である。またアラスカは蔓性の硬莢種でグリーン、ビー罐詰製造に賞用される。



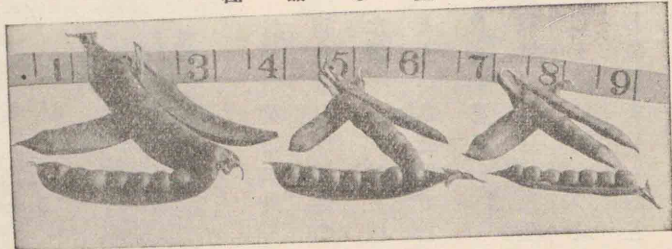
(右)一本仕立 (左)二本仕立

蕃茄の整枝法

栽培要項
播種。一〇月、寒地は四月、一阿の播種量〇二—〇三立。
肥料(一阿)
基肥 過燐酸石灰 四疋
木灰 一〇疋
補肥 人糞尿 三〇疋
收穫期 秋播 三—五月
春播 七—八月
收量(一阿)
莢用は三〇〇—四〇〇疋、子實用は四〇〇立内外

〔實驗〕
一、豌豆の根に共棲する根瘤菌をみなさい、豆科植物にはそれぞれ根瘤菌が共棲して空氣中の游離窒素を固定するから栽培上特に窒素肥料を施す要がない。
二、發芽しやうとする豌豆の種子を魔法瓶に入れ、その中へ寒暖計を挿入して數時間後に

豌豆の品種

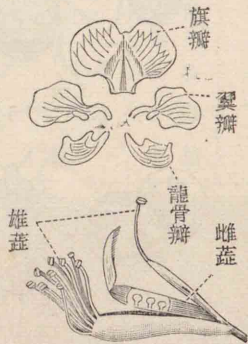


豆豌豆花赤 豆豌豆莢絹 莢絹生早極

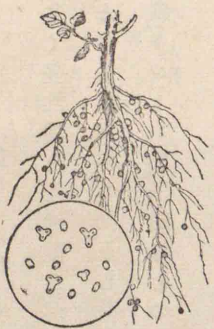
〔氣候・土質〕 冷涼

な氣候を好み、耐寒力強く炎暑を忌む。土質は適度の濕氣ある壤土に適し、酸性を忌む。

〔栽培〕 數年間は連作を避け、暖地では一〇月寒地では四月播種する。蔓性種は畦幅一米、株間四〇糎、矮性種は畦幅六〇糎、株間三〇糎内外に、一箇所に二、三粒づつ摘播し、發芽後中耕除草を行ひ、蔓性



蕊と瓣花の豆豌豆

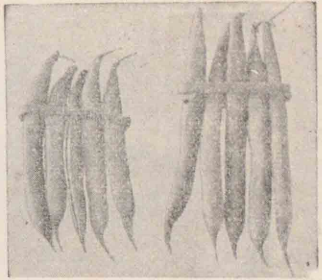
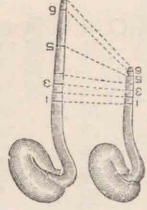


豌豆の根瘤と根瘤菌

みなさい、温度が気温よりも二度位高くなり、これは呼吸作用によつて攝つた酸素で体内の物質を酸化して生活力と熱とを発生するためです。



三、菜豆の幼根の三位置伸びたものをとり、これに墨で等分線を附して蒸つた所に置き一晝夜の後これを見なさい、根の先端の部分が最も伸びてゐるでせう、これは根の成長點がその先端にあつて成長するのは成長點の形成層の細胞が分裂することを示すものです。



時金鶏長

こがねむし類等。

〔附〕菜豆(隠元)

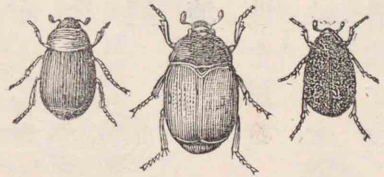
豆科

〔性状用途〕菜豆も豌豆と同じく蔓性種と矮性種とがある。莢の柔いものは莢菜豆として煮食和へ物とし、莢の硬いものは實菜豆として煮食・キントン・菓子餡等をつくる。

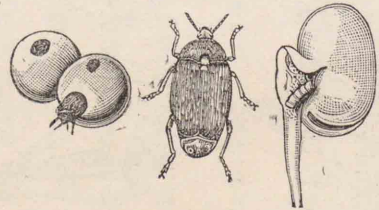
〔品種〕鈴成菜豆、オールドホーム、ステッド、丸鶏などは蔓性種で莢用に良く、長鶏、促成黒菜豆名古屋などは矮性の優良種である。また實菜豆には札幌菜豆、多福、十六寸ともいひ蔓性である、更紗矮性などの良種がある。

〔栽培〕菜豆は寒暖何れの氣候にも適し、土質は排水の良好な砂壤土、壤土などに適する。四五月または七八月播種して發芽後は二三回中耕、除草を行ひ蔓性種には支柱を與へて纏絡させる。

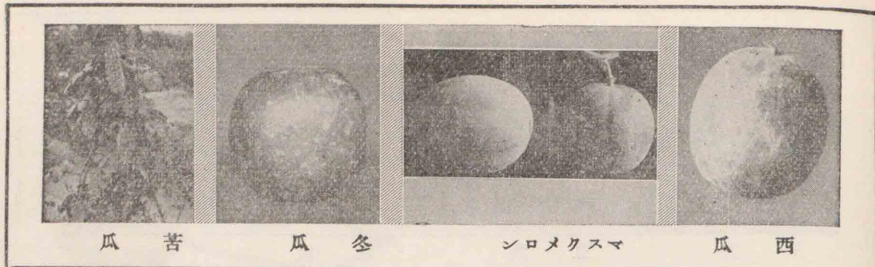
豆類の害虫



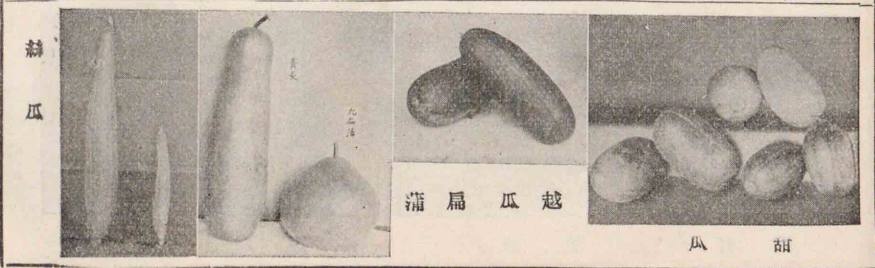
ねがこめま、ねがこどうろび、ねがこめひ

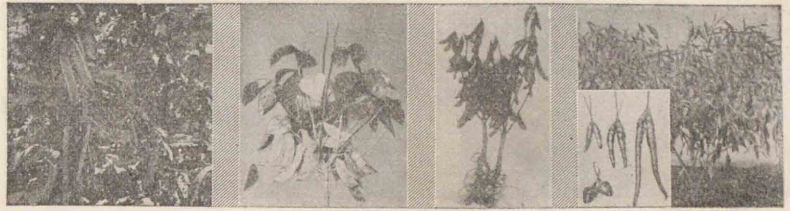


種幼子種、加害状況、豆象虫、加害状況



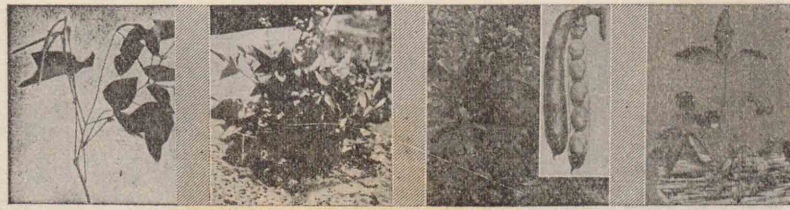
種類	西 ^ス 瓜 ^カ	甜 ^ア 瓜 ^カ	越 ^ト 瓜 ^カ	冬 ^フ 瓜 ^カ	扁 ^ヒ 蒲 ^ク	苦 ^ク 瓜 ^カ	絲 ^シ 瓜 ^カ
氣候	乾燥・高温	乾燥・高温	温暖	高温を好む	高温を好む	温暖	温暖・乾燥
播種期	四一五月	四一五月	四一五月	三月床播、五月定植	三月床播、五月定植	三月床播、五月定植	三四月床播直植
畦幅	二二・二五米	一一・一二米	一一・一二米	一一・一五米	三三・四四米	五〇・一〇〇米	三三・四四米
中耕除草	二回	二回	二回	二回	二回	二回	二回
收穫期	七・八・九月	七・八・九月	七・八・九月	三・四・九月	三・四・九月	五・九・十月	一・五・八月





豆 刀 豆 莢 豆 枝 椒 蕃

豆 刀	豆 莢	豆 枝	豆 椒	豆 蕃	豆 莢	豆 枝	豆 椒
豆	豆	豆	豆	豆	豆	豆	豆
科一。豆	科一。豆	科一。豆	科一。豆	科一。豆	科一。豆	科一。豆	科一。豆
砂温 壤土暖	砂温 壤土暖	砂温 壤土暖	砂冷 壤土凉	填温 壤土暖	填温 壤土暖	填温 壤土暖	填温 壤土暖
〇四 一五 一立	一四 一上 二旬 立床 播	〇六 一立	四一 五立	一〇 一五 下立 旬	一三 一四 立月	五秋 四春 〇植 本付	〇三 〇二 立月 床播 五月 定植
三〇 一四 〇米 〇粒	三一 〇一 四〇 粒	性矮 三六 〇〇 粒	性蔓 三一 四〇 〇米 粒	二六 五〇 一七 〇〇 粒	六〇 〇播 粒	三六 〇〇 粒	三六 〇〇 粒
一二 回回	一二 回回	一 回	二 回	一二 回回	一二 回回	二二 回回	二二 回回
莢七 一〇 〇月 〇粒	莢七 一〇 〇月 〇粒	莢六 一〇 〇月 〇粒	子七 一八 一五 立月	莢五 一〇 〇月 〇粒	莢六 一〇 〇月 〇粒	莢五 一〇 〇月 〇粒	莢六 一〇 〇月 〇粒



豆 莢 豆 莢 豆 枝 椒 蕃

老 養 種 品 の 種 類 出 の 日



壽 福 翁 奈 福 紫 大

(著者原圖)

櫻桃は蔷薇科の落葉果樹で、もと亞細亞の原産であるが歐米で改良され、我が國へは明治七八年頃輸入され現今東北地方・北海道等に多く栽培されてゐる。櫻桃には
 甘果櫻桃
 酸果櫻桃
 の二種あるが酸果櫻桃は甘味少なく酸味が多いため殆んど栽培されてゐない。
 櫻桃は東北地方、北海道等では極めて有望であるが、暖地では實用栽培には適當でない。

櫻桃の見分け方

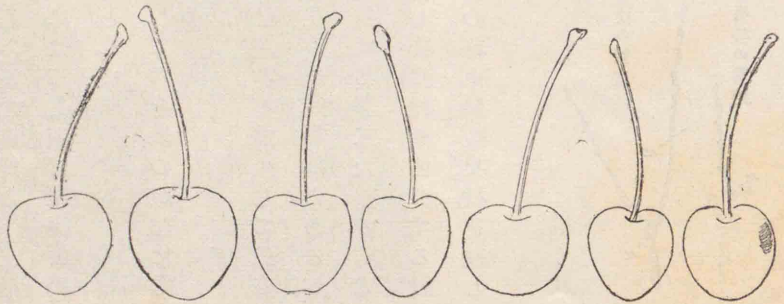
形状がよく整つて大きさは大小不同なく、色鮮かで光澤に富むものがよい。色澤の悪いものは新鮮でなく味も劣る。一般に早生種は果實も小さく甘味に乏しいが晩生種は大きくて品質も上等なのがよい。

第一〇章 初夏の果物

一、櫻桃 蔷薇科

櫻桃は大體我が國の櫻に似てゐるが、果實大きく風味高尚で、ことに五六月頃他の果實に先だつて生産されるから歓迎される。主として生食用とするが罐詰調理醸造用にもよい。

品名	種類	成熟期	果形	形大小	果皮の色	品質	収量
日の出	出	五月下旬	心臟形	中	鮮紅色	中等	中
チャップマン	マン	六月上旬	心臟形	中	紫黒色	上等	多
黄玉	玉	六月上旬	短心臟形	大	黄赤色	上等	多
養老	老	六月中旬	心臟形	大	黄赤色	上等	多
大紫	紫	六月中旬	心臟形	大	黒紫色	上等	多
奈翁	翁	六月下旬	心臟形	大	黄赤色	上等	多
福壽	壽	六月中旬	心臟形	大	黄赤色	上等	多



日の出 出の 日 玉 黄 養 老 大 紫 奈 翁 福 壽

櫻桃の施肥標準量

(一阿四本植)

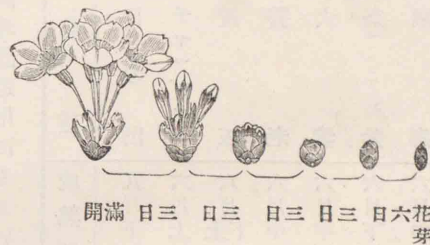
樹齡	窒素	磷酸加里
三年	〇・一八	〇・三〇
四年	〇・三〇	〇・三〇
五年	〇・三七	〇・四五
六年	〇・四五	〇・五六
七年	〇・五六	〇・六七
八年	〇・六七	〇・六七
九年	〇・六七	〇・七五
十年	〇・七五	〇・七五
十一年	〇・八六	〇・八六
十二年	〇・八六	〇・八八
十三年	〇・九三	〇・九三
十四年	一・〇五	一・〇五
十五年	一・二	一・二

施肥量例

(九年生一阿四本植)
 堆肥 五八疋
 大豆粕 三八疋
 骨粉 三八疋
 木灰 九〇疋

結果期
 櫻桃は接木後四―五年で結果し初め、最盛期は一〇―二〇年内外である。

花開の桃櫻



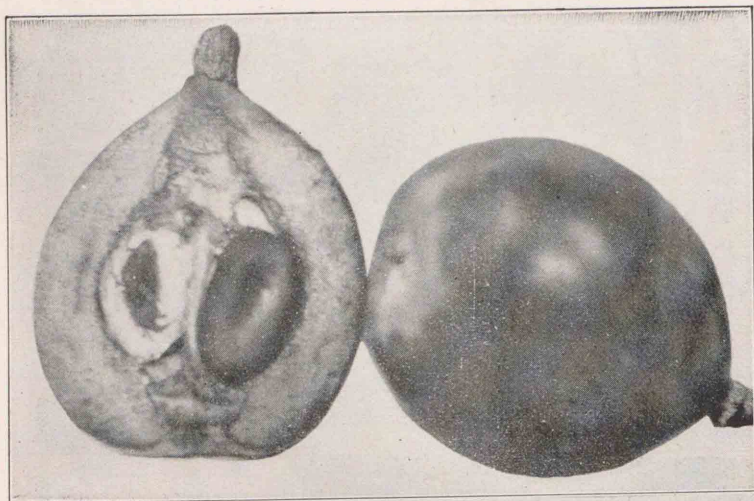
〔栽培〕櫻桃は乾燥冷涼な氣候を好み排水良好な壤土砂壤土などに適する。これを繁殖するには三月頃青葉櫻・山櫻・マハレイブ・マザード櫻桃などを砧木として切接する。苗木は根及び幹を適當に剪定して、六七米の距離に植付け、中幹自然形に整枝する。櫻桃は本年伸長した枝の葉腋に花芽を着生して翌春開花するもので、結果枝には長果枝と花束狀短果枝とあるが長果枝には結果の歩合が少い。發育枝は冬季五六芽で剪定して基部に花束狀短果枝の發生を促し、徒長枝や密生する枝は基部から剪定し、また結果枝は數個の花束狀短果枝を残してその直上で剪定する。肥料は三四月頃に基肥を、七月頃に補肥を施し、なほ春季から夏季にかけて二三回中耕除草する。果實は成熟したら果梗をつけて摘みとる。

〔病蟲害〕櫻桃穿孔病、褐色腐敗病、天狗巢病、櫻桃葉蜂、實蠅、小透羽介殼蟲、蚜蟲等。

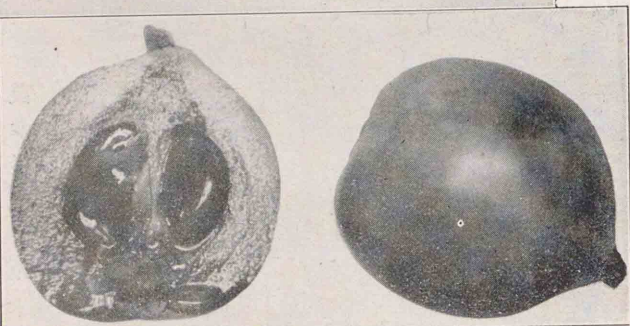


定剪の桃櫻

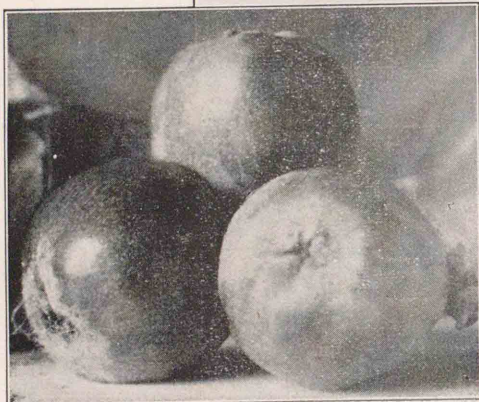
種品の杷枇



田中杷枇(實物大)

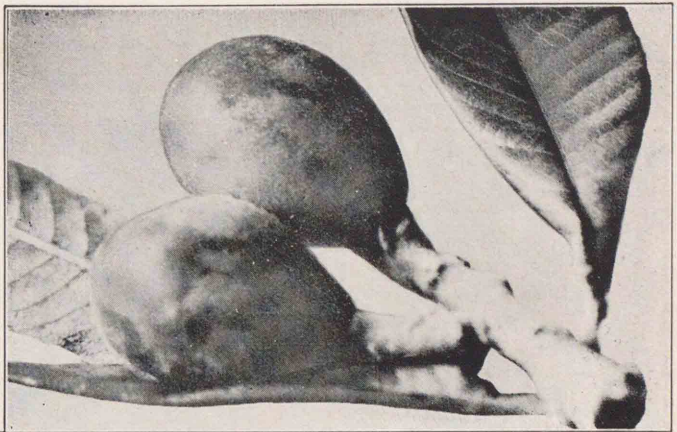


楠杷枇(實物大)



土肥杷枇(實物大)

枇 杷 木 茂



茂木枇杷(二分一)



茂木枇杷の原木
(長崎縣西彼杵郡茂木町北浦名)

二、枇 杷

枇杷は櫻桃と共に初夏の候他に新鮮な果實のない時に生産され果實は甘味多漿で美味であるから生食用として歓迎され、また罐詰ヂャムゼリ(羊羹)枇杷酒などの加工用にも供せられる。

品 種	熟 期	形 大 小	果 形	皮 肉	質 品	質 收 量
茂木枇杷	六月上中旬	長卵形	甚大	橙赤色	橙黄色	極上等
田中枇杷	六月中下旬	倒卵形	甚大	橙黄色	黄色	上等
楠 枇 杷	六月上中旬	稍圓形	大	橙黄色	橙黄色	上等
土肥枇杷	六月中下旬	圓形	大	黄白色	黄色	上等

〔栽培〕 枇杷は温暖な氣候を好み排水良好な礫質の壤土または埴土に適す。

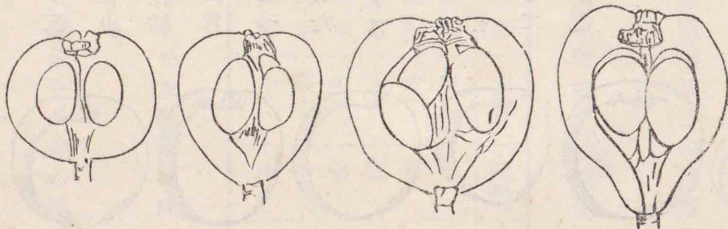
三月頃實生の共砧に切接を行ひ、苗木は二三年間苗圃で育てた後、五六米の距離に植付け、短幹或は中幹自然形

枇杷は中華民國南部の原産で我が國へは千餘年前に輸入されて栽培されたが、これ等は在來種といひ果實小さく品質劣等であるが、我が國で改良されたものは果實大きく品質上等なため現在では在來種は殆んど跡を絶つに至つた。

枇杷の見分け方
果實大きく形整つて外皮橙黄色で光澤に富み、色澤は赤味の強いもの程甘味が多くて上等である。黄色のものは酸味強くて甘味乏しくまた外皮に黒色の傷あるものや斑點のあるものは劣等品である。

施肥標準量
(一)阿六本植

樹齡 窒素 磷酸 加里
二年 〇・二八 〇・二八
三年 〇・四五 〇・四五
四年 〇・六〇 〇・六〇
五年 〇・七五 〇・七五
六年 〇・九三 〇・九三
七年 一・二一 一・三五



1/2 肥 土 1/2 楠 1/2 中 田 1/2 木 茂

八年 一三一 一五七
三年 一五〇 一八〇

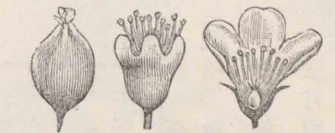
施肥量例
(一〇年生一阿五本)
長崎縣茂木町の例

堆肥 二〇〇担
油粕 一二担
下肥 二〇〇担

結果期
枇杷は接木後四―五年目から結果を始め最盛期は一五―三〇年位である。温梓砧に接木したものは一―二年早く結果するが樹齡が短い。

〔實験〕
枇杷半葉の作り方
枇杷を剥皮して種子を除き果汁を搾つて麻袋で濾し、次の割合に鍋で煮沸した後重箱その他の器に入れてさまし適宜の大きに切る。

果汁 一立
寒天 三本
砂糖 一匙
晒箱 〇六匙



枇杷の果實發育順序

に整枝する。

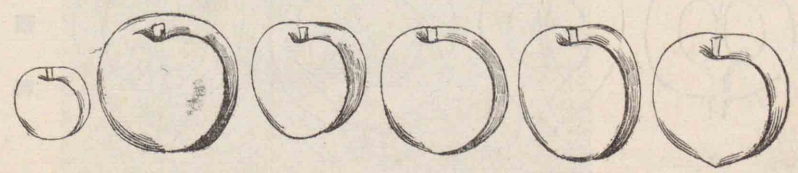
枇杷は前年生の枝の頂芽及びこれにつぐ二三の腋芽が伸長して充實すれば結果枝となり、その頂に花序をつけて一―二月頃に開花結實するもので、下部の腋芽の伸びたものは發育枝となり、發育枝の充實したものは種枝となつて翌年結果枝を發生する。剪定は三月または果實採收後に冗枝や徒長枝を適宜間截することを主とし、發育枝の短截は努めて避けることとする。

摘果は三四月頃に一二回行ひ、一房に三四顆残して袋掛けを行ふ。中耕除草は春夏の候に二三回行ひ、六月頃敷草を施して早害を防ぐ。肥料は九月に基肥を、開花前と春の彼岸頃に補肥を施す。

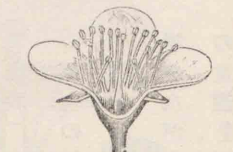
〔病蟲害〕紫紋羽病・白紋羽病・炭疽病・斑點病。象鼻蟲・天牛等。

三、梅

營養科



梅小 後豐 軸青 州林 賀加白 老養



梅の花

梅は早春萬花に先だつて開花するから花の兄といはれる。花は美しくかつ清香を放つから庭木として花を賞した後果實を收むるにもよい。果實は多く梅干にされるが砂糖漬梅酒その他菓子用など主として加工用とする。

〔栽培〕梅は溫和な氣候を好み、排水良好な壤土・堆肥土・砂壤土に適す。

梅は我が國の原産で古來各地方で栽培されてある。花は紅・淡紅または白色で單瓣と重瓣とあつて美しく觀賞と採果とを兼ねて宅地などに栽培するにもよい。梅干は重要な副食物でまた種々の藥效を有する。

梅の見分け方
品種によつて果實の大きさは種々あるが梅干用としては大形のものよりは寧ろ中或は小形のものが多い。何れも果實豐圓で外皮青綠色を呈して暗褐色の斑點少く光澤に富むものがよい。未熟なものは青酸を含むから有毒で過熱のものや外皮損傷したもの等は品質劣りかつ長く貯藏出來ない。シヤム製造用のものは外皮黄色となり充分成熟したものが良いがその他のものは寧ろやや早目に採收して青々と美しいのがよい。

品	種	花	果形	大小	植勢	收量
養老	淡紅・單瓣	圓形	中	強	多	
白加	白色・單瓣	圓形	大	強	多	
林州	淡紅・重瓣	圓形	大	強	多	
青軸	綠白・單瓣	圓形	中	強	多	
豐後	淡紅・重瓣	圓形	甚大	中	中	
小梅	白色・單瓣	圓形	小	中	中	

二三月頃實生共砧或は野梅に切接を行ひ、苗木は六七米の距離に植付け、中幹自然形または準盃狀形に整枝する。梅は本年生の枝に花芽をつけるもので長果枝及び短果枝を生ずる。發育の強い枝は花芽をつけぬから冬季六七芽で剪定し、また結果枝は一〇種内外で剪りちぢめ徒長枝密生枝枯枝などは基部から剪定する。肥料は二三月頃に基肥を施し、果實採收後に補肥として人糞尿その他の速效性肥料を施す。また中耕除草は春夏の候に二三回行ふ。

施肥標準量

(一阿七本植)

樹齡	窒素	磷酸	加里
二年	〇・一六	〇・一六	〇・一六
三年	〇・二二	〇・二二	〇・二二
四年	〇・三三	〇・三三	〇・三三
五年	〇・四五	〇・四五	〇・四五
六年	〇・五六	〇・五六	〇・五六
七年	〇・六七	〇・六七	〇・六七
九年	〇・七五	〇・七五	〇・七五
二年	〇・九三	〇・九三	〇・九三

結果期

梅は接木後三十四年で結果を始め、収量の最も多いのは一〇―二五年位である。

梅花の鹽漬は梅の花の六―七分開いた時に摘みとつて水洗し、水一立に鹽〇・三立を入れて一旦沸騰して冷却させた液に入れ、軽い重石を載せて置く。櫻は半開、菊は満開した花を花瓣を離し莖の花は蕾をとつて同じ方法で鹽漬けする。

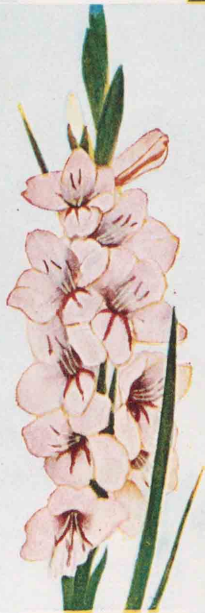
夏の花



牽牛花 (ホガサア)



金魚草 (ムナリテンア)



唐菖蒲 (アラジオラス)



スシブオレコ



トッレガーマ

(著者原圖)

〔李^{スモモ}〕には和李と洋李とあるが、何れも七八月ごろ成熟して生食用にされる。寺田李

米桃市成高左衛門西田^{バクレンキョウ}巴^{ウツク}旦杏^{ウツク}グーリンゲージ等は良種である。

〔杏^{アンズ}〕杏は主として乾杏デヤム、罐詰など加工用とするが、生食用にもよい。清水杏丸蜜柑甘饅頭ローヤル等は良種で、栽培法は李、杏ともに梅に準ずる。

〔病蟲害〕梅黒星病、縮葉病、炭疽病、梅^{クワ}蝨、梅^{クワ}蠹、梅^{クワ}尺蠖、蚜蟲等。

〔梅干^{ウメシホ}〕八分熟の梅をとり、清洗して一夜水漬けして梅の苦味を去り、箆に揚げて水氣を去り、青梅の重量の三割の食鹽と、一割の赤紫蘇との三者を交互に桶に漬込んで、押蓋をし、梅の重量の約三分一位の重石を載せて三週間程冷處に置き、晴天の日これを取出して葭簀に擴げて二日間位陽乾し、再びもとの桶に漬け込んで二日間位放置し、さらに二日間位陽乾する。斯くすることを五六回繰り返せば梅干となるから壺或は甕^カに入れ、密封して貯へる。

〔青梅漬^{ウメシホ}〕未熟の青梅をとり、一晝夜水漬けして苦味を去り、さらに水五立に藁灰一立の割合の灰汁^アに一晝夜浸漬する。この時梅は赤色に變ずるが、よく水洗すれば再び青色となる。これに梅の重量の二割内外の食鹽を加へて漬込み、軽く重石を載せて置き、水が上つたならばこの水を捨て、梅を水洗して乾かし再び前と同様に二割内外の食鹽を用ひて漬込み、冷處に貯藏する。

牽牛花は七月八月頃葉腋から花蕾を生じ早朝開花する。花は通常漏斗状の合瓣花であるが、瓣の切れた獅子咲・牡丹咲等の變種が甚だ多く葉形と共に千差萬別である。花の色も白・紅・淡紅・紺・紫・瑠璃・黄・絞り等種々ある。鉢植または露地に植給させて觀賞する。

發芽當時の莖の色と花の色とは概ね一致するものである。また葉の形の常葉なものには花は丸咲が多く、葉形の變つたものは花形も變化するのが常である。

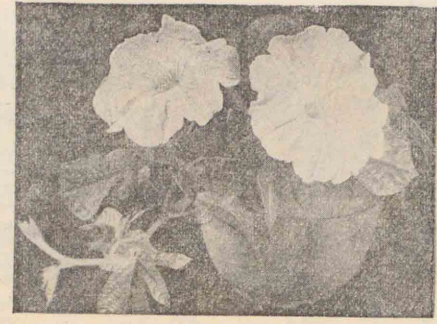
〔觀察と實驗〕
一、あさがほの種子を鉢に播いて發芽の順序を觀察しなさい。すべて種子の發芽の際には先づ幼根が出て下の方へ延び、次に芽が上方に出て來ます。

第一章 夏の花弁

一、牽牛花 (朝顔鏡草)

旋花科 一二年生

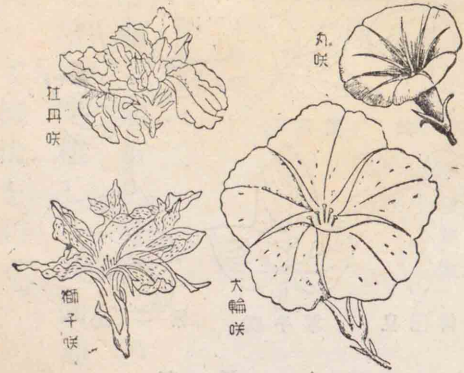
牽牛花は變種甚だ多く、花形・花色・莖葉等種々であるが、大體その形狀・性質によつて次の五種に大別する。



立仕崖懸の顏朝咲輪大

- 一、竝性 葉は三尖の竝葉で、花は丸咲である。
- 二、渦性 葉は渦葉で、花は渦川咲と

- いひ短い丸形である。
- 三、亂菊性 葉は四個以上に裂けた亂菊葉で、花は切れ込み深く波状を呈す。
- 四、獅子性 葉は兩翼不同で内面に捲き込み、花は



形花の顏朝

二、同一状態のもとで次の圃のやうに種子と共に胚の位置を逸へて播き、發芽と發育の状態を比較觀察しなさい



一は發芽も發育もよいが、二と三の場合には覆土の厚さが薄い場合には危険で、發芽しても幼根が地上に現れるから日光に照されて枯死し易く、四は發芽は早い、子葉が開展せず種皮を破つたまま地上に抜き出るから、日光に照されて種子が堅くなり所謂帽子被りとなつて發育を中止するが發育しても甚だ不良である。一般に帽子被りの出来た場合には成るべく早く脱脂綿に水を含ませて覆へば子葉が開いて發育がよくなる

離瓣で甚だしいのは細裂する。

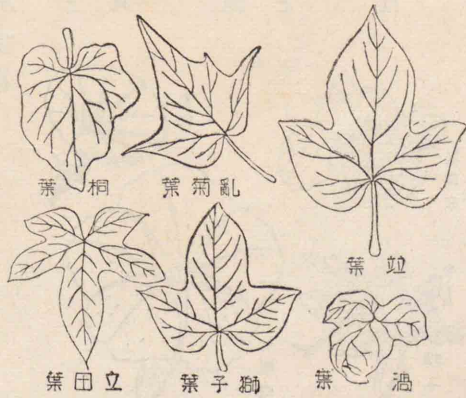
五、桐 性 葉は桐葉で、花は切れ込み深く、概ね六瓣である。

春播 五月頃播種して、發芽後子葉が充分開けば假植し、本葉三四枚生じたならば鉢または露地に定植する。その後は朝晝灌水し、日中は日光に曝して充分乾燥させ、なるべく降雨に遇はせぬやうに注意する。



立仕燈行

肥料は油粕の腐汁を稀釋して一〇日目位ごとに施し、大輪咲のものは二三回摘心して蔓一二本を残し、また多數の蕾を生ずるに至れば摘心を行ひ、かつ蕾も間引する。



葉の類朝

内外である。

四、あさがほの子葉の色は本葉の色と合致し、また子葉も斑入りとなる。また子葉の軸の有色なもの花も有色で、花色の明かなものさへもある。

五、あさがほは枝變りが生じ易いから一株で一枝には丸咲他の枝には裂咲の花を開き、或は一枝には白色の花を開くことがある。前者は咲分け、後者は源平咲分けといふ。

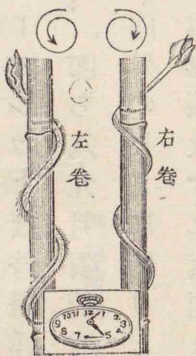
コレオプシス
花壇、切花用
はるしやぎく
一年草で草丈六〇―九〇糎、花候七―八月
おほはるしやぎく
多年草で草丈一米内外、花候六―七月
きんけいぎく
一年草で草丈六〇糎内外、花候六―七月

箒仕立懸崖仕立には支柱を與へぬが、行燈仕立鳥居仕立梯子仕立には支柱を建てて蔓を纏絡させる。

花後は採種するもの外は、花梗をつみ取り結實を防ぐ。また採種するには一番咲は結實不良であるから二三番咲がよい。

二、コレオプシス (はるしやぎく)

菊科 一年多年生

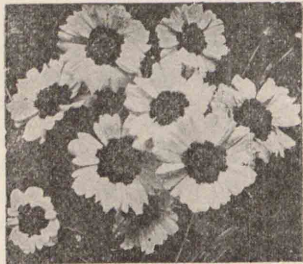


莖繞纏

普通栽培せられるものに次の三種がある。

- 一、はるしやぎく 一二年草
- 二、おほはるしやぎく 多年草
- 三、きんけいぎく 一二年草

春秋播。苗床に播種して苗を育て、一〇糎内外に成長すれば花壇に定植し、一二回補肥を施し、なほ支柱を與へて倒伏を防ぐ。

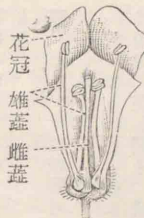


スシブオレコ

金魚草 多年草であるが通常秋播して二年草の取扱ひをする。花後根元から三鞭位の所から莖を剪つて置けば再び芽を出して開花する。

草丈 六〇厘米内外
花期 六―八月
花色 紅淡紅・紫紅・黄

花壇、切花、鉢植
〔觀察〕 金魚草の筒状の小花を一つとその構造を觀察しなさい。



花冠 雄蕊 雌蕊

マーガレット 葉の形がしゆんぎくに似てゐるからしゆんぎくといふ。

草丈 一米内外
花期 六―七月
花色 純白
花壇、切花、鉢植、温室では二月から、



トツレガーマ

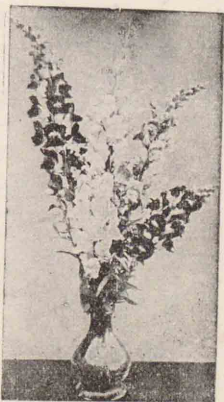
三、アンテリナム (金魚草)

玄參科多年生

アンテリナム

秋播。苗床に播種して一回假植し翌春四月頃花壇に三〇厘米内外の距離に植付け、開花までに二・三回補肥する。

〔觀察〕 金魚草は玄參科の一年草であるが、通常秋播して金魚草と略同様に栽培する。五・六月頃開花して花壇鉢植切花に適す。



四、マーガレット (もくしゆんぎく)

菊科多年生

秋挿。マーガレットは普通挿木して繁殖する。即ち八・九月頃新梢の先端を一〇厘米内外の長さに切りとつて挿木鉢に挿し、屢灌水すれば間もなく發根するから他の鉢に植付ける。

木框では四―五月頃に開花する。

ダーリア

草丈 一―二米
花期 六―一〇月
花色 紅・淡紅・白・黄
花壇、切花用。

ダーリアの實生は從來はただ新品種の育成を目的として交雜種作成の場合のみに行はれたが、交雜せずとも一般の繁殖法としても簡單でかつ種々の變種も出來て甚だ面白い。これを行ふには三・四月頃砂勝ちの土壤に播種し一―二回假植後定植する。

挿木は六月頃傍葉の二―三鞭に伸長した頃にこれを切りとつて砂勝との土壤に挿し、屢々灌水して發根後定植すれば秋季には立派に開花する。

マーガレットは寒氣に弱いから、冬季は木框または温室に搬入し、露地では暖い場所に植付けて霜除けする。

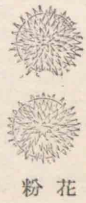
五、ダーリア (天竺牡丹)

菊科球根

ダーリアは品種甚だ多いが、その花形によつて次の七種に大別する。

- 一、**一重咲** (シングルダーリア) 一重の平咲きで、周囲の平瓣の数は七八枚である。
- 二、**カラレットダーリア** 周囲の平瓣は一重咲と同様であるが、花心から外瓣の上に微小な平瓣を重り生ずる。
- 三、**仙人掌咲** (カクタスダーリア) 花瓣細長で、不規則に捻曲する。
- 四、**菊咲** (ピラチニユダダーリア) 平瓣の八重咲で花は最大である。
- 五、**牡丹咲** (ペオニーダーリア) 平瓣の半八重咲で、花瓣は幅廣く、かつ長くて花が大きい。
- 六、**シヨウダーリア** 花瓣は筒状で内卷し、完全な八重咲で花は球状を呈する。
- 七、**毬咲** (ボールダーリア) 花瓣螺旋状をなして内卷し、八重咲で球状をなし、小輪のもの程愛好され、花梗が丈夫で切花に最もよい。

〔實驗〕
一、ダリアの花粉をとり顕微鏡でみなさい



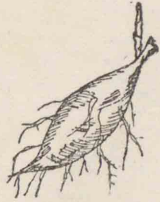
二、ダリアの球根は養分を貯へて肥大したものでこの中にはイモリンが含まれてゐるから顕微鏡でみなさい。



イモリン

鉢植球根類

鉢植後の注意
球根類を鉢植した場合には、植込み後一回充分に灌水して日光の當らぬ餘り寒くない場所に置いて發芽させ、發芽後陽所に移すか、或は鉢のまま土中に埋め藁または落葉などを一〇糶内外の厚さに覆ふて置くがよい。これは

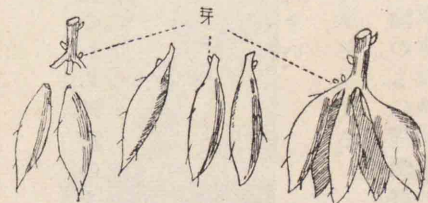


球根の植方

春植。ダリアの繁殖には實生挿木接木分根(分球)等あるが、普通は分根により四五ヶ月頃球根を植付ける。花壇は植付け二三週間前に整地し、一米内外の距離に植穴を穿ち、基肥として堆肥馬糞過磷酸石灰木灰等を施して少しく覆土し、植付けの際は肥料と球根とを接觸させぬやうにし、一五糶許り覆土する。發芽後莖三〇糶内外に伸長すれば四五節

残して摘心し、數本の支枝を分岐させ、これに支柱を與へる。大輪のものは一莖に一花を残して他は悉く摘蓄し、開花までに二三四回補肥を施す。開花後七月下旬乃至八月月上旬頃地上二三節を残して剪除すれば、九月下旬から降霜期まで絶えず開花する。球根は晩秋掘り上げ乾燥して貯藏する。

ダリアの分球



分球の正しき分け方 不良な分け方

ダリア



デコラチユープ、ダリア



シングル、ダリア



ヘガニー、ダリア



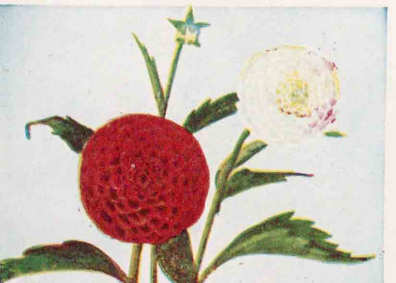
シングル、ダリア
(センチユリー咲)



シヨウ、ダリア



カラレット、ダリア



ボンボン、ダリア



カクタス、ダリア

(圖原著)

根が發生する前に發芽するのを防ぐのと、濕氣を保たせて根の發育伸長と發芽を助けるため、鉢植球根のみでなく花壇や他の一般植物に於ても同様である

(植物の發芽には光線は不要で、溫熱、濕氣、空氣(酸素)の三要素があればよい)

グラスオラス
草丈約〇六一米、花梗は六〇―九〇厘の長さに及びその周圍に二〇餘りの花を穂狀に着ける。花は紅淡紅、紫紅、黄、紋り等種々ある。

花候は早生種は五月、その他は七月八月である。切花及び花壇用。

栽植距離
切花用六〇厘×一八厘
花壇用二〇厘×二〇厘
覆土の厚さは他の球根よりやや深く八厘内外とする。

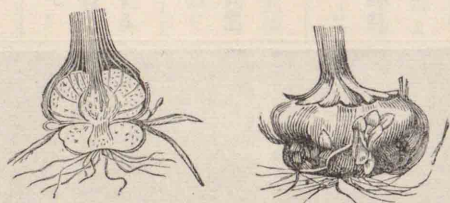
六、グラスオラス (唐菖蒲)

春植。三四月頃日當りの良い砂勝ちの所に植穴を穿ち、堆肥・腐葉油粕・過磷酸石灰・木灰などを基肥として施し、少しく覆土して球根を植付け、開花までに一、二回補肥を施す。

矮性種以外のものには、支柱を與へて倒伏を防ぎ、花後は花梗を切り去つて球根の發育を妨げ、葉が黄變すれば球根を掘りとり、乾燥して貯藏する。



スラオガラダ



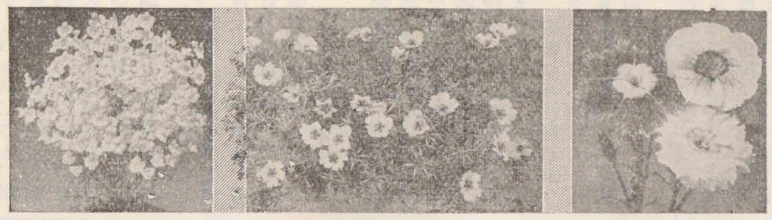
鳶尾科球根

面斷縦のそと根球のスラオガラダ

夏の花卉栽培表(一)

球根植物、観賞樹木の略稱

種名(俗名)	草丈	開花期	花色	用途	栽培法
石竹 (からなでしこ) 石竹科多	三〇	五-九月	白・紅・淡紅紫	鉢植	秋播。多年草であるが普通は秋播して三-四月頃植出す。秋・春株分けするか春挿木してもよい。
ボルチユラカ (松葉牡丹) 馬齒莧科	一五	六-八月	淡紅・紅・黄・白・紫紅	花壇	春播。苗床に播種して移植するか、花壇に直播して間引する。莖を切つて挿木すれば一〇日内外で發根する
ロサ (朝顔) 朝顔科	三〇	六-九月	紅・黄・藍・紫	鉢植	春播。苗床に播種して苗は六種餘りになれば植出す。乾燥を忌むから時々灌水する。
シザンサス 茄科	六〇	六-八月	白・紫紅	花壇	春播。苗床に播種して植出し一-二回補肥を施す。温室栽培には矮性種を秋播する。
ニコチアナ (はなたば) 茄科	三〇	六-八月	白・紅・淡紅	花壇	春播。苗床に播種して一回假植した後植出し、一-二回補肥を施す。



カラユチルボ 竹石



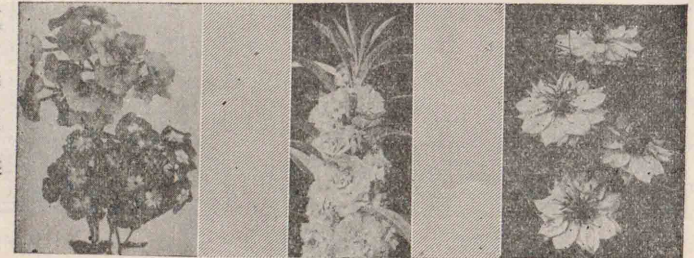
竹石多博

(中) サルビグロツシス
(左) ニコチアナ

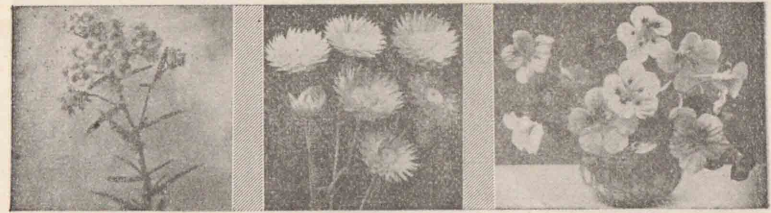
種名(俗名)	草丈	開花期	花色	用途	栽培法
デルフイニユーム (ひんげん) 毛茛科	三〇	五-七月	藍・紫・白・紅	花壇	秋(春)播。床播して一回假植してから植出し一-二回補肥を施す。矮性種は鉢植にもよい。
ニゲラ (くろたねさう) 毛茛科	六〇	六-八月	白	花壇	秋播。床播して他の床に假植し霜よけをして三-四月頃植出し一-二回補肥を施す。
レセダ (木犀草) 木犀草科	三〇	五-七月	紅・白	花壇	春(秋)播。普通春播して苗は一回假植後植出すが、秋播して霜よけをなし三-四月頃植出ししてもよい。
鳳仙花 (鳳仙花科)	六〇	七-八月	紅・淡紅・紫・白	鉢植	春播。苗床に播種して苗一〇種内外に成長すれば花壇または鉢に植付け一-二回補肥を施す。
夕顔 (よるかほ) 旋花科	蔓性	八-九月	白	鉢植	春播。五月播種して一回假植し、鉢植にするには支柱を與へ、本葉五-六枚のとき摘心して分岐させ開花を促す。
フロックス (ドラモンデー) 花忍科	三〇	六-八月	紅・白・紫	鉢植	春(秋)播。秋播は四-六月開花す。床播して一-二回假植して植出し一-二回補肥を施す。



(中) 夕顔
(左) タレ

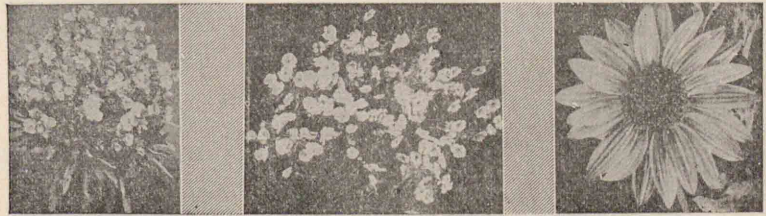


(中) 鳳仙花
(左) フロックス
ドラモンデー



アレキア ムサリクリヘ 花 鑑

にほひ あらせいとう 十字花科多。	ア キ レ ア (のこぎりそう) 菊科多。	リ ナ ム (にばな) 亞麻科一。	ヘ リ ク リ サ ム (むぎわらぎ) 科一。	ヘ リ ア ン サ ス (ひまわり) 科一。	金 蓮 花 金蓮花科一。
七—八月	六〇— 九〇— 七—八月	三〇— 六〇— 七—八月	六〇— 九〇— 一〇月	七—八月	七—九月
紫	淡紅 紫紅	紅	白・黄 紅・淡紅	黄	紅・紫紅 黄・橙黄
鉢植 切花	花壇 切花	花壇	鉢植 切花	切花	鉢植 切花
春播。多年草であるが播種して苗を作る方が成績がよい、挿木は秋行ふ。	春播。二年目以後は春(秋)株分けして植出し、植付後一—二回補肥を施す。	春(秋)播。床播または直播し、摘心して分岐を促せば多数開花する。	春(秋)播。床播して植出し一—二回補肥を施す。花はよく乾して乾燥花とし冬季の裝飾によい。	春播。床播して苗を植出す。種子は食用にされる。ひまわりは草丈一—二米内外で花も小さい。	春(秋)播。秋播す。ば五—七月開花す。床播して苗を育て、蔓性種には支柱を與へ補肥を施す。

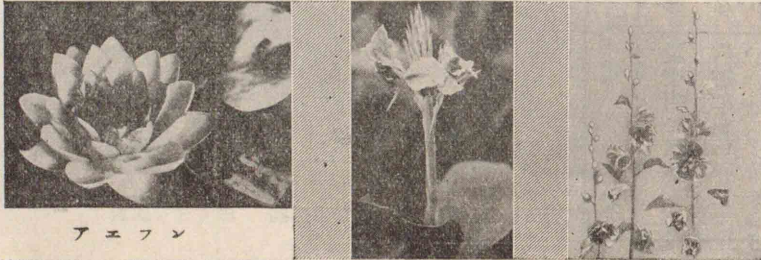


うといせらあひほに ム ナ リ スサンアリヘ



合 百

ニ ン フ エ ア (睡蓮科) 睡蓮科球。	ア マ リ リ ス 石蒜科球。	カ ン ナ (美人蕉) 曇華科球。	百 合 科 球。	蜀 葵 錦葵科多。	チ ギ タ リ ス (きつねの手袋) 玄參科多。
七— 一〇月	四—五— 六〇— 六—八月	一— 七— 一〇月	六〇— 一— 七—八月	二— 六— 八月	一—二— 六—七— 月
白・黄 藍・紅 淡紅	朱紅・白 絞	紅・淡紅 黄・橙黄 絞	白・朱紅 紫紅	紫・紅 白	紫紅
水盤	鉢植 切花	花壇 切花	花壇 鉢植 切花	花壇	花壇 切花
春植。鉢木箱等に田土または畑土を入れて植込み、泉水に沈めるか或は三〇—程程水を湛へて置く。	春植。三—四月頃基肥を施して植付け、開花までに二—三回補肥を施す。	春植。四月根莖を植付けて一—二回補肥を施し、秋末に暖地では莖を刈取って霜よけをし、寒地では根莖を掘り取って貯蔵する。	秋播。一〇月鱗莖を植付け、翌春二—三回補肥を施し、夏季は根元に敷草を敷いて乾燥を防ぐ。	春(秋)播種。株分。年々播種して繁殖する方が美大の花が開いて成績よい、一—二回補肥を施す。	秋播種。株分。植付後一—二回補肥を施す、葉は心臓形の薬となる。黄花チギタリスは草丈一—六〇—内外。



ア エ フ ン

(右) 蜀葵
(中) カンナ

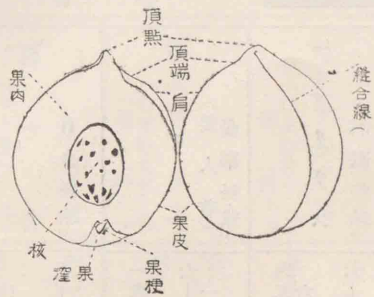
第一二章 夏の果物

一、桃

薔薇科

桃の葉

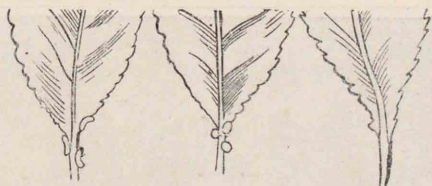
桃は中華民国の原産で漸次東洋及び西洋諸國に傳つたが、歐洲種の桃は中華からベルシヤに輸入したものを地中海沿岸地方で改良したものである。我が國では古くから輸入栽培されたが、現在のやうな優良種は明治五十六年以後に北米合衆國並びに中華から輸入したもので、その後岡山、神奈川等で多數の優良種を改良作出された。桃にはグイタミンCの少量を含む。



核果類各部の名稱

桃は肉質柔軟多漿で甘味に富み、夏の果物として需要が多い。主として生食用にされるが貯藏に耐へぬため罐詰、鹽漬などにして貯藏する。

桃の品種は非常に多いが外國種は我が國の氣候に適應せぬから我が國で改良した品種を選ぶがよい。



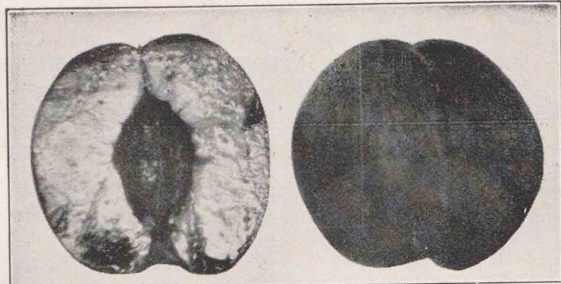
腎臓形のもの 圓形のもの 蜜腺なきもの

桃の見分け方
形がよく整つて外皮美しく光澤に富み觸つて見て果肉の餘り軟くないものがよい。充

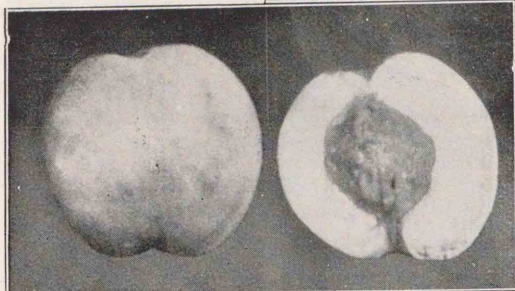
品名	成熟期	果形	大小	肉の色	核着否	蜜腺	品質	樹勢	收量	備考
日月桃	六月下旬	圓形	中	白色	半粘核	腎臓形	上等	強	多	炭疽病に強い
橘早生	七月上旬	圓形	中	白色	半粘核	腎臓形	上等	強	多	病害に強い
天津水蜜桃	七月上旬	尖圓形	甚大	紅斑白色	離核	腎臓形	中等	強	多	炭疽病に強い
離核水蜜桃	七月下旬	圓形	中	白色	離核	腎臓形	極上等	強	多	炭疽病に弱い

(1/2) 種の桃の品

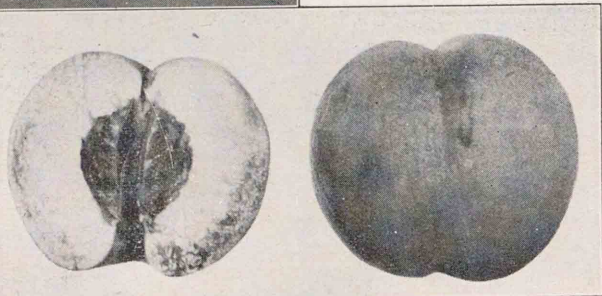
橘早生



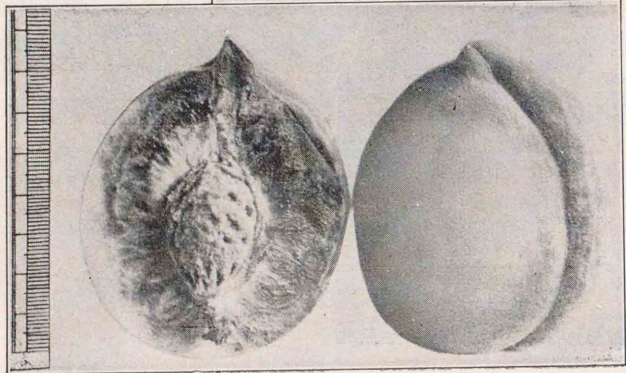
日月桃



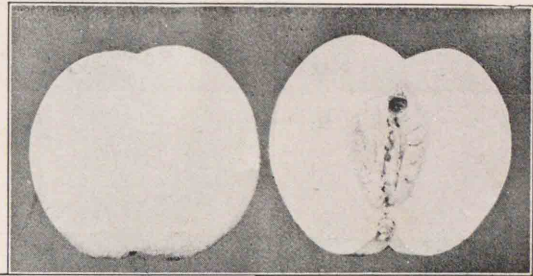
小林水蜜桃



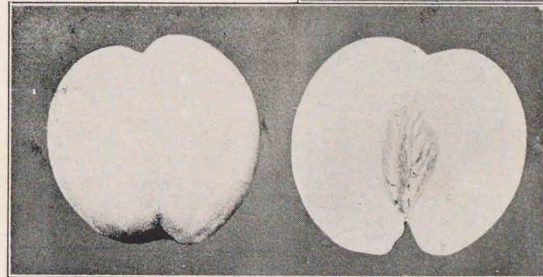
天津水蜜桃



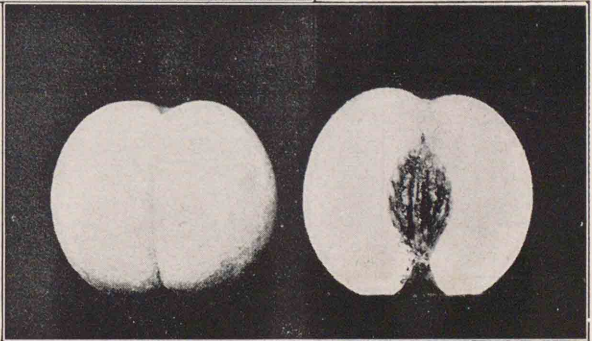
(1/2) 種 品 の 桃



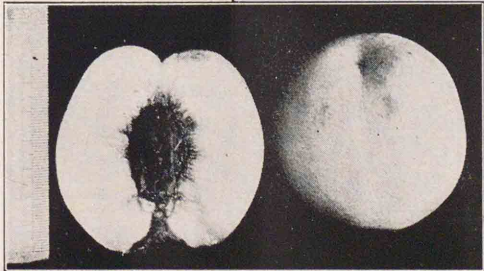
傳十郎



離核水蜜桃



土用水蜜桃



上海水蜜桃

分熟したものは果肉も軟かであるが販賣用のものは早目に採收するから軟いものは日数のたつたものと見てよい。

桃施肥標準量(一阿) 樹齡 窒素 磷酸加里

一	〇・九三	一・四二
二	〇・二六	〇・一六
三	〇・二二	〇・二二
四	〇・三三	〇・三三
五	〇・四五	〇・六七
六	〇・五六	〇・七八
七	〇・六七	〇・九三
八	〇・七五	一・一一
九	〇・八三	一・二二
一〇	〇・九三	一・四二

施肥量の一例

(一〇年生) 阿六本植

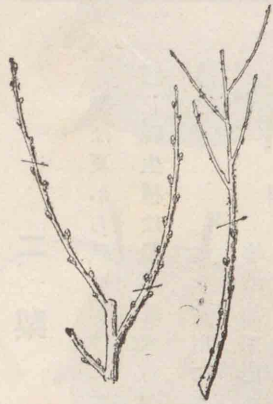
茶種油粕 二一匁
過磷酸石灰 五匁
木 灰 三三匁

桃の結実期 接木後三―四年で結
果を始め、最盛期は六
―十二年である。

土用水蜜桃	八月上旬	圓形	中	白色	半粘核	腎臟形	極上等	強	中	貯藏輸送力強い
白桃	八月上旬	短橢圓形	大	白色	離核	腎臟形	上等	強	多	落果稍々多く炭疽色に罹り易い
上海水蜜桃	八月中旬	圓形	大	白色	粘核	腎臟形	極上等	強	多	

〔栽培〕 桃は乾燥で溫暖な氣候を好み排水良好な砂壤土礫質壤土に適す。二三月ごろ實生共砧に切接するか、八月下旬芽接して繁殖する。植付距離は四五米とし、二年生苗木を定植して盃狀形に整枝する。

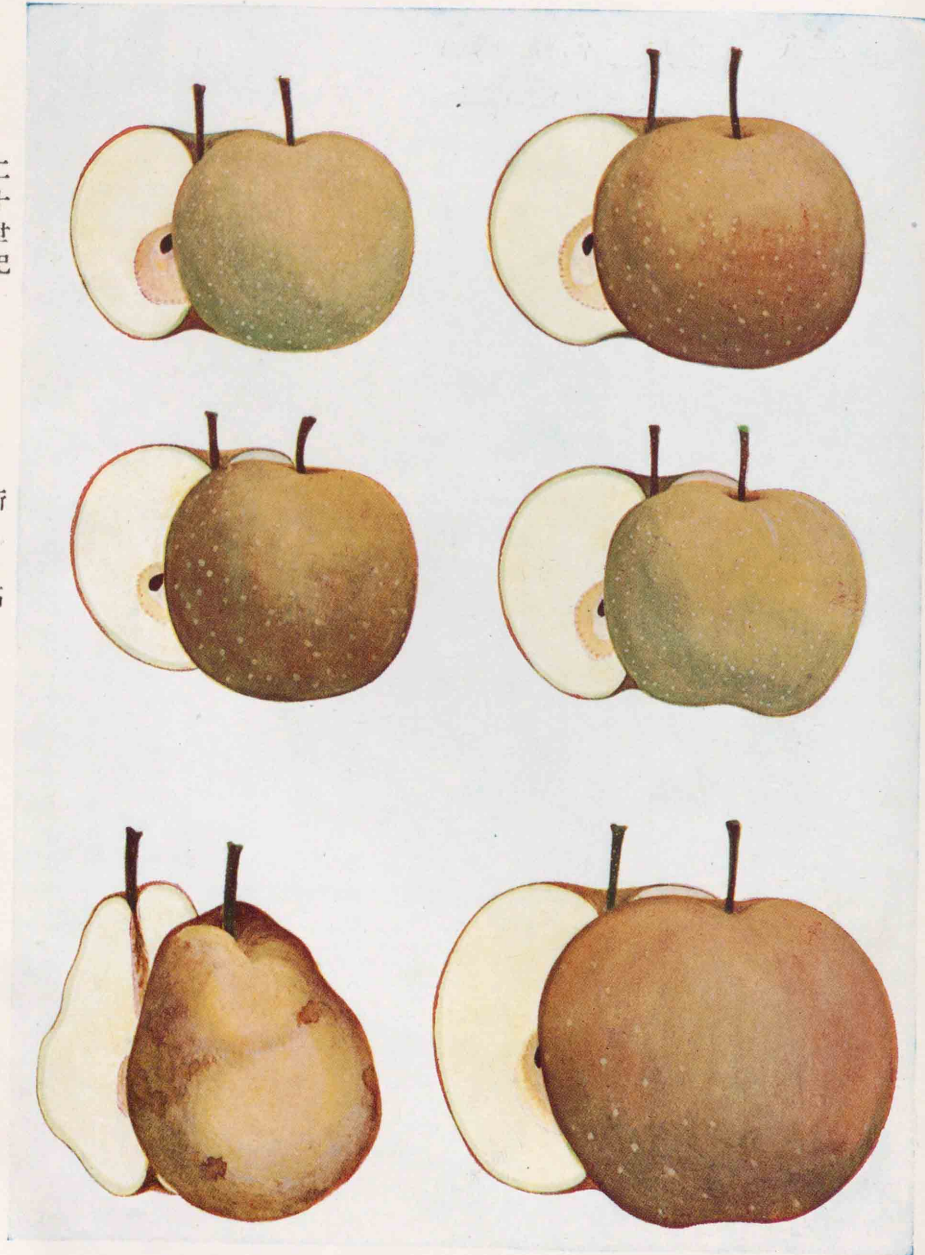
桃は本年の新梢に花芽を生じ翌年開花結實するもので、長果枝短果枝花束狀短果枝等あるが長果枝は最も成績がよい。發育枝は五六月ごろ摘心して基部の芽を充實させ冬季二三芽で剪定して長果枝の發生を促し、なほ結果枝が出ない時はさらに翌年基部二三芽で切り戻しを行ふ。また長果枝は二〇纏内外で剪りつめ徒長枝・密生枝などは基部から剪定する。



長果枝の剪定

基肥は二三月頃補肥は六月頃に核が硬化してから施し、春夏の候二三回中耕除草を行ひ五月ごろ摘果を行つて果實に袋掛けする。
〔病虫害〕 炭疽病縮葉病穿孔病。象鼻蟲心喰蟲介殼蟲蚜蟲等。

(八重)(8月中旬-下旬)
 晩三吉(10月中旬-1月)貯蔵力=富
 袋掛け 封が 種 品 の 梨



二十世紀
 新高
 バートレット

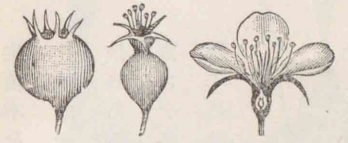
長十郎
 菊水
 今村秋

(圖原著者)

梨(ありのみ・ありのさ)
 菊水(9月中旬) 病虫害=強い(混植スル亦好成績)
 (八重)(8月中旬-下旬)

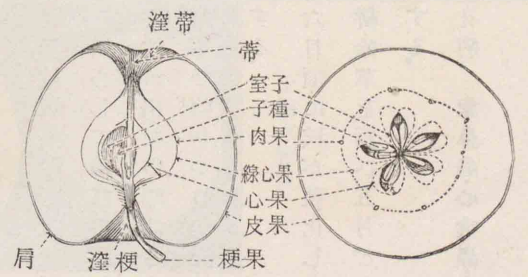
梨には和梨と洋梨とがあつて兩者の間にはいろいろ異つた點がある。
 和梨 樹勢 強い 洋梨 樹勢 弱い
 結実期 早い 遅い
 枝 太い 細い
 葉 広大 小さい
 果實 扁圓 壺状
 果皮 平滑 粗糙
 果肉 少い 多い
 芳香 淡い 強い
 滋味 有る 濃厚
 渣滓 有る 無
 食期 收穫後 貯蔵後
 果梗 細長い 短太
 蒂 概ね無 有る
 支那梨は和梨と洋梨の中間の性質を有す。
 梨にはグイタミンBとCの少量及び同Aの微量を含む。

品	種	成熟期	果形	大きさ	果皮の色	肉質	品質	收量	備	考
菊	二十世紀	八月下旬	圓形	大	赤褐色	緻密	上等	甚多	自花不結實であるから授粉樹の混植を必要とする。	
水	紀	九月上中旬	圓形	中	淡緑黄色	緻密	極上等	中	病蟲害にかかり易い。果實傷み易い。鳥取。岡山。佐賀。	
扁圓形	菊水	九月中旬	扁圓形	中	緑黄色	緻密	極上等	多	太白×二十世紀	



序順育發の果梨

梨は夏から秋にかけて生産され、甘味多漿で生食に適し、晩生種は翌年五六月頃まで貯蔵される。主として生食用にされるが、ジャム、砂糖漬梨酒等の加工用にもよい。
 梨には東洋梨和梨と支那梨と西洋梨とがある。和梨は日本人の嗜好に適し最も廣く栽培されるが、渣滓を含むものが多く、洋梨は甘味と芳香に富み、近頃需要がやや増加した。



稱名の部各實果の類果仁

最新女子園藝

二、梨

薔薇科

無花果

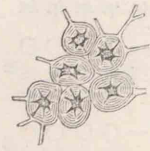
ドーフィン 7月中一下旬、10月上旬

適地 (温暖乾燥気候
排水ヨク且ツ常ニ湿テアル土)



よい。七一八月頃出る
早生種は一般に形も小
さく味も劣り、中生晩
生のもは大形で品質
も優れてゐる。長十郎
は採收直後に品質も
上等であるが二三日
経過すれば甚しく味劣
る。和梨では廿世紀と
菊水は全く渣滓なく最
も上等である。洋梨は
採收後早生種は一週間
中生及び晩生種は二週
間内外追熟させて食用
に供し採收直後は肉質
堅くかつ味が無い。

〔實驗〕
一、和梨の渣滓(カス)
は果肉中に石細胞を含
むためである。渣滓を
とり顕微鏡で見なさい



和梨の石細胞

二、採收直後の洋梨を
涼しい暗所に置いて後
熟させなさい。

新	今	慈	ドクトル、 ギユーヨ	バートレット
高	秋	梨	ザニール	梨
九月中下旬	一〇月 中下旬	一〇月下旬	八月上旬	八月下旬
圓形	尖圓形	橢圓形	長壘狀	壘狀
大	大	大	大	大
赤褐色	暗褐色	黄色に褐斑	黄色に褐斑	黄色に褐斑
緻密	稍々粗	緻密	緻密	緻密
上等	上等	上等	上等	上等
多	多	多	多	多
天の川×今村秋。	果實有蒂。貯藏力強い。	萊陽慈梨ともいひ、支那梨中の優品で後熟作用を嘗ませて食用にする。授粉樹を要す。	アレコースともいふ。結果期早い。	我が國の風土に適し洋梨中最も多く栽培されてゐる。

〔栽培〕

和梨は温暖、洋梨は冷涼な氣候に適し、土質は何れも排水良好な砂壤土・壤土壇壤土に適す。



梨の剪定の定

二三月頃實生共砧に切接して苗を育てて四
米内外の距離に植付け柵作りまたは圓錐形に
整枝する。
梨には長果枝・中果枝・短果枝等生するが短果
枝は結果が確實で品質も上等であるから短果
枝の生成を促すがよい。發育枝は冬季四五芽
で剪定し翌年短果枝を生ずれば冬季剪定の際

和梨の施肥標準量

(一阿七本植)

樹齡	窒素	磷酸	加里
二年	〇三七	〇三六	〇三七
三年	〇五七	〇五六	〇五七
四年	〇七五	〇七五	〇七五
五年	〇九四	〇九四	〇九四
六年	一一一	一一一	一一一
七年	一三〇	一三〇	一三〇
八年	一五〇	一五〇	一五〇
九年	一六九	一六九	一六九
十年	一八八	一八八	一八八
十一年	二〇七	二〇七	二〇七
十二年	二二六	二二六	二二六
十三年	二四五	二四五	二四五
十四年	二六四	二六四	二六四
十五年	二八三	二八三	二八三
十六年	三〇二	三〇二	三〇二

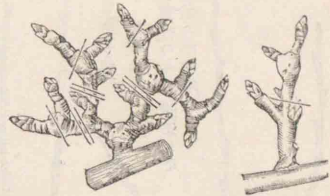
施肥量例

(一〇年生) 阿七本植

大豆粕	一〇瓩
堆肥	一一二瓩
人糞	一一二瓩
骨粉	一〇瓩
木灰	二七瓩

結果期 和梨は三十四年で結果を始め、最盛期は八―二〇年である。洋梨は五―七年で結果し、最盛期は一〇―二〇年である。

定剪の群枝果短



來は線重二度年本は線單す示を所場るす定剪度年

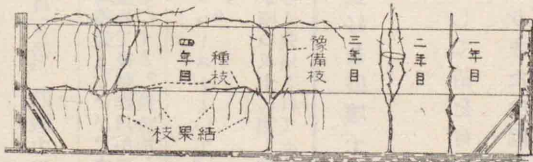
に短果枝の直上で剪定し、もし再び發育枝のみを發生した場合には基部の發育枝のみを残してその直上で剪り、かつ残した基部の發育枝は四五芽で剪つて出し戻しを行ふ。徒長枝密生枝等は基部から剪定し、また短果枝も數年後には群生するから勢力の強い二三芽を残して更新する。基肥は二三月頃に補肥は六七月頃と果實收穫後とに施し、春夏の候に二、三回中耕除草を行ふ。また落花後果實が梅指大となるまでの間に一―二回摘果して袋掛けを行ふ。ニニニ人

〔病蟲害〕 赤星病、黒星病、炭疽病、心喰蟲、姬心喰蟲、木蝨、蚜蟲等。

三、葡萄

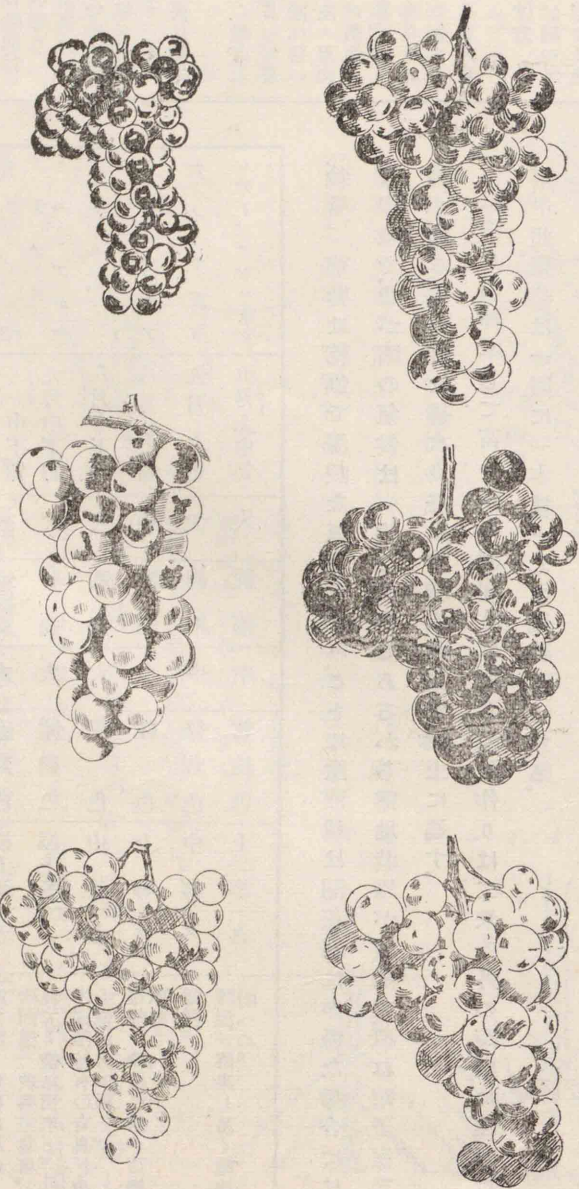
葡萄科

葡萄は漿液に富み、味甘美で生食用に適し、また葡萄酒、乾果、菓子原料などにも相當に用ひられる。家庭栽培には日蔭棚または果樹園、蔬菜園などの塙壁として垣根仕立てとするによい。葡萄には歐洲種と米國種、並びにこの兩者の雜種とあるが普通栽培されてゐるのは米國種及び雜種である。



枝整ンキフツニ

葡萄の品種



甲州 1/3

ブラック、ハンブルグ 1/3

キヤムベルス、アフリー 1/3

デラウエア 1/3

ナイヤガラ 1/3

レアー、ワシントン 1/3

葡萄には歐洲種と米國種及雜種とがあつて各々性質を異にしてゐる。次にその特徴を擧げる(括弧内は歐洲種) 樹勢 強健(中等) 枝 節間短い(長い) 葉 やや小葉で厚く葉裏に白或は褐色の絨毛を密生する。(葉大きく薄く葉裏に絨毛が無い) 果實 果皮厚く果皮と果肉と離れ易いが果皮と種子は離れ難い(果皮薄く果皮と果肉とは離れ難いが果肉と種子は離れ易い) 品質 一種の奇臭があつて品質やや劣る。(芳香に富み品質極めて上等である) 葡萄の見分け方 果粒の大きさが揃つて果粒、房共に形よく色澤鮮麗で果皮薄く損傷のない新鮮なものが上等で、果梗の黒變したものや果皮の表面の白粉の無いものは日數を

品	種	成熟期	果穂	粒形	粒の大きさ	果皮の色	品質	收量	備考
甲州	ブハラツク	一〇月中下旬	長大	短楕圓形	大	赤紫色	極上等	多	歐洲種。病害に弱い。歐洲種。玻璃室栽培、露地でも栽培出来る。露地でも栽培出来る。露地でも栽培出来る。
	キヤンベルス、	八月下旬	大	圓形	大	紫黑色	極上等	多	歐洲種。病害に弱い。歐洲種。玻璃室栽培、露地でも栽培出来る。露地でも栽培出来る。露地でも栽培出来る。
	アラリ	八月下旬	大	圓形	大	黒色	中等	多	歐洲種。病害に弱い。歐洲種。玻璃室栽培、露地でも栽培出来る。露地でも栽培出来る。露地でも栽培出来る。
	デラウイア	八月下旬	中	圓形	小	紅色	中等	多	歐洲種。病害に弱い。歐洲種。玻璃室栽培、露地でも栽培出来る。露地でも栽培出来る。露地でも栽培出来る。
	ナイヤガラ	九月上旬	大	圓形	中	緑黄色	中等	多	歐洲種。病害に弱い。歐洲種。玻璃室栽培、露地でも栽培出来る。露地でも栽培出来る。露地でも栽培出来る。
	レター、	九月上旬	大	圓形	中	黄綠色	上等	多	歐洲種。病害に弱い。歐洲種。玻璃室栽培、露地でも栽培出来る。露地でも栽培出来る。露地でも栽培出来る。
	ワシントン	九月上旬	大	圓形	中	黄綠色	上等	多	歐洲種。病害に弱い。歐洲種。玻璃室栽培、露地でも栽培出来る。露地でも栽培出来る。露地でも栽培出来る。

〔栽培〕 葡萄は乾燥で溫暖な氣候を好み、ことに歐洲種は開花期に多湿な場合には結實困難で、我が國の氣候は一般に濕潤であるから露地栽培が困難で、概ね硝子室で栽培される。土質は排水良好な砂壤土礫質の壤土に適す。 二三月頃挿木して苗を作り、棚作りは四五米、垣作りは二米内外の距離に植付けるが、甲州葡萄は一阿に一本植として棚作りとする。 葡萄は前年生の枝即ち種枝から本年結果枝を生じて開花結實するもので、一度結果枝を生じた種枝からは再び結果枝を發生することがないから年々新梢を得て種枝の更新を行はねばならぬ。

經たもので品質劣る。

施肥標準量

(米國種一阿三本植) 樹齡 窒素 燐酸 加里
 一〇〇三三〇三三
 二〇五六〇五六
 三〇九三一一二
 四〇一三一五〇
 五〇一五〇一八七

歐洲種は米國種の二分一三分二位でよい但し甲州種は米國種と同様の割合とする。

施肥量例

(山梨縣祝村) 甲州種一阿 本植
 魚肥 一二匁
 米糠 六〇匁
 木灰 二四匁

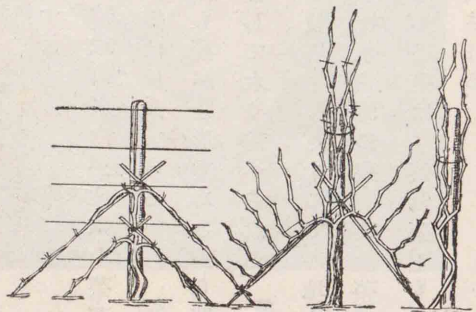
〔觀察と實驗〕

一、葡萄の卷鬚は胡瓜と同様莖の變化したもので豌豆の卷鬚の如く葉の變化した物でない二、葡萄の枝を切つて挿木してみなさい。

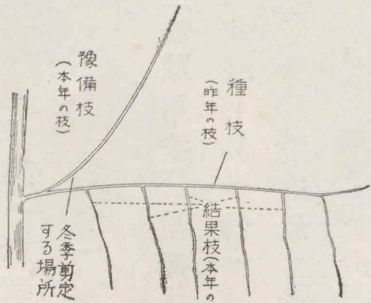


通常種枝の基部から出た結果枝は豫備枝として残して置き、果實の收穫後、その年の冬季剪定する。これを長梢剪定といひ、二三芽で剪り去る。を短梢剪定といふ。

葡萄の結果枝



秋目年四 秋目年三 秋目年二



種枝の更新

定の際に、種枝は豫備枝の直上で剪定し、豫備枝を種枝の位置に誘引して種枝の更新をはかる。而してこの新しい種枝は八一二芽(長さ一米弱)で剪定する。これを長梢剪定といひ、二三芽で剪り去る。を短梢剪定といふ。 果粒が小豆大になつた時、一結果枝に一二房を残して間引を行ひ袋掛けする。基肥は二月頃補肥は六月頃に施し、中耕除草は春夏の候二三回行ふ。 〔病虫害〕 黒痘病 白濁病 黒斑病 露菌病 炭疽病。ファイロキセラ 葡萄透羽 葡萄横這 天牛こがねむし 蚜蟲等。

葉莖菜類

菜や甘藍、菠薐草のやうな葉や、うど、アスパラガス、筍等の如く嫩莖を食用に供するものを總稱して葉莖菜類といひ、概し秋作とす。

菘類の中、在來種は古くから我が國各地で栽培されたが白菜類は明治八年に初めて中華民國から輸入されたものである、白菜類は品質上等で貯藏や運搬にも便利であるから現今では最も多く栽培されるやうになつた。

菘類の見分け方

漬菜類は一般に葉の發育がよくて色澤鮮明で光澤に富み葉面に損傷のないものが上等で萎れてゐるものや光澤のないものは新鮮でない、葉の色は濃すぎるとは質が硬く淡いものは柔かである、白菜類は球が大きくてよくしまり充實して堅くまいたもの程上等で、葉

第一三章 葉莖菜類

一、菘類 (漬菜類)

十字花科

〔性状用途〕

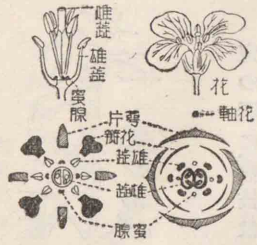
菘類には結球するものと、せぬものがある。漬物煮食・浸し・和へ物・サラダ等として需要多く、古來我が國では菜菔と共に秋蔬菜中最も重要なものである。

〔品種〕 菘類には品種が甚だ多いが、通常次の四種に大別する。

一、白菜類 葉が結球して柔かく品質最も上等である。結球山東白菜開城白菜芝罘白菜直隸白菜包頭蓮白菜野崎白菜松島白菜長崎白菜等は優良である。

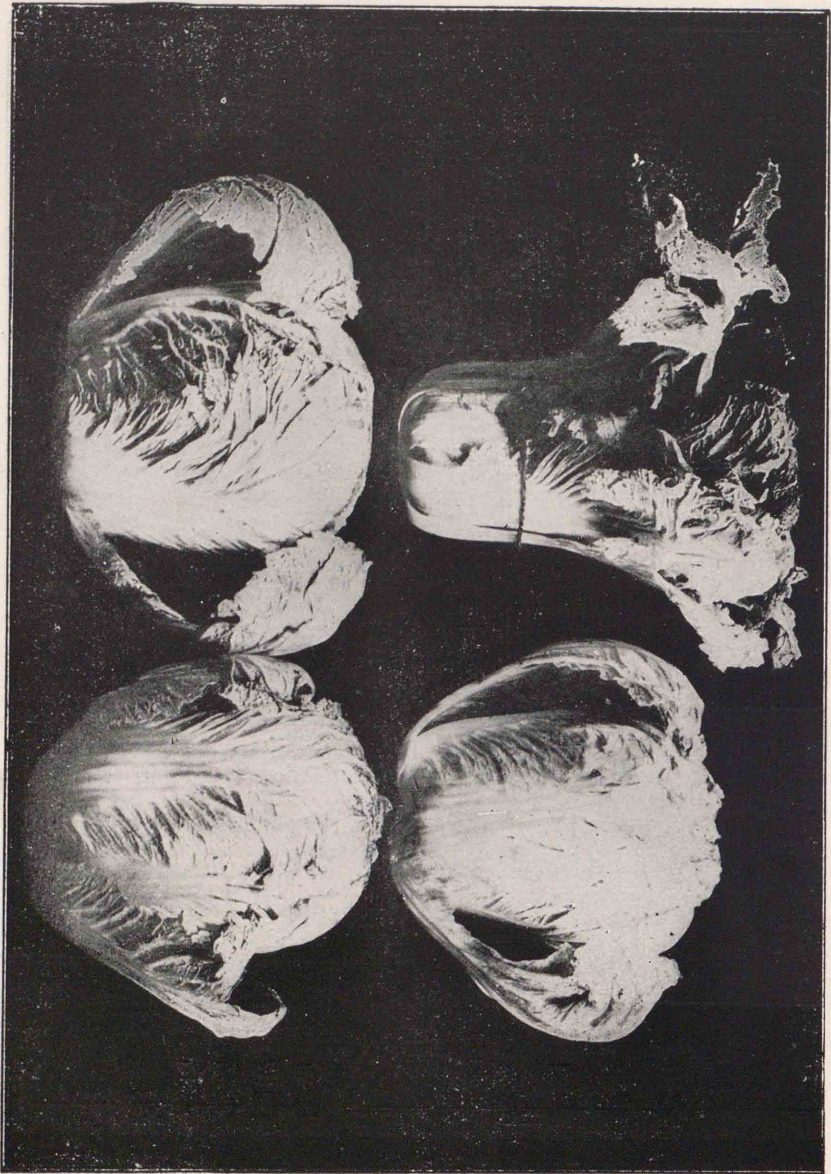
二、體菜類 體菜長梗菜等何れも葉が匙形であるから匙菜しやくし菜ともいひ、漬物として永く貯へられる。

三、在來種 古くから我が國で栽培されたもので、各地方ごとに多くの品種があるが、小松菜三河島菜京菜水菜壬生菜等は著名なもので、ことに小松菜は冬菜露菜ともいひ、小形であるが殆ど年中産出される。



十字花科植物の花

種品の菜白



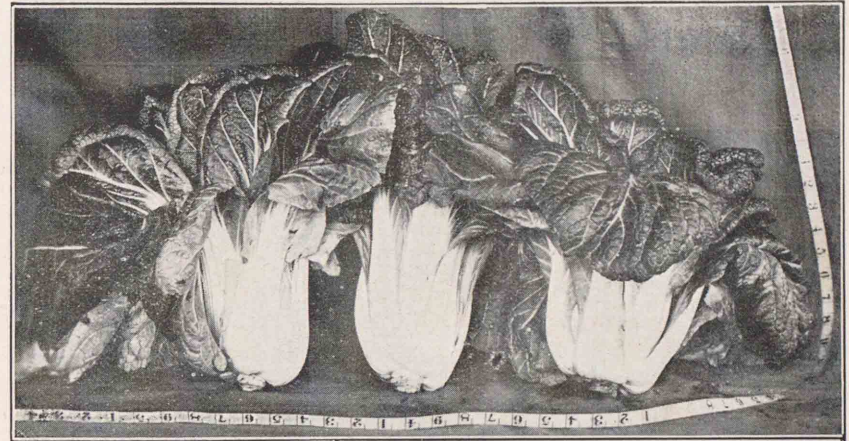
包頭蓮白菜

山東白菜

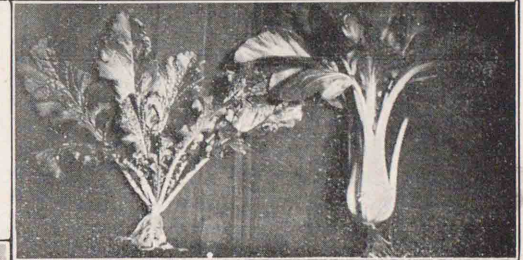
芝罘白菜

野崎白菜

種 品 の 菜



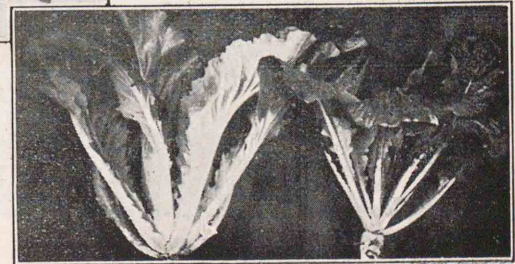
長崎白菜



體菜 京菜



長梗菜 芥菜



小松菜 三河島菜

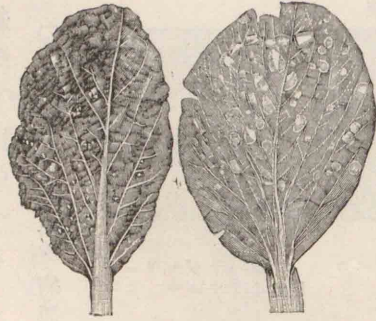
實がかい。
栽培要項

播種期	七月下旬—八月中旬
白菜類	七月下旬—八月中旬
體菜類	八月下旬—九月中旬
在來種	八月下旬—九月中旬
芥菜類	三月中下旬
九月下旬—一〇月上旬	播種量(一阿)
〇〇六—〇〇九立	肥料(一阿)
基肥	堆肥 一五〇疋
油粕	二疋
大豆粕	四疋
過磷酸石灰	四疋
木灰	八疋
人糞尿	三八疋
補肥(三—四回)	〇〇六—〇〇九立
人糞尿	一二〇疋
收穫期	一—二月
白菜類	一—二月
體菜類	一—三月
在來種	一—三月
芥菜類	二—四月
收量	三一五〇〇疋

四芥菜類

芥菜、大芥菜など辛味を含んでゐて漬物浸し物によい。

〔氣候・土質〕 冷涼な氣候を好み、肥沃な砂壤土に適し、結球白菜はやや粘重な埴壤土、壤土等がよい。
〔栽培〕 播種期は、地方と品種によつて異なるが、結球白菜は七月下旬から八月、その他のものは八月下旬から一〇月頃までに播種して冬から翌春にかけて收穫する。また小松菜、京菜等は春播きして六七月頃に收穫してもよい。



病斑黒 病斑白

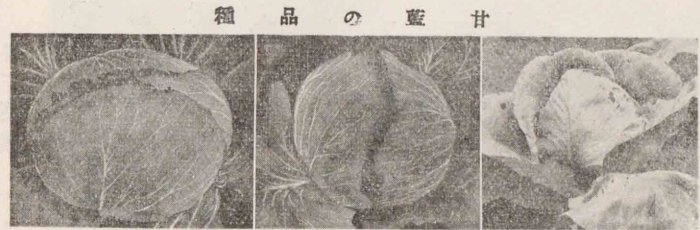
畑地は町疋に整地して、畦幅を六〇糎内外とし、基肥を施して條播または摘播する。發芽後は四五回に亘つて間引を行ひ、白菜類は四〇五〇糎、その他のものは二〇三〇糎内外の株間を與へ、また中耕除草並びに補肥を施し、白菜類は秋末降霜前に藁でゆるく外葉を縛つて、寒傷の害を防ぎ、かつ

甘藍は俗にキャベツとも呼ばれてゐる。年中栽培することができかつ貯蔵し易くて便利なため盛に栽培されるやうになつた。甘藍にはヴィタミンA及びBの多量と極めて多量の同Cを含んでゐる。赤色種(赤甘藍)は葉が暗紫色で需要が少く縮細種は葉面皺縮して縮細状を呈し品質は良いが結球困難なため共に栽培するものが少い。

甘藍の見分け方
形がよく整つて葉のしまりがよく持つて見て大ききの割合に重量の重いものは結球が完全で葉質柔かく上等である。結球の不良なものは球がブクブクしてしまりがなく軽くて葉質は粗剛である。甘藍は永く貯蔵することも出来るが、貯蔵したものは新鮮なものに比して味が悪い。

結球を助成する。

〔病蟲害〕 菜類白斑病黒斑病菘螟^{ナナフシムシ}蛴螬^{クワガタムシ}きすじのみむしさるはむし蚜蟲等。



種品の藍甘
 シヨシツセクサ ンデーハンペコ ージヤジーリーア
 トツケーマ ドルイフクエウ

二、甘藍類

甘藍 (たまな)

十字花科

〔性状用途〕 甘藍は洋種の蔬菜で、葉球が堅密で永く貯蔵に耐へ、生食漬物並びに諸種の料理に賞用される。

〔品種〕 甘藍には普通種赤色種縮細種等があるが、通常栽培されるものは悉く普通種に属する。

品名	球の形状	球の大小	結球難易	成熟期	収量
アール・サンマル	扁圓形	中の大	容易	中生	多
アール・ジャージ	心臓形	中	容易	早生	多
ウエック・フィルド	圓形	大	容易	極早生	多
コツベン・ハーゲン	圓形	大	容易	早生	多
マーケット	扁圓形	大	容易	早生	多
オータム・キング	扁圓形	大	容易	早生	多

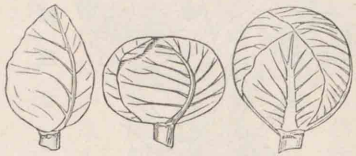
栽培要項

苗の養成
 本畑一阿に定植する苗を育てるには、種子〇〇一立、播種床三〇平方糎を要する。發芽後間引を行ひ、本葉一―二枚の時及び三―四枚の時に假植を行ふ。假植並びに定植に際しては次の如き不良苗は結球困難であるから除去するがよい。

- 一、苗徒長して節間の長いもの。
- 二、葉柄細長いもの。
- 三、葉に深い缺刻のあるもの。
- 四、葉が外方に開き過ぎたもの。
- 五、分岐の兆あるもの。

肥料(一阿)
 基肥 一三〇糎
 堆肥 五糎
 油粕 二糎
 過磷酸石灰 九糎
 木灰 三七糎
 人糞尿 九〇糎
 補肥(一―三回)

型の球葉の藍甘



形圓扁 形圓心 形圓

〔栽培〕 平床に播種し、一―二回假植した後定植する。

〔氣候・土質〕 冷涼な氣候を好み、土質はやや肥沃で適濕を有する埴壤土または壤土に適し、早生種は水田の裏作とするによい。

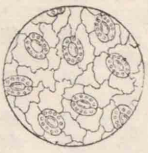
播種期	定植期	收穫期
秋播 九月中旬―一〇月上旬	暖地では一―二月上旬 寒地では翌年三―四月	五―六月
春播 三月上旬―四月上旬	五月中旬―六月中旬	八―九月
夏播 六月中旬―七月上旬	七月中旬―八月中旬	一―一月

本圃は畦幅〇・六一米とし、豫め基肥を施し置き、株間五〇・六〇糎を隔てて苗を植付



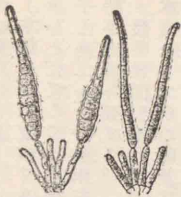
良苗 不良苗

一、菜またはその他の葉をとつて顕微鏡で葉の氣孔をみなさい。氣孔は半月状の二個の細胞から成りその閉閉によつて葉の内部と外氣との連絡をとります。



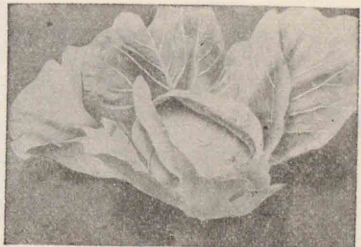
孔 氣

二、菜の斑点病に犯された葉をとつてその病菌を鏡検しなさい。下の掌状のものは擔子梗でその上についてゐるのは分生子です。



黒斑病菌

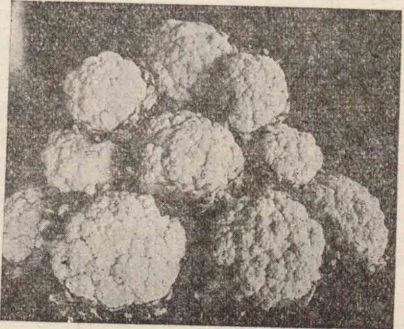
白斑病菌



野崎中生

結球を促すがよい

け、二三週間後及び結球の一箇月前頃に中耕除草並びに補肥を施し、また既に結球期に入るも莖葉徒長して結球困難なものは、細根を少しく切つて成長を抑制して

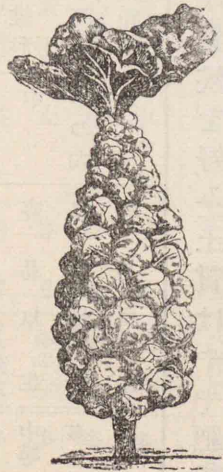


菜 椰 花



球莖甘藍

花椰菜
木立花椰菜
花椰菜や木立花椰菜はその莖の頂に生ずる花蕾をとつ



子持甘藍

て料理用に供する栽培法は甘藍に準ずる。

子持甘藍

子持甘藍も亦甘藍の變種で、莖の高さ〇六一米位になり、葉腋に直徑二三厘の小葉球を二〇、五〇個着生する。これを料理用に供するもので、栽培法は甘藍と大差ない。この外甘藍類には綠葉甘藍球莖甘藍などがある。綠葉甘藍はまた羽衣甘藍ともいひ結球性がなく、食用觀賞用にされ、球莖甘藍は肥大短縮して蕪菁狀になつた莖部を食用にする。

三、高苜類

菊科

〔性状用途〕 高苜は主に葉をサラダとして食用するが煮食用にも適する。

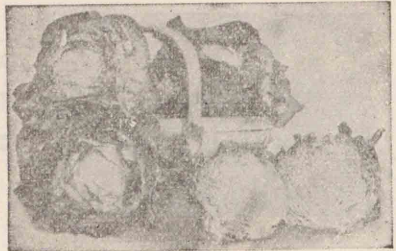
球 高 苜

高苜類には種類が多いけれども、普通栽培されるものは次の三種である。

一、球高苜 葉が結球して軟かく、品質最も上等である。

二、立高苜 球高苜に似てゐるが細長くて葉はやや硬い。

三、搔高苜 長い莖に大きな葉が互生し下葉から順次搔



生食蔬菜の消毒法 蔬菜類は總て生食すれば最も營養價値が多いが、葉菜類には特に下肥を多く施すため時として蛔蟲卵やチブス赤病菌等附着の處あるが、清水に漂白粉を溶かした液中に一〇分間浸漬すれば完全に消毒される。これを清水で洗つて用ひるが、もし鹽素の匂ひが強過ぎた場合にはオキシソルの薄い液で洗へば匂ひは完全に除かれます。尙ほオキシソルは人體には無害で防腐殺菌力もありません。

高苜類 普通栽培されるものは球高苜、立高苜、搔高苜等であるが、この外に莖葉高苜、切葉高苜、宿根高苜などがあり、高苜に類似したものに苦苜、野生苦苜などがある。高苜にはやや多量のビタミンA及びBと同一の多量を含み、また

鐵分の含量の多いことは蔬菜類中これに及ぶものがない。従つてこれを生食すれば血液を清め、また葉及び種子ともに乳汁を通じ、利尿の效がある。

高苣の見分け方

球高苣は葉がよく巻いて葉色光澤に富みかつ外葉損傷のないものがよく、立高苣もほぼ球高苣と同様である。低高苣は葉が大きくて損傷なく葉面を壓してみて質の柔軟なものほどよく、何れも葉の萎れたものはよくない。

〔觀察〕

高苣類の莖や葉を切つて見なさい、白色の汁液が出るでせう、この中にはラクチユカリン、ラクチユゼリン、アスバラギン、マンニツトなどが含まれることにラクチユカリンは麻酔の效がある。

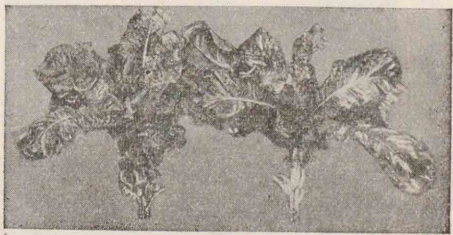
立高苣



きとつて食用に供する。

〔栽培〕

高苣は生育期間短く播種後二三個月で收穫されるから三月から一〇月頃まで隨時播種することが出来る。種子は平床に播いて一、二回假植した後本圃に充分



苣高播

基肥を施し、幅一・二米内外の平床形の高畦を作り、一五二〇糶四方の距離に一株づつ植付け、時々灌水するがよい。また冬季收穫するには藁で圍をして霜除けするか木框の中で栽培する。

〔附〕 菠薐草

菠薐草はあかさ料の一二年生作物で、その莖葉は柔軟で風味よく浸し物、煮物スーブ等に適し、ヴィタミン、鐵分等を多く含んでゐる。

菠薐草はヴィタミンA B C 共に多量に含まれ、かつ灰分、鐵分、甘藷糖などを多く含み、纖維が柔かであるから消化よく緩下劑的作用をなし、鐵分は血液を清め、灰分は腺病質並びに骨軟症によくまたリウマチスや肥胖症にもよい。

菠薐草の見分け方

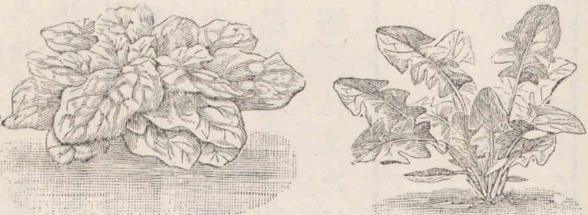
葉は濃綠色で光澤に富み葉肉が厚くて病斑その他の損傷のないものがよい、葉の色の淡いものは生育不良のものである。

〔觀察〕

在來種と西洋種につき次の諸點を比較觀察しなさい。

種子	在來種	西洋種
有稜	大きい	小さい
葉	缺刻有	圓形
發育	中等	速
土味	少い	稍多い

草 薺



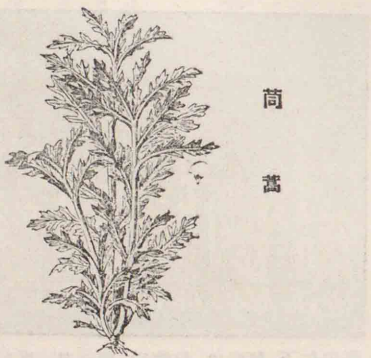
種 洋 西

種 來 在

菠薐草には種子に稜角のある有稜種(在來種と稜角のない圓粒種(西洋種とあるが、何れも冷涼な氣候を好み、壤土または埴壤土に適す。春秋二季播種し得るが春播は抽薹し易いので通常秋播する。畦幅五〇糶内外とし、基肥を施した後、一阿に一立内外の種子を條播し、發芽後二、三回間引中耕、除草及び補肥を施す。

〔附〕 苣 蒿

苣蒿は菊科の一二年生作物で、葉は柔軟で、芳香に富み、浸し物や物天麩羅等に賞用される。



苣 蒿

四、葱 (れぶかひともじ) 百合科

〔狀性用途〕 葱は多年生作物であるが、一二年生として栽培する。葉は柔軟で煮食、和へ物、薬味等にされ、葉柄に土寄し、軟化して用ふ。

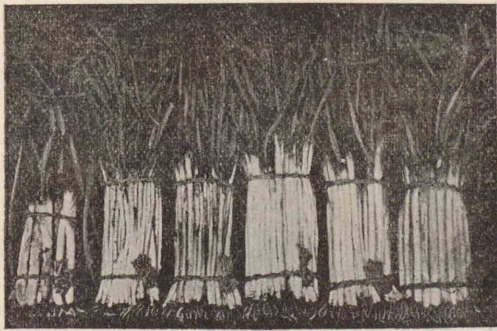
葱は葉葱といひ緑葉を食用にするが近頃は葉柄を軟白して用ふるものが多い、軟白部はことに柔軟で甘味と滋養分に富み、多量のビタミンB及びCを含む。葱の葉には硫化アリールを含むから一種の臭氣あるが神経を鎮め腸を良くする、また血液の循環をよくし身體を温める。

葱の見分け方

葉葱は葉が濃緑色で光澤に富み病斑その他の損傷のないものがよく、軟白したものは白い莖(葉柄)のなるべく長くて光澤に富み、握つて見て堅く充實したものは上等であるがカサカサしてあるものは充實してゐない證據で品質がよくない。

品 種	軟化部(葉柄)	分 蘖	品 質	熟 期	收 量
千住葱	太、甚長、緻密	少	上	中	多
根深一本葱	甚太、長、緻密	無	上	中	多
下仁田葱	甚太、短、甚軟	無	上	早	少
九條葱	中、稍長、柔軟	中	上	晚	多
岩槻葱	細、短、甚軟	多	中	早	中

種 品 の 葱



葱田仁下 葱條九 葱棍岩 葱棍札 葱本一村砂 葱上干

〔氣候・土質〕 冷涼な氣候を好み、土質は肥沃な埴壤土に適し、輕鬆土では軟化困難で品質悪しく收量も尠ない。

播 種 期	定 植 期	收 穫 期
春 播 三―四月	四―五月	六―十月
秋 播 九月下旬	七―八月	一―二月

本圃は丁寧に整地し、畦幅〇七一米、深さ二〇糎内外に鋤幅に植溝を

栽培要項

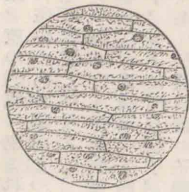
播種。播種期は春秋彼岸頃、一阿の播種量〇・一立播種床三―五平方米を要す。

肥料(一阿)

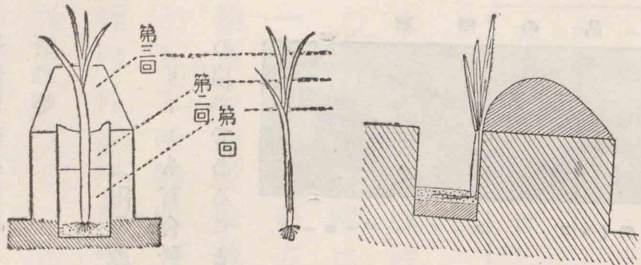
- 堆肥 九〇坵
- 大豆粕 四坵
- 過磷酸石灰 三坵
- 木灰 九坵
- 人糞尿 三七坵
- 補肥(三―四回) 九五坵
- 人糞尿 三五坵
- 收量(一阿) 三〇〇―四五〇坵

〔實驗〕

一、葱の葉柄の白い薄い外皮をとつて顕微鏡で見ると細胞膜の中に一個の核と無數の顆粒や透明な細胞液が見えます。



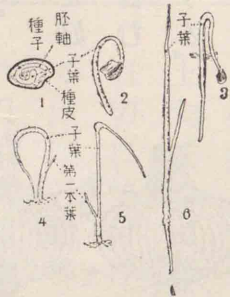
掘り、基肥を施し薄く土を覆ふて株間一〇糎内外に苗を一二本づつ畦の一侧に直立させて浅く植



度程の寄士の葱

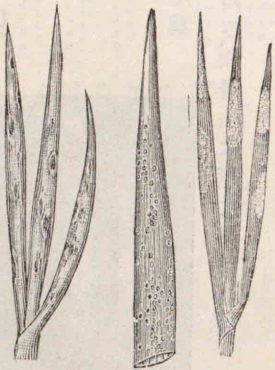
方点植の苗

付け、その後三四回補肥及び土寄を行ひ、最後の土寄は地表二〇糎内外の高さに土を盛りあげる。葉葱は土寄の必要なく葉が充分成長すれば刈取り、軟化栽培(根深葱のもの)は白莖三〇糎内外になれば掘り取る。



序順の芽發の葱

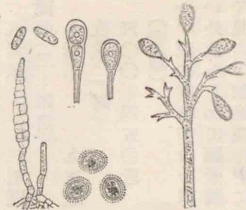
〔病蟲害〕 葱類露菌



病澁黒 病澁赤 病菌露

葱の病害

二、葱の病気に犯された斑點のある葉をとつて顕微鏡でみなさい、次の圖の右は露菌病菌中上は赤澁病菌の冬孢子、中下は同夏孢子、左上は黒澁病菌の子囊孢子、左下は同擔子梗の上に分生孢子を生じたものです。

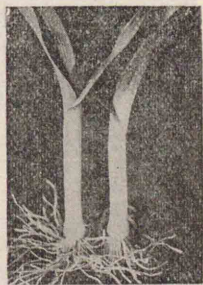


葱頭の食用に供する鱗莖は葉の變化した鱗葉の集合したもので、滋養分に富みや多量のゲイタミンA及びBと同Cの少量を含む、葱頭には硫化アリール及び硫化プロピールアリールを含むから葱よりも一層臭氣が強い、葱頭も血液の循環をよく

病赤澁病黒澁病、ねぎのスリップ(ねぎのむくげむし) 蚜蟲等。

〔附〕 葱

リーキも百合科に屬し、葱に酷似してゐるが、ただ葉の扁平であることと、一層臭氣の強い點が違つてゐる栽培法は葱に準ずる。



★ - 1

五、葱頭 (玉葱) 百合科

〔性状用途〕

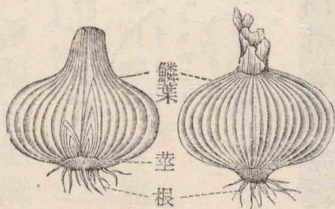
葱頭は葉の變形した鱗葉が集つて球状をなし、榮養分に富み貯藏に耐へ、四季を通じて各種の和洋料理に用ひられる。

〔氣候土質〕

冷涼な氣候を好み、肥沃で適度の濕氣を含む埴壤土または壤土に適する。

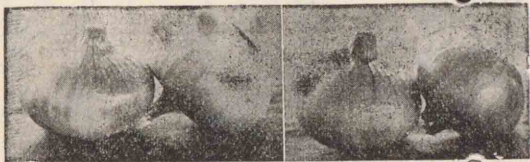
〔栽培〕

暖地では九月中下旬



葱頭の鱗莖(鱗葉)

種品の葱



カークツツイラブ スーアゲンダーローエ

品	種	形状	大小	色澤	結球	熟期	收量
エーローグロップ	ダンヴァイス	圓形	大	黄褐色	容易	中	多
エーローグンヴァイス		扁圓	大	黄褐色	容易	中	多
ブライツツテーカー		圓形	大	黄褐色	中等	晚	多
大阪黄葱頭		扁圓	大	黄褐色	容易	中	多

などは葱とほぼ同様である。

本圃は町疇に耕起し、基肥を施して幅一・二米の平床形に整地し、

一五二〇糎平方に一本づつ

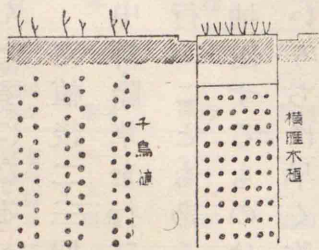
植ゑるか、或は普通の畦作り

として畦幅四五糎、株間一五

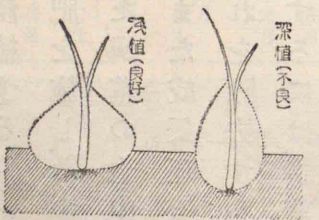
糎内外に千鳥形に一畦二列

植ゑとする。苗は二〇糎内

外に伸び、鱗莖が僅かに膨ら



葱頭定植の型



葱頭定植の深さと鱗莖の係關

に播種して一二月上旬或は翌春二三月頃に植付け、寒地では四月播種して六月頃定植する。播種量、播種の方法

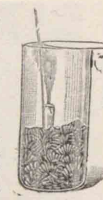
し血を清め、神經を鎮めて腦をよくし、不眠症、風邪を治したまた皮膚の生理作用を助けて血色をよくし肌をこまかにする效がある。
頭葱の見分け方
外皮が薄くて纖維細かく光澤に富み、首の部分の細くて肉質はしまつてよく充實したものがよい、切つて見て葱の大きいものや、鱗莖に弾力のないものは不良品である。
栽培要項
播種量や苗の育て方は葱に準ずる。
肥料(一阿)
基肥
増肥 九〇糎
大豆粕 五〇糎
過磷酸石灰 三〇糎
木灰 一〇糎
人糞尿 三七糎
補肥(二―三回)
人糞尿 七五糎
收量(一阿)
一五〇―三〇〇糎
收穫期は六月、但し春

翠菊

草丈一五—六〇
花期 七—十月
花色 紅・淡紅・白・紫

鉢植・花壇・切花用
切花用の栽培には畦幅六〇糎・株間二五糎内外の距離に植ゑる。

〔觀察〕
一、翠菊の若い花を硝子瓶の中に入れて密閉し一—二日後その中に蠟燭に火を點じて入れて見ると直ちに消え、花も葉と同様に呼吸作用を營んで炭酸ガスをはき出すことが判る。



二、いろいろの草花に就き、各々その莖の高さ・葉の形・花冠の形・花の色彩・花の雄蕊と雌蕊・花梗開花の時期・種子等を觀察して表を作つて御覽なさい。

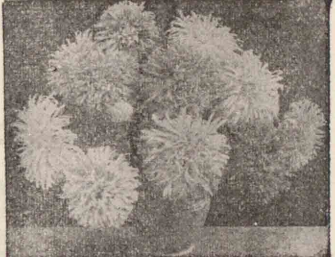
第一四章 秋の花弁

一、翠菊 (アスター)

菊科 一二年生

春播。翠菊は保水力強く肥沃な土地を好むから、苗床には堆肥その他の肥料を充分に施して播種し、本葉二三枚の頃に假植を行ひ、苗一五糎内外に成長すれば鉢植または花壇に二〇—二五糎の距離に植付け、開花までに二—三回補肥を施す。

- 一、コメツト 直立性で花大きく早中晩生がある。
- 二、ビクトリア 直立性で喬性と矮性とがある、中生で花弁の先端が反轉する。
- 三、ブランチング 大形で側枝多く、晩生、大輪で美しい。
- 四、クウイン・オブ・ゼ・マーケット 早生で擴張性、切花によい。
- 五、トラツフォート ビクトリアに似てゐるが花全體が球状をなす。



菊 翠

秋の花弁



翠菊



金盞花



勿忘草



スモスコ



百日草

(圖原著)

百日草

シンニアは花期が永いので百日草といはれる。

草丈六〇糎内外

花期 七―一〇月

花色 紅淡紅白

紫黄

花壇、切花用

金盞花

草丈六〇糎内外

花期 二―七月

秋播 八―一〇月

春播 鉢植、切花用

花壇

〔観察〕
花は葉の變化したものでまた花葉ともいふ
完全花は萼、花冠(花
瓣)、鬚(雄蕊圍、心(雌
蕊圍)とから成り、雌
蕊と雄蕊とは種子を生
ずるに肝要なものであ
るから緊要器官といふ
八重咲の花は蕊が花
瓣に變化したもので種
子が出来難い、一重と
八重の花を観察なさい

二、百日草



草 日 百

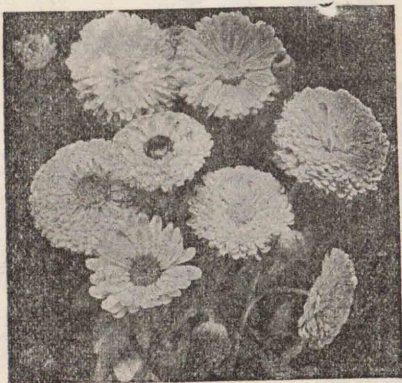
春播 苗床に播種して苗一〇糎内外に成長した頃、花壇に二〇糎内外の距離に植付け、開花までに二―三回補肥を施す。花後は枝の基部から切り取れば腋芽が伸びて再び開花する。

菊科 一―二年生

三、金盞花 (唐金盞花) 菊科 一―二年生

春秋播 床播して苗七八糎の頃花壇に一五糎内外の距離に植出す。

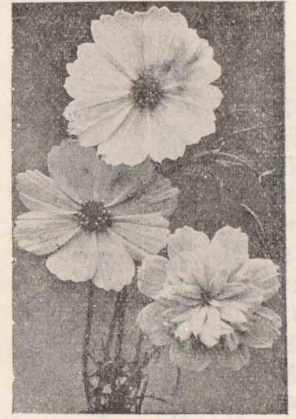
冬季開花させるには秋播の苗を鉢に植付け温室または木框内に入れ、二―三回薄い液肥を施し、なほ時々灌水を行ふ。



花 盞 金

コスモス
コスモスは花が櫻の花に似てゐるから秋櫻ともいふ。

草丈一―二米
花期 八―十一月
花色 紅淡紅白
花壇、切花用
黄花コスモスはやや矮性で花は黄色を呈し普通のコスモスよりも美しくない。



コスモス

四、コスモス (秋櫻)

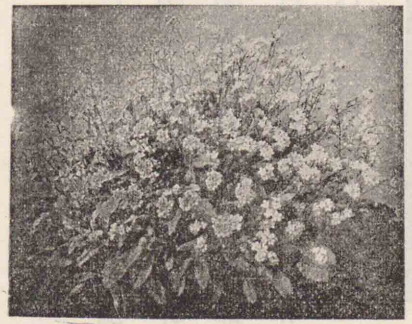
菊科 一―二年生

た支柱を建てて莖の倒伏を防ぐがよい。

五、ミオンチス (わすれなぐさ)

紫草科 多年生

春秋播。平鉢に播種して苗を育てるか、秋株分けして花壇または鉢に植付け、開花までに二―三回補肥を施し、時々灌水する。



ミオンチス

菊の種類

一文字菊(大菊)



厚物(大菊)



太管(大菊)



大掴(大菊)



間管(大菊)



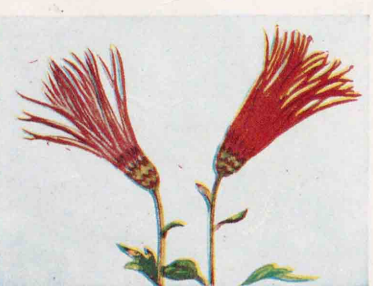
細管(大菊)



中菊(狂菊)



嵯峨菊(中菊)



(圖原著者)

菊は菊科の多年草で
もと中華民國の原産で
あるが古くから我が國
に輸入され、その栽培
は我が國に最もよく發
達し、櫻と共に我が國
の國花として廣く栽培
されてゐる。従つてそ
の種類も萬を以つて數
へる程であるが、就中
大菊は最も普通に栽培
される。一文字菊はま
た御紋章菊ともいひ、
後鳥羽上皇が深く菊の
紋様を御愛用遊されて
から、その後いつとは
なしに皇室の御紋章と
なり、菊花八重一六瓣
を御正章となされるや
うになり、菊花御紋章
天皇旗は明治三年御制
定になつた。

菊は草丈け六〇—九

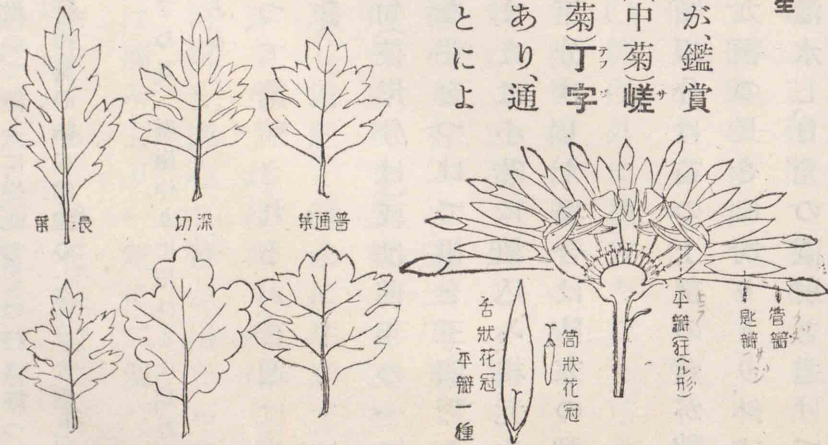
六、菊

菊科多年生

菊の種類及び品種は非常に多いが、鑑賞
菊の種類には大菊美濃菊(大菊)狂菊(中菊)嵯
峨菊(中菊)肥後菊(大菊)中菊(奥洲菊)大菊(丁字
菊)中菊(小菊)伊勢菊(絲菊)小菊の九種あり、通
常これらを菊の系統と花輪の大小とによ
つて大菊中菊小菊の三種に大別
する。

一、大菊 花は大輪で色彩に富み、瓣の
形状と咲き方に變化が多く、平物厚物管
物に大別されるが、通常厚物厚走大摺太
管間管細管長管一文字の八部門に分類
する。

二、中菊狂菊 中輪咲で一花中に必ず



菊の葉の形

中菊の花の瓣

○種内外で莖はやや木質化し、花は頭状花序で各小花は頭状花の中央に管状花を群生し、その周圍に舌状花を輪狀に配列する。花色は白・黄赤など濃淡種々あつて一〇—十一月開花するが、夏菊・寒菊などは夏季及び冬季開花し、鉢植・花壇切花に適する。

挿木

菊の挿木には眞挿と莖挿とがある。眞挿とは莖の最上部の天芽或は眞芽の莖がやや堅くなつた時に八—九糎の長さに切りとつて挿すもので、莖を平に切るを輪切式、斜に切るを竹槍式といふ。また莖挿とは眞芽を切りと



挿木の種類

平瓣匙瓣管瓣の三種を具へ、一定の規則に従つて種々に變化し、その狂ひ終つた時の花形の差異によつて丸抱亂抱追抱襖折抱管抱露心抱自然抱の七種に大別し、前の四を狂の正格後の三を變格といふ。

三、小菊 花及び葉が小形で、分岐性に富んでゐる。懸崖作りに用ひる山菊野菊文人菊や、寒菊夏菊なども小菊に屬するものである。

菊は實生・根分け・挿木・接木等によつて繁殖されるが、普通は根分け及び挿木法による。

根分けは三月下旬(彼岸分け)或は前年の一二月下旬(冬至分け)適當な芽をつけて根を三四糎の長さに切りとり、苗床または小鉢に植込み、根元を濕す程度に灌水し、冬至分けした場合は防寒の設備をする。

挿木は五月上旬頃根分け苗の上部の莖が稍堅くなつた時、莖を八九糎の長さに切りとり、鉢或は苗床に挿して毎日灌水し、日光の直射を避けて保

つた以下の莖を約三葉ごとに切りとつて挿すもので莖挿よりは眞挿の方が成績がよい。

根分け

根分けには一—二月中下旬即ち冬至の頃に行ふ冬至分けと三月下旬即ち春の彼岸頃に行ふ彼岸分けとがあるが、普通は彼岸分けを行ふ

洋菊の栽培

洋菊の栽培法は大體大菊の栽培法と同様にしてよいが、普通は温室内で栽培する。苗を仕立てるには温室内で砂に挿木して發根後一本づつ小鉢に植付け、木框または露地の腹簀下に移して強光と強風を避け、施肥と灌水に注意する、五月



大 菊

して置き花色の見ゆる頃に一蕾を除去する。開花の頃になつたら花壇に小屋掛けして風雨の害を防げば永く觀賞される。

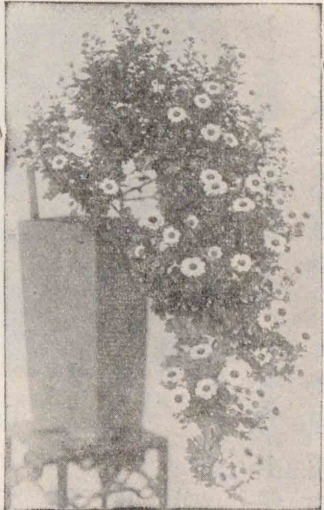
護すれば二—三週間て發根するから、床上げして假鉢に移植する。

花壇作りとするには、五月中下旬頃株間七〇糎内外に植穴を穿ち、培養土を入れて苗を植付け、その後苗少しく成長すれば二—三葉を残して摘心し、爾後數回摘心を行ふて夏土用前までに三〇本内外の枝を分岐させ、支柱をたてて結束し、施肥と灌水に注意する。

夏季腋芽を生ずれば悉く摘除し、九月上旬頃梢頭を摘心し、蕾が出たら頂端のものは摘み去り、一莖に二個づつ残

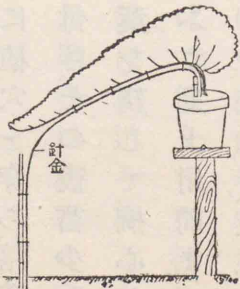
頃までに二―三本の強壯な枝を出させて温室内に移し、さらに温室内の培養床に培養土を盛って二〇―三〇程の距離に植付け、薄い液肥を二―三回施して充分日光にあて支柱を興へる。その後の手入は大菊と同様で満開すれば切りとる。普通切花の寿命は二〇日内外である。

菊花鑑賞の標準は種類によって異なるが、大體大菊では花状・色彩・光澤・口縮り・花瓣の形・組立て並びに走り・花の廻り及び高さ等を標準とする。



山菊の懸崖

鉢作り 苗五六葉の時に苗床に假植し、二葉を残して摘心して置き五六月頃に鉢上げする。その後夏土用前後までに屢、摘心して一〇本内外の莖を分岐させ、支柱をたてて結束する。肥料は七月下旬八月月上旬九月上旬の三回に分施し、その四五日後に培養土を増加する。

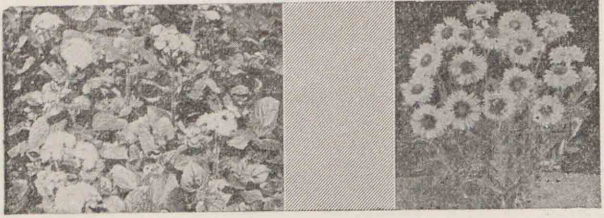


懸崖の作り

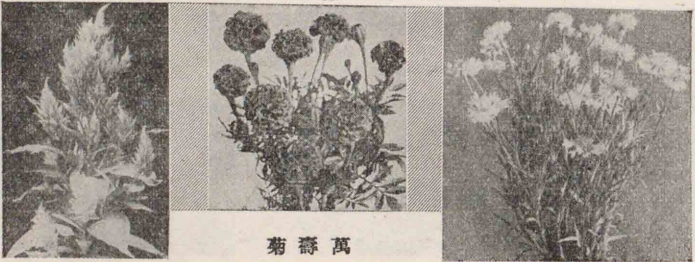
懸崖作り 一―二月頃冬至分けて小鉢に植込み翌春彼岸頃鉢替して葉が六七枚生ずれば三葉を残して摘心し、三本の枝を出させ、主枝一五程内外に成長した頃針金または添竹して四五度内外の角度に誘引する。その後七月頃までに一―二回順次鉢の大きさを増して植替へ、主枝の頂芽を摘まぬやうにして、他は二葉を残して反覆摘心し、九月中旬頃鉢を臺の上に載せて主幹を少しづつ下垂させ蕾が開き始める頃に支柱を除き、太い針金を添へて適宜の姿勢に作り上げる。

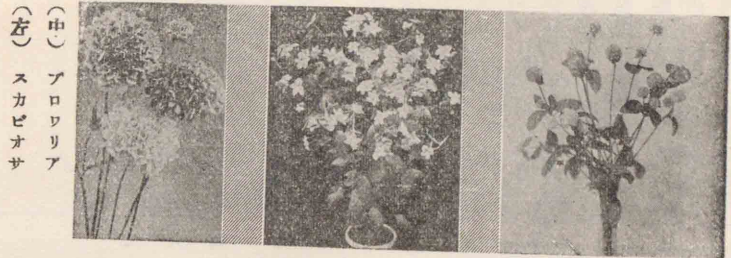
秋の花卉栽培表 (一。は一―二年生草花。多。は多)

種類 (俗名)	開花期	花色	用途	栽培法
天人菊 (天イ、人ル、菊ア)	六〇―六一〇月	黄、黄と紫紅	花壇、切花	春(秋)播。苗床に播種して苗一五程位の時に植出す。宿根天人菊は春株分するか八―九月挿木する。
矢車草 (セ、ト、草)	六〇―九〇月	藍紫、白淡紅	花壇、切花	春(秋)播。秋播は四―六月開花す。にはひやぐるまさう・あざみやぐるまさう等何れも栽培容易である。
萬壽菊 (萬リ、壽ル、菊)	六〇―七一〇月	黄、橙黄	花壇、切花	春播。暖地では秋播してもよい。紅黄草(孔雀草)姫黄草は矮性であるから鉢植にも適する。
アゲラタム (ア、ゲ、ラ、タ、ム)	三〇―六〇月	白、藍	花壇、切花	春播。矮性種は鉢植にもよい。播種期を遅らせて秋温床または温室に入れば一―三月開花する。
セロシヤ (セ、ロ、シ、ヤ)	三〇―六〇月	白、紅黄	切花	春播。床播または直播する。栽培は極めて容易であるが乾燥がよりはやや多濕の地を好む。



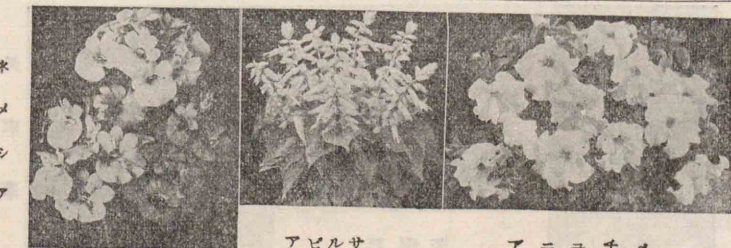
ムタラゲア 天人菊





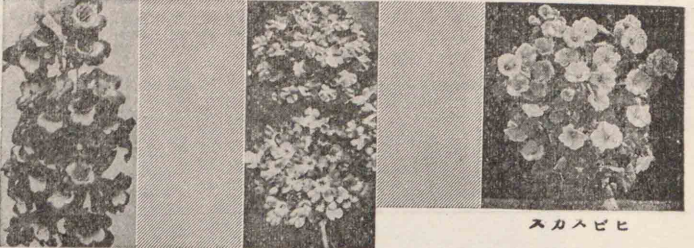
(中) プロウリア
(左) スカピオサ

せんいちこう (千日紅千日草) 科一。	ベチュニア (筑波根朝顔) 科一。	プロウリア 科一。	サルビア (大花べにさるびあ) 唇形科多。	スカピオサ (松蟲草) 山藜科一。	ネメシア 玄參科一。
三〇〇 五〇〇 七 一〇月	三〇〇 六〇〇 五 一〇月	三〇〇 六〇〇 六 一〇月	六〇〇 七 一〇月	三〇〇 六〇〇 八 一〇月	二〇〇 六〇〇 六 一〇月
紫紫紅 紅白	紫紅 藍青 白絞	藍 白	鮮紅	紅淡紅 白	黃白 紅紫
花壇 切花 鉢植	花壇 切花 鉢植	花壇 切花	花壇 切花 鉢植	花壇 切花	花壇 切花
春播。花期長く性質極めて強い。床播して一回假植して植出し、一―二回補肥を施す。矮性種は鉢植によい。	春播。苗は一回假植した後植出し、一―二回補肥を施す。鉢植には枝、先端を切つて挿木するがよい。	春播。床播して一回假植した後植出す。切花栽培には疎植して花着きをよくするがよい。	春播。多年草であるが一年草の取扱をなし、苗は一―二回假植した後植出す。矮性種は鉢植にも適する。	春(秋)播。秋播は五―七月開花する。床播または直播し、開花したものは摘心すれば腋芽が伸びて再び開化する。高いから境栽培花壇によい。	春播。床播して苗は一回假植した後植出し一―二回補肥を施す。



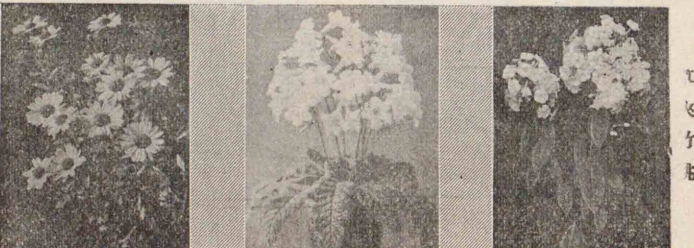
ネメシア

アビルサ アニニナハ



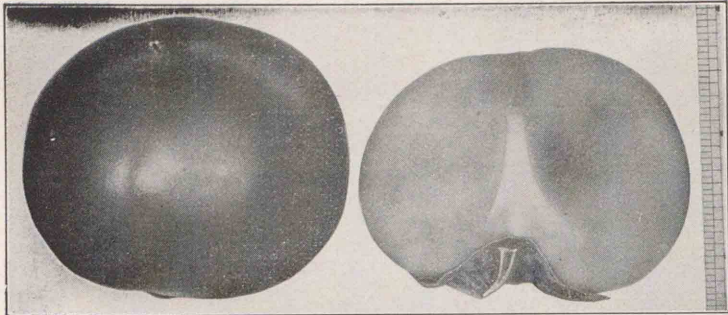
(中) パーベナス
(左) ペントステモン

濱菊 科多。	ペントステモン (つりがねやなぎ) 玄參科多。	ストレプト カーパス 苦苣苔科多。	パーベナス (姜女櫻) 馬鞭草科多。	草夾竹桃 (おいらんさう) 花忍科多。	ヒビスカス (黄蜀葵) 錦葵科一。
六〇〇 九〇〇 九 一〇月	七 一〇月	二〇〇 三〇〇 八 一〇月	二〇〇 三〇〇 八 一〇月	一 一五米 七 一〇月	一 一五米 七 一〇月
白	紅紫 紫白	紫 藍	白覆輪 紫藍 紅淡紅	紅白 黃	紅 黃
花壇 切花	花壇 切花	花壇 切花	花壇 切花 鉢植	花壇 切花	花壇 切花
春播木。春秋株分。性質強健で栽培は極めて容易である。小濱菊は矮性で鉢植にも適す。	春播。株分。株分よりも實生の方が生育がよい。また八月頃挿木して冬季木框内で保護してもよい。	春播。鉢播して二―三回假植後本鉢に植付ける。温室では夏・秋に播いてもよい。	春(秋)播。秋播は四―六月開花。挿木は八月頃木框内で行ふ。何れも植付後一―二回補肥を施す。	春(秋)株分。春・秋彼岸頃株分を行ひ、基肥を施して植付け一―二回補肥を施す。	春播。床播して苗は一回假植した後植出し一―二回補肥を施す。草丈が高いから境栽培花壇によい。

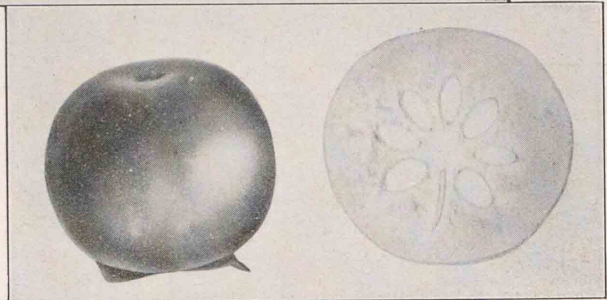


(中) ストレプトカーパス
(左) 濱菊

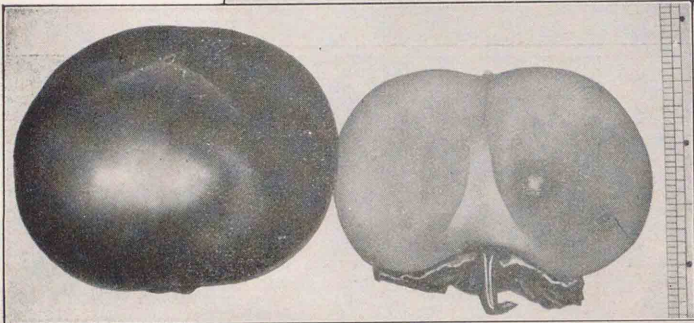
($\frac{1}{2}$) 柿 甘 種 品 の 柿



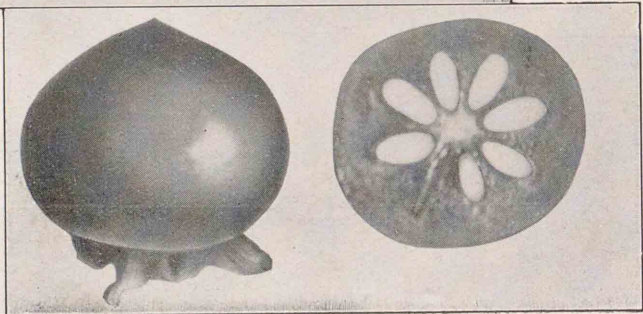
富 有



禪 寺 丸



次 郎



御 所

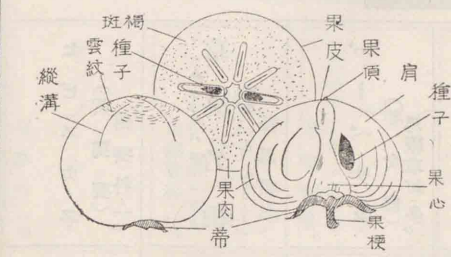
富有 (10月下) 御所 (11月よ一申) 磐石御所
 へたの所に早くさぶがいでさく
 皮をむく多くせんむりにくい。
 焙至 つくし柿 平核無 (10月一十) 津

第一章 秋の果物

一、柿

柿樹科

柿脱澁の原因
 柿果の澁味はタンニンの存在によるものでその脱澁甘變するものは細胞内の蛋白質とタンニンとが結合沈澱するからで、従来説かれた如く原形質の死滅や酸化酵素の作用によるものではない。寧ろ細胞の生存と酸素の缺乏とを条件とする生活現象の結果で、細胞の生活に際し酸素が缺乏すれば分子間呼吸に依つてエネルギーを得、糖分を分解消費して炭酸瓦斯と酒精を生じ、また同時に副産物としてアルコールヒド、アセトール等を生成し、これ等はタンニンに沈澱凝固を促進する。人工的に酒精炭酸瓦斯湯温食鹽・木灰汁等によつて脱澁する柿も亦酸素を缺乏させて分子間呼吸の促進に外ならぬ。

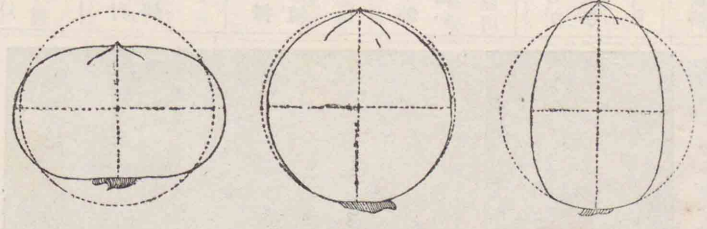


柿 各 部 の 名 稱

柿の葉の日ごとに黄ばんでさらさらと落ちる様は一しほ秋思を深くし累々たる朱黄色の果實のひとり残されたのは淋しくもまた美しい秋の景趣である。柿は我が國並びに中華民國特産の果樹で、古來我が國到る所に産し、宅地或は畑の周圍などを利用して栽培されたが、最近優良種が作出されてから園地に栽培するものが増加した。

甘柿は専ら生食用とし、澁柿は乾柿、柿餅、柿熟柿等として脱澁後食用とし、或は菓子や柿澁塗料などを作る。

柿 の 果 形



形圓扁 形圓 形圓長

手入 以前尾 果實ヲ收穫スル際ハ枝ニ株 以 肥料 2-3月 果實收穫後 以 病虫害ノ予防 6月 8月 9月 10月 11月 12月 肥料

皮美しく光澤に富み色澤はなるべく赤味の強いものがよい。外皮暗色を呈するものや斑點や損傷のあるもの、種子の多いもの、果肉に褐斑の多いもの等は良品でない。

施肥標準量 (一阿七本)

樹齡 窒素 磷酸 加里

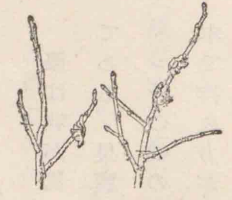
二年	〇・三三	〇・三三	〇・三三
三年	〇・四五	〇・四五	〇・四五
四年	〇・六〇	〇・六〇	〇・六〇
五年	〇・七五	〇・七五	〇・七五
六年	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇
八年	一・三一	一・三一	一・五七
二年	一・五〇	一・八七	

施肥量例 (一〇年生一阿七本)

大豆粕	三疋
糠	二疋
人糞	一八疋
堆肥	五六疋
木灰	四疋

結果期 柿は五-六年目から結果し、一五-三五年位が最も收量多い。

第一五章 秋の果物



定剪の枝果結

柿苗は三四月ごろ居接によつて實生共砧に切接または割接を行ひ、六七米の距離に植付けて幹は六〇糎内外で剪定し、短幹或は中幹自然形に整枝する。

柿は前年生の充實した枝の頂芽またはこれにつぐ二三芽から結果枝を生ずるものであるから、種枝は三〇糎以上に伸びた強いものの外は先端を剪定しないやうにし、過剰の種枝徒長枝等は基部三四芽を残して剪定し種枝の發生を促して隔年結果を防ぐ。

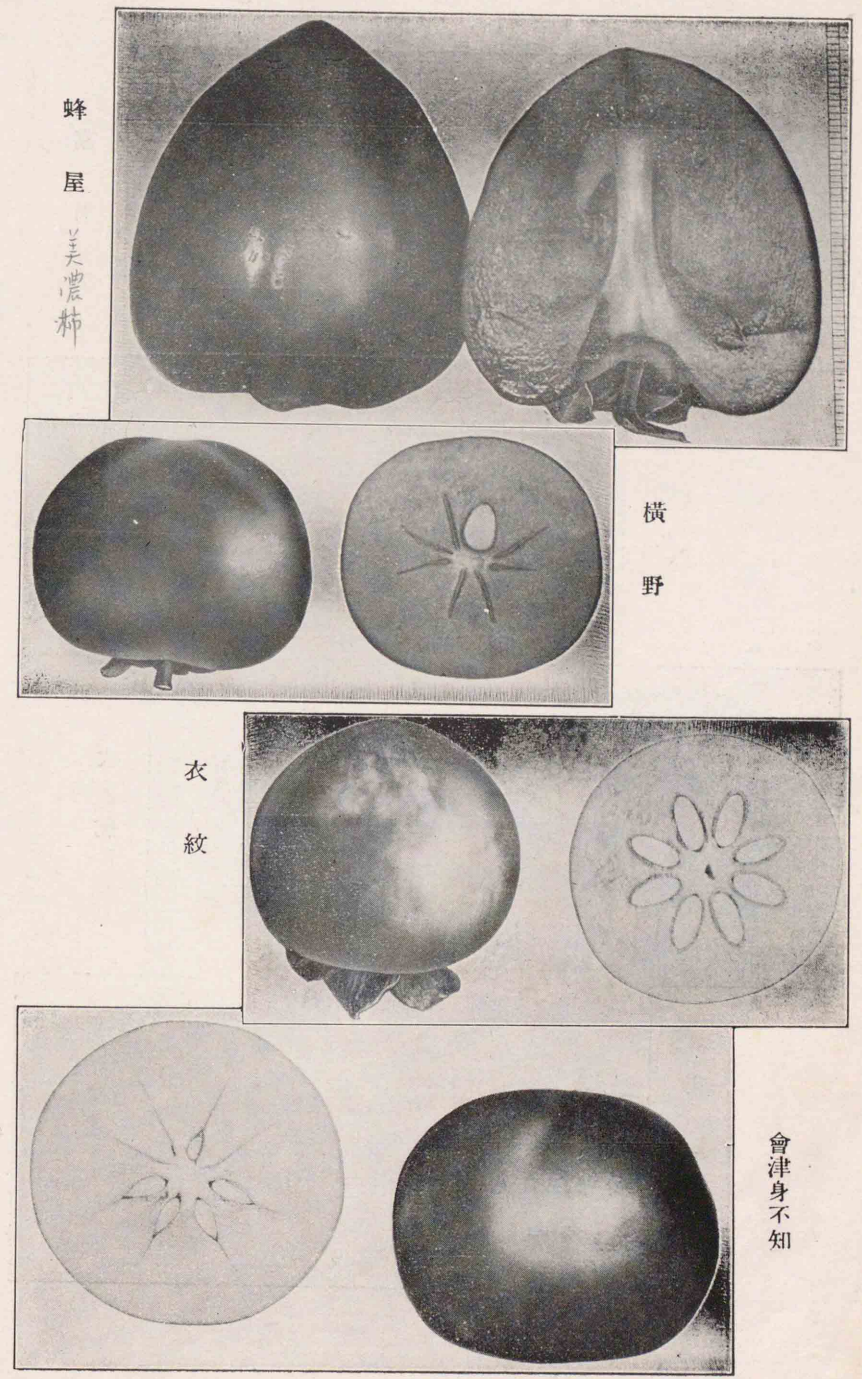
肥料は二三月ごろに施し常に榮養をよくして隔年結果を防がねばならぬ。中耕除草は二三回行ひ、柿實蟲の多い地方では果實に袋掛けをする。

〔病蟲害〕 柿炭疽病、黒星病、落葉病。柿實蟲、帶蟲、刺蟲、蠟蟲等。

品名	成熟期	果形	果皮の色	種子	品質	收量	備考
富次郎	一〇月末	扁形	濃紅色	少	最上	多	甘柿
蜂屋	一〇月末	長形	橙黄色	少	最上	多	甘柿
會津身不知	一〇月末	扁形	朱黄色	少	最上	多	甘柿
		扁形	朱黄色	少	最上	多	乾柿用
		扁形	朱黄色	少	最上	多	乾柿用

〔栽培〕 柿は殆んど風土を選ばぬが温暖で排水のよい壤土、壇土に良品を産し、寒地または濕地では脱澁困難であるから甘柿の栽培には不適當である。

(1/2) 柿の品種



蜂屋

横野

衣紋

會津身不知

栗はその原産地によつて日本種、歐洲種、米國種、支那種に大別する。我が國で栽培されて居るのは日本種であるが、近年支那種も多少栽培されるやうになつた。

栗の花の子房は概ね六個づつの種子を含んでゐるが、その中たゞ一個だけが成熟して果實となり、他は萎縮して終るのが常である。また一花内の三箇の子房の中、全部或は一、二個だけ成熟することがある。

栗の見分け方

果實豊潤でよく充實し、形整ひ外皮鮮麗で光澤に富み、損傷、蟲孔などないものがよい。色澤の悪いもの、果皮に皺のあるもの、蟲孔があつて蟲糞の漏出してゐるもの、重量の軽いもの等は劣等品である。

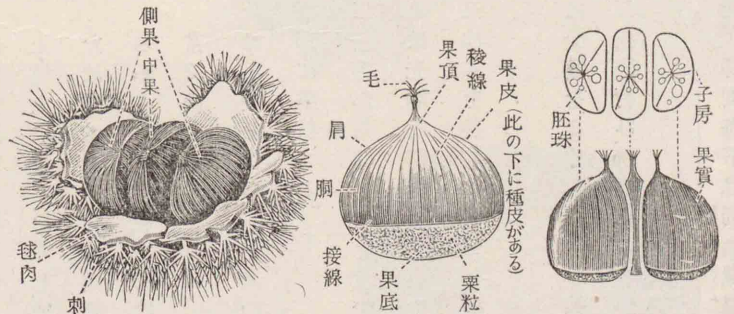
二、栗

穀斗科

栗は我が國各地の山野に自生し、又廣く栽培されてゐる。果實は茹で或は焼いて食用とする外、キントンその他の料理、罐詰、乾果菓子用とし、その材は堅牢で持久力が強いから鐵道枕木や支柱にされる。

品 種	成熟期	果形	大小	果皮の色	品質	收量
豊多摩早生	八月下旬	尖る	小	淡褐色	中等	中
大正早生	八月下旬	豊圓	大	淡褐色	上等	中
盆 栗	九月上旬	尖る	中	淡褐色	中等	中
銀 寄 栗	九月下旬	豊圓	大	濃褐色	最上	多
霜 被 栗	一〇月下旬	豊圓	大	稍々濃褐	最上	多

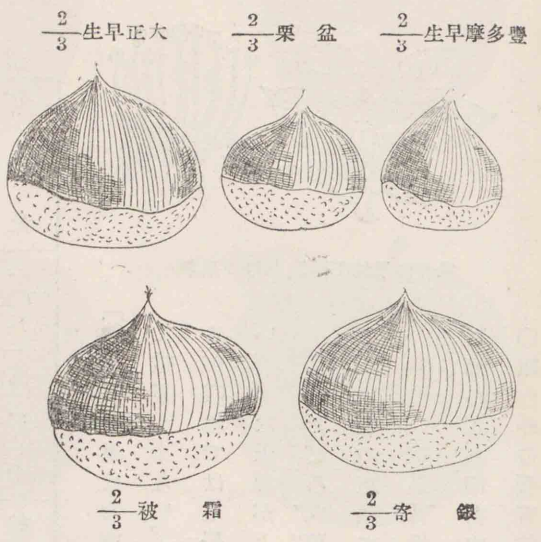
〔栽培〕 栗は殆んど風土を選ばぬが、乾燥と風害には弱く、壤土または礫質の壤土に最も良品を産す。苗木を仕立てるには三月四月上旬居接によつて切接を行ひ、五、六米の距離に植付けて中幹自然形に仕立てる。



栗の果實と各部の名稱

栗の施肥量

(五年生一阿)
 人糞尿 四〇瓩
 大豆粕 二二瓩
 過燐酸石灰 一一瓩
 (一〇年生一阿)
 人糞尿 八一瓩
 大豆粕 四五瓩
 製蒸骨粉 二二瓩
 過燐酸石灰 三七瓩
 (一五年生一阿)
 大豆粕 九四瓩
 肉骨粉 五六瓩
 過燐酸石灰 一八瓩
 木 灰 七五瓩
 三要素の施用標準量は大體柿に準ずる。
 基肥は二、三月、補肥は六、七月に施すのであるが、二、三月に全部施してもよい。



〔病蟲害〕

栗胴枯病、栗象蟲、天牛、蚜蟲等。

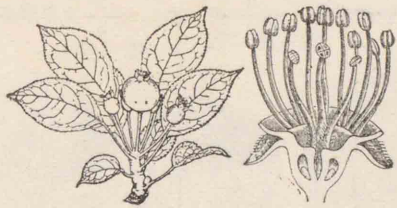
三、苹 果

紅色の鮮かな苹果はただに美しいばかりでなく、滋養に富みかつ消化を助ける效がある。苹果も主として生食用にされるが、苹果酒、罐詰ジャム、ゼリー、乾果菓子など

苹果は我が國へは明治初年に輸入され極めて新しい果樹であるがその果實は美しくかつ美味で滋養に富み消化を助け保健上効果が多ク、ビタミンABCの各少量を含み、貯蔵力も強いので需要多く最近では産額も増加し、なほ年々浦鹽方面その他に五〇萬圓内外輸出して居る。苹果は東北地方、北海道、長野縣及び朝鮮では極めて有望であるが暖地では枝が徒長して結果不良に陥り易いから必ず早生種を選び、かつ剪定や断根、輪狀剥皮などして成長を抑制するがよい。

苹果の見分け方

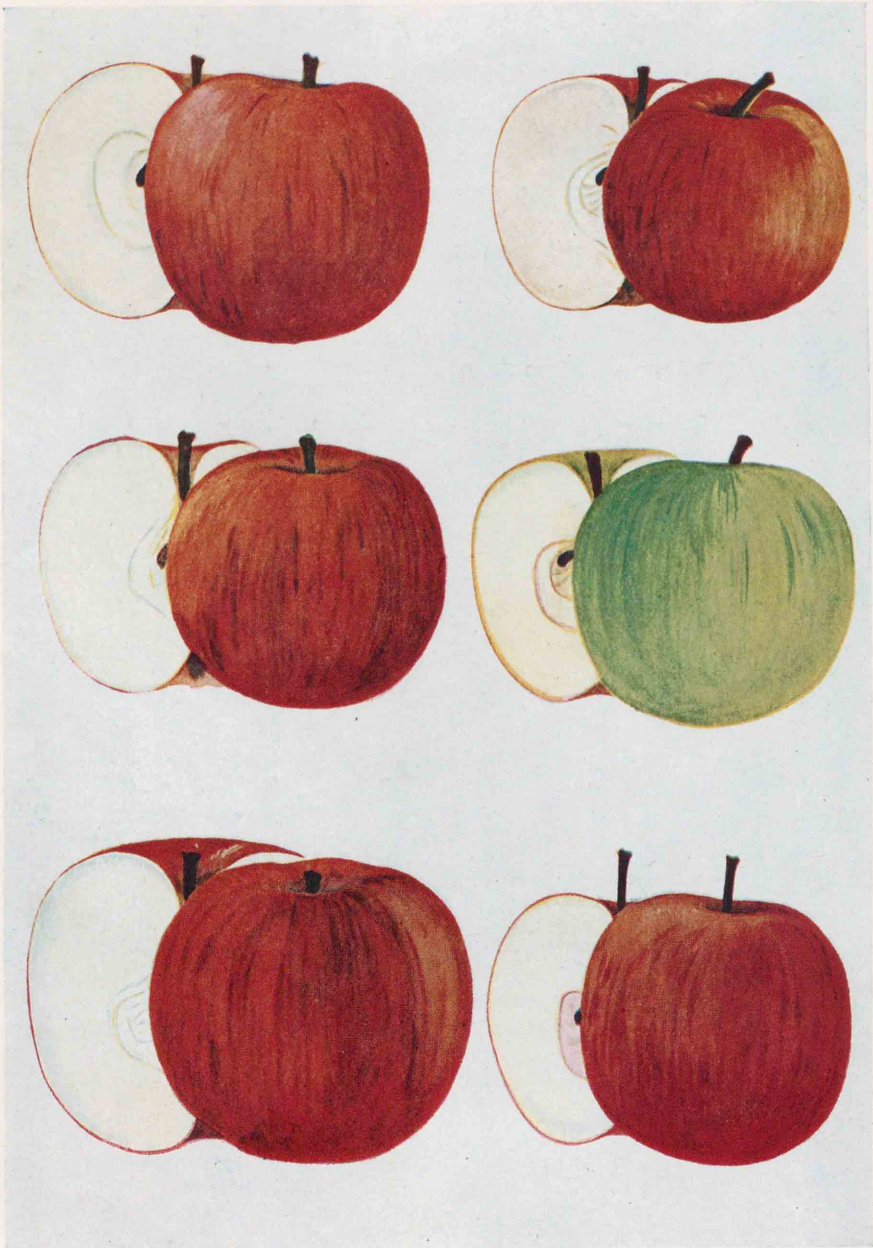
形正しく芳香に富み外皮鮮麗で光澤に富み實がしまつてゐて目方の割合に重いものは上等で、皮果に皺があつたり黒點や凹みのあるものは品質が劣る。



様有の果結と斷縦の花の果萃

〔栽培〕 苹果は冷涼で乾燥な氣候を好み、暖地では枝梢が徒長して結果が少ない。土質は排水良好で肥沃な壤土砂壤土に適するが暖地では成長を抑制するため砂礫を含んで有機質に乏しい瘠薄な土地がよい。
 二三月ごろ丸葉海棠の砧に切接して苗を育て二三年生苗木を五六米の距離に植付けて半圓形短幹自然形棚作りとする。
 苹果の結果習性はほぼ梨と同様である。六月ごろ枝の先端を摘心し、冬期剪定の際に徒長枝や密生枝を基部から剪定し、三〇厘内外の發育枝はそのまま残し、それ以上長いものは七八芽

種品の果萃



紅玉

國光

倭錦

紅魁

祝(中成子)

旭

(圖原者著)

にもされ、ことに晩生種は貯蔵がきくので秋から冬にかけて需要が多い。

品名	成熟期	果形	大きさ	果皮の色	品質	収量	備考
紅魁	七月	圓形	中	紅色に深紅條	中等	多	暖地に適す
祝(中成子)	八月	長圓形	中	綠黄色	上等	多	暖地にも適す
紅玉	一〇月	圓形	中	深紅色	極上等	中	貯蔵に堪へる
國光	一〇月	圓形	中	綠黄色に赤條	上等	多	貯蔵に堪へる

みかん

○ワシントンネーブル(廣島に産す、最近日本に、米國から入つてきた)

○ほんかん(台湾)

○夏みかん(山口縣、萩-名産)

○ザボン(文旦、琉球、台湾の産)

○レモン(清凉飲料、化粧品
伊太祁原産、日本では、最近天草辺に産す)

○ダクダク

○温州(支那抗州湾の南の方にある地名より)
日本一番、種がよい、味は植物学上美味からず、
輸出する、和歌山縣多し。

樹齡 窒素 磷酸加里

樹齡	窒素	磷酸加里
二年	〇〇五	〇〇五
三年	〇〇八	〇〇八
四年	〇〇一	〇〇一
五年	〇〇一	〇〇一
六年	〇〇二	〇〇二
七年	〇〇三	〇〇三
八年	〇〇四	〇〇四
九年	〇〇六	〇〇六
〇年	〇〇七	〇〇七
一年	〇〇八	〇〇八
二年	〇〇九	〇〇九
三年	〇一〇	〇一〇
四年	〇一一	〇一一
五年	〇一二	〇一二
六年	〇一三	〇一三
七年	〇一四	〇一四
八年	〇一五	〇一五
九年	〇一六	〇一六
〇年	〇一七	〇一七
一年	〇一八	〇一八

(一〇年生一阿三本植)

大豆粕 一三三
過磷酸石灰 五三
木灰 一二五
結果期 五-七
年位が最も收量が多い

で剪りつめる。短果枝が出ればその一二芽上で剪定し、また暖地では成長を抑制するために、五六月ごろ幹或は主枝の基部を輪状剥皮するか、早春断根するがよい。

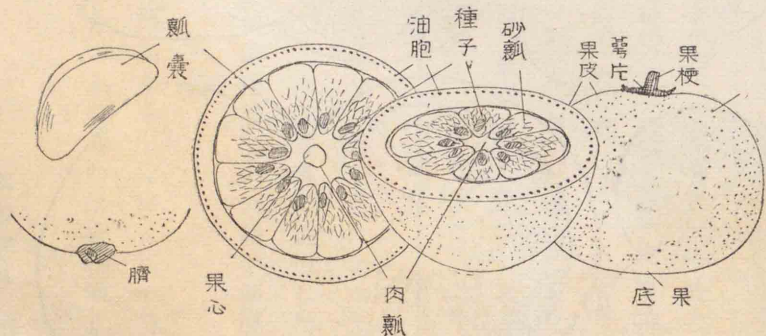
基肥は早春發芽前に、補肥は六七月ごろに施す。中耕除草は春から夏にかけて三四回行ひ、また摘果は五六月ごろに二三回行つて袋掛けする。

〔病害蟲〕炭疽病菌核病褐斑病腐爛病、綿蟲介殼蟲類葉捲蟲姬心喰蟲天牛野蟲等。

四、柑橘類

芸香料

柑橘類は古くから栽培され産額も果樹類中で一番多し。果實は外觀風味共に優れ、かつ永く貯藏に耐へ、ことに夏橙は翌年夏季まで貯藏される。主として生食するが、罐詰、ジャム、ゼリー、蜜柑酒、菓子等にも加工する。

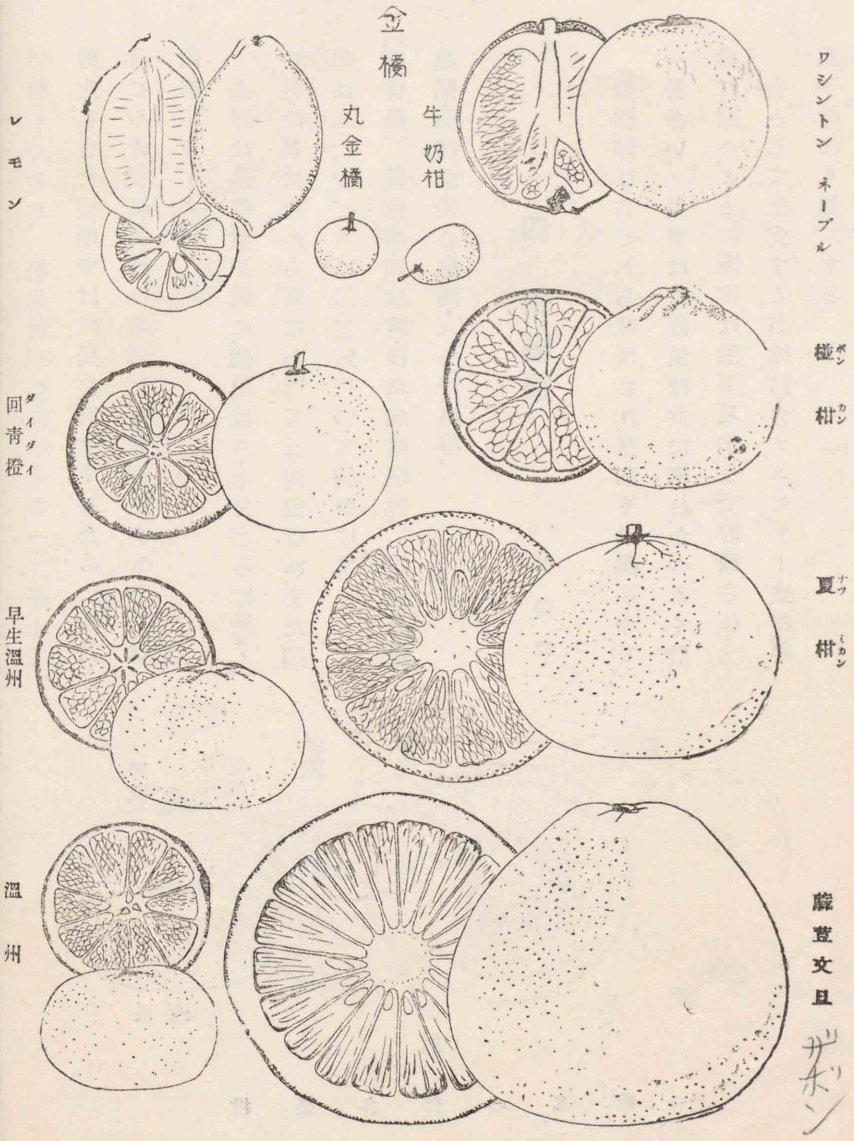


柑橘果各部分の名稱

柑橘類とは芸香料柑橘類の総稱で、種類甚だ多く、印度、中華民國、東南亞細亞及び馬來半島等の原産で我が國でも一〇〇餘年前から栽培され、その産額も甚だ多く果樹類中第一位を占める。

柑橘類は種類甚だ多くこれが分類は困難であるが現今栽培されてゐるものは次の如くである。

- 一、蜜柑類(温州等)
- 二、甜橙類
 1. 脐橙類
 2. 血蜜柑類
3. 地中海系甜橙類
4. 西牙班系甜橙類
- 三、酸橙類(回青橙等)
- 四、文旦類
- 五、柚類
- 六、金橘類
- 七、梨檬類(レモン)
- 八、枸橼類(シトロン)
- 九、ライム類
- 二、雜柑類(夏橙等)



柑橘類中で最も産額の多いのは蜜柑(六四%)で、夏柑(一〇%)、ネーブル(六%)、オレンヂ(六%)及びその他種々あるが將來有望なものは以上の三種である。

蜜柑にはグイタミンCの多量、夏橙には同Aの少量とCの多量、オレンヂには同Aの少量とBのやや多量、Cの極めて多量、Bの少量、レモンには同Bのやや多量とCの極めて多量を含む、また種々の薬效もある。

柑橘類の見分け方
形が正しくて大きく果皮薄く外皮は滑らかで所謂細皮をなし色澤は鮮やかな橙黄色を帯びて光澤に富み大ききの割合に目方の重いもの程品質が上等である。一般に色合は赤味の強いもの程甘味強く黄色のもの程酸味強く外皮に皺あるものは汁液少く品質も劣る。



柑橘類の葉

〔栽培〕 柑橘類は温暖な氣候を好み乾燥で日照多高温な地方に産したものは果皮薄く滑かめで美しく、香氣と甘味に富み品質上等である。

土質は肥沃で排水のよい壤土砂壤土に適す。

品種	成熟期	果形	果皮の色	種子品質	收量
温州	一二月	扁圓形	大	濃橙黄色	無最上多
早生温州	一〇月	扁圓形	大	橙黄色	無最上多
夏橙	三六月	扁圓形	大	黄色	多中等多
回青橙	一二月	圓形	大	橙黄色	多下等中
藤萱文旦	三月	尖圓形	最大	黄色	中最高上中
ワシントン	一二月	短橢圓	大	橙黄色	無上等多
ネーブル	一二月	短橢圓	大	橙黄色	無上等多

苗木を仕立てるには、四月上旬ごろ居接によつて枳殼または柚の實生砧に切接し、二三年間苗圃で養成した後、本圃に五六米の距離に植付け、短幹自然形で大體半圓形に整枝する。

柑橘類は前年生の枝種枝の頂芽もしくはこれにつぐ二三の腋芽が伸びて結果枝となるから、他の果樹の如く枝の先端を剪定してはならぬ。

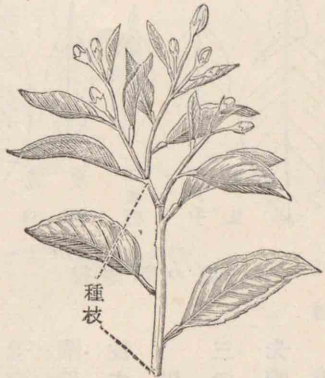
柑橘類の成木に對し剪定を行ふには先づ懷枝枯枝下垂

温州蜜柑施肥標準量 (一阿六本植)

樹齡	窒素	磷酸	加里
六年	〇・三三	〇・三三	〇・三三
七年	〇・四五	〇・四五	〇・四五
八年	〇・五六	〇・五六	〇・五六
九年	〇・六七	〇・六七	〇・六七
十年	〇・七八	〇・七八	〇・七八
十一年	〇・九〇	〇・九〇	〇・九〇
十二年	一・〇一	一・〇一	一・〇一
十三年	一・一二	一・一二	一・一二
十四年	一・二三	一・二三	一・二三
十五年	一・三三	一・三三	一・三三
十六年	一・四五	一・四五	一・四五
十七年	一・七二	一・七二	一・七二
十八年	一・八七	一・八七	一・八七
十九年	二・〇二	二・〇二	二・〇二
二十年	二・一七	二・一七	二・一七
二十一年	二・三二	二・三二	二・三二
二十二年	二・四七	二・四七	二・四七

ワシントン、ネーヅルに二割増施する。

結果期
 枳殻砧の蜜柑は六―七年目から結果して二〇―三〇年が最も收量多く、柚砧のものは八―一〇年目から結果して最盛期は三〇―六〇年である。



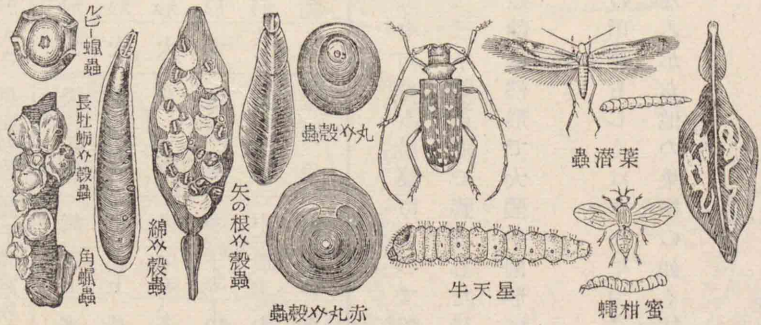
枝果結と枝種

枝等はこの剪定し、夏梢秋梢徒長枝等も成るべく發生の初期に適當に除去する。結果母枝の中織弱なものは適宜

間截し、直立して太過ぎるものは基部から剪除する。枝梢が密生するときは二三年生の太い枝梢を基部から切戻し、樹の内部に陽光と空氣の透通を計る場合がある。

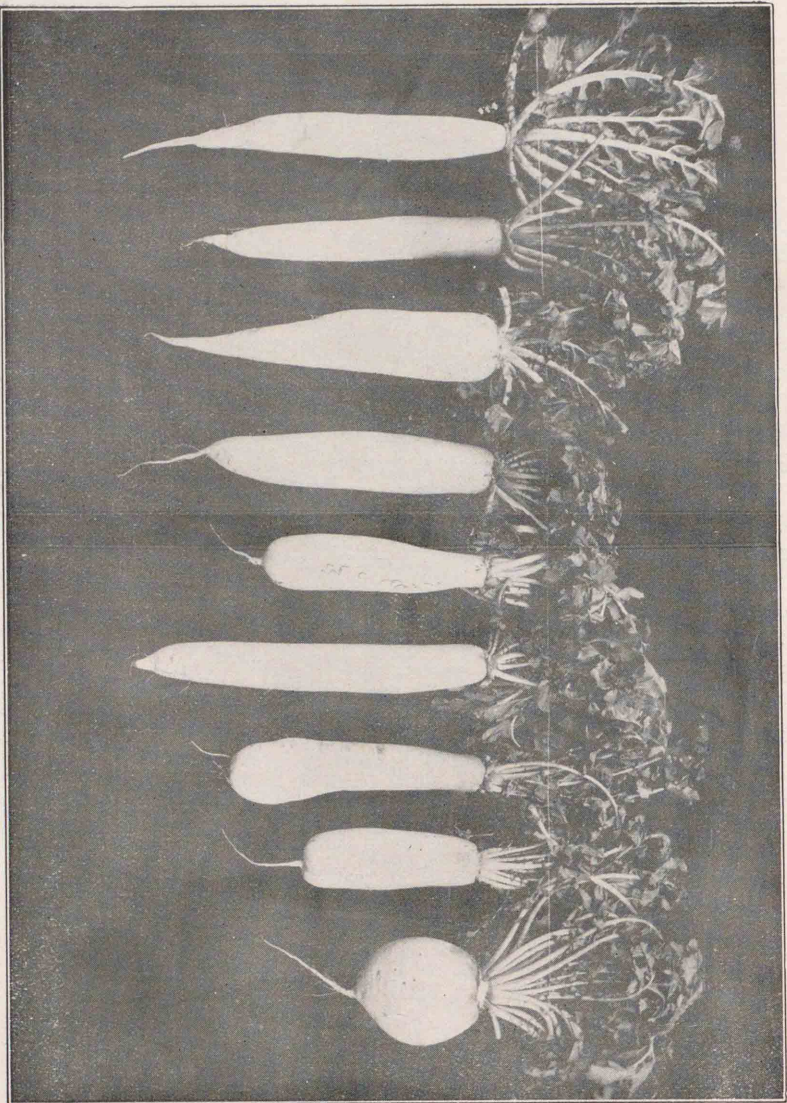
基肥は二三月ごろ、補肥は九月及び果實收穫後に施し、早魃寒害及び雜草の繁茂を防ぐため夏季と秋季に根元に敷薬を與へ、果實收穫後淺く中耕する。

〔病虫害〕 瘡痂病潰瘍病褐色圓星病煤病。葉潜蟲蜜柑蠅星天牛粉蝨介殼蟲類蚜蟲等。



柑橘類の害虫

種品の販菜



- 練馬 (尻細)
- 宮重 (尻細)
- 方領
- 箕島
- 天満
- ウグロ
- 小田部
- 白上り
- 聖護院



の生晩生中生早で産特の村島櫻西縣島兒鹿は根大島櫻
○四量重半米一圍周で大巨だ其は種生晩。るあが種三
るあがのもるす蓬に距

根菜類

根を食用にするものを根菜類といひ、菜菔、胡蘿蔔、牛蒡等の如く直根を用ふるものと甘藷、薯蕷等の如く塊根を用ふるものによつて直根類と塊根類とに區別することがある。根菜類は概ね晩秋から冬季に收穫するから冬蔬菜ともいふ。菜菔は滋養分は少いが極めて多量のビタミンCと少量の同Bを含み、かつ消化酵素アスターゼを含むから消化を助け健胃の效がある。葉の乾燥したヒバを風呂に入れた干葉湯は身體を温め、また大根汁は墨、インキの汚點を除き、種子は利尿の效がある。

第一六章 根菜類

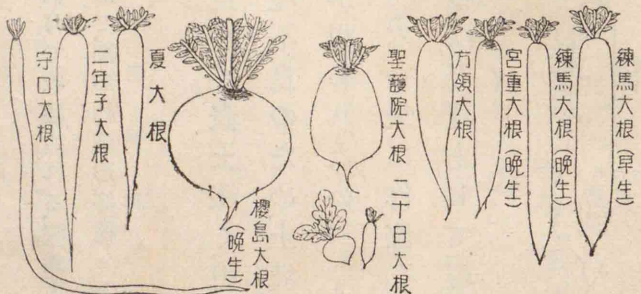
一、菜菔 (大根蘿蔔すすしろ)

〔性状用途〕 菜菔は根部が著しく肥大發達し、煮食漬物切干等の外、生食すれば辛味多いため香辛料に代用され、その需用甚だ多く、菘類と共に最も重要な蔬菜である。

〔品種〕 菜菔は通常次の四種に大別する。

- 一、秋大根 八九月頃播種して晩秋から冬季にかけて收穫され、最も普通に栽培されるもので、練馬大根、早晩宮、重大根、早晩方領大根、聖護院大根、櫻島大根、早晩等は優良種である。
- 二、春大根 晩秋播種して春季收穫するもので、二年子大根、龜戸大根、春福大根等は優良種である。
- 三、夏大根 春季播種して夏季から初秋に收穫する

十字花科



種 品 の 菘 菜

葉腺の見分け方
 外皮が滑かで白くさくして光澤に富み、鬚根少くかつその窪みの浅いものがよい、外皮の粗糙なもの、光澤のないものは過熟の兆で、さげ目のあるものやたたいて見て濁音の發するものは中に空洞があつて肉質も粗糙で不良品である、青首と稱し首部の綠色を呈する品種は甘味が多い。

栽培要項

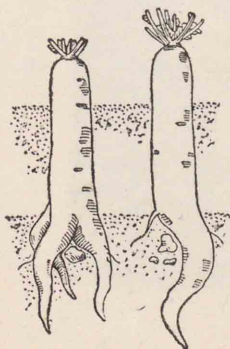
播種期
 秋大根 八月下旬—九月中旬
 春大根 九月下旬—一〇月上旬
 夏大根 五月—六月
播種量(一阿)
 〇〇六—〇一立
肥料(一阿)
 基肥 七五匁
 油粕 四匁

もので夏大根美濃早生大根等は良種である。
 四時無大根 嚴寒の時期を除けば四時播種され、一二月で收穫される時無大根細根大根二十日大根等はこれに屬し、二十日大根は小形で、圓形紡錘形等種々あり、色澤も白赤黄紫など種々ある。

〔氣候土質〕 冷涼な氣候を好み土質は排水良好で表土深く、肥沃な砂壤土または壤土に適し、粘重な土壤や整地不良のため、土塊や石礫の混ざる土壤では、岐根を生じ易く良品が得られない。

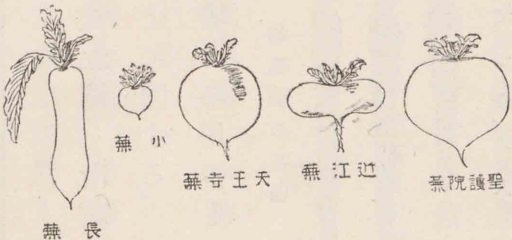
〔栽培〕 畑は深く耕して町嚙に整地し、畦幅〇六一米に作條して基肥を施し、その側に條播または摘播し、一二糎ほど覆土して軽く鎮壓する。發芽後は三四回間引及び中耕。除草並びに補肥を施し、秋大根は最後の間引の際に株間を三〇四〇糎とする。

收穫期は品種や播種期用途などによつて異なるが早採すれば收量少く、遅過ぐれば外皮や肉質硬化し、かつ空洞を生じ易いから充分發育すれば



根の生長する様

蕪菁の品種



發芽後は二三四回間引中耕除草並びに補肥を施す。

適宜に採收する。

〔病蟲害〕 十字花科植物の腐敗病根瘤病白銹病。さるはむしかぶらはばち、螟蛉、紋白蝶の幼蟲、夜盜蟲、蚜蟲等。

〔附〕 蕪菁

〔性狀用途〕 蕪菁も十字花科の根菜で、根部は著しく發達して柔かく、甘味に富み佳香を有し、煮食漬物によい。

〔栽培〕 蕪菁も冷涼な氣候を好み、肥沃な壤土砂壤土に適する。蕪菁は菜菔のやうに深根でないから深耕の必要はないが、町嚙に整地して土塊を碎き、畦幅六〇糎位に作條して基肥を施し九月上中旬頃條播または摘播する。

二、胡蘿蔔

繖形科

〔性狀用途〕 胡蘿蔔の根は柔軟で甘味と芳香に富み、かつ滋養分多く、煮食、食品スープ等に供せられ、嫩葉は浸し物によい。

過磷酸石灰 二匁
 木灰 二匁
 人糞尿 三七匁
 補肥(三—四回) 一二〇匁
 人糞尿 一二〇匁
收穫期
 秋大根 一一—一月
 春大根 四—五月
 夏大根 七—九月
收量(一阿)
 二五〇—五六〇匁

(觀察)
根の變態
 紡錘根 例 ダイコン
 蕪菁根 例 カブ
 圓錐根 例 ニンジン
 塊根 例 サツマイモ
莖の變態
 塊莖 例 ジャガイモ
 球莖 例 サトイモ
 根莖 例 アサビ
 鱗莖 例 ユリ

胡蘿蔔は甘蔗糖を含むから、根菜類では最も甘味が強い。滋養分も多く、やや多量のゲイタミンABCを含み消

化し易いから衰弱者、貧血症の人に精力を増す。

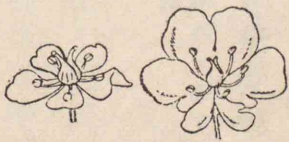
胡蘿蔔の見分け方
根身がよく肥大して、根少くかつその窪みが淺くて外皮は滑かて赤味強く光澤に富み莖のつけ根のしまつたものは上等で、外皮の粗澁なものや切つて見て莖の大きいものは肉質粗澁でかつ硬い下等品である。

栽培環境

播種期
冬用 六月—七月上旬
春用 八月下旬—九月
毛取 〇四—〇六立
毛付 〇八—一立
肥料(一阿)
基肥
堆肥 七五瓩
油粕 二瓩
過磷酸石灰 二瓩
木灰 四瓩
人糞尿 三七瓩
補肥(二—三回) 七五瓩
人糞尿

品種	形	状	長短	色澤	品質	熟期	收量
瀧ノ川人參	棒状	甚長	橙黄色	上	晚	多	
札幌人參	長圓錐形	長	濃橙黄色	上	中	多	
金時	長圓錐形	稍長	深紅色	上	晚	多	
三寸人參	鈍圓錐形	短	橙黄色	上	早	中	

花の胡蘿蔔



花序の周囲の花

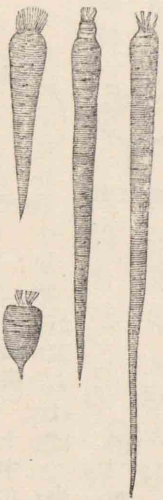
花序の内方の花

〔氣候・土質〕 冷涼な氣候を好み、土質は表土が深くて排水良好な砂壤土に適する。

〔栽培〕

冬用のものは六七月播種して一月から二三月に收穫し、春用のものは八九月に播いて四月に收穫するが、三寸人參の如き早生種は嚴寒の候を除けば隨時播種することができる。

右より瀧の川人參 札幌人參 金時 下は三寸人參



胡蘿蔔の品種

本圃は丁寧に整地して畦幅四

收穫期

冬用 一一—三月
春用 四—五月
收量(一阿) 一五〇—三〇〇瓩

〔實験〕

胡蘿蔔の赤や黄色を呈するのはカロチンといふ色素を含むからでカロチンは酒精に溶解するから胡蘿蔔の切片を酒精中に入れて加熱すれば脱色する。牛蒡は纖維が多くてやや粗硬であるが滋養分多くその主成分はイヌリンといふ炭水化合物である。

三、牛蒡

藥料

五六〇糎に條播し、薄く覆土して鎮壓した後、その上に藁稈を覆ふて乾燥を防ぎ、發芽後は二—三回間引、中耕除草並びに補肥を施す。

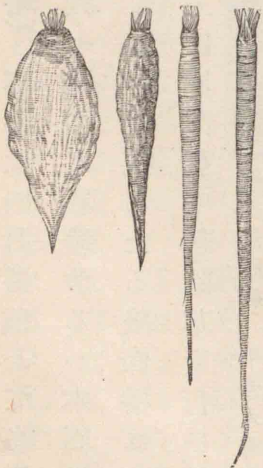
〔病蟲害〕 胡蘿蔔腐敗病褐斑病。黄アゲハ、椿象、蚜蟲等。

〔性状用途〕 牛蒡の根は肉質粗澁であるが風味よく、主とし煮食用とする。

〔氣候・土質〕 牛蒡は溫暖濕潤の氣候を好み土質は表土深くやや緊つた壤土に最も適する。

右より瀧の川牛蒡 砂川牛蒡 梅田牛蒡 大浦牛蒡

種品の牛蒡



品種	形狀	品質	收量	備考
瀧ノ川	甚細長	上	多	有望である
砂川	細長	中	中	空洞を生じ易い
札幌	細長	上	中	有望である
梅田	稍太	中	多	空洞を生じ易い

牛蒡の見分け方
外皮が薄くて滑らかで、鬚根が少くかつ形が整つて尻の急にとがらないものが良く皮の厚いものは肉が硬い。

栽培要項

播種期 冬牛蒡 四月
夏牛蒡 九月
播種量(一阿) 〇二立

肥料 堆肥 七五瓩
大豆粕 五瓩
過磷酸石灰 三瓩
木灰 四瓩
人糞尿 三七瓩
補肥(二回) 三七瓩
人糞尿 七五瓩

收穫期 冬牛蒡 一〇―三月
夏牛蒡 六―七月
收量(一阿) 一八〇―二〇〇瓩

馬鈴薯は澱粉に富むから栄養価高く、ビタミンB Cのやや多量と同Aの少量を含む。繊維も多いため便秘を防ぎ、また搾汁は洗濯の際に石鹼の代用となる。馬鈴薯の見分け方は形が整って芽が浅く外皮は滑らかで薄く

〔栽培〕 春播は四月播種して冬季收穫し、秋播は九月播種して翌年の六七月頃に收穫する。本圃は深く耕して整地し、畦幅六〇糎として基肥を施したる後、條播または摘播株間三〇糎する。發芽後は三四回間引、中耕、除草を行ひ、補肥は二回に分施する。
〔病蟲害〕 牛蒡菌核病、黒斑病、牛蒡大象蟲、牛蒡擬葉捲、蚜蟲等。

四、馬鈴薯 (じゃがいも)

茄科

〔性状用途〕 馬鈴薯の塊莖

は澱粉に富み、煮食、蒸食に適するばかりでなく、澱粉や酒精の原料にもなる。
〔氣候土質〕 冷涼な氣候を好み、土質は排水のよい砂壤土に適する。



馬鈴薯

つ色の淡いものは上等で、外皮の厚いものは肉が硬く芽の深いものは調理に不便である。

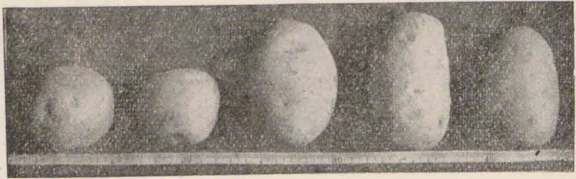
栽培要項

植付期 春作 二―三月
秋作 七―八月
植付量(一阿) 一〇―一五瓩
肥料(一阿) 七五瓩

基肥 堆肥 七五瓩
大豆粕 四瓩
過磷酸石灰 四瓩
木灰 一〇瓩
人糞尿 三七瓩
補肥(二回) 六〇瓩
人糞尿 六〇瓩

收穫期 春作 六―七月
秋作 一〇―十一月
收量(一阿) 一五〇―三五〇瓩

馬鈴薯の品種

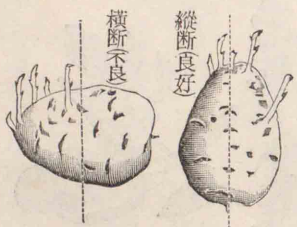


赤崎長 白形丸生早 キシノアエ ンカリメア ーリーア
ーダンワ ズーロ

品名	種類	形状	大小	芽の深	外皮の色	品質	收量
アーリーローズ	扁平長橢圓	中	中	中	淡紅	中	中
スノーフレイク	長圓形	中	中	淺	黃褐	上	中
アメリカンワンダー	扁平橢圓	大	大	淺	黃	上	中
長崎赤	圓形	大	大	甚深	紅	中	多

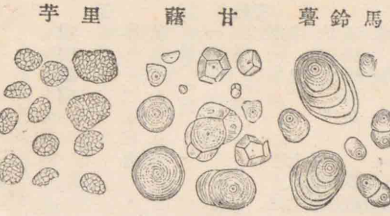
〔栽培〕 春作は二三月、秋作は七八月頃、畦幅六〇糎、株間三〇糎内外の距離に種薯を一個づつ植付けて一〇糎ばかり覆土する。種薯は中等大のものを縦に切り、断面に木灰を塗抹する。

發芽して莖が一五糎内外に成長すれば除薬して一本立て或は二本立てとし、補肥を施して中耕除草及び土寄せを行ひ、花蕾を生ずれば速か



方り切の薯種

〔實驗〕
 一、馬鈴薯・甘藷・里芋などをすりつぶして水に入れ津と上水とを捨てて乾かせば澱粉がとれる。
 二、澱粉を顕微鏡で見ると單粒と複粒がある。
 三、澱粉は冷水に溶けないが水中で七〇度加熱すれば細胞膜が破れて糊になる。
 四、澱粉を薄い酸と共に熱すれば糊精を生ずる。糊精は印紙や封筒の糊附けに用ひられる。

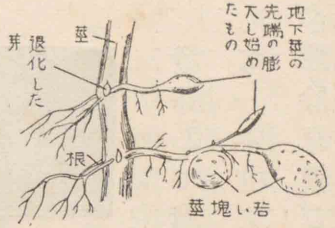


甘藷は澱粉に富みかつ四〇内外の葡萄糖を含むから甘味が多い。やや多量のダイオキシンA・B並びに同Cの微量を含み副食物、主食物に適し纖維が多いので腸を整へ便通をよくする效がありその他加工用としても用途が廣い。
 甘藷の見分け方
 形や色は品種によつて異なるが大體中等大で外皮滑かに皮薄く光澤に富み切つて見て肉質のしまつたやや黄色味を帯びたものは上等である。
 芋も澱粉に富みダイオキシンAの少量と同Bのやや多量を含む。酸味のあるのは碳酸石灰を含むため熱または酸にあへば分解する。芋は馬鈴薯・甘藷と同じく栄養價高い。

方畚植の苗藷甘



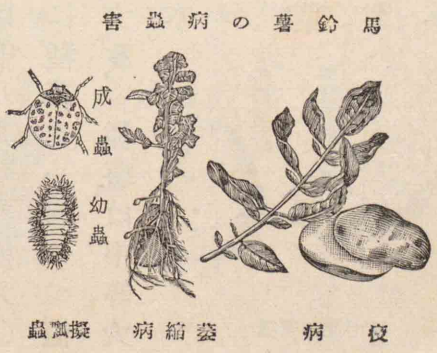
植斜 植底船 植針釣



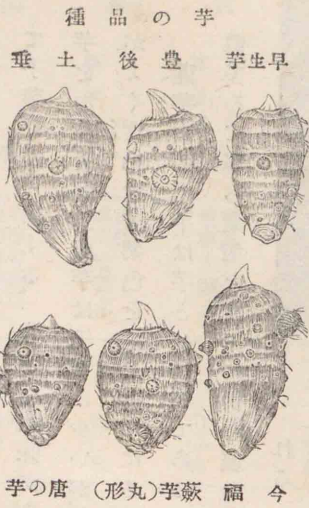
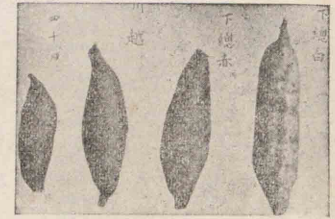
態狀の成形莖塊

〔附〕
 甘藷(さつまいも)

にこれを摘除して塊莖の發育をはかるがよい。
 〔病蟲害〕 馬鈴薯疫病・復疫病・萎縮病・瘡痂病。
 擬瓢蟲(アザミヤクモ) 大ニニ星瓢蟲(アザミヤクモ) 蚜蟲等。
 〔性状用途〕 甘藷は旋花科の蔓性草本で、その塊根は養分に富み、蔬菜として用ひられる外、澱粉酒・精餾糖などの原料にされる。
 〔栽培〕 甘藷は温暖な氣候を好み、排水の良好な砂壤土に適する。甘藷の品種も尠くないが、蔬菜用としては川越下總白下總赤四十日高須などが優良である。
 苗を仕立てるには三月上旬頃、中等大の種薯を選び温床内に並べて半ば床土中に埋め、その上に粗藪を覆ふ。五月上旬



種品の藷甘



五、芋 (さつまいも)

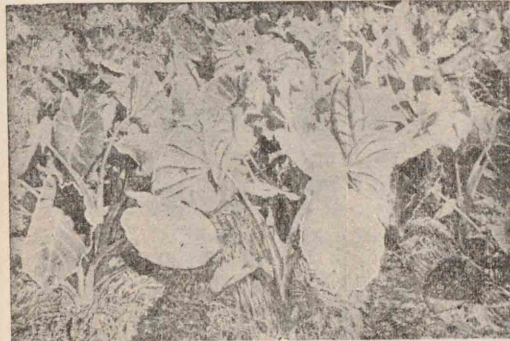
天南星科

〔性状用途〕 芋の球莖は澱粉を多く含み、粘氣があつて美味である。主として煮食・蒸食に供し、莖葉柄もまた煮食・生食・乾燥用などにされる。
 芋は里芋(カニイモ)・藪芋(クサイモ)・唐芋(オウゴン)・芋(サツマイモ)に分類し、里芋

芋の見分け方
 青莖のものは葉柄と親芋は粗剛であるが子芋は品質上等である。赤莖のものは莖や親芋が食用にされるが子芋は少くて味も劣る。一般に里芋は子芋がやや圓形に近いもので外皮薄く光澤のあるものがよい。

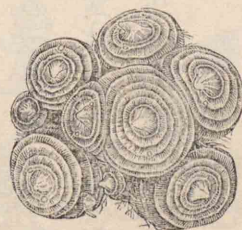
栽培要項

植付期 四月
 植付量(一阿) 一〇—一五匁
 肥料(一阿) 基肥 堆肥 七五匁 大豆粕 二匁 過磷酸石灰 四匁 木灰 七匁
 補肥(二回) 人糞尿 七五匁
 收穫期 九—十一月
 收量(一阿) 子芋二五〇—三〇〇匁 親芋 五〇〇匁内外



里芋の栽培

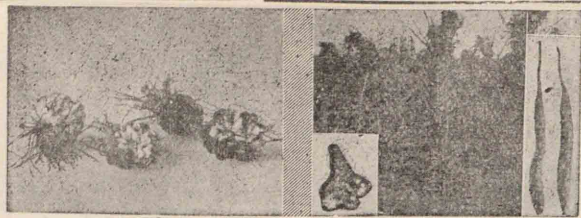
の中では早生芋豊後土垂今福赤芽芋などは良種で、主として子芋を食用にする。蘇芋は蘇味があるから軟化して芽芋を用ひ、唐芋・九面芋は子芋は少いが親芋は大きくて品質がよく葉柄は赤紫色を呈し、食用にされる。
 蓮芋・白芋田芋は芋とは別種であるが形状や性質が芋に似てゐて専ら葉柄を食用に供し、濕地または水田に栽培される。



九面芋

〔氣候土質〕 芋は高温で多濕な氣候を好み、埴壤土または壤土に適する。
〔栽培〕 四月頃畦幅一米、株間三〇—四〇糎に種芋六〇瓦内外の子芋を斜に植付け、六糎ばかり覆土する。發芽後は補肥及び中耕除草、土寄を二回程行ひ、夏土用後に生ずる子芋の莖は摘除して専ら子芋の發育をはかる。また芋は乾燥を忌み、

芋の早熟栽培するには早生種を選び、二月上旬頃温床で催芽し、多量の肥料を用ひて四月上旬頃温暖な畑に定植すれば七—八月頃收穫される。

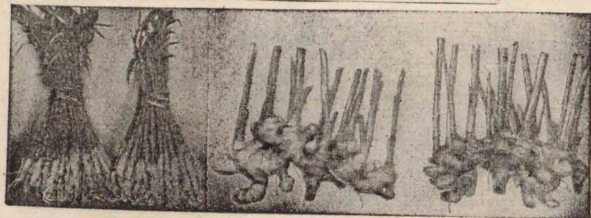


ヤマモイロ 白台

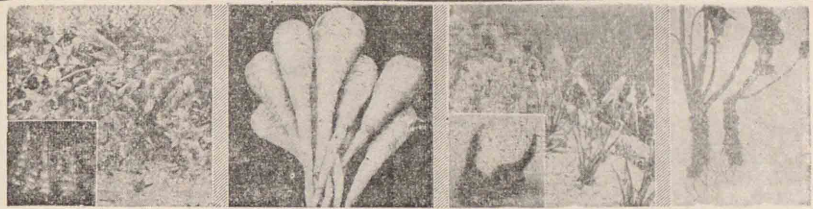
〔附〕根菜類栽培表(一阿當り)

早魃にあへば肉質硬化して品質劣り、收量も減ずるから豫め敷草を敷き、時々灌水するがよい。
〔病蟲害〕 里芋腐敗病斑紋病汚點病。せずじすすめ蚜蟲等。

種	薯蕷	百合	薑	山芋
薯蕷科・多	百合科・多	薑科・多	十字花科・多	葵
氣候を不擇 壤土砂壤土	氣候を不擇 埴壤土壤土	温暖 壤土埴壤土	冷涼の蔭地 清冽な湧水	
四月植付 一二月—五匁	一〇月植付 六〇—八〇個	四月—四月 二〇—四〇匁	一九—三月 一五〇—三〇〇株	
六〇—六一 糎—一米	一六—五〇 糎—糎	一六—二五 糎—糎	三三—〇〇 糎—糎	
二—三 回	一—二 回	二—二 回		
一〇—一 月—一八〇匁	九—一〇 月—八〇〇個	八—一〇 月—三〇〇匁	植付 四—一五〇匁 二—五年後	

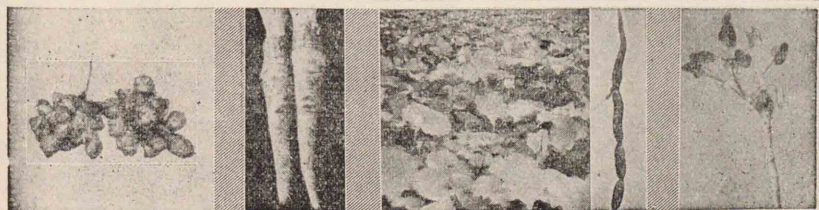


軟化薯 大薯 中薯



山葵 葵 菇 風防加利木亞

山葵 (西洋山葵) 十字花科・多	葵 澤瀉科・多	蓮 睡蓮科・多	亞米利加防風 (白胡蘿蔔) 繖形科・二	波羅門參 (菊牛蒡) 科・二	草石蠶 (甘藷子) 唇形科・多	菊芋 科・多
冷涼を好む 壤土・堆土	温暖 堆土(水田)	温暖 堆土(水田)	氣候を不擇 壤土・砂壤土	氣候を不擇 壤土・砂壤土	氣候を不擇 壤土・砂壤土	氣候・土質を 選ばぬ
三四月根分	四月上旬	四月上旬	三四月	三四月	三四月	三四月
三六〇〇	三〇〇七〇	一二米	二六〇	一四〇一六〇	一六五〇	三〇一四五
一回	一回	一回	一回	一回	一回	一回
九一〇月	一〇一三月	一五〇四月	二〇〇一月	二〇〇一月	四〇〇一月	三〇〇一月



芋 一イフシルサ 蓮 根大葵山

第七章 促成栽培と軟化栽培

一、促成栽培

促成栽培は俗に早作り或は早熟栽培ともいひ、温床・温室等を利用して人工的に温度を加へ、普通の露地栽培品よりも早く栽培・生産するもので、従つて、露地の普通栽培に比較すれば、多くの資本と労力とを要し、かつ熟練な技術を要するが、生産品は割合に高價で、かつ現今では殆んど實用品として一般に消費されるやうになつたから、冬季農閑期に農家の副業として經營すれば有利である。

〔種類及び品種〕 促成栽培するには、まづ市場の嗜好に適する種類を選び、品種は早生種で、矮性・強健・豊産でなるべく形状・品質の優良なものを選ぶがよい。

次に重要な促成蔬菜の種類と品種を挙げる。

- 胡瓜 早生節成早生三枚目節成針ヶ谷節成馬込半白節成等。
- 茄 蔓細千成茄眞黑茄橋田茄丸茄等。
- 蕃茄 スパーク、アーリア、アナサツトンス、プリンセス、オブ、オールベスト、オブ、オール等。
- 草苺 福羽苺、エキセルシヨ、アクラークス、シードリング、グビクトリア等。
- 蕃椒 伏見宮崎獅子蕃椒等。

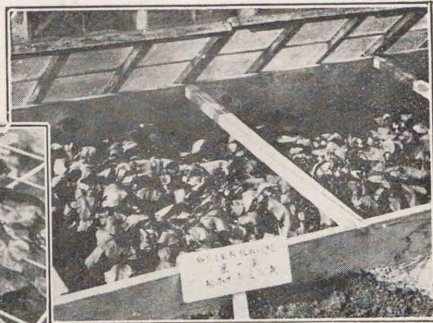
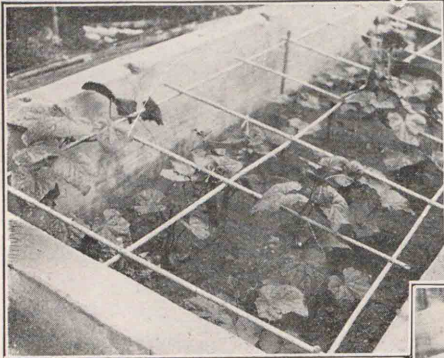
文化の進むに従ひ、飲食物に對する要求もまた往時とは大いに趣きを異にし、副食物としての蔬菜類の如きも先づその品質と品種の改良を促し、更に進んで普通の時期に産するもののみでは満足せず、時期外れの促成栽培を要求するやうになつた。古來初物を食すれば七五日の長壽を保つといつて初物を珍重し、促成蔬菜も最初は贅澤品として取扱はれ、その需要も少なかったが、現在では一般蔬菜と同じく實用品として取扱はれるまで需要も増加した。しかも蔬菜の促成栽培は普通栽培に比較すれば多くの資本と技術を要するから、何人とも直ちに行ふことが出来ぬため、その利益もまた比較的によく將來益々有望である。

促成栽培作業上の注意

促 成 栽 培

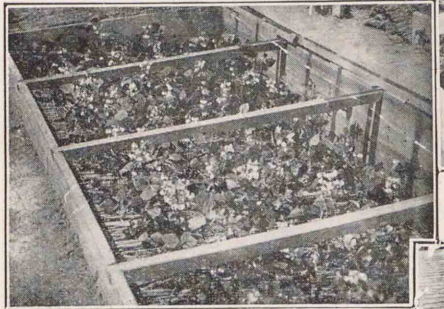
- 一、品種固有の特性を具へ新鮮で充實した種子を選ぶこと。
- 二、種子は豫め播種前一日位水に浸して発芽を促しかつ齊一にする。
- 三、種子は厚薄なきやう丁寧に播くこと。
- 四、播種後は種子のさける程度に覆土して充分灌水する。
- 五、日中は硝子障子を覆ふて僅かに開いて換氣をばかり夜間は扉などを覆ふ。
- 六、発芽の兆が見えたら覆土を除き去る。
- 移 植
 - 一、発芽後は除草・間引を行ひ、かつ二・四回位假植して苗の徒長を防ぎ強健に發育させる。
 - 二、假植するには豫め數時間前に苗床に充分灌水し、苗は根を傷めぬやうに抜きとる。

胡瓜の促成栽培



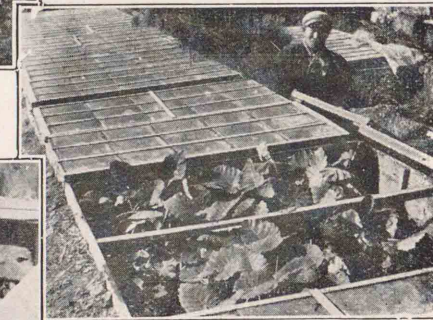
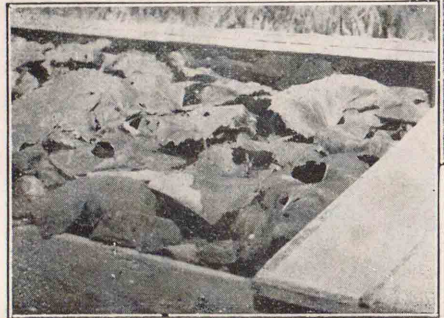
茄の促成栽培

豆の促成栽培



蕃椒の促成栽培

落葵の促成栽培



芋蓮の促成栽培

〔促成栽培場の位置及び設備〕位置及び設備は温床の章で説明したと同じであるが、西瓜・マスクメロン・蕃茄・蔓性菜豆等は近來温室で栽培され、草苺は傾斜地に高さ一米餘りの石垣を築き、晝間は陽光と石の比熱を利用し、夜間は覆蓋を設けて栽培し、落葵等は温暖な場所に植付けて覆蓋を設け、或は周圍に圍繞を設けて専ら陽熱利用の促成栽培も行はれるやうになつた。

促成栽培される。

西瓜 嘉寶^{カホウ}・祥司^{ショウジ}・スキート^{スキート}、サイベリアン等。

南瓜 黒皮南瓜・愛知早生南瓜等。

冬瓜 早生冬瓜。

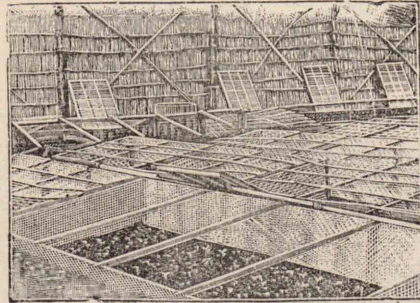
マスクメロン サットン^{サットン}・ス、エ、ワン^{エワン}・サットン^{サットン}・ス、スカール^{スカール}・レット^{レット}・サットン^{サットン}・ス、ベスト^{ベスト}、オブ、オール^{オール}・ローヤル^{ローヤル}、ジュビリー^{ジュビリー}等。

菜豆 黒菜豆^{カクワ}・長^{ナガ}・鶴御^{ツクゴ}・厨菜豆^{クシナマメ}等。

豌豆 蔓生 東京白花^{トウキョウハクカ}・廣島赤花^{ヒロシマアカバナ}。矮性 赤花矮性^{アカバナチビ}・ジュノー^{ジュノー}等。

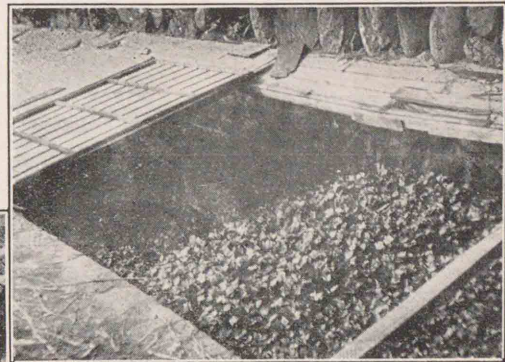
豌豆 白花矮性^{ハクカチビ}・赤花蔓性^{アカバナマメ}等。

落葵^{フキチ}・苜蓿^{シヤレン}・紫蘇^{ムサシ}・山椒^{ヤマカラシ}・薑^{ショウ}・白芋^{シロカ}二十日大根^{ニジュウジツダイコン}・胡蘿蔔^{ゴロウボウ}・葡萄^{ブドウ}・菊^{キク}等も

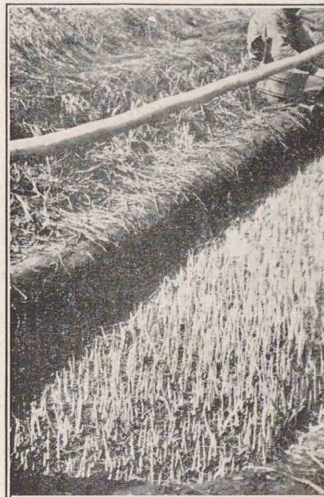


蔬菜促成栽培場

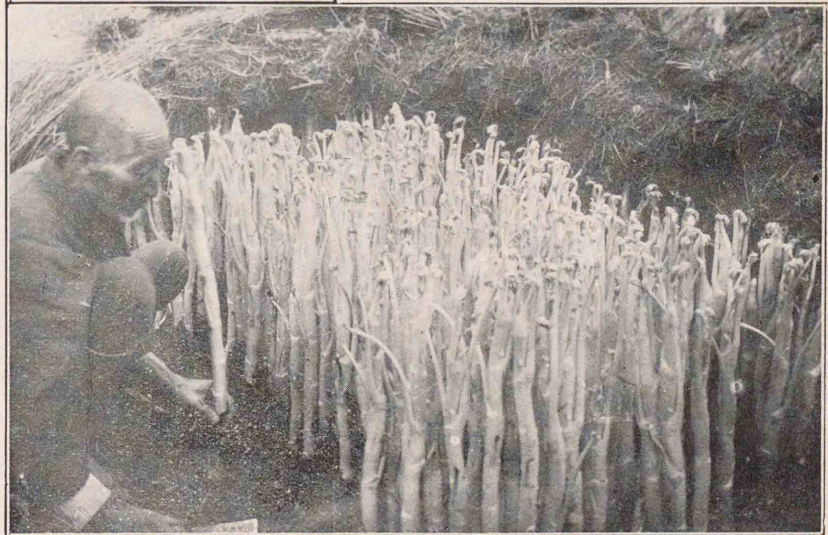
軟化促成栽培



莖



野蜀葵
土當歸



- 三、假植はなるべく曇天無風の日に、曇天假植後は充分灌水して日覆を施す。
- 四、晴天温暖の日の日中に灌水する。
- 二、寒冷または不潔の水を與へぬがよい。
- 三、葉面に水のかからぬやうに根元に灌水する。
- 四、一回の灌水量は充分に施して灌水の回数を増加せぬやうにする。

- 一、障子を開いて換氣を行ひ床内空氣の新陳代謝と溫度及び濕度の調節をはかる。
- 二、換氣は晴天温暖の日中に行ふこと。
- 三、高温を要する作物には換氣を少しく低温作物には充分換氣する。
- 四、風の強い日を避けること。
- 五、降雨後床内多濕の

〔促成栽培の時期〕促成栽培は自然の氣候に反して不時栽培する故その生産時期は早い程有利の様に見えるが、生産品の市價は需給關係に支配されるもので、過去の永年の市場の状況を見るに例年一二月下旬から一月上旬は多少高價に取引されるがその前後は需要甚だしく従つて市價も廉く、三月下旬から四五月頃の間は露地栽培の蔬菜、抑制栽培の蔬菜等の缺乏期で、しかも需要の最も多い時期であるから市價は騰貴し、一方氣候は温暖となるから栽培容易で、たとへ温床の溫度が下降しても殆ど補温の必要がない。

〔主要蔬菜の促成栽培表〕(木框一框につき)

種類	栽培期	播種期	假植期				定植期	本定植本數	收穫期	收量	備考
			第一回	第二回	第三回	第四回					
茄	第一回	九月上旬	九月中旬	九月下旬	—	一〇月上旬	三三本	一月上旬	二二〇本	適温二二—二五度 第一回は冷床に播種する、床内に棚を架して誘引する	
	第二回	一〇月中旬	一〇月下旬	—	—	一〇月中旬	一八〇本	一月上旬	一八〇本		
胡瓜	第一回	一〇月中旬	一〇月下旬	—	—	一〇月中旬	三三本	一月上旬	二二〇本	適温二二—二五度 第一回は冷床に播種する、床内に棚を架して誘引する	
	第二回	一〇月中旬	一〇月下旬	—	—	一〇月中旬	一八〇本	一月上旬	一八〇本		
茄	第一回	九月上旬	九月中旬	九月下旬	—	一〇月上旬	三三本	一月上旬	二二〇本	適温二二—二五度 第一回は冷床に播種する、床内に棚を架して誘引する	
	第二回	一〇月中旬	一〇月下旬	—	—	一〇月中旬	一八〇本	一月上旬	一八〇本		
胡瓜	第一回	一〇月中旬	一〇月下旬	—	—	一〇月中旬	三三本	一月上旬	二二〇本	適温二二—二五度 第一回は冷床に播種する、床内に棚を架して誘引する	
	第二回	一〇月中旬	一〇月下旬	—	—	一〇月中旬	一八〇本	一月上旬	一八〇本		

軟化床には醗熟物踏込み後、床土を一五糎内外入れて根株を植付ける。
床面と障子との間は三〇糎内外あればよい。

落野蜀葵、萊蕪等には採收前光線をあてて葉を綠變させ、薑、蕪荷などは僅かに赤色に着色させる。

山椒、薩蓬、蕨、高宮防風、菜類のモヤシ、小豆のモヤシ等も作ることが出来る。

種類	適温	軟化着手時期	採收着手から日数	採收繼續日数	收量	備考
野蜀葵	二〇—二三度	一月—二月	二〇日	三日	三〇〇把	採收二—三日前に僅かに光線をあてて葉を淡綠にさせて刈り取る。
土當歸	二〇—二三度	二月下旬—三月上旬	四〇—五〇日	三日	二〇—三〇把	軟化溝に根株を密植して根殻を厚く覆ふ。
アスパラガス	二〇—二三度	二月下旬—三月	二〇—三〇日	二〇日	八—一二把	一框に二五〇—三〇〇株植込み土當歸と同じ取扱ひをする。
薑	二六—二八度	九月—四月	四〇—六〇日	四〇—五〇日	八〇—一〇〇把 (二把は二五本)	九月頃床伏するには古薑を用ひ一月以後は新薑を用ふ。
蕪荷	二三—二五度	二月上旬—三月	三五—四〇日	三〇—四〇日	一五〇—二〇〇把 (二把は一四本)	採收二—三日前に僅かに光線をあてて着色せしむ。
根芋	二三—二五度	二月中旬—三月	三〇—四〇日	二〇—三〇日	三〇〇—四〇〇本	一框に小芋三五〇個床伏する充分に灌水するを要す。
蓮芋	二五—二八度	二月上旬—三月	三〇—四〇日	二〇—三〇日	一〇〇—二〇〇本	親芋を催芽せしめた後、一框に八〇個植付け常に床土を濕潤ならしむ。
紫蘇	二〇—二二度	一月—三月	二五—三〇日	一回に採收す	二〇〇—三五〇把	一框に約二立撒播し、日光を強射せしめ本葉三—四葉の時に採收する。
蓼	二〇度	二月—四月	二〇—三〇日	一回に採收す	四五〇—五〇〇把	一框に五—六立播種し充分に灌水する。一五糎内外に成長すれば採收する。
落蕪	二〇度	二月—三月	三〇—四五日	四〇—五〇日	五〇—七〇把 (二把は一〇本)	降霜後根株を掘りあてて温床に密植し光線をあてて栽培する。
菜菔	一六—二〇度	二月—三月 (終年行ひ得)	一〇日内外	一回に採收す	二〇〇—二五〇把	一框に二立内外播種して採收前に日光をあて、一五糎内外に成長すれば採收する。
大豆	一七—二〇度	二月—三月 (終年行ひ得)	一五—二〇日	一—二回 (五日)	長モヤシ一〇〇把 量モヤシ一〇把	種子は一晝夜浸水した後、一外に六立内外播種し二〇糎内

冬の花



ガランサス(スノードロップ)

葉牡丹



福壽草



仙水咲房 仙水紅口 仙水黄 仙水叭喇

(著者原圖)

葉牡丹
 甘藍の變種で耐寒力強く栽培容易である。葉は皺縮して縮縮状を呈し美麗であるから専ら葉を觀賞する。
 草丈 二〇—四〇糎
 時期 一—三月
 葉色 紅淡紅白黄紫紋り
 花壇、鉢植、切花

蔬菜の球莖甘藍（かぶ甘藍）も鉢植・花壇植として觀賞される。赤色種と白色種とあつてことに赤色種がよい。また赤甘藍や子持甘藍羽衣甘藍なども觀賞に適し蔬菜花壇（食べられる花壇）の植込みによい。

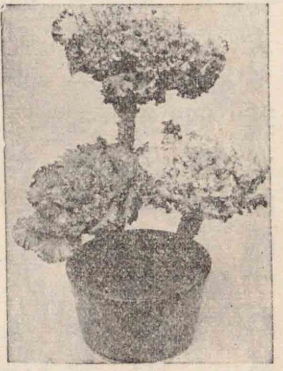
福壽草
 草丈 三〇糎内外
 花期 一—三月
 花色 黄
 鉢植、庭園
 庭園には日本庭園の松、梅等の下草によい。

第一八章 冬の花卉

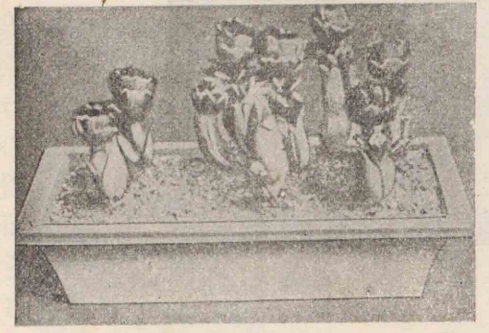
一、葉牡丹

十字花科 一—二年生

春播。苗床に播種して、發芽後一回假植し、本葉六七枚生ずれば花壇に三〇—四〇糎の距離に植出し、鉢植とするには一鉢一本或は大鉢に二三本づつ寄植し、植付後一—二回補肥を施す。



丹 牡 葉



草 壽 福

二、福壽草

（元日草正月花）

毛茛科多年生

春株分。春から初夏にかけて根芽を傷めぬやうに株分けし、鉢或は日當り良い露地に植付け、夏は日除けを設け、晩秋

水仙
草丈け三〇―六〇程
花期 三―四月
花色 黄・白
花壇、鉢植、切花及
び水栽用

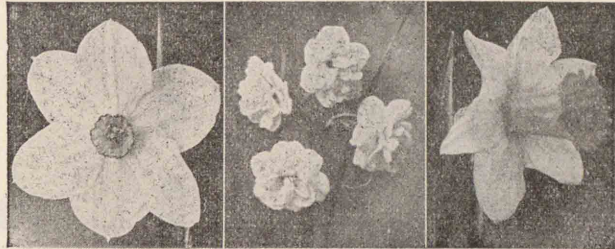
喇叭水仙は花梗短く
一茎に一花をつけ、大
輪黄色で副冠が喇叭状
を呈する。

黄水仙は一茎に二―
六花をつけ大輪黄色で
芳香に富み、八重咲き
や矮性種もある。

口紅水仙は一茎に一
花をつけ小輪白色で副
冠の周囲は紅色を呈し
芳香に富む。

房咲水仙は非常に變
化が多いが何れも副冠
は短くて杯状を呈する
のが特徴である。我が
國在來の水仙や支那水
仙などはこれに屬し、
支那水仙はことに水栽
用によい。

霜除けの設備をする、夏季は灌水に注意し、開花前後までに三四回
補肥を補す。正月に開花させるものは一一二月頃鉢を木框内に
入れて培養する。



喇叭水仙 黄水仙 口紅水仙

水仙には次の四種がある。

- 一、喇叭水仙
- 二、黄水仙(長壽花)
- 三、口紅水仙
- 四、房咲水仙

花壇或は庭園に栽植するには、午後の强光
を受けない半陰の肥沃地を選び、八九月頃深
く耕して基肥を施し、一五糎内外の距離に植
付け八九糎程覆土する、發芽後寒地では覆藁
をなし開花前後に二三回補肥を施す。
落花後花莖を切去り、葉が枯凋すれば球根

三、水仙

石蒜科球根

花とその色

花はその色彩によつ
て次のやうな意味を表
す。

- 白色 清淨潔白快活
質素威嚴。
- 紅色 熱烈愛情愉快
勇氣。
- 黄色 平和希望向上
光明喜樂。
- 橙黄色 煩悶・嫉妬憎
惡威力。
- 藍色 悠久深遠沈着
陰鬱。
- 紫色 優雅高貴渴仰
不安。

ガランサス
草丈け二〇糎内外
花期 一―三月
花色 純白
花壇、鉢植用
ガランサスは英名を
コンモン・スノードラ
ブといひ一般にはスノ
ードロップと呼ばれて
ゐた。

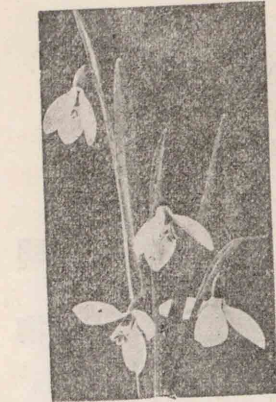
を掘りとり、乾燥して貯藏する。

鉢植するには九月頃植付けて鉢
を冷涼な日陰の場所に置くか、露地
に鉢のまま埋めて冬季霜除けする
か、或は木框・温室などに入れて促成
開花させる。

四、ガランサス

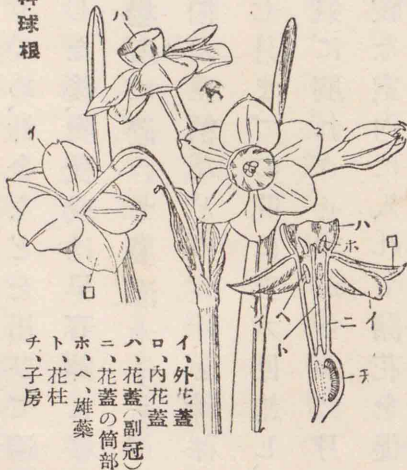
(ゆきのしづく) 石蒜科球根

秋植。鉢植・花壇或は庭樹の下などに點々と群生させるによい。



ガランサス

性强健でことに耐寒力が強いから冬
季も霜除けの必要がない。
肥大な土地では年々移植の必要も
ないが、花壇や鉢植のものは五六月頃
球根を掘り上げて貯藏する。



イ、外花蓋
ロ、内花蓋
ハ、花蓋(副冠)
ニ、花蓋の筒部
ホ、へ、雄蕊
チ、花柱
子房

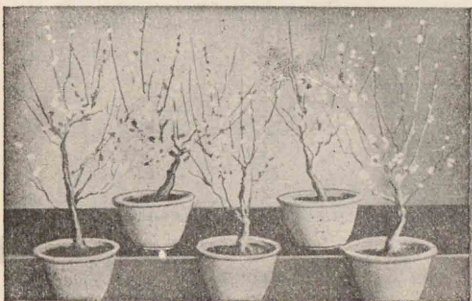
房咲水仙

梅
喬木仕立、矮性仕立
花期 二―三月
花色 紅淡紅、白
庭樹、鉢植、盆栽

切接するには二―三月頃實生砧木を根際から五―六種の所で平に切り、その一側を接木小刀で薄く木質を切るやうに二種位切り開きこれに二―三芽をつけて下部を斜に切り取つた接穂を挿入して藁で纏縛する。また割接するには接穂は下部一種程兩側から斜に楔形に削り、砧木の中央を割つて挿入した後藁で纏縛する。

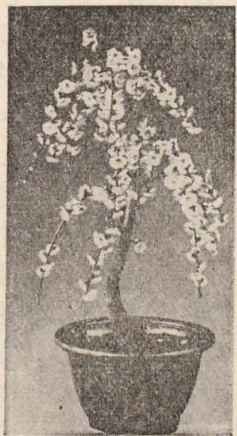
四、梅

春接木。實生の共砧に切接または割接して苗床に植付け、晩秋或は翌春庭園に基肥を施して植付ける。鉢作りとするには二三年間苗床で肥培し、側枝は毎年二三月ごろに



梅の鉢作り

四五芽で剪りつめ、針金などを用ひて適宜の形に整枝した後、晩秋或は早春鉢に移し日當りよい場所に置いて屢灌水する。肥料は油粕、大豆粕などの腐汁を稀釋して三月から七月までの間に五六回施し、冬季は一旦寒氣に觸れさせてから、一二月下旬ごろに溫暖な室内に入れて開花を促進させる。



梅垂枝の盆栽

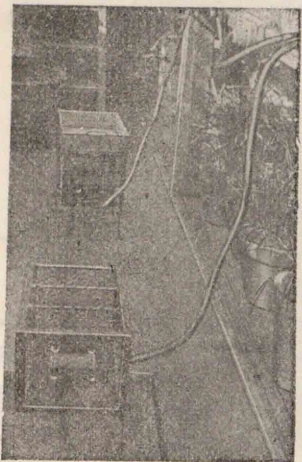
醬藏科落葉樹

温室の形式にも木框の様、片屋根式、三分一式、片屋根式がある。片屋根式温室は南向に長く建てるもので、光線の透過がよく植物の發育上最良である。片屋根式温室は南向に長く建てるもので、光線の透過がよく植物の發育上最良である。片屋根式温室は南向に長く建てるもので、光線の透過がよく植物の發育上最良である。片屋根式温室は南向に長く建てるもので、光線の透過がよく植物の發育上最良である。

第一章 温室栽培の花弁

不耐冬性花卉、熱帯植物等の栽培または花卉の促成栽培をするには温室或は温床を用ひる。

温室は硝子室に加温装置を施したもので、その形式には種々ある。また大温室では内部に區劃を設け各室の温度によつて高温室中温室、低温室、冷室に分ち、それぞれ適温を異にする植物を培養するが、小型の温室では内部に區劃を設けず、一室とするのが普通である。



電熱器

温室の熱源は石炭を燃やして蒸氣、温湯を鐵管に導くのが經濟であるが、小型の温室では電熱、炭温泉或は工場の廢湯等を利用するのが經濟でかつ便利である。

シネラリアは不耐冬性であるから冬季は温床或は温室で保護せねばならぬ。

草丈け三〇糎内外花は一重咲・八重咲・星咲・カクタス咲等あつて直径六糎内外であるが高性小輪種もある。花色は紫青・紅白及び蛇の目・覆輪等ある。専ら鉢栽培とするが花壇にもよい。

シネラリアは六月から九月まで隨時播種し得るが夏播は腐敗し易いから普通は九月頃播種して一二月から五月六月までの間に開花させる。培養土は排水をよくするためやや砂を多く用ふるがよい。

一、シネラリア (菊狀冬)

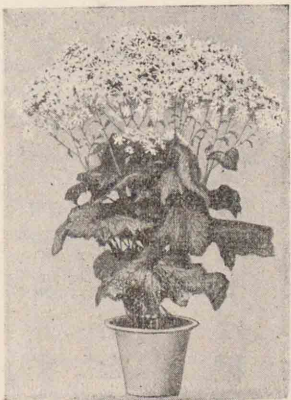
菊科一二年生



ア リ ラ ネ シ

九月頃播種鉢に砂混りの培養土を入れて播種し、發芽後は一回假植し、日中は強い光線にあてぬやうにし、灌水と通風に注意して苗を丈夫に育てる。

本葉三四枚の時に一本づつ小鉢に植付けその後成長するに隨ひ順次鉢の大きさを増して植替する。



種 輪 小 性 高

通常一〇月中旬頃から室内温度を七八度に保たせ、灌水に注意し、三四回薄い液肥を施す。概ね播種後七八箇月で開花するが、温度を高めれば一層早く開花する。

プリムラ

櫻花に似た可憐な花を開き、花色は紅・淡紅・白・紫等を呈し、鉢植及び切花に適す。耐冬性のものもあるが多くは不耐冬性であるから温室で栽培する。

櫻草

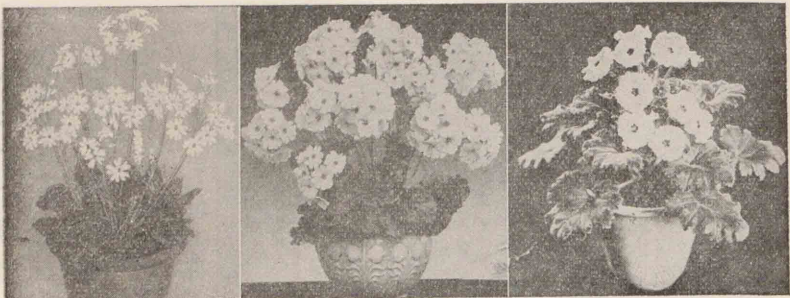
我が國各地に自生し耐冬性で葉は橢圓形を呈して大きい。四五月頃二〇糎餘りの根生花梗を抽出して開花する。花壇・切花によい。

プリムラ シネンシス (寒櫻)

中華民國の原産で葉は圓形或は橢圓形で大きい。根生花梗は一五糎内外で二三段に繖狀に開花する。専ら温室で栽培し、鉢植、切花に適す。

プリムラ オブコニカ (ときわざくら)

中華民國の原産で葉は



ステイコラマ ラムリア カニコブオ ラムリア スシンネシ ラムリア

二、プリムラ

櫻草科多年生

プリムラの種類は三〇〇種以上に達するが、普通栽培されてゐるのは次の四種である。

- 一、プリムラ、コルチソイデス (さくらさう)
- 二、プリムラ、シネンシス (かんざくら)
- 三、プリムラ、オブコニカ (ときわざくら)
- 四、プリムラ、マラコイデス

不耐冬性のものは、五月から八月までの間に播種鉢に播き、二三次假植して夏季は強い光線を避けるため葎簀下^{スサ}に置いて灌水と施肥に注意し、一〇月頃から温度を一〇度内外に保ち、日光に充分當てるやうにする。花後は採種するものの外は、花梗を

橢圓形を呈し粗毛を有し根生である。温室で栽培し鉢植・切花に適する。

プリムラ、

マラコイデス

中華民国の原産で葉は橢圓形を呈し、花梗は三〇糎以上に達する暖室で栽培し鉢植・切花に適する。

カルセオラリアは花

の形状が巾着に以て居るから巾着草ともいふ草丈は三〇—六〇糎、花は囊状で黄色の地に紅色その他小斑點を散在する。性强光を忌みかつ不耐冬性であるから温室或は温床で栽培する。

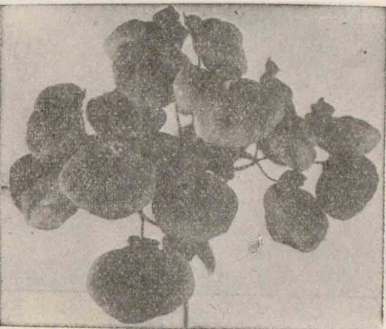
花期 三—六月
鉢植・切花用

摘み去つて肥料を施せば再び花梗を出して開花する。

さくらさうの如き耐寒性のものは、四月頃株分けを行ひ灌水と施肥に注意し、冬季は霜よけして露地栽培する。

三、カルセオラリア (巾着草)

玄參科 一—二年生

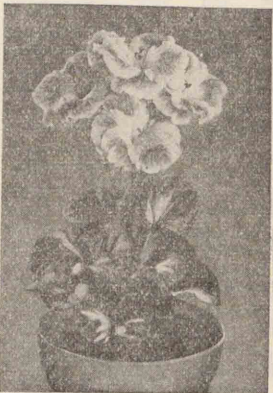


アリサオセルカ

三月から一月まで隨時播種し得るが普通は一〇月ごろ鉢播して日光の直射を避け時々灌水して適度の濕氣を保たせ、發芽後は一二回假植して本鉢に移し、二三回油粕の腐汁を稀釋して施肥する。
冬季は一〇度内外の溫度を保たせ、灌水と換氣に注意し、春季花壇に植出す場合には稍、日蔭の場所に鉢のまま植込むがよい。

四、ゼラニウム (天竺葵)

牻牛科 多年生



ムラニゴラバ

ゼラニウムは牻牛科の多年草で、ムラニウムの外に二三〇餘種あるが概ね南アフリカの原産で不耐冬性であるから冬季は温室に入れる。草丈は三〇糎内外で莖は草質であるが基部は木質状を呈す。葉に斑入の麗葉ゼラニウムもある。花色紅・淡紅・白等あつて四季間斷なく開花する。鉢植・切花用

五、カーネーション (麝香撫子)

石竹科 多年生

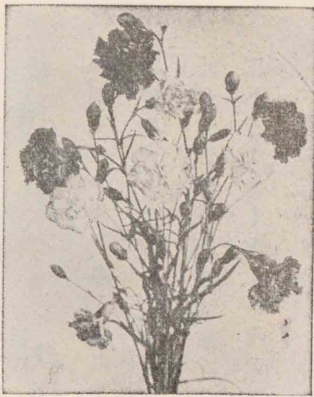
カーネーションは麝香撫子或は和蘭石竹ともいひ、草丈は三〇—九〇糎、花は白・黄・紫・紅色等種々あつて芳香に富み、花壇及び切花に適す。花壇では五月—六月頃開花し、切花用には温室栽培する。

カーネーションは園藝上次の三種に大別する。
一、ポーターカーネーション 耐寒力強く花壇切花用に適する。
二、マルメーション、カーネーション 花形大きく芳香に富み、切花用として温室栽培し四月五月頃開花する。
三、トリカーネーション 莖は木立性で永年同一株で保つ、四季咲きで切花用として温室栽培する。

石竹類には中華民國原産の石竹(唐撫子)露國及び中華民國原産の美女撫子(アメリカ撫子)我が國原産のからなでしこ、みやまなでしこ等種々あるが何れも五月六月頃開花し花壇・切花用として露地で栽培する。

シクラメンは花の形が恰も篝火を點じたやうであるから篝火草或は篝火花ともいふ。希臘・シリアの原産である。草丈が一五種内外で春季數本乃至二〇本内外の花梗を抽出して白淡紅・紅・紫色等の花を開き、専ら鉢植として栽培される。

シクラメン (勝田香月) 夢にも知らぬ霜、氷、夕べは熱きスチームの情に咲きてあはれこの二月の春のシクラメン



シクラメン

ボーダー、カーネーションは普通露地栽培するが、その他のものは不耐冬性であるから専ら温室栽培して冬季から春季に開花させる。繁殖は挿木により二三月頃莖の中位の部分の側枝を六糎位の長に切つて砂中に挿して屢灌水し、發根後鉢に植付け、温度は一〇度内外に保ち、換氣と灌水に注意し、二三次薄い液肥を施す。

六、シクラメン (篝火草)

櫻草科球根

實生・分球によつて繁殖するが、普通は六七月頃種子完熟すればこれを取つて平鉢に播種し、日光の直射を防いで、温度を一〇一五度に保てば、一箇月内外で發芽するから漸次日光を受けさせ、充分に灌水し、二葉を生ずるに至れば他の平鉢に假植し、翌春の三四月ごろ一鉢に一球づつ植込み、夏季は強い光線を避け、二三次薄い液

◎鈴蘭

(シエレン)

谷間に咲ける姫百合は天つみ神に似たるかななさけの露に色しらく若き姿のうるはしき面はゆげも見ゆるなり花のくちびる珠のごと緑のきわの色も濃し。

◎梅の蕾

(水谷まさる)

一つき二つき 三つめの羽子が 五つの白い羽根 ひらひらと 梅の小枝にとまつたとまつた羽根は梅の花かたし蕾が今咲いた 清く明るく今咲いた たそがれ時の白い花

蘭類

蘭科植物は四百餘屬一萬五千種に達し極地及び大砂漠を除く世界各地に産し、單子葉植物中最も發達したもので、花は艶麗優美で品位があり花期長く芳香

肥を施す。概ね播種後一五一六箇月で開花する。花後即ち三年目の七月ごろから次第に灌水を減じて乾燥に保ち、そのまま日蔭の冷しい場所に置いて球根を休眠させ、九一〇月ごろ他の鉢に植替へて灌水し、補温して開花させる。



シクラメン

七、蘭類

蘭科多年生

蘭類は種類甚だ多く、栽培種のみでも二千種以上に達するが、その大部分は熱帯或は亞熱帯産で、その習性によつて氣上性(好氣性)と地上性(好地性)とに大別する。カトレア・デンドロビウム・シペリベデューム・セロージネオン・シデュームなどは主なるもので最も普通に栽培される。

蘭類は實生で繁殖するが開花までに長年月を要するため、春季株分けまたは挿木で繁殖することもある。これを植込むには、地上性のもには木炭オスマンダ(羊齒類の根)生水苔腐葉土など、氣上性のもに



蘭の製木と鉢

を有するから鉢植・切花用として廣く栽培される。

高温室 冬季は夜間一八—二一度、日中は二—二四度以上に保温する。

中温室 冬季は夜間一六—一八度、日中は一八—二一度に保温する。

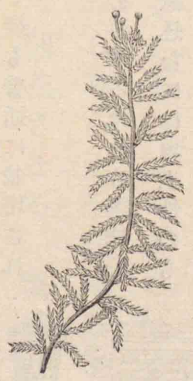
低温室 冬季は夜間一四—一六度、日中は一六—一八度に保温する。

冷室 夏季は出来得る限り低温に保ち、冬季は夜間一〇—一三度、日中は一五—一六度内外に保温する。



(遠殺金) んらゆじうよち

は木炭・オスマンダ・生水苔などを用ひて蘭鉢または木製の籠・框等に植ゑる。蘭類は種類によつては露地栽培し得るが多きは不耐冬性であるから温室で栽培し、それぞれ所要温度と湿度とを異にするから高温室・中温室・低温室・冷室などに入れ、棚の上に置くか懸垂して常に灌水と換氣とに注意し、夏季は蔭簑を覆ふか戸外の蔭簑下に搬出する。



けごづみ

カトレア屬 花は最も大きくて美しい。早春芽の伸び始めた頃に植込み、低温室或は中温室で培養する。氣上性で栽培し易い。

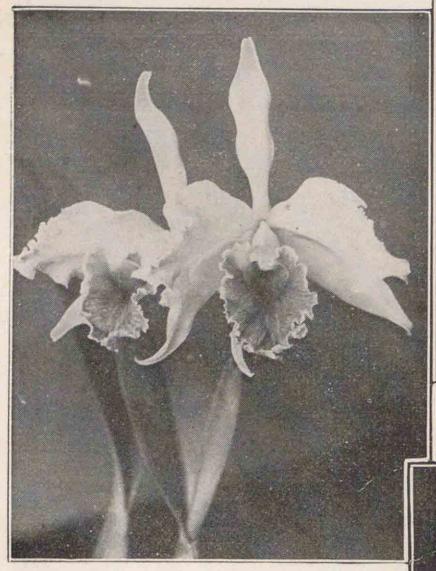
デンドロビウム屬 氣上性で花は小いが多數集合して開花するから美しい。花後七八月頃に移植し、落葉性のものは冬季冷室または低温室で保護する。

石斛類はこれに屬する) シペリペデユーム屬 地上性で株分けで繁殖する。移植期は花後二週間内外の新芽と新根の生ずる時が

類 蘭



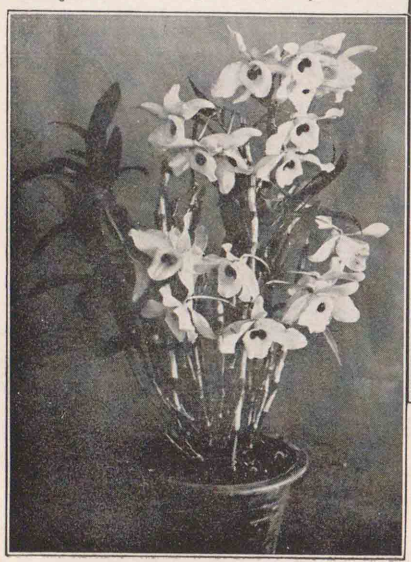
。ーリネンキス,アレクトカ



。スガギ,アレクトカ

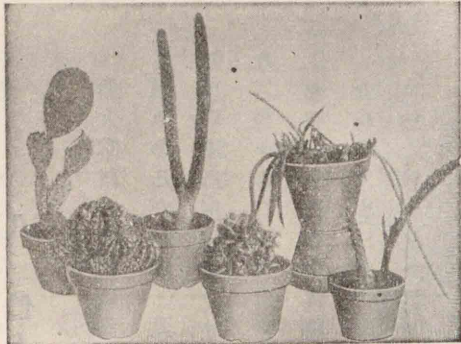


レビノ,ムーユビロドンデ
。スンレプス,ーイテイラアバ



レビノ,ムーユビロドンデ

蘭類の栽培上最も注意すべきは灌水と換気である。
 一般に室内は濕氣を多くし、常緑の地上性のものには鉢の表面の乾いた時に充分灌水しまた時々葉上灌水を行ふがよい。
 落葉性のものには生育期には充分に灌水し休眠期には灌水を少くする。
 空氣が多濕の際には灌水を節し、乾燥した場合には室内の棚や通路にも灌水して換氣を控目にする。晴天の日には換氣を充分に行ひ雨天・曇天の際には少くし、夏季は温室の屋根に葎を覆ひ、或は戸外の葎下に搬出して冷涼に保つがよい。



類 掌 人 仙

その取扱も一様でないが、株分けで繁殖し木製の籠或は鉢に植ゑ、中温室・低温室または冷室で培養し、生育中は充分に灌水し、かつ他の蘭類よりも日光を多く受けさせる。
バンダ属 常緑の氣上性で、花は美しく芳香に富み切花にもよい。株分けで繁殖して四五月頃木製の籠框或は鉢に植ゑ、高温室・中温室または低温室で培養して常に充分灌水する。



蘭 筒 花

よい。冬季は低温室または冷室で保護する。
 (くまがいさうもこれに屬する)
セーロジネ属 氣上性である。花後浅い鉢または木製の籠框などに植ゑて懸垂するがよい。中温室或は低温室で栽培する。
オンシデューム属 氣上性で種類甚だ多く

類 蘭

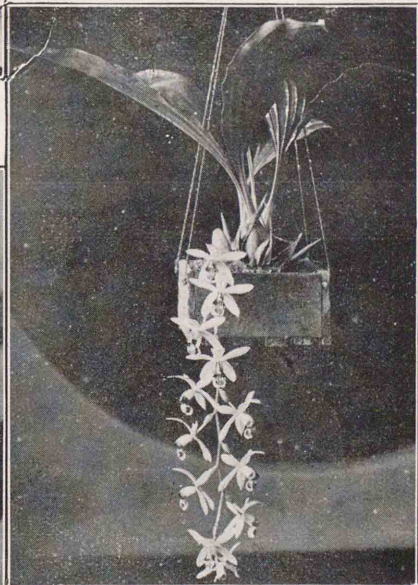
ムーデベリベシ
 ンーハンカー,スルーヤチ



ネグシンイ,ムーデベリベシ
 ルーフドーホヤヒ



ルロコリト,ダンバ



ナヤゲンサッア,ネジローセ



仙人掌類は仙人掌科植物の總稱でその種類も甚だ多いが、何れも多量の水分を含み多肉で多くは葉が退化してこれを缺いてゐる。仙人掌類の繁殖は實生挿木接木による。

實生は玉仙人掌・疣仙人掌等の如く種子の出来る種類に行ふもので、四月頃素焼の鉢に腐葉土を盛って播種し充分灌水して二〇度内外の室内に置けば一〇日内外で發芽する。苗が成長して刺を生ずれば一本づつ他の鉢に移植する。

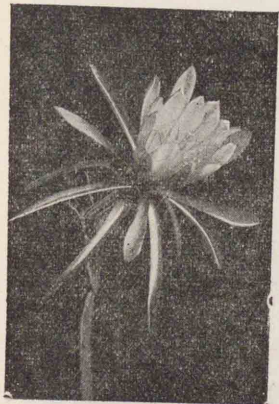
挿木するには夏季枝の若い部分を切りとつて一日程陽乾した後砂中に挿して充分に灌水する。概ね二―三週間で發根するから、發根後一本づつ他の鉢に移植する。

八、仙人掌類

仙人掌科多年生

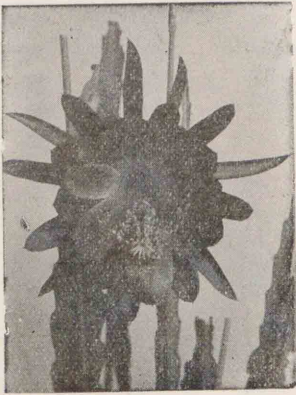
仙人掌科の植物はその種類甚だ多く、七五屬一二〇〇種に達し従つて大小形状等も種々あるが、何れも葉は退化してこれを缺き莖は多肉で多量の水分を含み、圓筒形圓形扁圓形扁平または扁狀を呈し、刺を生ずるものが多い。花は菊花狀で紅白黄紫など種々あつて美しい。

- セファロセレウス屬翁仙人掌 柱狀で單生または分岐する。(翁丸翁錦等)
- セレウス屬柱仙人掌 柱狀または樹木狀を呈して發育早い。(鬼角獅子等)
- エキノカクタス屬(玉仙人掌) 莖は球狀である。(朝日丸龍玉青玉丸等)
- エキノセレウス屬蝦仙人掌 柱狀球狀扁平狀等で單生または分岐する(三光丸等)
- エキノブシス屬海膽仙人掌 球狀または橢圓形で稜が銳角をなす(青玉短毛丸等)
- エビフヒラム屬孔雀仙人掌 莖は直立して扁平無刺である。(孔雀有角孔雀等)
- ハテイオラ屬珊瑚仙人掌 莖は直立して二三枝づつの短枝を分岐し平滑無刺。



孔雀仙人掌の花

仙人掌類の栽培は極めて容易で冬季は温室がなければムロで保護してもよい。栽培上最も注意を要するのは多量の灌水を避けることで過多の灌水は腐敗を招き易い。



カカロイフ

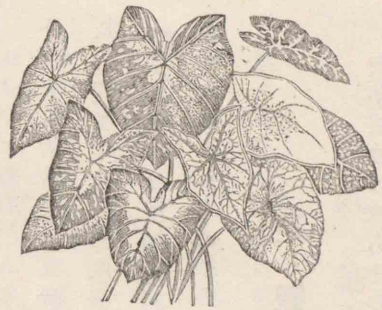
マンシラリア屬疣仙人掌 莖は球形で全面が疣で被はれる。(金手毬白玉丸等) 疣仙人掌玉仙人掌等の如く種子を生ずる種類は、四月頃砂と腐葉土とを混じた培養土に播種して發芽後刺を生ずれば鉢に一本づつ植付ける。その他のものは夏季莖の若い部分を切つて僅かに陽乾した後砂中に挿木して發根後鉢植とする。鉢は排水をよくするため底に小石または瓦片を數個入れ、腐葉土五砂三壤土二の割合の培養土を盛つて植付け、數日間は日蔭の場所に置いて充分灌水し、活着後は充分に日光に直射させる。夏季は日覆下で二二―二七度華氏七〇―八〇度冬季は一三度華氏五五度内外の温室で保護する。仙人掌類は屢灌水の必要がなく、なるべく乾燥させるがよい。また灌水の際には莖に水のかからぬやうに注意する。

九、觀葉植物

觀葉植物は専らその美しい葉を觀賞するために栽培するもので、冬季は温室内で

観葉植物の冬季
温室内の温度

観葉草本類
一〇—一三度
(華氏五〇—五五度)
羊齒類
一〇—一三度
椰子類
一五—二〇度
(華氏六〇—七〇度)



ムエデラカ

培養し春季から初秋にかけて室内裝飾または切花として花環花束盛花などに用ひられる。
観葉草本類 アンスリウム・シベラス・イソレブ
ス・バンダナス・ペゴニア・ペロミア等は春季砂中に挿木繁殖し、アスパラガスは播種または株分けする。冬季は温室で保護し、毎日一二次葉上灌水を行つて葉面を清潔に保ち、夏季は戸外の葭簾下に撤出する。

羊齒類 アデア・アンタム・ネフロレビス・アスプレニウム・ブラチセリウム等は胞子を播種するか株分けして繁殖し、培養土は腐葉土五砂三壤土二の割合に混じて植込み、直射日光を避けて十分に灌水する。

椰子類 ケンチア・ココス・ラフェニックス・ピロウ・シロチク等は春季播種または株分けして、腐葉土四壤土四砂二の割合の培養土に植付け、夏季は葭簾下に置いて日光の直射を避け、冬季は温室で保護して屢灌水して換氣に注意する。



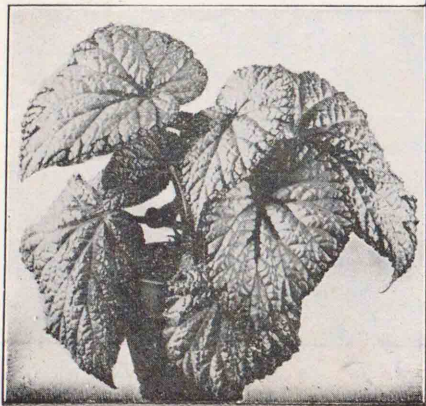
カチスラエ・スカイフ

物 植 葉 観

竹 椶

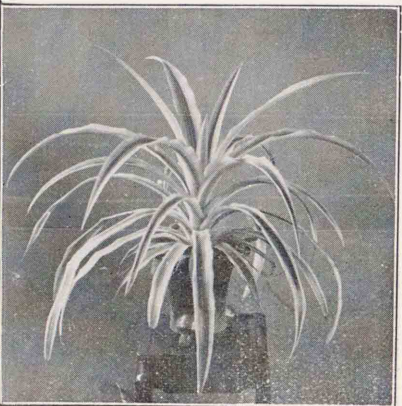


スクッレアニゴベ

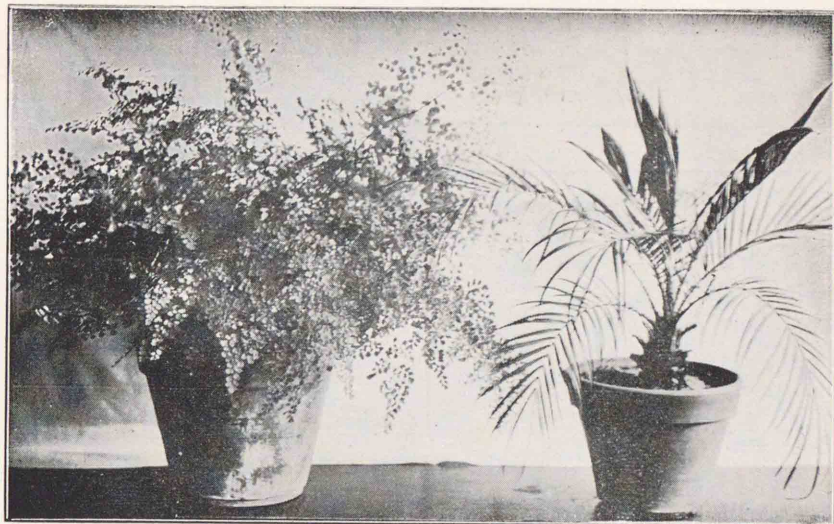


アチセンイボ (上)

ルプアインイバ (下)

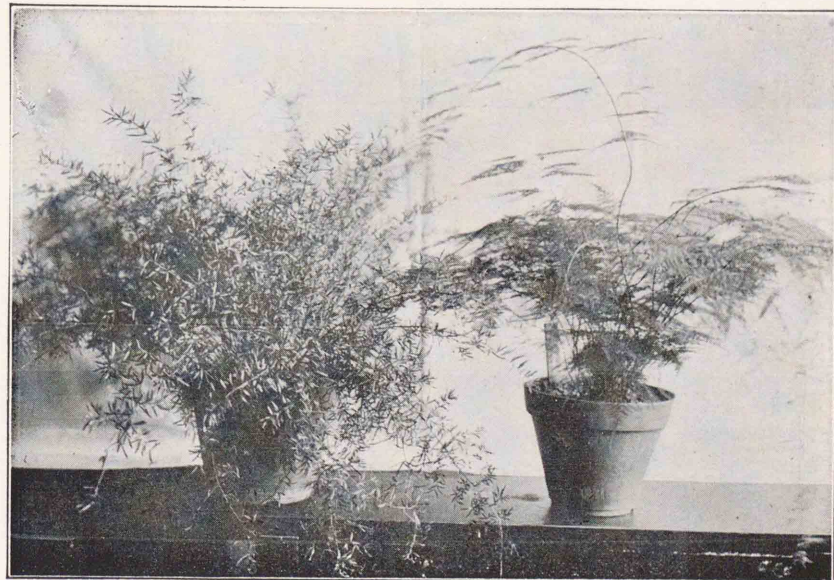


物 植 葉 観



ム タ ン ア ジ ア

ス ク ツ ニ エ フ



ス カ ラ バ ス ア
ス ナ ナ

ス カ ラ バ ス ア
ス サ ー モ ル プ

盆とはもと瓦器の平形のもの指したもので現今でも主として陶磁器製の浅い平鉢或は盆を用ひるがその大小・深淺・形状等は種々ある。

盆栽とする植物も種々あるが、それぞれ種類によつて觀賞の主眼を異にすることは勿論である。例へば常緑樹類は四季の綠葉を、落葉樹類は落葉後の樹姿或は早春の新緑を觀賞し、或は花、果實、秋の紅葉等を主眼とし常にその全形を觀賞するが、草本類は花・葉等の一部分を觀賞するものが多い。

鉢には中華民國製の支那鉢と、日本製とがあり、支那鉢には交趾・南京・高麗・廣東・南蠻・朱泥・紫泥・烏泥・海鼠・青磁その他種々あつて年代によつて古渡・中

第二〇章 盆栽

盆栽とは盆または鉢に草木を植ゑ、自然の景趣をそのまま盆中に移したもので、植物自然の縮圖ともいふべく、植物を材料とした一個の藝術品である。従つてその價値は作者の理想を表現し、人格を反映せしむる點にあつて、所謂鉢植植物とは大いにその趣を異にするものである。

盆栽に用ひられる植物には樹木類・竹類・草本類・蘚苔類等種々あるが、樹木類の盆栽は通常ある一定の樹形に整枝するを常とす。樹形は大體幹及び枝の太さ並びに高さ等全體の形がよく整ひ、かつ自然の景趣を現すものがよい、而して何れもその形によつてそれぞれ特殊の名稱を附するが、稀には特に不自然な畸形を呈せしむることがある。

普通の盆栽は、その樹姿によつて次の如く分類する。

渡・新渡の區別があるが古いもの程愛玩されてある。日本製では瀬戸焼・常滑・信樂・萬古・樂燒・鷹取・薩摩・備前等種々ある。形や色彩も種々あるが淡白で雅味に富み、なるべく盆栽植物とよく調和するものを選ぶがよい。

盆栽に適する樹種

赤松 黒松 落葉松 蝦夷松 五葉松 姫小松 朝鮮松 扁柏 杉 檜 檜羅 漢柏 杜松 公孫樹 檉 柳 小檜 榎 海棠 檉柳 梅 山楡 榎 楓 藤 木瓜 金縷梅 臘梅 連翹 金柑 佛手柑 黃楊 南天 躑躅 梔子 迎春花 夷辛木 半夏 蘇鐵 竹類 蘆 菊 苔 鸞 草 石菖蒲 知風草 芭蕉 葉牡丹 福壽草 龍躑 その他

直幹 幹は直立の一本立で樹頭まで幹の直立する直幹と、枝下が直立でそれ以上は分岐して主幹の明かでない單幹とがある。

雙幹 幹が地上から二分して直立するもので、互に相寄り相援ける景趣を現はすのであるから、二本の幹はその高さが甚しく異なるか、或は全く同長では趣きがない。

株立 同一の株から三本以上の幹を出すもので、株吹ともいひ、幹の数は必ず奇数とする。

武者立 倒れた幹から三本以上の枝を直立發生させたもので、枝の数は奇数とする。寄植 一鉢に三本以上、本数は奇数とする栽植したもので、森林の景趣を現はすものであるが、多くは直幹とし、樹種は必ずしも同一でない。

懸崖 幹が彎曲下垂して枝先のみ上向してゐるもので、絶壁岩頭等の壯嚴な景趣を現はすものである。

半懸崖 幹が斜立して、大體直幹と懸崖の中間のものである。

石附 石の割れ目或は表面上に根を附着させ、岩上に生育する景趣を現はすもので、主として根の状態を觀賞する故、樹姿は直幹寄植懸崖その他何れでもよい。

根上り 稍、太い根が地表に高く露出したもので、樹姿は種々ある。この外になほ水盤物・蛸作り小品物(豆盆栽等)がある。

栽 盆



石柳短幹



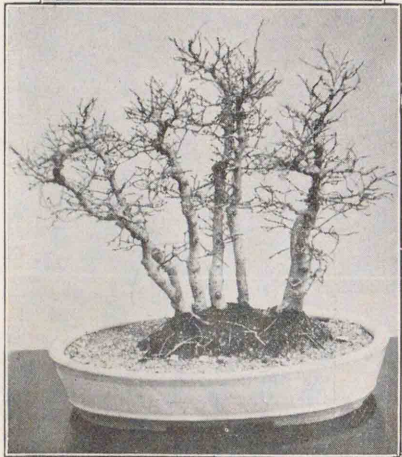
杉直幹



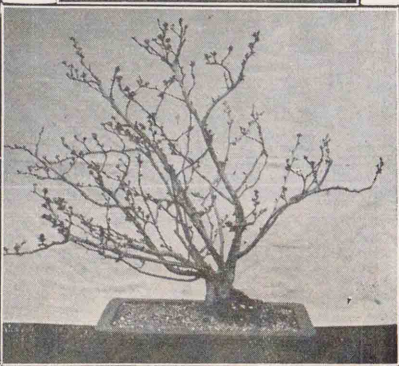
しで三幹



梅雙幹



櫟寄植



木瓜武者立

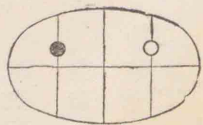
植物と室内の空氣
鉢植や盆栽などを室内に置けば晝間は同化作用を營むため室内の空氣を淨化して衛生上に良いが、夜間寢室内に置けば晝間と反對に植物の呼吸作用が盛に行はれるため炭酸ガスを多量に呼出すから衛生上よくない、ことに冬季は戸締りが嚴重で換氣が不充分であるから特に注意せねばならぬ。一體人間の健康上許さるべき室内の炭酸ガス含量は千分の一で特殊な工場内の空氣は別として普通住宅では千分の三を衛生學上の最下級限界とされてゐて、それ以上に達すれば風邪にかかり易くまたその他の病氣にもかかり易い。冬季暖房に木炭などを用ひたり或は換氣不十分な洋風建築にあつてはことに夜間寢室内に植物を置いてはならぬ。

盆養植物の繁殖法には實生、壓木、挿木、接木、株分等種々あるが、樹木に創傷を留めることを避けねばならぬ故、多くは實生法による。實生すれば長年月を要するが、根張りよく、雅致あるものが得られる。

苗木は二三年間は仕立鉢或は床地に植付けて培養し、初夏から秋季にかけて新梢は數回剪定して樹姿を整へ、二三次薄い液肥を施し、冬季は溫暖な場所に移し、毎年或は隔年春季植替へを行ふ。

樹姿を整へたものは春季本鉢に腐葉土、壤土、砂等を樹種に應じて適當に混合して盛り、丸鉢なれば中央のやや後方に植ゑ、長方形の鉢には上圖の如く四等分した點のやや後方の位置に植付ける。

肥料は毎年一二回油粕の粉末或は腐汁の極めて少量を施し、常に灌水に注意し、二三年目毎に植替へを行つて培養土を更新する。

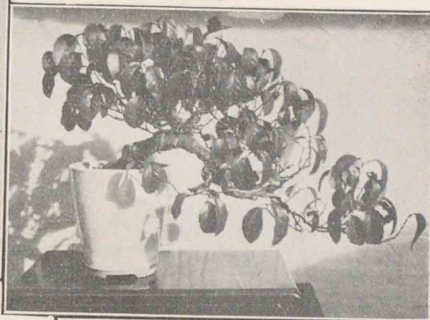


植付の位置

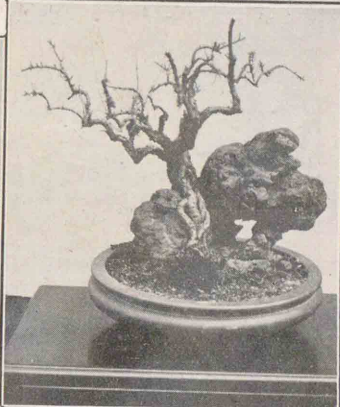
肥料は毎年一二回油粕の粉末或は腐汁の極めて少量を施し、常に灌水に注意し、二三年目毎に植替へを行

栽 盆

崖懸子味五南



崖懸半



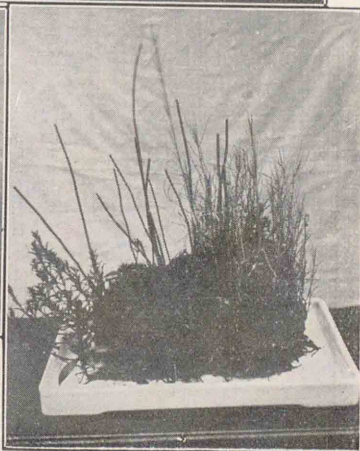
聖柳石附



迎春花根上



寒木瓜小物品



水草

床に花を飾る

ときの注意

床の上座と下座(客位と主位)との關係は床の間の勝手によるもので、挿花を飾るときには床の間口三分の一の處に上座に體を向け下座に置く法とする。そして掛物と花との位置は掛物の筆者の名や落款が花のために隠れたり人物鳥獸などの體が花や枝に遮られぬやうに置く。また掛物の書や畫が生花と同じ物にならぬやうにする。

婚禮の花と

忌嫌ひの花

婚禮の花としては松竹・梅に定まつてあるが梅のない時期には松竹・白玉椿・南天・萬年青菊・牡丹・百合などが用ひられる。婚禮その他祝儀の席上に忌み嫌はれるものは次のやうなものである。

返り花、返り枝、さすべり、梨の花、板切葉、八つ手、芭蕉の花、藤の花、卵の花、李の花、山吹、桔梗、女郎花、蓮の花、河骨紫苑など。

贈り花の注意

慶賀 牡丹・菊・姫百合・南天・撫子・かきつばた・カーネーション・アスパラガス等。慶賀によくない花は木瓜・梔子・薊・りんどう・ばら・けし・鳳仙花等。弔慰 白菊・桔梗・女郎花・蓮・白撫子・白椿・水仙・白寒菊等。リボンをつける場合は黒色のものを用ふ。病氣見舞 眞紅の花や白・淡紫色等冷色の陰氣な色の花を避け、花色の落つきのあるものを選び半開または蕾がよい。香氣の強過ぎるものや満開の花、水揚げ悪しく萎れ易いものもよくない。

〔附〕植物裝飾

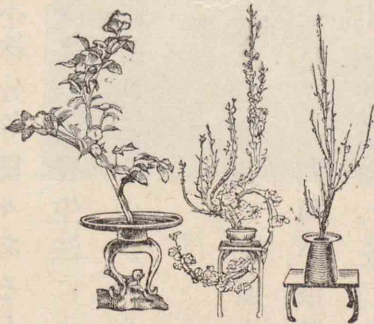


盛り花

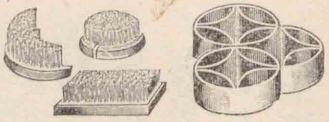
〔挿花〕日本式の

文化の度が進み、われわれの生活が複雑になるにつれて、益々自然に對する深い親しみと強い憧れとを感じるやうになつた。自然に對する憧れと美を求むる心とをよく満すものは植物である。植物を用ひて種々の裝飾をすることは、東西ともに古くから行はれてゐるが、ことに近ごろでは室内や食卓、さでは店頭の裝飾から冠婚葬祭その他交際上の贈答にまで花物が多く用ひられてゐる。

日本式の挿花



(梅)坊と池 (櫻)流州遠 (椿)流古



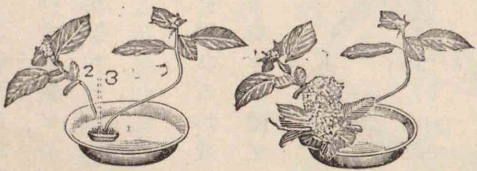
山剣 七寶



(木割り配)密木割 こかやじ

ただ盛花の骨子たるべき眞をたてることは日本式挿花と同様である。而して眞には花の大きなものを用ひてはならぬ。かく日本式挿花と西洋式挿花との間に甚しい相違あるのは主として家屋建築の異なるのと嗜好の差に基づくので活花は清礎優雅であるが親しみ難く、また盛花投入れは親しみ易いが雅致に乏しくあき易い。近時この兩者の特徴を折衷してわれわれの生活様式にふさわしい日本式の新しい盛花投入れが流行するやうになつた。この盛花投入れは型や流儀を超越して花を活ける型が自由であるから、花器の選擇もまた極めて自由でインキ壺湯呑茶碗コップ洗面器桶水盤壺籠などを用ひる。花どめは七寶劍山蛇籠割木密などを用ひ、長短いろいろの草花を水揚げして挿入する。

〔花環〕花環は裝飾にも用ひるが主として冠婚葬祭各種の會合その他の贈物として用ひられる。花環を作るにはフレームといふ八番線乃至一二番線位の針金で作つた骨



(器面洗は器花-いさぢあは花) 手順の方し挿

歡迎 蕾は用ひずに半開、七分咲の花を用ひる。
送別 花色の華やかなものがよく、半開または七分咲の花を用ひる何れの場合にも花言葉や個々の花のもつ花色等に至るまで細心の注意を拂はねと折角の好意も反つて仇となる事すらあるからよくよく注意せねばならぬ。

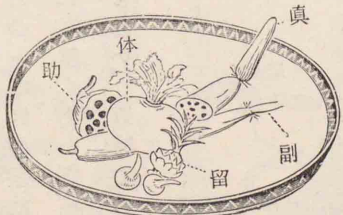
【賞 贈】
一、手近かの花を空瓶または洗面器その他の器を利用して挿しなさい。
二、花環または花束を作つて御覽なさい。ピンは竹を割つて串を作り水苔の代用に綿を用ひてもよい。
三、有り合せの蔬菜を盆に盛つて御覽なさい



花 輪

元をバラフイン紙で包む。

【蔬菜の盛り物】 蔬菜類や果實の盛り物もまた風雅でことに野趣に富んで裝飾によい。蔬菜類を盛る器は盆または箱を用ひ、盆は圓形方形のものよりは楕圓形または長方形など長味のあるものがよい。蔬菜の盛り方も盛花と同様にむづかしい規則はないが、大體丸味のあるものを體として中央に置き、細長いものは眞副として體と同じく中央に、小形のものゝ留として前方に、その他のものは助として奥に益る。



蔬菜の盛り物

格に水を吸収させた水苔を詰め、その上を玉しだその他葉物で包み、花は五、五種位の長さの金屬製ピンまたは木製竹製などの串に絲で固定してからフレームに挿込む。
【花束】 花束もまたピンまたは串を用ひるか、或は切花を水揚げした後根元を揃へて水苔で巻き、全體または根

最新女子園藝終

附 録

一、蔬菜の加工

蔬菜は概ね水分に富み、長期の貯藏に適せぬが、これに多少加工して、貯藏または販賣すれば有利な場合が多く、農家の副業として適當である。また家庭用としても隨時使用し得るから趣味深かつ經濟である。

蔬菜加工の原理はその中に含む水分を除くか、或は腐敗醱酵を起す微生物を死滅させ、かつその浸入・繁殖を防止するにある。而して蔬菜加工品には種々あるが、これを漬物、砂糖漬、砂糖煮、罐詰及び塩詰、シヤム及びジェリー、乾燥蔬菜の五種に大別する。

一、漬物

【澤庵漬】 澤庵用菜菔の品種は、地方の習慣と嗜好によつて異なるが、形状細長で先端が細く、美大で乾燥し易く、永く貯藏し得るものがよい。一般に練馬大根、宮重大根が賞用されてゐる。

澤庵用菜菔は、葉の黄變せぬ前に(八分熟位)收穫して選別し、土付のまま或は洗滌し

漬物の效用 漬物は香のものまたはお香々ともいひ我が國に於ては三度の食事毎に缺くことの出來ない最も大切な日用副食で、食物の消化を助け、食慾を増し、また食物中に不足勝ちな食鹽と乳酸とを補給し、一面蔬菜の保存貯藏を圖る上からも極めて重要なものである。
蔬菜類に含まれる石灰分は、蔬菜類を煮沸すれば概ねその形を失ふが、漬物とする時は乳酸と化合して吸収され易い形となる。
乳酸は腸内に於て食物の腐敗、醱酵を起す各種の微生物を死滅させる特性がある。
蔬菜に含まれるビタミンは、これを煮沸すれば概ね破壊されるが、漬物とする時は多少ビタミンの減少は認めないが破壊される憂がない。一般に蔬菜類は

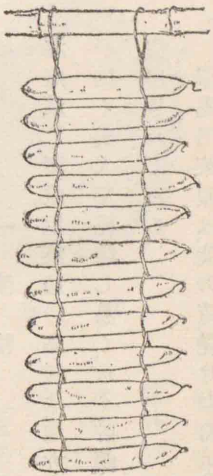
生食するのが一番良いが、然らざれば漬物としてウイタシンの保存をはかるがよい。

菜菔の乾し方

屋根掛乾燥・垣根掛乾燥・樹枝掛乾燥等の場合には菜菔は葉つきのまま数本づつ束ね、葉を上にして丸太または樹枝に掛け、葉切り乾燥をする場合は菜菔を二條の縄で八一二本づつ菜菔の首を同一方向に揃へて編み、首部を陽向に面し懸垂して乾燥する。

容器に就ての注意

醤油樽・味噌樽等を用ふれば樽に接した部分の澤庵の色澤不良になり、魚樽は不快な魚臭を帯び、又鹽分を含まぬ樽は澤庵の塩分を吸収離脱するため特に樽に接した部分の澤庵の品質を害す。
一般に容器は小さいものよりは大きいものを用ひた方が漬物の風



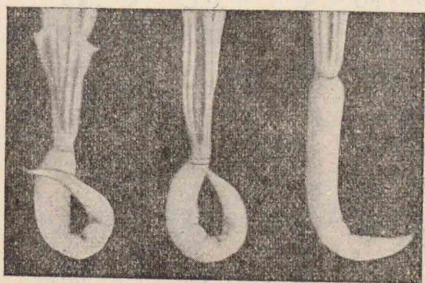
方し乾の蕨菜

て陽乾または陰乾する。乾燥程度は大體次の標準によるがよい。
漬込み容器は普通酒樽七二立入れ醤油樽二六立入れを用ひるが、多数漬込むには大樽またはコンクリートタンクを用ひる。

乾燥程度	食 用 期	菜菔の曲り具合	乾燥日数	生菜菔に對する歩減り
淺乾燥	三―四月まで(甘漬)	弓形に曲る	五日以内	四割減
中乾燥	五―六月まで(中漬)	半圓から圓形に曲る位	一二日内外	五割減
本乾燥	七月以後(辛漬)	結び得る位	一七―八日内外	六―七割減

また押蓋は容器の直徑よりも三五纏位小形の物がよい。

酒樽では乾燥大根六〇七〇匙醤油樽には一五斤内外漬込み酒樽一本に對して食鹽六一四立米糠六一四立を用ひ、食鹽と米糠の分量は一樽につき一七二八立とする。



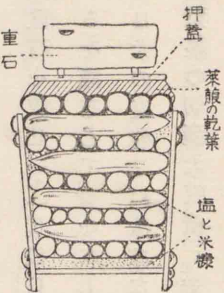
本乾燥 中乾燥 淺乾燥

菜菔の見分け方

澤庵用には形の小さいものは味が悪く大きいものは味は心は空洞があつてよくないからやや大きくて外皮の純白な光澤に富み、外皮に裂け目や岐根のない大きな揃つたものがよい。外皮が白味なく銜色を呈したものは收穫遅れて霜害を受けたもので味悪く貯藏も困難である。

食鹽の見分け方

食鹽は明治三八年專賣制度が布かれてからすべて政府に收納した後元賣捌入及び小賣人の手を経て消費者に販賣される様になり、專賣法ではその中に含む鹽化曹達の分量によつて五等級に分けてゐる等級 鹽化曹達含量
一等鹽 九〇%以上
二等鹽 八五%以上
三等鹽 八〇%以上
四等鹽 七五%以上



方み込漬の蕨菜

淋麴などを混用することがある。

宮重大根漬込標準量愛知縣地方) 酒樽一本につき乾燥大根七〇―八〇匙

澤庵の種類	大根の乾燥程度	食 用 期	食 鹽	米 糠	黄 粉
甘漬	淺乾燥	二 月	四五立	一二六立	一一〇瓦
中漬	淺乾燥	三 月	五四立	一二六立	一一〇瓦
中漬	中乾燥	四 月	七二立	一〇八立	九〇瓦
中漬	中乾燥	五 月	九立	九立	九〇瓦
本漬	本乾燥	七 月	一〇八立	七二立	七〇瓦
本漬	本乾燥	八 月以後	一二六立	七二立	七〇瓦

練馬大根漬込標準量東京地方) 酒樽一本につき乾燥大根六〇匙

五等鹽 七〇%以上
 食鹽の主成分は鹽化曹達でその他水・苦鹽汁・塵芥等の不純物を含み不純物を含む食鹽は純白でないから純白のものは上等鹽と見てよい。またその結晶は大體小さいもの程上等で結晶の大きいのは下等鹽と見てよく、苦鹽汁の多い食鹽は苦味がある。澤庵用には上等鹽よりも苦鹽汁を多く含む下等鹽が寧ろ澤庵の風味をよくする。

揃漬

菜菔の頭部を同一の方向に揃へて漬込むもので樽の中央には長いもの、兩端に短いものを並べる。練馬大根の如き長いものは鹽漬するがよい。

組合せ漬

菜菔の頭部を樽の縁に密着させて一本づゝ交互に漬込むもので、宮重大根の如く頭部が大きく尻の細い、且つ稍

澤庵の種類	大根乾燥日数	食用期	食鹽	米糠
甘漬	五日	二月―三月	三六立	一四四立
中漬	六日	三月―四月	四五立	一三五立
中漬	七日	四月―五月	五四立	一二六立
本漬	九日	五月以後	七二立	一〇八立
本漬	十一日	六月以後	一〇八立	七二立
本漬	十四日	七月以後	一二六立	五四立

漬け方には揃漬組合せ漬その他種々あるが、菜菔と菜菔との間に空隙のないやうに密接して並べるがよい。漬込みするには先づ食鹽と米糠とをよく混合し置き、樽の底に少しく撒布して乾大根を並べ、その上に食鹽と米糠を撒布して再び乾大根を並べ、かくの如く何回も繰返して全部漬ければ押蓋を載せ、その上に六〇斤内外の重石を載せ、二日後口仕舞といひ乾大根葉或は口糠米糠三五立に食鹽少量を混するを撒布して蓋をなし蓋の周囲の隙間に藁を編んで塞ぎ、重石を七五斤内外にして日光の直射せぬ冷涼な場所に貯藏する。

〔菜菔の切漬大阪漬〕 菜菔を洗滌してよく水を切り、長さ三種内外の短冊形に切り、葉も二三種の長さに切つて、根及び葉の重量の五六%の食鹽を撒布して漬込み、押蓋を

々短いものを漬けるに
 よい。

食鹽は樽の下方には
 やや多く撒布し上方に
 至るに従ひ多少その分
 量を減する。これは澤
 庵のみでなく總ての漬
 物を漬込みする場合に
 特に注意すべき事柄で
 ある。

菜菔の切漬

切漬は酒樽一本に菜
 菔三七斤内外(醬油樽
 なればその四分一量)
 漬込み、食鹽は甘漬は
 二斤内外、鹹漬は三―
 四斤用ひる。

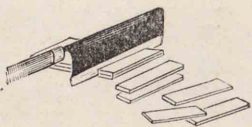
菜類の鹽漬

菜の鹽漬は普通漬込
 み後七―一〇日で食用
 に供することが出来、
 約一箇月間位が食べ加
 減であるが、食鹽を菜
 の一割位用ひ重石を強
 くして貯へれば半年位
 貯藏が出来る。また早
 漬(夜漬)とするには
 菜をバラバラにして鹽
 揉みした後漬込めば數
 時間後に食することが

して菜菔とほぼ同量の重石を載せ、二日後水が上れば重石を半減し、食用に供する。また永く貯藏するには甘漬の約二倍の食鹽を用ひ、水が上れば重石の重量を二三割減する。鹹漬は漬込み後二三週間目から食用にする。

〔菜類の鹽漬〕

菜類は收穫後枯葉を除き、よく洗つて水を切り、半日程陽乾或は陰乾した後、大株のものは縦に二つ割りまたは四つ割りとし、その他はそのまま丸漬とするが、バラ漬といひ莖の基部を切つて葉を一枚づつバラバラにして漬けることもある。食鹽は當座漬甘漬または葉の柔軟なものは菜の重量の五%内外用ひるが、永く貯藏するには一〇%内外用ひて鹹漬とする。またバラ漬は丸漬に比し食鹽の分量を二割程減する。



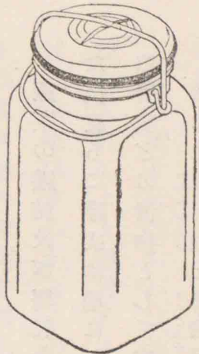
方り切の菜菔

酒樽(七二立入れ)一本には菜六〇八〇斤漬けるが、一時に漬込み難いから追漬するか、或は半量づつ二樽に漬込み、後に一樽にする。まづ樽の底に食鹽を撒布して菜を並べ、その上に食鹽を振りかけて、再び菜を並べ、かくの如く何回も繰返して漬ければ押蓋をして重石を載せる。重石は初めは菜の重量の半量位とし、五六時間後倍加し、一二日後水が上れば再び半減し、數日後さらに少しく重味を減する。

〔糠味噌漬(トブ漬)〕 糠味噌は米糠と食鹽とを水でこねたもので、その分量は米糠五立

次に簡単な塚詰につき
挙げれば、

- 一、設備としては塚詰
固定機の外、殺菌用
の湯鍋はバケツ或は
石油罐でも代用され
その他の器具も家庭
に有合せのものでよ
い。
- 二、使用の塚は何回も
反覆使用出来る。
- 三、罐詰と違つて絶対
に化學變化が起らな
いから味に變化がな
い。
- 四、内容物が透視され
るから衛生的である
- 五、方法が簡單で誰れ
にも出来る。



塚藏貯庭家

塚コップ塚廣口塚その他種々あるが陸軍糧秣廠内糧
友會の家庭貯藏塚は便利である。

罐詰及び塚詰は材料を調理して容器に入れ調味液
を注加して蓋付けした後加熱殺菌するもので、罐詰は
湯鍋に入れ一〇〇度で五、五分間、塚詰は一〇分間乃

至二時間加熱殺菌し、殺菌終れば罐詰は冷水に入れ、塚詰は布を敷いた板の上に取り出
して冷却させる。

〔グリーンピース〕未熟な豌豆をとり、莢を除いた後子實を選別して、水二立に食鹽一
瓦青味を保たせるために硫酸銅の極めて少量を混じた液で五、一分間煮沸し、急激
に冷水中に投じて屢、水をかへて冷却させ、容器に詰めて水一立に食鹽四瓦砂糖四瓦
の割合の液を注加し、密封して三〇分一時間加熱殺菌する。

〔アスパラガス及び土當當〕材料はよく洗滌剥皮し、水五立に食鹽一瓦を混じた沸騰
液中で五六分間茹で、冷水中に三〇分以上浸漬してアクを抜き冷却して容器に入れ、
水一立食鹽二〇瓦の割合の液を注加して密封し、三〇分乃至一時間加熱殺菌する。

〔筍〕皮付のまま先端を少し切つて水煮し、皮を剥いで縦四つ割りとし、冷水中に一晝
夜浸漬してアク抜きを行ひ、容器に詰めて水一立食鹽二〇瓦の割合の液を注加し密

封して一、二時間加熱殺菌する。

〔トマト〕適度に熟したトマトをよく洗ひ、水煮して皮を剥ぎ、適宜の大きに切つて容
器に詰め、水一立食鹽一〇瓦の割合の液を注加し、密封して二五分間加熱殺菌する。

四、ジャムとゼリー

ジャムは完熟した果實に砂糖を加へて煮詰めたものであるが、ゼリーは果汁に砂
糖を加へて煮沸凝固させたもので、ジャムの如く果肉を混入する時は透明力を失つ
て品質を損ふ。

〔草莓ジャム〕充分成熟した草莓をとり、水洗して水を切り、蒂を除いて瀬戸引鍋或は
二重鍋に入れて徐々に加熱し、果汁が出るやうになればさらに草莓を少しづつ入れ
て杓子で攪拌し、草莓の重量の四五割の白砂糖を加へ、少しく火力を強めて杓子で激
しく攪拌し乍ら煮詰め、液が膠狀になれば罐或は塚に詰めて殺菌する。

五、乾燥蔬菜

〔菜菔の切干〕菜菔の切干には、千切干上切干蠶切干花丸切干割干長割干などある。
材料菜菔は何れも肉質緻密で甘味の多い品種を選び、晩秋收穫後畑に穴を掘つて埋
藏し、冬季農閑の時期に至り、これを取り出しよく洗滌して用ひる。

千切干上切干蠶切干花丸切干等を作るには切干鉤切干突ともいひ、切干の種類に

ジャムとゼリー
ジャム及びゼリーは
主として梨、苹果、梅、杏
桃、櫻桃、葡萄、須具利等
の果實や柑類の果皮
で作られ、蔬菜では草
苺、西瓜などが用ひら
れるに過ぎない。何れ
も砂糖を多く含むから
腐敗し難いが、永く貯
へるには罐或は塚に詰
めて殺菌せねばなら
ぬ。

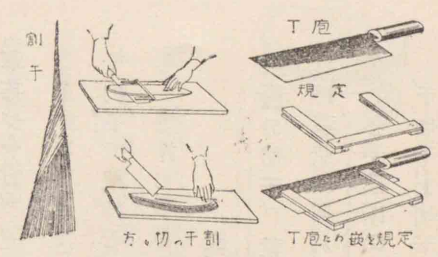
乾燥蔬菜

乾燥蔬菜は材料中の
水分を蒸發させて微生
物の繁殖を防ぐのであ
るが、最近米國では乾
燥せずに脱水する方法
が案出され、これによ
れば蔬菜の成分やガイ
タミンは少しも變質或
は損失せず、かつ調理
の際に湯を注げば再び
新鮮状態に復すといふ
▲千切干 線狀に細長
い。

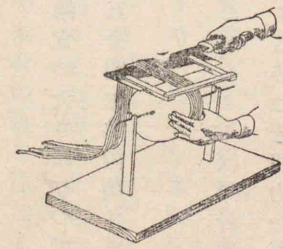
菜菔切干の種類

▲千切干 線狀に細長
い。

▲上切干 千切干より
もやや太いものであ
る。
▲薑切干 長さ五種内
外の短冊形に切つた
もの。
▲花丸切干 輪切りし
たもの。
▲割干 菜蕨を縦に線
状に細長く切つたも
の。
▲長割干 菜蕨を横に
線状に切つたもので
長さ二―三米に及ぶ
大量生産には動力用
切干細断機(或は足踏
用切干細断機)を用ふ
れば千切干・上切干・薑
切干・花丸切干等は一
時間に約一噸の材料を
細断することが出来る
製品の歩上りは菜蕨で
は一〇%、蕪菁は八%
内外である。



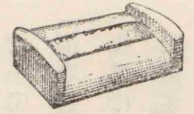
諸切器は鐵製の框の
上部に細い針金を五耗
ごとに張つたもので、
蒸した諸をこの上に載
せ、
針金を通して製造臺の支柱の上に載せ菜蕨を左手で軽く持つて厚薄
しつつ、右手に定規を嵌めた庖丁を持つて厚薄
なきやうに削り一回に一八線づつ切斷し、中央
部を藁で軽く結び、高さ二米内外の棚にかけて
乾燥する。
〔甘諸切干〕 甘諸は肉質の白い品種を選んでよ
く水洗し、釜に入れて約一時間位ふかした頃、打



方り切の干割長

よつて各、突目を異にする)で菜蕨をつき、葎簀の上に擴けて二三日
間陽乾する。
割干を切るには剥皮した菜蕨を粗上に載せ、定規を嵌めた庖丁
で一枚づつ縦に切斷し、切斷したものは菜蕨の元の形の如く積み
上げ(一七二〇枚前後)これを二三回に分けて菜蕨の根端三種程殘
して幅三耗内外づつに縦に細断し、繩を張つてこれにかけ、一二晝
夜乾燥する。
長割干を作るには、菜蕨を五種内外の厚さに横に輪切りとし、定
規を嵌めた庖丁で輪切りとしたものを一八片位づつとり、中央に

せて上から壓すれば諸
は切斷されて下に落ち
る。
諸切干製品の歩上り
は甘諸・馬鈴薯等は三
五%内外である。
干瓢
干瓢製造用の扁蒲は
類面に附着する細毛七
―八部通り脱落し、や
や光澤を帯びた時に
(一―二番成りは落花
後三〇日、三番成り以
後のものは二四―二五
日)晴天の早朝未明に
收穫して製品は一日間
で大體乾燥するやうに
する。過熱の扁蒲は剥
皮困難で製品は品質
光澤悪く歩上りも少い
また未熟なものは干瓢
に弾力なく脆弱で品質
劣り乾燥も困難である
干瓢の見分け方
なるべく丈けが長く
て光澤に富み薄い飴色
を呈し握りしめてしな
やかで、口に含んで甘
味のあるものが上等で
ある。



水といひ、四立内外の湯または水を打ちかけ、さらに三〇分間程ふかして肉質半透明
になれば釜から出して剥皮し、諸切器にかけて厚さ六耗内外に切る。切り諸は籠に
薄く並べ、風の強くあたる所に棚を設けて乾燥し、夜間は室内に取入れる。概ね四五
日間風乾すれば充分乾燥して、製品は飴色を呈するに至る。
〔干瓢〕 扁蒲を厚さ三耗内外に輪切りして果心を除き突貫と稱するブリキ製の圓筒
干瓢鉋 をもつて中央の軟い顆肉を切り抜き、こ
の部分に干瓢鉋を入れて鉋を左手に持
ち、右手で輪切りした扁蒲を前方に廻轉
しつつ幅三耗、厚さ三耗内外に紐状に削
り、二本の竹竿に跨掛として陽乾する。
概ね一日で乾燥する故、これを竹竿から取り下してさらに半日許り蓆に擴けて乾燥
し、三七五瓦づつ一束とする。



干瓢

二、果實の加工

(一) 果實の罐詰と燻詰

果實加工の目的は果實の貯蔵力を増加し、その重量と容積とを減じて輸送に便ならしめかつ果實の嗜好的價値を増進するにある。

一般に果實は肉質柔軟で多量の水分を含むから、生果のまま永く貯蔵することは困難であるが、適當に加工すれば屑物も利用され、かつ閑散期の勞力を利用すれば一層有利で農家の副業として最も適當である。家庭用としても隨時食用に供し得るから趣味深くかつ經濟的でもある。

果實加工の原理は、腐敗の原因たる細菌を死滅させるか、或はその繁殖を防止するもので、その方法には罐詰・乾果・ジャム及びゼリー・果實酒の醸造等がある。

罐詰の原理、容器、内容物の調理、填充その他の操作は蔬菜の罐詰と同様である。

〔梨苹果桃の罐詰〕 果實は肉質緻密で緊つた品種を選び、縦四つ割りとして剝皮し、果心を除いて手早く清水或は水一立に明礬二瓦を溶かした液に浸漬して酸化變色を防いだ後、これを罐に詰めて砂糖液水一立に砂糖〇七厘の割合を注加し、蓋附けして約一〇分間位加熱殺菌する。

〔梅李杏の罐詰〕 充分成熟した果實を二つ割りとし、明礬液に浸漬して酸化を防いだ後、罐に詰めて砂糖液水一立に砂糖〇五厘の割合を注加し、密封して一〇分間位加熱殺菌する。

〔櫻桃枇杷金柑の罐詰〕 果實は果梗を短く切つて、一二分間水煮し、枇杷は剝皮及び種子抜きする。放冷した後罐に詰め、砂糖液水一立に砂糖〇五〇七厘の割合を注いで密封し、一〇分間位加熱殺菌する。

〔栗の罐詰〕 果實を剝皮して水煮した後、罐に詰めて砂糖液水一立に砂糖〇七〇八厘の割合を注ぎ、密封して一〇分間位加熱殺菌する。

〔果實の燻詰〕 容器が異なるのみですべての操作は罐詰に準ずる。

乾果の原因は果實中の水分を蒸發させて微生物の繁殖を防ぎ長期の貯蔵に耐へしめるにある。

乾柿に適する品種

乾柿用には果實細長で大きく、肉質緻密で糖分を多く含み、種子の少ないものが適し、蜂屋祇園坊甲州百日西條などがよい。

串柿は剝皮した柿を串に刺して乾燥するもので、乾燥中の手入を要せず簡單であるが、白柿に比して品質が劣る。

勝栗(乾栗)用の栗は果皮及び種皮(俗に漚皮といふ)薄く、果肉と種皮とが離れ易く、かつ水分少く大粒でないものがよい。

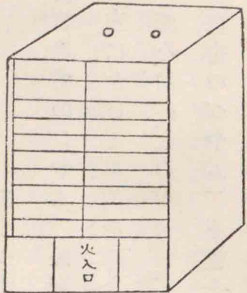
なほ乾燥を一樣ならしむるために大小を選別し、中栗は五―六日小栗は四日間陽乾する火力乾燥用の焙爐は高さ二米、幅一・八米

二、乾果

〔白柿(コロガキ)露柿〕 果實は充分成熟してから、果梗をつけて採收し、蒂の部分から平滑に剝皮した後、大中小に選別し、長さ三米内外の繩に兩端を三〇厘位づつ残して繩の捻目に柿の果梗を挿入し、豫め溫暖な場處に置いて置いた小屋或は軒下等にかけて乾燥する。乾燥中一週間に一度位づつ連返しと稱し、乾燥を一樣ならしめるために日蔭の部分に日向にかけ替へ、また乾燥中に二、三回果實を指先で揉み、水分の浸出を促して乾燥を早め、最後の手入の際に種子抜きする。

三、四週間で充分乾燥する故、寝かし込みといひ、乾果をとり下して一晝夜程席或は淺い木箱内に藁を敷き、その上に乾果を一〇厘内外の厚さに並べて席を覆ふて置けば、果面に白粉を生ずるから、これを二、三日間蔭乾して仕上げをする。

〔勝栗〕 生栗を四、五日間陽乾してから、焙爐に入れて火で乾燥し、次に白に入れて軽く搗き、八〇%内外剝皮するに至れば篩にかけて選別をなし、皮つきのものは新しい乾栗に混ぜ再び搗いて剝皮する。剝皮を終つたものは選別し、二立入れ位の袋に詰めて販賣または貯藏する。



焙爐

奥行一、三米内外とし
前後は紙張りの開き戸
とし、左右の兩側は壁
を塗り、中に柵を架し
て竹籠を載せ籠の上に
栗を載せる。初め三日
間位は二六度、四日目
に三二度、五日目に三
八度内外に加熱すれば
充分乾燥するから剥皮
する。

ジャムは充分成熟し
た果實に砂糖を加へて
煮詰めたもので、これ
を作るに用ひる鍋は瀬
戸引鍋或は銅製の二重
鍋を用ひ、鐵鍋は用ひ
てはならぬ。

ゼリーは果汁に砂糖
を加へて煮沸凝固させ
たもので、ジャムと異
なる點は決して果肉を
混入せぬことである。
もし果肉を混入すれば
製品の透明力を失ひ著
しく品質を損する。

これを製するには壓
搾器或は麻袋・フラン
ネル袋等に入れて果汁
を搾り、原料の四〇―

三、ジャム

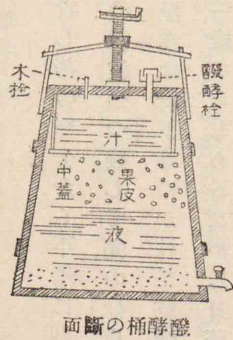
〔苹果桃のジャム〕 果實を一〇分間程水煮して酸抜きした後剥皮して果心を除き裏
漉にかけて果肉を碎き瀬戸引鍋に入れて弱い火で加熱し、材料の五〇六〇%の白砂
糖を加へ、火力を強めて加熱攪拌して煮詰め、或は壘に詰めて加熱殺菌する。

〔梅杏のジャム〕 果實を一五分間位水煮して酸抜きを行ひ、二つ割りとして核を除い
て裏漉にかけ、材料の七〇%乃至等量の砂糖を加へて煮詰める。

〔マーメイド〕 材料は夏橙甜橙^{オレンヂ}、レモン、旭柑、鳴戸柑など果皮の厚い柑橘類を選び、果
皮を細かに切つて二、三時間陽乾した後、水四立に炭酸加里三瓦を混じた液に入れ、煮
沸して酸抜きをなし、冷水中に浸漬して屢、水を換へ、水一立に食鹽一瓦を加へた液に入
れて煮沸する。また別に果肉も果皮と同様に水煮して酸抜きを行ひ、壓搾して果汁
を搾り、この果汁を前記の果皮に混じ、材料の五〇六〇
%の砂糖を加へ、約一時間煮沸して飴色になるまで煮
詰める。

四、果實酒

〔葡萄酒〕 葡萄酒醸造用には、含糖量の多い品種を選び、
充分成熟して糖分が最大量に達した時晴天の日中に



醗酵桶の断面

五〇%の砂糖を加へて
煮詰める。
ジャム及びゼリーの
凝固を助けるためにゼ
ラチンまたは寒天(角
天)を用ふることがあ
る。

〔實験〕

一、果實のジャムやゼ
リーを作つて見なさい。
原料とする果實は少
しく古くなつたもの或
は傷物を利用すれば經
済的で製品の品質には
殆んど影響はない。

二、果物のエードを作
つて見なさい。大體果
實一個で三人前或は四
人前位出来る。

温湯或は冷水の分量
は大約果汁の一―二倍
量用ひるがよい。

三、果物のシャーベツ
ドは攪拌器があれば一
層よいが無くとも出来
る。

四、西瓜草苺 マスク
メロン等の蔬菜もエー
ドやシャーベットによ
い。

收穫し、未熟果腐敗果等を除いて果梗を摘除し、果實は破砕器にかけ種子を碎かぬや
うに破砕して醗酵桶^{ハコウヤク}に入れる。初め一―二日間は毎日二―三回攪拌し、二―三週間後ほ
醗酵が終れば壓搾器^{アツクヤク}にかけて果汁を搾りとり、麥酒樽形^{ビールダルガタ}の醗酵桶に移す。醗酵が衰
へて炭酸瓦斯の泡出せぬやうになれば、液を補注して木栓で密閉する。約二個月で
醗酵が終るから渣引^{カスヒキ}を行ひ、清澄液を他の樽に移して一―二度以下の冷室内に貯藏す
る。その後二―三箇月を経て第二回の渣引を行ひ、さらに半年以上を経れば赤葡萄酒
として飲用出来るが、永く貯藏すれば一層香味を増加する。

五、果物エードとシャーベット

〔果物エード〕 苹果、梨、桃、パイナップル等のエードを作るには、果實を卸し金ですり
つぶし、枇杷、葡萄、蜜柑、オレンジなどはよく壓しつぶしてから麻袋またはガーゼの袋
に入れて果汁を漉しとり、これに少量の白砂糖を加へて味をととのへ、温湯或は冷水
を注いで適度にうすめた後、レモン汁を一―二滴加へる。

〔果物シャーベット〕 苹果、梨、桃、パイナップル等のシャーベットを作るには、果物エ
ードと同じ方法で果汁を漉しとり、砂糖と温湯或は冷水を加へた後、これに鶏卵の白
味(一〇人分につき卵の白味一個の割合)をよく泡立たせて果實の刻んだ片と一緒に
入れてよくかきまはす。

鶏は鶏類鶏族に屬し、印度馬來半島等に棲む野鶏を改良したもので古くからこの地方で馴化されて各國に擴まつたので品種も甚だ多い。我が國でも既に神代の頃から飼養されたが太古は主に報農用と愛玩用にされたがその後次第に卵肉を生産するために飼養されるやうになつた。昭和五年我が國内地の鶏卵消費高は約九〇〇〇萬圓に達し、内二八〇萬圓は上海卵を輸入してゐたが、最近養鶏の發達につれて鶏卵の輸入は漸減し、殆んど自給自足し得るに至つてゐる。

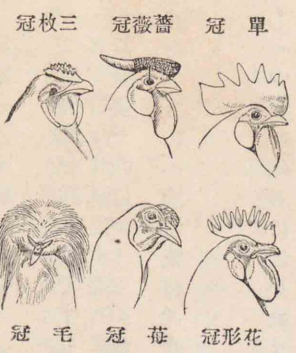
卵用種
體は中等の大きさで輕快優美である。性質強健で就巢性に乏しく、舉動敏活で採食性に富み早熟・多産性である。肉量少く肉質も劣る。

鶏は卵と肉とを需めるために飼養され、飼育が簡單容易で、かつ資本を多く要せぬから農家の副業に最も適する。

〔品種〕 鶏の品種は非常に多いが、通常その用途によつて卵用種肉用種卵肉兼用種及び愛翫用種に大別され愛翫用種には長尾鶏、烏骨鶏、絹絲鶏、ポリリツシユ、矮鶏類などの如く姿態の美しいものや軍鶏シヤモの如き闘鶏用のものなどがある。

三、鶏

類種の冠鶏



品 種	形 態	羽 の 色	標 準 體 量	一 年 の 産 卵 數
レガホーン	體輕く緊りて姿勢優美、體質強健で性敏活輕快。單冠と薔薇冠とある。	白色 褐色 黑色 銀色 赤黄色等	雄 一・八斤 雌 二・五斤	個 一九〇—二三〇
ミノルカ	體長大で形がよい。體質強健、單冠と薔薇冠とある。	黑色 白色等	雄 四・四斤 雌 三・四斤	個 一三〇—一五〇

種雞 - 卵用種
母雞 - 卵用種

肉用種
體は深廣・膨大で羽毛が多く耐寒性に富み性質溫和・遲鈍で採食性に乏しく晩熟で多食である。よく肥滿して肉量多く肉質上等である。産卵數は少く就巢性が強い。

兼用種
卵肉兼用種は體形・性質共にほぼ卵用種と肉用種との長所を兼備する實用種で産卵數も比較的多く殊に秋冬の卵價高き時期に産卵率が多い。

愛翫用種
實用的價値は少いが姿態美しいもの、珍奇なもの、または好闘的なものを娛樂用として飼養される。

種雞選擇上の注意
一、品種固有の特質性能を具ふること。
二、疾病・惡癖等なきこと。

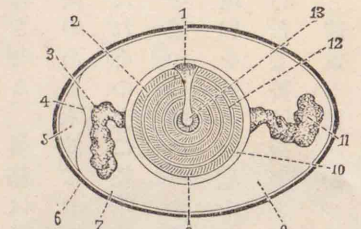
種 用 兼	種 用 肉
名古屋種	ブヨマ
プリマス	コーチン
ロツク	
コーヒントン	

バフコーチンと在來種の雜種でコーチンより稍々小さい。體頗る強健、單冠で耳朶赤い。	體甚だ重大で、鶏冠は三枚冠である。
體驅大、各部よく均整する。鶏冠は、形の單冠で耳朶赤い。	體重大にして羽毛叢生するため膨大に見ゆる體強健、單冠である。
外觀膨大であるが各部の釣合がよい。強健で發育がよい。單冠	

種 用 兼	種 用 肉
赤黄色で尾羽は灰色、白色、パフ色等	淡色 暗色
雄 二・六斤 雌 三・四斤	雄 五・四斤 雌 四・二斤
一五〇個内外	一一〇個内外
雄 三・三斤 雌 四・三斤	雄 五・〇斤 雌 三・八斤
一五〇個内外	九〇個内外
雄 四・三斤 雌 三・五斤	
一四〇個内外	

〔蕃殖〕 種雞は品種固有の特質性能を具へた強健な一五歳の鶏を選び、一雄に雌五—一〇羽を配して種卵をとる。種卵は品種固有の形状・色澤・重量等を有し、産卵後冬季は二週間、夏季は一週間以内の新しい有精卵を選んで用ひる。

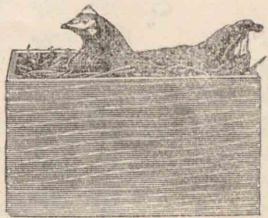
自然孵化法 母雞は性質溫和で就巢の念確實な健康鶏を選び、一羽に冬季は一二個、夏季は一五



- 1 胚盤
- 2 黄色卵黄
- 3 卵索
- 4 内卵殼膜
- 5 氣室
- 6 卵殼
- 7 外卵殼膜
- 8 卵黄膜
- 9 卵白
- 10 卵白薄膜
- 11 卵索
- 12 白色卵黄層
- 13 白色卵黄

三、發育完全なこと。
 四、殊に種雄の撰擇に充分注意すること。
 種鶏としての適當な年齢は雄は滿一五年、雌は滿二六年とする。また雄一羽に配すべき雌の數は大體
 卵用種 一〇—一五羽
 肉用種 四—五羽
 卵用種 七—一〇羽
 種卵は有精卵を必要とするが、食用卵は無精卵の方が永く貯藏に耐へ、かつ榮養價値に差がないから有精卵よりもよい。

〔實驗〕
 一、(檢卵)第一回は抱卵後五—六日目、第二回は二—三日目、第三回は七—八日目に行ひ無精卵・發育中止卵・腐敗卵等を除く。
 二、無精卵は内部透明で、有精卵は胚から血管が派出してゐる。發育中止卵は血管が派出延長しない。



箱 巢

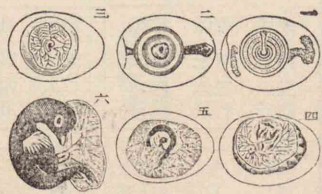


檢 卵 器

かで稍、薄暗く清潔な場所に置き、巢箱の傍らに飼料と清水を備へ、かつ砂を置いて砂浴し得るやうにする。抱卵後二、三回檢卵して無精卵及び發育中止卵を除く。通常二—日目に雛は自ら卵殻を破つて出る。

人工孵化法 孵卵器を用ひて電熱或は火力で母鶏の體温と同一の溫度攝氏三九四〇度を保たせ、同時に濕氣を充分に供給して種卵の水分の蒸發を防ぎ、かつ毎日朝夕二回種卵を反轉して胚子の卵殻膜の糊着するを防ぎ、かつ常に換氣に注意し、孵卵の數日前から毎日二回位反轉の際に種卵を一五分間位器外に放冷して換氣を補ふ。孵卵の二、三前からは種卵の反轉を中

順序の化 卵 鳥



日 日 三 後 卵 抱 (二) 卵 種 (一)
 (五) 日 日 九 (四) 日 日 六 (三)
 日 日 八 (六) 日 日 三 (二)

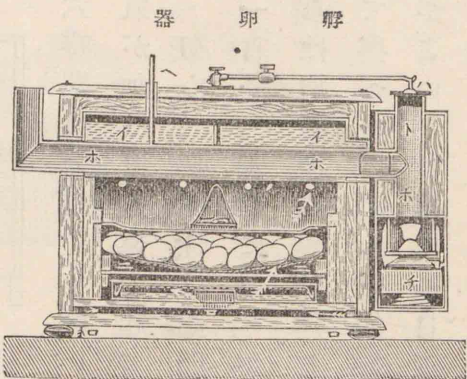
三、腐敗卵は淡暗不透明で自温を發しないが、孵化するものは卵内が一樣に暗黒でかつ自温を發する。

育雛飼料配合例

(畜産試験場)

飼料種類	二ヶ	二ヶ
(粉餌)	月迄	月後
玉蜀黍粉	一〇	四
小麥粗粉	八	四
糠	一〇	四
米	一	八
大豆粕粉	一	五
乾餛粉	一	五
魚粉	一	七
骨粉	一	七
食鹽	〇	五
(粒餌)	〇	五
玄小米	三〇	一
玉蜀黍碎	一〇	二〇
小麥碎	二〇	三〇

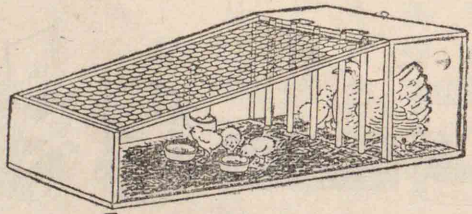
一、配合の割合は重量比とする。
 二、初め一週間は練餌とし、その後は粉餌を與へ、粒餌は夕刻に與へる。



管火ホ 匣抽ニ 蓋ハ 孔氣換ロ 槽水イ
 プンラチ 器温整動自ト 計暖寒へ

母鶏による自然育雛と、育雛器(假母器)を用ふる人工育雛とがある。

自然育雛 母鶏に托して自由につれ歩かせる方法と母鶏と共に育雛器に入れて育雛する方法とあるが、何れも孵化後三〇日内外で母鶏と雛とを分離する。
 人工育雛 人工孵化したもの或は母鶏に故障を生ずる



器 雛 育 鶏 母

止し、特に器内の乾燥せぬやうに給濕に注意し、雛は早く孵化したのから順次育雛器に移し、薄暗くして攝氏三六三七度に保つて羽毛の乾燥をはかり、かつ安眠させる。
 孵卵器には種々あるが、何れも濕熱濕氣空氣等の孵化要素を種卵に適當に與へるやうに裝置したもので、一時に多數の孵化を行ふことが出来る。

三、清水青菜木炭末
貝殻粉・砂等を適宜
に與へる。

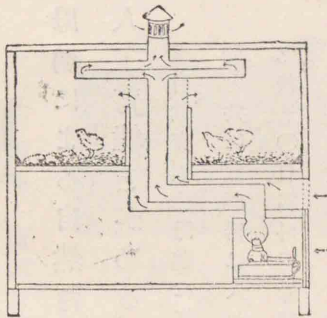
四、雛一〇〇羽に對す
る飼料の分量は

餌付初日	二五〇瓦
二日目	三八〇瓦
四日目	五六〇瓦
七日目	七五〇瓦
一五日目	一二二瓦

餌料の分量は大體雛
の喰ひ加減を見て漸次
増加するがよい。

粒餌はその大きを自
由に加減出来る挽割機
を備へて初めは細くし
たものを與へ、次第に
その大きを増して粗く
するがよい。

雛の育成の末期には
餘り早く産卵し初めて
體力を消耗しないやう
に、餌料はなるべく蛋
白質を少くして榮養率
を廣くし、體力の充實
をはかるがよい。

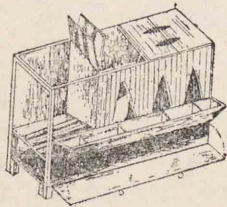


器雛育式ブンラ

か間もなく再び抱卵させる場
合等に電熱火力等によつて給
温装置を施した育雛器に多数
收容し孵化後三〇四〇日間育
雛するもので育雛器内の温度
は攝氏三六三七度に保つ。

何れも孵化後二四三

六時間は、薄暗くて暖い場所に静置し、充分に元
氣が加はり、食欲の起つた時に初めて給餌する。
初め二日間位は茹卵ヌカの卵黄マダラを刻んで一個を
一日一〇羽位に與へ、かつ給水する。三日目か
らは屑穀挽割麥煮熟した粟等と葉菜類を刻ん
で與へ、なほ動物質飼料を少しく與へれば發育
がよい。初めは一日五六回に少しづつ與へ、三
個月目頃から一日二三回給餌する。



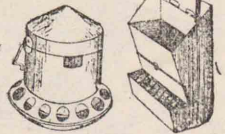
箱育肥



器水給



器餌給練



器餌給粉の雛

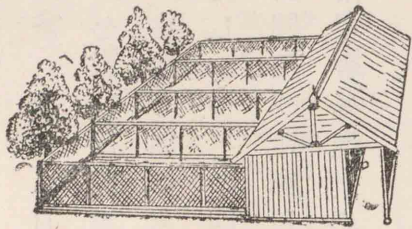
成鶏飼料配合例

(畜産試験場)

種類	春	秋
玉蜀黍	一〇	一三
穀類	一五	一〇
麥糠	八	五
米糠	一五	一〇
大豆粕	七	五
魚粉	二	一〇
骨粉	一	二
食鹽	〇・五	〇・五
小麥	三〇	一五
大麥	一	一五
玉蜀黍	二〇	二〇

一、配合は重量比とす
二、木炭末を粉餌の一
〇%内外與へる。
三、給餌量は毎回三〇
分間内外で喰ひ盡す
位を以て程度とする

鶏肉の見分け方
鶏肉の見分け方は大
體一般鶏肉とほぼ同様
であるが普通販賣され
る場合笹身、上肉、中
肉、並肉に區別する。
笹身は胸肉の下部にあ



舎鶏

〔飼養〕 成鶏の飼料は穀類蔬菜類糠などの植物質飼料と、魚肉蟲類
などの動物質飼料とを適當に混合して朝夕二回に與へ、朝は穀糠
餌として給し、消化に長時間を要して夜中空腹を感ぜしめぬこと
と、體温を保持せしむるやうにする。また冬季は脂肪に富むもの
を與へ、夏季は蛋白質に富む飼料を與へて産卵を多くすることが
肝要である。飲料水も毎日新鮮なものを給
し、産卵中の牝鶏は卵殻をつくるために石灰
質を要するから時々貝殻などを給する。

〔肥育〕 肉用鶏は生後四五個月目頃に去勢し、
更らに一年未滿の間に薄暗い所に入れて運
動を制限し、練餌を多量に與へて肥育するこ
とがある。肥育鶏は比較的短期間に脂肪が
肉の纖維の間に細かく分布して、香味を増し、

る肉でその上を覆ふて
ぬるのは上肉、股肉は
中肉でその他の部分は
並肉である。笹身と上
肉は肉色で中肉と並肉
は暗赤色を呈し、何れ
も新しいものは光澤に
富み古くなれば光澤な
く黒味を帯びる。

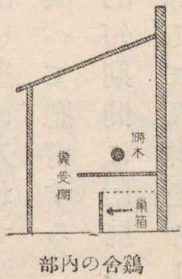
鶏卵の見分け方

鶏卵は新鮮な程上等
なことは勿論である。
内地卵も上海卵もその
新鮮度が同一なれば榮
養價に異なる所ないが
上海卵は新鮮度に於て
内地卵より劣るため廉
價である。

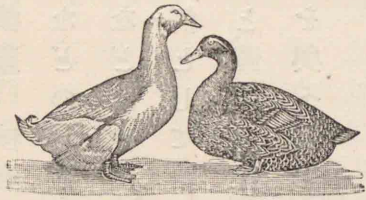
新しい卵はこれを光
線に向つて透視した場
合に全體が平均して半
透明であるが古いもの
は暗色部があり腐敗し
たものけ不透明である
また舌で卵の尖端に
觸れて見て冷たく鈍端
は温か味を感じるの
新しく兩端共に冷たい
のは腐敗卵である。

組織が軟かくなつて肉質を上進する。

〔鶏舎〕 鶏舎は日當りよく、かつ空氣の流通よき
所を選び、風雨及び寒氣を充分に防ぎ得るやう
に建造し、別に窓と空氣抜きとを設けて換氣に
便し、かつその開閉によつて炎熱や寒風を防ぐ。 舎内には罌木糞
受棚及び産卵用の巢箱を具へ、なほ鶏舎に接續して雨天運動場砂
浴場、舎外運動場などを設ける。 通常鶏舎一平方米につき三四羽
位飼養するのが最も適當である。



部内の舎鶏



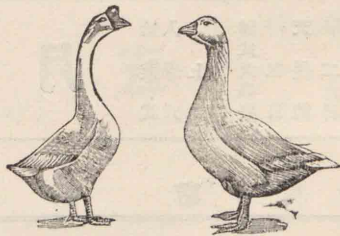
北京鴨 アールン鴨

〔附〕 鶯鶯吐綬鶏

鶯鶯鴨は鴨を馴化したもので肉用並びに羽毛用として飼養
し、ベッキン鶯鶯ルーアン鶯鶯は肉用として卓絶し、インディアンラン
ナーは産卵数多く、エールスベリーは羽毛を裝飾用として飼養
される
鶯鶯は雁を馴化したもので肉用並びに羽毛用として飼養され、
支那鶯鶯ツールズ鶯鶯は肉用に、エムデン鶯鶯は羽毛用として貴ば

〔實驗と觀察〕

一、産卵前の雌に動物
質飼料を多く與へれば
産卵を早め反對に植物
質飼料のみを與へれば
産卵が遅れるから專業
養鶏家は飼料で一―二
個月位産卵調節を行ふ
ことがある。
二、無精卵は有精卵に
比して約二倍の貯藏力
があるから食用卵を探
るには雌鶏のみ飼育す
るがよい。同じ日に産
んだ無精卵と有精卵と
で保存力を觀察なさい
三、雌鶏のみ飼育すれ
ば皆温順であるが雄鶏
を混飼すれば雌鶏の性
質がやや粗暴になる。
四、多産鶏には如何に
石灰分を充分與へても
軟殻卵が多く又卵形が
長味を帯びてゐる。
五、雛で夏の土用を越
した鶏は強健で産卵能
率も優れ廢鶏が少いか
ら採卵用には三―四月
頃孵化した雛がよい。



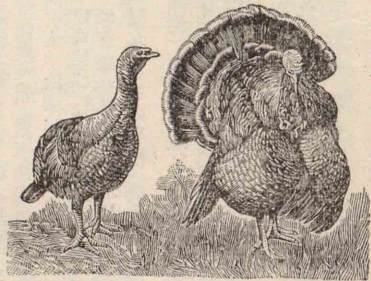
支那鴨 エムデン鴨

れる。

吐綬鶏七面鳥は肉用として
飼養され青銅色吐綬鶏黒色吐
綬鶏は肉質良く、白色吐綬鶏は
羽毛を帽子その他の裝飾用に
用ひられる。

蕃殖するには鶯及び鶯は滿
二三歳吐綬鶏は二五歳位の種

鶏を選び、種卵は一五個内外を鶏または吐綬鶏に抱卵させる。 何れも二六三〇日
孵化し育雛飼養法等は鶏に準ずる。 鶯及び鶯は孵化後二週間内外を經れば水邊に
放飼して自由に水泳させる。



青銅色吐綬鶏

▼四月の花
露地：：雛菊三色草、金盞花、ストック、ウオ
イルフラワリーキヤンヂ
タフト・ミオンチス・ケ
マンソウ・ハイヤシシ
スチエーリツプ・スイ
ドロッパ・クロツカス
グア・ベナ・ミニオネ
ツト・ブリムラ・フロ
クス・桃櫻、扶桑、石楠
花山吹、霧島、海棠、木
瓜、雪柳等。
温室：：カーネーション
ネラリヤ・プリムラ・マ
イガレット、フリージ
ヤ、百合、薔薇等。
▼主なる春播草花
ロベリア・サルビヤ・ジ
ンニア・コスモス・ペチ
ユニア・グア・ベナ・コ
レオプシス、朝顔、夜顔
アロンソア・リナリヤ・
ホルチユラカ・サルビ
グロツシス、金蓮花、ヘ
リアンサス、翠菊、矢車
草、天人菊、百日草、金盞
花、マリゴールド、貝
細工、鶴頭、雁来紅、鳳仙
花、アゲラタム、コリウ
ス、千鳥草、チブンフイ
ラルヒナス、ニゲラ、フ
ロックス、シザンサス等

首 卯
夏 月
四 月 (April)
入 始
上 學 業
三 日 式 式
神 武 天 皇 祭
天 長 節
二 九 日

季 節 行 事

清明 (五日もしくは六日) 草木發芽して清く朗かなるの意
春の土用 (二七日もしくは一八日) 立夏まで春の陽氣盛んなるの意
穀雨 (二〇日もしくは二一日) 春雨降りて百穀生ずるの意
耕種 苗代土置き及び畦畔塗り、水田耕種、種籾選水選及び浸種、種籾播種、縁肥
大豆及び大豆小豆落花生、蒟蒻、葉煙草、大麻、亞麻、胡麻、甜菜等播種。三椏楮
の移植、麥の中耕及び土入れ。桑園の中耕、施肥。
果樹 梨、苹果、桃、葡萄、柿、栗、枇杷、柑橘類等の接木、並びに移植。夏橙の收穫。柑
橘類の剪定。枇杷の袋掛け。梨、苹果等の摘花。果樹園除草及び寒害防止用覆
藁の除去。柑橘類、苹果、梨等の貯蔵果手入。病蟲害驅除豫防。
蔬菜 葱、甘藍類、胡瓜、南瓜、冬瓜、西瓜、甜瓜、越瓜、絲瓜、苦瓜、扁蒲、春播豌豆、菜豆、鵲
豆、刀豆、枝豆、紅豆、夏大豆、胡蘿蔔、牛蒡、小燕、ヒトセルリ、アサギ、茄、蕃茄
、蕃椒、食用大豆、防風、紫蘇、高麗菜、春播白菜及び小松菜、春播菠菜、バーセリ
等の播種。馬鈴薯、里芋、薯蕷、慈姑蓮、草石蠶、薑、菊芋、若荷、落土當歸、アスパ
ラガス、山葵、西洋山葵、料理菊等の植付。温床仕立の茄、蕃茄、蕃椒、胡瓜、南瓜、冬
瓜、華人瓜等の覆種及び定植。冷床苗物の間引及び除草。葱、リキ、葱頭、百合
、苺、甘藍類、寒土當歸、馬鈴薯、小燕等の中耕、除草、並びに補肥。秋播菠菜、二年子
大根、二〇日大根、不斷草、土當歸、アスパラガス、落若荷、野蜀葵、分葱、葉葱
頭、及び促成栽培の胡瓜、南瓜、蕃茄、菜豆、鵲豆、苺等の收穫。病蟲害驅除豫防
春播草花の播種。秋播草花苗の定植及び補肥。宿根性花卉の株分並びに定植
補肥。春植球根類の定植。アブチロン、ボイン、セチア、ランタナの挿木。觀賞
樹木類の挿木、接木及び移植。觀賞樹木の補肥。薔薇の剪定。庭園除草。温
室の補熱作業中止。
その他 蠶室蠶具の消毒。春蠶種の催青並びに掃立。家禽の孵卵及び育雛。家兎、豚
、牛馬等の種付及び分娩仔畜の育成。蜜蜂の分封。松杉その他山林苗木の播種
、床替、山出し。山林の刈拂ひ。

▼五月の花
露地：：アリッサム、
アンチユサ、アケイレ
ジオアシトルベ、カー
ネーション、カンパニ
ユラ、鈴蘭、コレオプシ
ス、ギタリス、アイリ
ス、ヒナス、リグニス
、髯聖花、菱草、スキート
、ビーフロックス、ミオ
シチス、シレネ、松葉菊、
躑躅、牡丹、芍薬、藤、薔
薇、山吹、金糸雀等。
温室：：シクラメン
カトレア、パンダ・シン
ビジュウム、アンズリ
ウム、クロトン、その他
觀葉植物。
▼主なる春植球根草花
ダーリア、グラジオラ
ス、カンナ、アマリリス、
ジンジャ、モントブレ
ツシヤ、チユベロース、
セフィランサス、アキ
メネス、アガパンサス、
トリトマ、ランキンユ
ラス、ニンフイヤ等。
▼蔬菜の支柱建て
支柱には直径三―四種
長さ二―三米の竹或は
粗束を用ひ、建て方に
は直立、合掌形もしくは
は六―八本づつ上部で
山形に一箇處で結ぶ。

仲 阜
夏 月
五 月 (May)
端 午 の 節 句
五 日
海 軍 記 念 日
二 七 日

季 節 行 事

八十八夜 (一日乃至三日) 立春から八八日目で、この頃になれば結霜することが稀で
俗に八十八夜の別れ霜といふ。所謂春暖の候で夏作物播種、植付の好時期である。
立夏 (五日もしくは六日) 春から夏に移るの意である。
小満 (二〇日もしくは二一日) 草木生成して少しく肥満するの意である。
耕種 水田耕起及び畦畔塗り、種籾播種、苗代の芽乾し、除草、種抜き、陸稻、大豆、
小豆、蕎麥、粟、棉、黄麻、苧麻等の播種。麥の黒穂抜き、採種用麥の穗選。茶
摘み及び製茶。醬油製造(膠の仕込み)
果樹 梨、桃、苹果等の摘果及び一般果樹類の袋かけ。接木苗の覆土除去、萌芽掻き及
び補肥。柑橘類、梨、苹果等貯蔵果の手入。夏橙、甜橙類の收穫終り。櫻桃、枇
杷の收穫始まる。桃、梨、苹果、葡萄等の夏期剪定。葡萄の誘引、病蟲害驅除豫防。
蔬菜 二十日大根、胡蘿蔔、牛蒡、小燕、高麗菜、甘藍、野蜀葵、不斷草等の播種。薑、蓮、慈
姑、春播甘藍類、夏葱、セルリ、胡瓜、南瓜、冬瓜、苦瓜、絲瓜、扁蒲、華人瓜、茄、蕃茄
、蕃椒、高麗菜、甘藷苗等の定植及び中耕、除草、補肥。瓜類の摘心。蕃茄の腋芽
摘み、馬鈴薯、里芋の中耕、除草、補肥、土寄せ。胡瓜、菜豆、鵲豆、刀豆、薯蕷、蕃茄
等の支柱建て。絲瓜、華人瓜の棚架設。葱頭の捻曲及び土掻き。土當歸、アサ
バラガス、苺、落若荷、莢豌豆、蠶豆、苺葉葱頭、甘藍、二十日大根、高麗菜等の收穫。
促成栽培の茄、蕃茄、胡瓜、菜豆、鵲豆、南瓜、西瓜等の收穫終る。
その他 朝顔、夜顔の播種。春播草花類の定植。金雀花、紫陽花、鐵線花、菊、ダーリア、石
竹、カーネーション、アルターナナンセラ、セラニウム、仙人掌、アンセリウム、ベゴ
ニア、クロトン、アザレア、ドラセナ、ファイカス等の挿木。ニンフイヤ、蓮その他
水生花卉類の株分。ダーリアの摘心及び支柱建て。菊の摘心。藤、薔薇、牡丹
等は落花後補肥を施す。盆栽及び庭樹木の摘梢、古葉除去。芝生施肥、病蟲害
驅除豫防。温室及び温床には日中霞を覆ひ室内温度の調節に注意する。
春蠶飼育。竹林の施肥及び竹類の移植。鶏舎、畜舎等の清潔。

▼六月の花

露地：アゲラタム、アンテリナム、アスタ、アフリッサム、アマリリス、アキメネス、アガパンサス、アイリス、ウオルフラワー、グアイペナ、カーネーション、花菱草、天人菊、カンパニユラ、カンチダフト、シレネ、シヤスター、デイジー、ふらんすぎく、百日草、ストック、矢車草、ダイアンサス、ダリーア、デルヒニウム、トリトマ、ニコチアナ、フロックス、雛菊、ペチユニア、罌粟、ボルチエラ、カ立葵、マーガレット、トモトプレツシヤ、百合、ルピナス、ロベリア、ニンフィア等。

水無月 夏

六月 (june)

蟲菌豫防日 四日 時の記念日 一〇日

季節行事

芒種 入夏 耕種 果樹 蔬菜 花卉 其他

(六日もしくは七日) 芒のある穀類が成熟するの意。
(一日もしくは二日) 梅の實の成熟期に入るの意で、夏至の一〇日前から半夏まで二日間を梅雨といひ霖雨續く。
(二日もしくは二日) 小暑まで眞夏で書が最も長く夜の短い時である。
苗代の稗抜き及び害蟲驅除。本田二毛作として作付けした甘藍、馬鈴薯、豌豆、蠶豆、苺、葱頭等の蔬菜類、麥、油菜並びに綠肥用の紫雲英、苜蓿、大豆等は收穫して跡地を整理し、畦塗り、施肥して挿秧の準備をする。挿秧(田植)麥類、油菜の收穫及び調製。陸稻、蕎麥、粟の中間中耕、除草、補肥。除蟲菊の收穫及び乾燥調製。胡麻の播種。桑の株直し及び中耕、除草、施肥。
柑橘類の定植。各種果樹の發掛け。果樹園中耕、除草、補肥。柑橘類、枇杷の敷葉敷き。梨、苹果、桃、李、梅、葡萄等の夏季剪定。苹果の輪狀剝皮。櫻桃、枇杷、梅杏、樹莓、須具利、早生桃等の收穫。病蟲害驅除豫防。
高苜蓿類、胡蘿蔔二十日大根、野蜀葵、夏播甘藍の播種。抑制栽培の胡瓜、越瓜、蕃茄の播種(本圃に直播する)母走蔓(葡萄枝)の移植。瓜類の摘心。蕃茄の腋芽摘み及び摘葉。里芋除葉。甘藷蔓返し。胡瓜、蕃茄、薯蕷等の支柱建て。瓜類、茄、蕃茄、蕃椒、菜豆、鵲豆、馬鈴薯、里芋、薯蕷、夏葱、胡蘿蔔、牛蒡等の中耕、除草、補肥。南瓜、西瓜、茄、里芋、豆等の敷葉敷き。南瓜の人工煤助。土當歸、アスパラガスの盛土を除いて補肥を施す。秋播甘藍、豌豆、菜豆、鵲豆、刀豆、苺、葱頭、蕪夏大根二十日大根、牛蒡、蕃茄、胡瓜、南瓜、高苜蓿、紫蘇、朝鮮菊等の收穫。病蟲害の驅除豫防。
春播草花苗の定植。菊、ダイア、金魚草、セラニウム等並びに山茶、茶梅、木犀千両、萬兩、瑞香、梔子、躑躅等の挿木。草花類の除草、補肥。芝生の刈込み及び施肥。秋植球根類の掘上げ、乾燥、貯藏。盆栽類の灌水及び施肥。温室内熱帯植物の露地、葎掛小屋へ搬出。シネトラリヤ、カルセオラリヤ、プリムラ等の播種。コリウス、フクシヤ、カーネーション等の摘心。庭樹類の手入れ。病蟲害驅除豫防。
春蠶上簇及び收購。屑繭整理。二、三番茶摘み及び製茶。梅干、梅酒、苺ジャム、苺酒、グリーンピー、落の砂糖漬等の製造。水田養鰻の仔鰻放養。

▼七月の花

露地：アゲラタム、アンテリナム、アキメネス、アイリス、朝顔、ニンフィア、ウオルフラワー、グアイペナ、月見草、オキザリス、カーネーション、カンナ、天人菊、カンパニユラ、グランドパラス、コスモス、コレオプシス、サルビア、向日葵、ジンジャー、百日草、シブツファイラ、スカビガサ、ストック、ストックシヤ、矢車草、ダリーア、チギタリス、デルフィンニウム、トリトマ、金蓮花、鳳仙花、フロックス、ペチユニア、ペゴニア、ホルテユラカ、立葵、マリゴールド、モントプレツシヤ、百合、ルピナス、ロベリア等。

新文 秋月

七月 (july)

第一學期 終業式 中旬一下旬 夏季休業 に入る

季節行事

半夏生 小暑 夏の土用 大暑 耕種 果樹 蔬菜 花卉 其他

(二日もしくは三日) 夏至から一日目で梅雨の明ける時である。
(七日もしくは八日) 大暑まで暑氣に入るの意である。
(二〇日もしくは二二日) 立秋までの間、大暑中に當り眞の夏の陽氣である。
(二三日もしくは二四日) 暑氣最も強い時期の意である。
水田、雁爪打ち(一番除草)、雁爪直し(二番除草)及び三番除草。水稲補肥。螟蟲被害驅除及び浮塵子驅除。陸稻の除草、補肥。粟の中間中耕、補肥。大豆、小豆、胡麻、葉煙草、甘蔗、薯蕷等の除草、補肥。蕎麥、藨、大麻、亞麻、苧麻等の收穫。杞柳、夏芽刈り。藍、薄荷の一番刈り。
柿、葡萄の摘果及び袋掛け。梨、苹果、柑橘類等の補肥は上旬までに終る。葡萄、梨、桃等の夏季剪定。果樹園除草。柿、木育成圃除草、補肥。枇杷、柑橘類の敷葉敷き。果樹園垣根柵の修繕。晩生梨、苹果の袋掛け替へ。
晩生枇杷、櫻桃の收穫終る。桃、早生梨、葡萄、苹果及び無花果、杏、李等の收穫。病蟲害驅除豫防。
夏播甘藍、時無大根二十日大根、美濃早生大根、洋種胡蘿蔔、高苜蓿類、小蕪及び抑制胡瓜、蕃茄等の播種。春播葱、リーキの定植。甘藍苗の假植。茄、蕃茄、蕃椒、胡蘿蔔、牛蒡、葱、甘藍類、薯蕷、瓜類、薑、野蜀葵、高苜蓿等の中耕、除草、補肥。
甘藍、西瓜、胡瓜、南瓜、扁蒲、冬瓜、越瓜、甜瓜、絲瓜、苦瓜、菜豆、鵲豆、刀豆、オクラ、セリ、リー、パーセリ、茄、蕃茄、青蕃椒、薑、野蜀葵、紫蘇、高苜蓿類、葱、胡蘿蔔、夏大根二十日大根、ピート、小蕪、葱頭、馬鈴薯及び早採里芋等の收穫。病蟲害驅除豫防。
菊、岩桔梗、時計草、扶桑花、山茶、石楠花、月桂樹、木犀等の挿木。朝顔、夜顔の灌水、施肥、摘心。薔薇、牡丹の剪枝。薔薇、牡丹、芍薬、藤、躑躅その他の補肥。
盆栽類の灌水及び補肥。草花類の採種、調製。庭樹の切り透し及び庭園、花壇の除草。温室栽培のシネトラリヤ、プリムラ、カルセオラリヤ、アスパラガス、シクラメン、スウキートピー等の播種。ペゴニア、セラニウム、ポインセチヤ、マリーガレット、コリウス等の挿木。カーネーション、石竹等の壓條。
夏蠶の掃立飼育。柿、苺、乾杏、馬鈴薯澱粉製造等。

▼八月の花
露地：アゲラタム、翠菊、朝顔、夜顔、ニシキアザミ、イペナ、月見草、オキザリス、カンナ、天人菊、アラサオラス、コスモス、サルビヤ、向日葵、ジンジャ、百日草、ジブソフイラ、スカビオサ、ストツケシヤ、ゼラニウム、ダリア、チギタリス、トリトマ、金蓮花、風仙花、フロツクス、ペゴニア、ホルチユラカ、立葵、マリゴルド、百合等

温室：アスパラガス、アンズ、リウム、ゼラニウム、カラジウム、ネベントス、グロキシニヤ、デンドロビウム、球根ペゴニア、羊齒類等

▼梨、葡萄の灌水
早敷の際には収穫の一箇月位前から灌水を行ひ、果實美大となり収量を増し品質を向上する。

仲葉 八月 (August)
夏季休業
登山、キヤンプ、海水浴、植物採集、昆蟲採集等

立 秋 (八月もしくは九月) 夏から秋に轉ずるの意。
處 暑 (二三日もしくは二四日) 北斗星申の方を指し暑氣退散するの意。

耕 種
水田四番除草、稗抜き、畦畔草刈り。蕎麥播種。粟除草。陸稻採種用母本選擇。大豆、小豆、胡麻、商麻、黃麻、葉煙草、薯蕷等收穫。葉煙草の乾燥。蘭及び七島蘭の收穫。乾燥。桑園除草。

果 樹
梨、苹果、葡萄の灌水。桃李、杏、梅、梨、苹果等の芽接。果樹園除草。枇杷の基肥。無花果、桃、梨、葡萄、早生苹果及び早生栗の收穫。病虫害驅除豫防。

蔬 菜
結球白菜、早生大根、小蕪、聖護院大根、櫻島大根等播種。蕪甘藍、秋作馬鈴薯等定植。甘藷の蔓返し。里芋の除葉及び土寄せ。慈姑の横根切り。蓮の根廻し。胡蘿蔔、牛蒡、甘藷及び抑制栽培の胡瓜、蕃茄等の補肥。茄、蕃茄の灌水及び補肥。葱の除草補肥。

花 卉
茄、蕃茄、青蕃椒、薑、胡瓜、甜瓜、西瓜、南瓜、扁豆、刀豆、鵲豆、實菜豆、里芋、甘藷、茗荷、甘藍、葱、パセリ、玉蜀黍等の收穫。病虫害の驅除豫防。

その他
夏蠶上簇、收購。秋蠶掃立及び飼育。竹の伐採及び竹林の埋根。林木の間伐及び刈拂ひ。干瓢製造。越瓜の粕漬、トマトソース、トマトケチャップ、西瓜、糖、蘆漬、各種漬物、果實の罐詰及び瓶詰製造。味噌製造。

▼九月の花
露地：アゲラタム、翠菊、ニシキアザミ、月見草、カンナ、天人菊、コスモス、サルビヤ、向日葵、百日草、スカビオサ、ゼラニウム、ダリア、チギタリス、トリトマ、金蓮花、マリゴルド、ペゴニア、秋、桔梗、女郎花、鶏頭、雁來紅、芙蓉、木犀等

温室：アジアンタム、ゼラニウム、ネフロレピス、デンドロビウム、カトレア等

▼主なる秋植球根草花
アネモネ、クロツカス、水仙類、アイリス、イキシヤ、パピアナ、ムスカリ、オキザリス、ラナンキュラス、ハイヤシンス、チユウリップ、スノードロップ、トリトマ、ニア、百合、フリージア、アマリリス等

菊 九月 (September)
第二學期始業式、上旬
大震災記念日、一日
秋季皇靈祭、秋分の日、即ち彼岸の中日

白 露 (八日もしくは九月) 露白く滋き意である。
秋 分 (二三日もしくは二四日) 晝夜相等しき日、この前後三日づつ即ち一週間は(一日もしくは二日) 立春から二一〇日目及び二二〇日目に當り、例年(一日もしくは二日) 暴風雨の襲來する厄日である。秋分に最も近い戌の日で、新穀を刈取つて田の神、土の神を祭る日で社日詣をする。

耕 種
油菜播種床、蘭床作り。油菜の播種及び間引。蕎麥播種中耕除草。除蟲菊の播種及び株分け。紫雲英、苜蓿、ザードウイッケン等の綠肥播種。大豆、小豆、粟、粟等の收穫及び調整。桑園除草。

果 樹
桃、梨、苹果等の芽接は上旬に終る。桃、梨その他收穫の終つた果樹及び柑橘類の補肥。枇杷の基肥。柑橘類、枇杷等の敷葉を除き中耕して土中に鋤込む。無花果、晚生桃、梨、葡萄、苹果、柿、栗等の收穫。

蔬 菜
菜類、葉蕪、蕪菁、菠薐、苜蓿、野蜀葵、胡蘿蔔、牛蒡等播種。冷床に甘藍、花椰菜、子持甘藍、葱、リキ、葱頭、高菜類等播種。百合、土當歸、アスパラガス、蕪、苺等定植。菜類、葉蕪、蕪菁、菠薐、苜蓿、野蜀葵、胡蘿蔔、牛蒡等の間引。除草。中耕補肥。葱、馬鈴薯の除草。補肥土寄せ。枝豆、西瓜、南瓜、冬瓜、茄、玉蜀黍、里芋、薑及び抑制栽培の胡瓜、蕃茄等の收穫。病虫害驅除豫防。

花 卉
秋播草花類の播種。秋植球根類の植込み。宿根性草花類の株分け及び移植。モチモツコク、檜椎等の刈込み切透し。生籬の刈込み。牡丹、芍薬、蘭類等の根分け。芝生刈込み。盆栽類の灌水。熱帯植物の温室搬入。カルセオラリヤ、早咲スキートビー等播種。マーガレット、サルビヤ等の挿木。アリムラ、シネラリヤ、シクラメン等の鉢替へ補肥。灌水。ハイヤシンス、チユウリップ、アネモネ、百合、フリージア、アマリリス、イキシヤ、シクラメン等球根植込み。アキメネス、カラチユム、グロキシニヤ等の球根鉢置き及び乾燥貯蔵。

その他
秋蠶上簇、收購。鶏の孵化育雛。家兔、豚、羊、山羊等の種付及び分娩。竹林施肥及び埋根。林木の間伐及び山林刈拂ひ。味噌、醬油製造。

▼一〇月の花
露地：アゲラタム・翠菊 雁來紅・カンナ・サルビヤ 向日葵・百日草・スガビオサ・ダリア・マリゴールド・コスモス・天人菊・千日草・白粉花・金蓮花・金魚草・ランタナ・濱菊・菊・桔梗・萩・女郎花・芙蓉・紫苑・ゲロキシニヤ・クロッカス・コルチクム・チュベロリス等。
温室：シベリベチエウム・デンドロビウム・カトレヤ・ゼラニウム・ペゴニア・マーガレット・フクシヤ・クロトン等。

神無月 初冬
神嘗祭 一七日
成申詔書下賜記念日 一日
賜教育勅語下賜記念日 三〇日

十月 (October) 行事

寒露 (八日もしくは九日) 露の將きに凝結せんとするの意。
秋の土用 (二〇日もしくは二二日) 立冬まで秋の陽氣の意。
降霜 (二三日もしくは二四日) 立冬まで白霜となるの意。
耕種 大麥選種及び麥奴豫防。大麥・油菜・ザードウィツケン等播種。藥用人蔘・檀の播種。油菜間引・補肥。水稻・陸稻・粟・蕎麥等の收穫・調製。牧草刈取り及び乾燥。甘蔗・甜菜・棉・三稜・蒟蒻・楡の實等の收穫。漆樹の汁液掻き採り。桑園中耕及び結束。
果樹 柑橘類・枇杷の敷藁敷き。果樹園除草及び補肥。柿・栗・葡萄・梨・苹果・早生温州等の收穫。
蔬菜 芥菜・小松菜・菠菜・高苜蓿・甘藍・花椰菜・子持甘藍・二年子大根・洋種胡蘿蔔・豌豆・蠶豆等の播種。苜蓿・分葱・百合・高苜蓿類・芥菜等の定植。甘藍・花椰菜・子持甘藍等の假植。菜類・菜菔・蕪菁等の間引・中耕・除草・補肥。葱・リーキ・セルリー・土當歸・アスパラガス等の除草・補肥・培土。薑・胡蘿蔔・牛蒡・甘藷・芋・薯蕷・山葵・山葵大根・蓮・慈姑・甘藍・花椰菜・子持甘藍・セルリー・野蜀葵・茄・抑制栽培の胡瓜・蕃茄等の收穫。促成栽培の胡瓜・蕃茄・菜豆等播種。促成軟化栽培の野蜀葵・寒土當歸・薑・茗荷等の床入れ。病虫害の驅除豫防。
花卉 春植球根類の掘上げ・乾燥・貯藏。秋植球根類の植込み。秋播草花苗の定植。花菖蒲・チギタリス・アロメリア・デージー・紫苑・芍薬その他宿根草花の株分け及び定植。フクシヤ・ロベリア・ペチュニア・アプロクックス等の挿木・灌水及び庭樹の移植並びに株分け。牡丹の接木。松・扁柏等の古葉取り。促成用・躑躅・牡丹等の鉢上げ。菊花壇の小屋掛け。温室鉢物の鉢換へ・灌水・施肥。蘇鐵・寒梅・カーネーション・ポインセチヤ・ハイヤシンス・チュリッップ等の室内挿入。草花類の採種。
その他 鶏の孵化及び育雛。家兔の種付及び分娩。家禽・家畜類には濃厚飼料を増給する。茄芥子漬及び麴漬・大根・淺漬・菜・鹽漬・乾柿・熟柿・鹹柿・栗・罐詰等の製造。

▼十一月の花
露地：菊・ダリア・コスモス・ルドベキア・百日草・サルビヤ・ミモサ・龍膽・マリゴールド・ヴァーベナ・雁來紅等。
温室：シベリベチエウム・デンドロビウム・カトレヤ・洋菊・セラニウム・カーネーション・ペゴニア・マーガレット・フクシヤ等。
▼培養土の調製
普通の土壌は或は粘重に過ぎて排水悪く、或は輕鬆に失して水分・養分を保ち難く、鉢植植物や温床の床土として作物の生育に不適當であるから培養土(調合土・調和土・床土)をつくる。培養土は普通の畑或は田の土に木葉堆肥・その他の肥料を混合堆積して時々切り返へしを行ひ、數箇月後篩で篩別し、植物の種類に應じて適當の割合に砂を混合して使用する。

霜月 仲冬
霜降 二三日
新嘗祭 二三日
國民精神作興詔書下賜記念日 一日
全國體育日上旬

十一月 (November) 行事

立冬 (七日もしくは八日) 秋から冬に移るの意。
小雪 (二二日もしくは二三日) 小雪降る時期の意。
耕種 水稻及び陸稻の收穫・乾燥・調製。水田耕起。水田裏作大麥の播種及び油菜移植。麥類の播種。蒟蒻付け。黃蓮播種。甘蔗・楡・楮・三稜等の收穫。桑園の中耕・施肥。
果樹 果樹園中耕・除草。苗木の假植及び定植。柿・栗・甲州葡萄・晩生梨・苹果・早生温州等の收穫。梨及び苹果の貯藏。
蔬菜 葱頭の植付け。菜類・甘藍類・菜菔・蕪菁・胡蘿蔔・牛蒡・豌豆・蠶豆等の中耕・補肥。葱・リーキの補肥。土寄せ。結球白菜の結束。芥菜定植。平床には屋根を設けて霜除けをする。菜類・菜菔・蕪菁・胡蘿蔔・牛蒡・甘藷・芋・薯蕷・蓮・慈姑・山葵・山葵大根・薑・草石蠶・甘藍・花椰菜・子持甘藍・菠菜・高苜蓿・セルリー・パーセリー・葱・リーキ・芋・南瓜・秋作馬鈴薯・抑制栽培の胡瓜・蕃茄等の收穫。
促成栽培の胡瓜・蕃茄の第二回目もの播種。第一回目播種の胡瓜・蕃茄の定植。促成軟化栽培の野蜀葵・土當歸・薑・茗荷・芋等の床入れ。
秋播草花苗の定植。秋植球根類の植込み。庭樹の移植及び株分け等。草花苗・庭樹等の霜除け。
温室栽培のセラニウム・マーガレット・フクシヤ等の挿木。シネラリヤ・プリムラ等の植替へ。躑躅・牡丹・水仙類・福壽草・百合等の植込み。温室は日中充分に換氣。灌水はやや控え目にして夜間は攝氏一〇度内外に保温する。
その他 鶏舎畜舎等の保温設備をする。檜・樺・椎・栗等の播種。落葉林木苗の假植並びに出し。菜の鹽漬・菜菔の淺漬・蕪菁の干枚漬・甘藷及び馬鈴薯の澱粉製造等各地の農産物品評會は概ね本月中に催される。

▼二月の花
露地：葉牡丹、寒菊、寒菜、葉蘭、水仙、南天、千両、萬兩、梅、寒木、瓜等。
温室：シネトラリヤ、プリムラ、シクラメン、カーネーション、マーガレット、バイオレッツト、洋菊、ポインセチヤ、シベリベチウム、デンドロビウム、アスパラガス、ネフロレビス等。

▼果樹の剪定
果樹は冬季及び夏季にそれぞれ種類に応じて不用の冗枝を剪定して發育作用と結果作用を調節するが、剪定すれば次の様な利益がある。
一、果實の收量を増加し、品質を良くする。
二、樹勢の均衡を圖り、樹齡を長くする。
三、冗枝を省いて果樹の成長を一定の地積内に保持するから地積及び肥料の經濟となり、かつ管理に便利である。
四、果樹を一定の樹形に整枝することが出来る。

冬師	冬師
至走	至走
大正天皇祭	大正天皇祭
二五日	二五日
第二學期終業式 下旬	第二學期終業式 下旬
冬期休業	冬期休業

季	節	行	事
大雪	(七日もしくは八日)	大雪來るの意。	
冬至	(二二日もしくは二三日)	小寒まで冬の最中で、晝が最も短く夜の長い極點の日である。	
耕種		蘭田整地・施肥・定植。苜蓿苗床切藁撤布(霜除)。水田裏作油菜移種。麥の踏壓・中耕・補肥。油菜補肥。粉磨及び粉の乾燥・調製。	
果樹		梨・桃・葡萄・蘋果・柿・栗・梅等の剪定。落葉・落果及び枯草等を集めて焼却し果樹園の清潔に努める。柑橘類の收穫。栗・梨・蘋果・柑橘類の貯藏。栗は二硫化炭素燻蒸を行つて、砂或は鋸屑と共に箱または俵に詰めて貯へる。梨・蘋果・柑橘類は選別して良果のみとし、一―二日間風通しよき乾燥な室内に果實を一―二列並べに擴げ露切りをして貯藏する。	
蔬菜		葱頭・甘藍の定植は上旬に終る。菜類・甘藍・菜菔・蕪菁等採種用母本の定植。京菜・芥菜・菠菜・二年子大根・龜井戸大根等の中耕・補肥。菜類・菜菔・蕪菁・胡蘿蔔・牛蒡・蓮・慈姑・芹・山葵・菠薐・葱・りき等の收穫。蓮・慈姑・芹等の翌春收穫用に水田に残すものには一〇―一五釐の深さに水を湛へて寒害を防ぐ。	
花卉		促成栽培 第二回の胡瓜定植。第三回目の胡瓜・菜豆播種。第一回の胡瓜・茄・菜豆等の收穫。促成軟化 野蜀葵・里芋・薑・蔞山椒等床入れ。第一回の野蜀葵・里芋等收穫。	
その他		菊の莖刈取り及び根株保護。鉢植用の培養土調製。温室の換氣は日中高温の際に行ひ、灌水はやや控へ目にする。夜間は藁簾を覆ひ、室内温度は攝氏一〇―一六度内外に保温する。	
		山林の枝打ち及び伐採。炭焼き。菜鹽漬・澤庵漬・切干大根。甘藷切干・甘藷及び馬鈴薯の濃粉製造・菓細工。	

▼一月の花
露地：福壽草、雪割草、葉牡丹、寒椿、萬年青、冬至梅、千両、萬兩、茶梅等。
温室：水仙百合、ハイヤシンス、シクラメン、セラニウム、プリムラ、カーネーション、スウィートピー、フリージア、ポインセチヤ、蘭類等。

▼主なる蔬菜の促成栽培表

播種期 定植 採收期

◎胡瓜 二―三度
1 九中 一〇下 二下 一―二下
2 一〇中 一一上 一―二上
3 二〇中 二二上 三上 一―二上

◎茄 二―五度
1 九上 二中 二下 一―二下
2 一〇上 二上 二上 一―二上
3 二〇上 四中 五上 一―二上

◎蕃茄 二―五度
1 一〇中 二上 三中 一―二上
2 二〇中 三下 五上 一―二上
◎苺 一―二度
1 一―二上 一―二上 一―二上
2 一―二上 一―二上 一―二上

孟 孟	孟 孟
春 春	春 春
月 月	月 月
(January)	(January)
四 元	四 元
方 始	方 始
一 一	一 一
日 日	日 日
三 三	三 三
日 日	日 日
第三學期始業式 上旬	第三學期始業式 上旬

季	節	行	事
小寒	(六日もしくは七日)	寒の入りといひ節分まで三〇日間を寒といふ。	
冬の土用	(一七日もしくは一八日)	立春まで冬の陽氣の意である。	
大寒	(二〇日もしくは二一日)	一年中で寒氣最も嚴しい時期の意である。	
耕種		麥の踏壓・補肥。油菜中耕・補肥。穀類調製。種子整理。	
果樹		葡萄・桃の剪定。柑橘類收穫。梨・葡萄等の棚修繕。果樹園垣根修繕。梨・蘋果・温州蜜柑等貯藏果の手入れ。(果實の表面に水分のあるものは乾いた布で拭ひ去り露切りを行ふ) 柑橘樹介殼蟲類の青酸瓦斯燻蒸。	
蔬菜		豌豆・蠶豆・葱頭・甘藍等の補肥。京菜・小松菜・菠菜・蓮・慈姑等の收穫。促成栽培 第四回白菜播種。第一回目及び第二回目白菜定植。(本葉四―五枚生じた頃一植に六〇―八〇株定植し、一週間餘り硝子障子の上に藁簾を覆ふて強い日光を避け、その後は日光に曝らし、葉繁茂すれば摘葉して透光と通風を圖る。落花後二週間内外で莢が八釐内外に伸長するから順次摘採する) 胡瓜・茄・蕃茄等の補肥・灌水等。第一回目及び二回目の胡瓜。第一回目の茄・蕃茄等の收穫。	
花卉		庭樹の寒肥・施肥。垣根修繕。種子物整理。温室栽培のスイートピー・カーネーション・フリージア等の支柱建て。セラニウム・ベゴニア・カーネーション・マーガレット・ポインセチヤ・コリウス等の挿木。カロキシニヤ・アキメネス・アマリス等の播種。夜間は室内温度は一五―二〇度内外に保温する。	
その他		林木の伐採。炭焼き。竹林施肥。大根切干。甘藷切干。甘藷及び馬鈴薯濃粉・味噌等の製造。菓細工。農具修繕。	

▼二月の花
露地：金盞花、雛菊、水仙、葉牡丹、櫻、連翹、寒椿、茶梅、梅等。
温室：アマリリス、シネリア、カーネーション、カルセオラリヤ、プリムラ、フリージア、マーガレット、ハイヤシンス、シクラメン、鈴蘭、シベリベジウム、デンドロビウム、カトレヤ、パンダ、百合等。

如 仲 月 二 (February)
紀 元 節 一 日

節分 (三日もしくは四日) 冬と春との季節の分れ目。
立春 (四日もしくは五日) 春氣立つの意である。
雨水 (一九日もしくは二〇日) 雪が解けて雨水となるの意。
節 麥の踏壓・補肥及び土入。油菜の中耕補肥。
耕 梨、苹果、桃、櫻桃、梅、李、杏、葡萄等の接木。葡萄、無花果の挿木。須具利、樹莓等の壓條。砧木種子の播付け。苗木の假植及び定植。葡萄、桃、梨、梅、李、杏等の剪定及び施肥。(一年間に施す全量の三分二を基肥として三月までの間に施す) 介殼蟲類及び綿蟲類の除去。(青酸瓦斯燻蒸、石灰硫黄合劑、機油乳劑、松脂合劑、撒布等) 梨、苹果、柑橘類等貯蔵果の入手。
果 樹 甘藍、葱頭、二年子大根、土當歸、アスパラガス、落着荷等の補肥。葱、菠菜、京菜、芥菜、芹、蓮、慈姑等の收穫。馬鈴薯の播種。
蔬 菜 準促成(早熟)栽培用の温床踏込み。準促成栽培の茄、蕃茄、胡瓜等の播種。促成栽培 第五回目の菜豆播種。第二回目の胡瓜、茄、第一回目の蕃茄、第三回目の菜豆定植。西瓜播種。第二回目の胡瓜、菜豆、第一回目の茄、蕃茄、蕪等收穫。
花 促成軟化。野蜀葵、土當歸、アスパラガス、落着荷、芽芋等の收穫。野蜀葵、里芋の床入れ。
庭樹の剪定及び移植。庭樹の施肥。宿根草花の株分け及び移植。薔薇の剪定。金盞花、三色堇、チュウリップ、ハイヤシンス等の補肥。温室栽培のクロキシニヤ、キメネス、ネメシヤ、アスター、ストック、カンパニユラ、ロベリア等の播種。松葉菊、ベゴニア、ゼラニウム、アルターナンセフ、カーネーション、マーガレット等の挿木。プリムラの株分け。シネリア、ヤナリムラ、マーガレット、セラニウム、三色堇等の移植。
その他 林木の伐採。炭焼き。甘藷馬鈴薯澱粉の製造。葉細工。農具修繕。

▼三月の花
露地：雛菊、ハイヤシンス、チュウリップ、クロッカス、三色堇、金盞花、水仙、スノードロップ、フリージア、アネモネ、アルメリア、シネリア、トリテリア、パピアナ、パイオレット、ムスカリ、梅、黄梅花、桃等。
温室：シネリア、プリムラ、シクラメン、フリーヂヤ、カーネーション、ハイヤシンス、チュウリップ、百合、水仙、マーガレット、スイートピー、ヘリオトロープ、アザレア、薔薇等。

暮 彌 月 三 (March)
終 業 式 一 日

節分 (六日もしくは七日) 地中の蟲が出づる意である。
立春 (一日もしくは二日) 春分を中心として前後三日間づつ即ち一週間。
雨水 (二日もしくは三日) 彼岸の中日で晝夜の時間相等しい日。春季皇靈祭春分に最も近い戌の日で種子を播いて田の神・土の神を祭る。
節 麥の中耕、土入れ、施肥(止肥)、紫雲英施肥。油菜中耕土寄せ。除蟲菊の播種及び株分け。甘藷挿種。桑の接木及び定植。
耕 梨、苹果、桃、櫻桃、梅、李、杏、葡萄、無花果、柿、栗、枇杷、柑橘類等の接木、植付、施肥、剪定等。葡萄、無花果の挿木。介殼蟲類、夏橙、甜橙類の收穫。
果 樹 馬鈴薯の播種。甘藷の伏せ。準促成栽培の胡瓜、南瓜、茄、蕃茄、蕃茄等の播種。甘藍、花椰菜、子持甘藍、葱、瓜類、茄、蕃茄等冷床に播種するものは下旬に行ふ。
蔬 菜 馬鈴薯、葱頭の除根・中耕補肥。土當歸、アスパラガスの補肥土寄せ。葱、小松菜、芥菜、菠菜、二年子大根等の收穫。
花 促成栽培 第二回目の蕃茄、蕃茄、第四・五回目の菜豆定植。第二回胡瓜、茄、蕃茄、蕃茄、菜豆等の收穫。
庭樹の剪定。野蜀葵、土當歸、アスパラガス、落着荷、芽芋等の收穫。
霜除け用被覆物除去。宿根草花の株分け。春播草花の播種。庭樹の移植及び補肥。薔薇、黄梅花、南天、躑躅、雪柳、瑞香、連翹、瓜等の挿木。薔薇、梅、櫻花、桃、櫻、城等の接木。盆栽類の剪定、整枝及び土替へ。施肥、温室栽培、花壇の整地及び施肥(基肥)。
温室ベゴニア、コリウスの播種。松葉菊、マーガレット、ランタナ、サルビヤ、インセチヤ、カーネーション、セラニウム、アザレア、ドラセナ、フィカス等の挿木。蘭類その他宿根性鉢物の鉢替へ。夜間室内は一五―二〇度に保温し、月末には補肥を中止する。
その他 林木種子の播種。林木苗の假植及び山出し。

五、主なる殺菌・殺蟲劑


種類	調合量	調製法	適用病蟲害
石灰ボルドウ合劑	硫酸銅 四五〇瓦 生石灰 三七五―四五〇瓦 水 三六一―七二立	一、大小三個の木製の桶を準備する。 二、硫酸銅を砕いて布に包み、小桶に入れて熱湯三―四立を注いで溶解せしめ、水を加へて全量を三六立とする。 三、別の小桶に生石灰をとり、少量の熱湯を注いで生石灰の粉砕消和するを待ち、水を加へて全量を三六立とする。 四、大桶に右の兩液を同時に移してよく攪拌する。	一、空氣傳染によつて起る各種作物の病害。 二、樹幹に附着する地衣類の驅除によい。 三、樹木の傷痕または切口に塗抹するによい。
曹達合劑	硫酸銅 四五〇瓦 炭酸曹達 六五五瓦 水 三六一―七二立	一、大小三個の木製の桶を準備する。 二、硫酸銅及び炭酸曹達を各々小桶に入れて所要水量の半量づつをとつて溶解する。 三、大桶に右の兩液を同時に移してよく攪拌する。	石灰ボルドウ合劑と同様であるが作物を汚染することが少くかつ粘着力も強い。
銅石鹼液	硫酸銅 二二―三〇瓦 石鹼 硫酸銅の三―四倍量 水 一八立	一、硫酸銅を溶かして所要水量の二割の水を加へる。 二、石鹼を粉碎して鍋に入れて溶かし、さらに水を加へて所要水量の八割の水量とする。 三、石鹼液を徐々に硫酸銅液中に移しよく攪拌混合する。	石灰ボルドウ合劑と同様である。

石灰硫黃合劑	生石灰 四五〇瓦 硫黃華 四五〇瓦 水 一八立	一、二個の釜を用意し一を湯釜として常に湯を沸し置き、他の一を煮釜とする。 二、生石灰に少しく水を注いで消和させた後煮釜に入れ、湯釜中の湯六立を注いで攪拌しつつ煮沸する。 三、硫黃華に少量の湯を注いで粘状となし、これを少量づつ煮釜に混加攪拌しつゝ約一時間煮沸し、湯釜から熱湯を多し全量を一八立とし、なほ二〇―一〇分同煮沸する。	一、空氣傳染による病菌。 二、土壤傳染する病害の土壤消毒。 三、介殼蟲類、木賊、蚜蟲類その他 四、冬季はホーメ三―四度、夏季は〇・二―一〇・三度液を用ひる。
石油乳劑	石油 二立 石鹼 五〇―六〇瓦 水 一立	一、石鹼を薄く削つて水に投じ加熱溶解させる。 二、石油を別器で攝氏七〇度内外に加熱する。 三、石油及び石鹼液の冷却せぬ中に手早く手唧筒ではげしく混合攪拌し、牛乳狀となり粘氣を生ずれば止む。	介殼蟲類 冬五―七倍 夏二〇―三〇倍 葉蟲、甲蟲類 一五―二五倍 綿蟲、壁蝨類 二〇―三〇倍 青蟲類 二〇―三〇倍 蚜蟲類 三〇―五〇倍
松脂合劑	松脂 三七五瓦 苛性曹達 九四瓦 魚油 〇・〇九―一八立 水 一八立	一、苛性曹達を五立の水に投じて加熱溶解させこれに松脂を加へて攪拌しつゝ三〇―四〇分間煮沸する。 二、松脂が全く溶解すれば魚油を注加し、漸次湯を加へて全量を一八立とし、初めから約二時間内外煮沸する。	介殼蟲類、綿蟲類、冬季一〇―一五倍 夏季二〇―三〇倍
デリス石鹼合劑	デリス酒精浸出液 〇・二立 石鹼 水一八立に對して七五瓦の割合 水 一二五―三六〇立	一、デリス根を粉末として酒精に投じ一週間密閉して濾過する。 二、石鹼を水に溶かして、デリス酒精浸出液を徐々に加へて攪拌混合する。	象鼻蟲、食葉甲蟲類、蝸蝓類、蟻類、鋸蜂類、管蟲類、壁蝨類等

附録五 主なる殺菌殺蟲劑

德里ス石鹼水	德里ス石鹼 四〇―一二〇瓦 水 一〇立	一、德里ス石鹼の粉末を一―二立の水に投じて加熱溶解する。 二、水を加へて全量を一〇立とする。	右 同
石鹼水	石鹼 四一―六瓦 水 一立	一、石鹼を薄く削つて水に投じて加熱溶解させる。 二、石鹼水をつくる。	右 同
除蟲菊石鹼合劑	除蟲菊粉 四一―六瓦 水 一立	一、石鹼水をつくる。 二、石鹼水に除蟲菊粉を投じ一晝夜密閉する。	右 同
除蟲菊木灰	除蟲菊粉 四一―七瓦 木灰 四〇―七〇瓦	一、木灰を細目の篩を用ひて篩別する。 二、木灰に除蟲菊粉を混合して二晝夜密閉する。	瓜守その他食葉甲蟲類 蟻類
硫酸ニコチン	八〇―一〇〇倍に水を以て稀釋する。	硫酸ニコチンは單用するよりも石鹼、炭酸曹達苛性曹達等を加用すれば粘着力を増し、かつニコチンは揮發し易くなるため一層有効である。	椿象類、綿蟲類、蚜蟲類、浮塵子類、壁蝨類、葉蜂類、介殼蟲類その他
砒酸鉛	砒酸鉛 (粉狀) 五〇―九〇瓦 (糊狀砒酸鉛なれば倍量) 水 一八立	一、砒酸鉛を布袋に入れて水中で練りながら採み出す。 二、單用するよりは約等量の生石灰或は二―三割のカセイン石灰を加用するか、硫酸ニコチン〇・二七立混用すれば一層有効である 三、水の代りに石灰ホルドカ合劑を用ふれば同時に病害の豫防となる。	一、毒劑であるから咀嚼口害蟲一切に有効である。 二、硫酸ニコチンを加用すれば接觸劑としての効果もある。
二硫化炭素	燻蒸には 三五―三五瓦 一立方メートルにつき 一五〇瓦 土壌消毒につき 一五〇瓦	燻蒸するには室内或は箱を密閉して二晝夜燻蒸する。土壌消毒するには液を撒布して覆土或は藁を覆ふ。	一、貯穀害蟲の燻殺。 二、土壌消毒。
附 録	終		

(す禁嚴を載轉は版圖・事記の書本)



TK
女子園藝

最新女子園藝

昭和七年十月二十五日 印刷
昭和七年十月二十八日 發行
昭和八年三月二十五日 修正再版發行
昭和十二年二月二十五日 第十二版發行

定價 金九十八錢

著者 小 熊 彦 三 郎
東京市豊島區巢鴨五丁目一、〇七八番地
發行者 東京光原社
東京市豊島區巢鴨五丁目一、〇七八番地
代表者 吉 田 春 藏
印刷者 田 米 開 重 衛
東京市小石川區大塚仲町四一番地

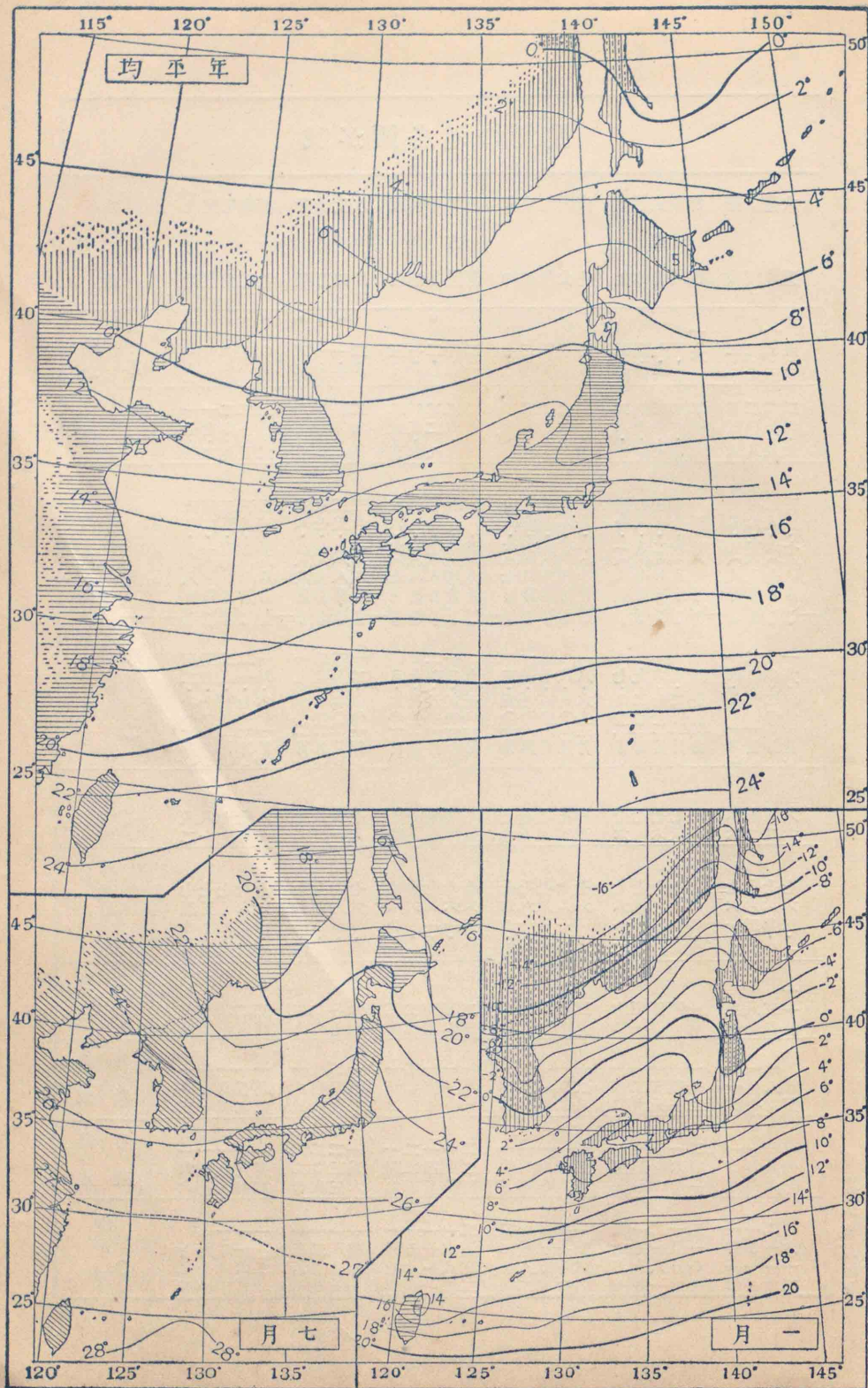
發 行 所

大阪市東區北久太郎町
西 部 販 賣 所 電話船場83四八五七番
振替大阪二三一一番
柳 原 書 店
東 部 販 賣 所 電話神田25四七三〇番
振替東京一〇六〇番
淺 見 文 林 堂
東京市神田區錦町二丁目

東 京 光 原 社

振替東京六九五〇五番

圖線溫等本日

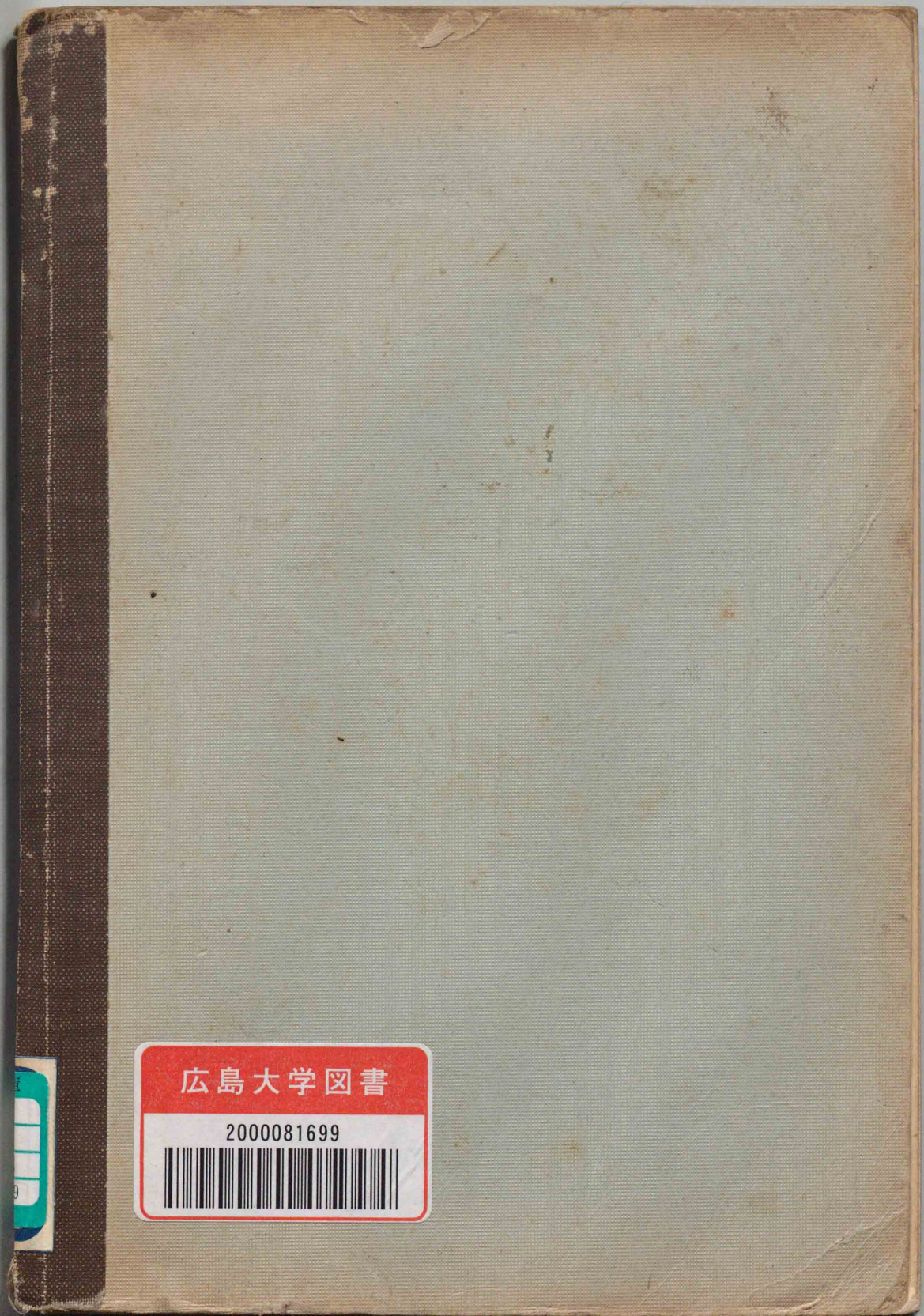


候氣の地各國が我

候氣の地各國が我						地名	氣候
大臺仁釜	那福鹿熊高	廣岡大京潮	金名松新東	水秋山青	石函札根大		
連北川山	彌岡島本知	島山阪都岬	澤屋本瀉京	戸田形森	卷館觀望泊		
•	•	•	•	•••	•••••	一月	平均氣溫
五五三二 〇三七一	一六五七四 一〇一六四	四三三二七 〇六二六一	二二二一三 五一一四〇	二一一二 〇六六六	〇三六五一 四〇三〇二	八月	
二二二二 四七四五 六八八六	二二二二 七六六六 八四七〇	二二二二 六六七六 八九三二	二二二二 五六二五 六六八六	二二二二 四三四二 三八〇九	二二二二 三一〇七七 二五九二三	最高	最高最低氣溫
三三三三 五八六五 七八八八	三三三三 五七六八 七五二八	三三三三 八六七五 一五六六	三三三三 八七五九 五七二一	三三三三 六五七六 一八九〇	三三三三 五三五一 八八七七	最低	
一 九〇〇四 四二九〇 一二月月	四八六九七 九二七二〇 一二月月	一 八八七一 六一一九五 一二月月	一 九〇四九 七三八七六 一二月月	一 二四〇九 〇六〇〇 一二月月	一 二二二三 四一八二二 六九五七七 一二月月	平均濕度	平均氣壓
六八七六 六二二六	七七七七 九八六八	七七七七 四五四七	七七七七 八五七九	七八八七 八一〇八	八七七八 一七九二	日快晴數	
七七七七 六六六六 三〇二一 一四六八	七七七七 六六六六 〇一四二 四八四七	七七七七 六六六六 一一一〇 八六五六	七七七七 六六六六 一一一〇 三二四一	七七七七 六六六六 〇〇〇〇 七七九四	七七七七 六六五五 〇〇九九 七〇六四	日曇天數	日降水數
一 一三八九 四〇〇一	一 四五五六 九〇四一〇	三 四四二六 九五四九	二 五四二五 三六二二	六 一二二二 四七〇九	三 二二三三 四三三五	日降水量	
一 八八〇一 五七七四	一 七四三二 二五八九〇	二 八一四四 八六七〇	一 九一三〇 三九三〇	一 二一七六 二九六九	一 三五五五 九九五三	降水耗	
一 七八〇〇 七六四六	二 〇六七五 一七〇四九	三 二二六六 六七七三	二 二四二四 三四五六	一 五三〇二 六三三〇	一 五九九一 四四五六		
二 六一〇四 一一一 二九一六	二 一五七七 〇八八九 七九一四	一 五三五六 二一五八 八〇五二	二 五六七五 三八一八 二二七四	四 八二二三 九〇二八 七九九七	一 一〇九七 二六三七 二〇一五		

印ハ氷點以下

三學年B組
生水晴



広島大学図書

2000081699

